

京都府遺跡調査報告集

第169冊

平安京跡・東本願寺前古墓群

2017

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



調査地全景(東から)



(1) 第3調査面全景(東から)



(2) 第3調査面全景(西から)



(1) S K 230遺物検出状況(東から)



(2) S K 127遺物検出状況(北から)



(1) S K 604・605遺物検出状況(西から)



(2) S K 604・605遺物検出状況(南から)



(1) S K 777遺物検出状況(西から)



(2) S K 336遺物検出状況(西から)



(1) S K 287遺物検出状況(西から)



(2) S K 972遺物検出状況(南から)

序

京都府は、丹後、丹波、山城の各地域がそれぞれに、個性豊かな歴史と文化に彩られています。埋蔵文化財は、これら地域の歴史や文化の成り立ちを理解するうえで重要な手がかりを現代に生きる私たちに与えてくれます。

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和56年の設立以来、36年間にわたって発掘調査を実施し、府内各地域の歴史を解明してまいりました。

これらの調査成果をもとに、地域の歴史を広く府民の皆様方にお伝えするよう努めることが責務だと考えております。

本書は、平成26年度から28年度に京都府総務部府有資産活用課、ダイワロイヤル株式会社の依頼を受けて実施した平安京跡・東本願寺前古墓群の発掘調査報告を収録したものです。本書を学術研究の資料として、また、地域の歴史や埋蔵文化財への関心と理解を深めるために、ご活用いただければ幸いです。

発掘調査を依頼された京都府総務部府有資産活用課、ダイワロイヤル株式会社をはじめ、京都市文化市民局などの各関係機関、ならびに調査にご参加、ご協力いただきました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
理 事 長 井 上 満 郎

例 言

1. 本書に取めた報告は下記のとおりである。

平安京跡・東本願寺前古墓群

2. 遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	経 費 負 担 者	執 筆 者
平安京跡・東本願寺前古墓群	京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町702番2・3・5、707番2	平成26年5月21日～平成27年1月16日	ダイワロイアル株式会社	増田孝彦 福山博章 黒坪一樹

3. 上記1事業1遺跡は本部事務所(向日市寺戸町)で整理・報告作業を実施した。作業については、調査担当者の指示のもと調査課企画調整係が協力して実施した。

4. 本書で使用している座標は、世界測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

5. 土層断面等の土色や出土遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。

6. 本書の編集は、調査課調査担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。

7. 現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、調査課企画調整係主査田中彰が行った。

本文目次

平安京跡・東本願寺前古墓群発掘調査報告

1. はじめに	1
2. 各調査面の概要	12
3. 検出遺構	38
4. 出土遺物	69
5. 総括	129

挿図目次

平安京跡・東本願寺前古墓群

第1図	調査地及び周辺遺跡分布図	3
第2図	平安京跡左京八条三坊と七条町・八条院町	4
第3図	七条警察署の敷地と調査地	9
第4図	調査区模式図	9
第5図	調査地地区割模式図	10
第6図	南壁土層実測図	11
第7図	第1調査面検出遺構配置図	13
第8図	第1調査面検出遺構配置図(1)	14
第9図	第1調査面検出遺構配置図(2)	15
第10図	第1.5調査面検出遺構配置図	16
第11図	第1.5調査面検出遺構配置図(1)	17
第12図	第1.5調査面検出遺構配置図(2)	18
第13図	第2調査面検出遺構配置図	20
第14図	第2調査面検出遺構配置図(1)	21
第15図	第2調査面検出遺構配置図(2)	22
第16図	第2調査面検出遺構配置図(1)	23
第17図	第2調査面検出遺構配置図(2)	24
第18図	第2調査面検出遺構配置図(3)	25
第19図	第2調査面検出遺構配置図(4)	26
第20図	第3調査面検出遺構配置図	27

第21図	第3 調査面検出遺構配置図(1)	28
第22図	第3 調査面検出遺構配置図(2)	29
第23図	第3 調査面検出遺構配置図(1)	30
第24図	第3 調査面検出遺構配置図(2)	31
第25図	第3 調査面検出遺構配置図(3)	32
第26図	第3 調査面検出遺構配置図(4)	33
第27図	第4 調査面検出遺構配置図	35
第28図	第4 調査面検出遺構配置図(1)	36
第29図	第4 調査面検出遺構配置図(2)	37
第30図	S K 94・124実測図	39
第31図	S K 125・251・S P 114実測図	40
第32図	S K 200実測図	41
第33図	S K 127・203実測図	42
第34図	S K 251・354実測図	44
第35図	S K 263・971実測図	45
第36図	S K 287・288実測図	46
第37図	S K 336実測図	48
第38図	S K 371・423実測図	49
第39図	S K 480・678実測図	51
第40図	S K 604・605実測図	52
第41図	S K 604・605・734実測図	53
第42図	S K 775・777実測図	55
第43図	S K 825・835・840実測図	56
第44図	S K 841・842実測図	57
第45図	S K 884・888・71・202実測図	59
第46図	S K 230実測図	61
第47図	S E 11・438・958実測図	62
第48図	S E 748・750・935・957実測図	64
第49図	溝 S D 238断面図	66
第50図	溝断面一覧	67
第51図	出土遺物実測図 S K 604・605(1)	70
第52図	出土遺物実測図 S K 604・605(2)	71
第53図	出土遺物実測図 S K 336・777・127・835・124・423	72
第54図	出土遺物実測図 S K 203・840・126	74
第55図	出土遺物実測図 S K 125・251	75

第56図	出土遺物実測図	S X130	76
第57図	出土遺物実測図	S K254	77
第58図	出土遺物実測図	S K200	79
第59図	出土遺物実測図	S K204 · 120 · 315 · 582 · 700 · 856 · 870	80
第60図	出土遺物実測図	S K287	82
第61図	出土遺物実測図	S K02 · 18 · 25 · 26 · 144 · 166 · 167 · 168 · 186 · 249 · 250 · 263 · 288 · 279 · 294 · 299 · 330 · S X155 · 190	83
第62図	出土遺物実測図	S K337 · 354 · 371 · 480 · 539 · 440 · 489 · 505 · 338 · 603 · 480 · 610 · 620 · 624 · 724 · 774 · 780 · 783 · 799	85
第63図	出土遺物実測図	S K678 · 740 · 741 · 791	87
第64図	出土遺物実測図	S K800 · 802 · 818 · 825 · 827 · 842 · 883 · 884	89
第65図	出土遺物実測図	S K910 · 933 · 734	90
第66図	出土遺物実測図	S K949 · 831 · 841	91
第67図	出土遺物実測図	S K94 · 71 · 230	93
第68図	出土遺物実測図	S K888 · 202	94
第69図	出土遺物実測図	S E10 · 438 · 748 · 750 · 848 · 935 · 957 · 955 · 958 · 971	95
第70図	出土遺物実測図	S D238 · 275 · 531 · 587 · 609 · 855 · 857 · S P561 · S K852	96
第71図	出土遺物実測図	S P04 · 29 · 53 · 63 · 96 · 128 · 160 · 161 · 184 · 198 · 214 · 239 · 266 · 329 · 392 · 414 · 476 · 497 · 652 · 668 · 720 · 826 · 936 · S K43 · 215 · 241 · 427	98
第72図	出土遺物実測図	遺物包含層(1)	99
第73図	出土遺物実測図	遺物包含層(2)	100
第74図	出土遺物実測図	遺物包含層(3)	101
第75図	出土遺物実測図	軒丸 · 丸瓦	103
第76図	出土遺物実測図	軒平 · 平瓦	104
第77図	出土遺物実測図	鬼瓦	105
第78図	出土遺物実測図	埴(1)	106
第79図	出土遺物実測図	埴(2)	107
第80図	出土遺物実測図	埴(3)	108
第81図	出土遺物実測図	鉄製品	109
第82図	出土遺物実測図	釘(1)	111
第83図	出土遺物実測図	釘(2)	112
第84図	出土遺物実測図	釘(3)	113
第85図	出土遺物実測図	釘(4)	114
第86図	出土遺物実測図	鉄滓	116

第87図	出土遺物実測図	銅製品	117
第88図	出土遺物実測図	銅玉	118
第89図	出土遺物実測図	銅生産関連遺物	119
第90図	出土遺物実測図	銭貨(1)	121
第91図	出土遺物実測図	銭貨(2)	122
第92図	出土遺物実測図	石製品(1)	123
第93図	出土遺物実測図	石製品(2)	124
第94図	出土遺物実測図	石製品(3)	125
第95図	出土遺物実測図	石製品(4)	126
第96図	出土遺物実測図	一石五輪塔	127
第97図	土坑出土土師器時期別分類		129
第98図	土師器集積土坑の分類		130
第99図	土師器集積土坑分布図		132
第100図	各種遺物の出土分布		135
第101図	掘立柱建物・柵列等主要遺構分布図		137

付 表 目 次

平安京跡・東本願寺前古墓群

付表1	周辺調査一覧	4
付表2	土坑時期別分類	133
付表3	検出遺構一覧	140
付表4	土器・土製品一覧	157
付表5	瓦一覧	193
付表6	金属製品一覧	194
付表7	銭貨一覧	196
付表8	石製品一覧	200

図 版 目 次

巻頭図版1 平安京跡・東本願寺前古墓群

調査地全景(東から)

巻頭図版2 平安京跡・東本願寺前古墓群

(1)第3調査面全景(東から)

(2) 第3調査面全景(西から)

巻頭図版3 平安京跡・東本願寺前古墓群

(1) S K230遺物検出状況(東から)

(2) S K127遺物検出状況(北から)

巻頭図版4 平安京跡・東本願寺前古墓群

(1) S K604・605遺物検出状況(西から)

(2) S K604・605遺物検出状況(南から)

巻頭図版5 平安京跡・東本願寺前古墓群

(1) S K777遺物検出状況(西から)

(2) S K336遺物検出状況(西から)

巻頭図版6 平安京跡・東本願寺前古墓群

(1) S K287遺物検出状況(西から)

(2) S K972遺物検出状況(南から)

図版第1 (1) 第1調査区 第1・1.5調査面全景(東から)

(2) 第1調査区 第1・1.5調査面全景(西から)

図版第2 (1) 第1調査区 第2調査面全景(東から)

(2) 第1調査区 第2調査面全景(西から)

図版第3 (1) 第2調査区 第1調査面全景(東から)

(2) 第2調査区 第1調査面全景(西から)

図版第4 (1) 第2調査区 第1.5調査面全景(東から)

(2) 第2調査区 第1.5調査面全景(西から)

図版第5 (1) 第3調査区 第1・1.5調査面全景(東から)

(2) 第3調査区 第1・1.5調査面全景(西から)

図版第6 (1) 第2・3調査区 第1・1.5調査面全景(東から)

(2) 第2・3調査区 第1・1.5調査面全景(西から)

図版第7 (1) 第2・3調査区 第2調査面全景(東から)

(2) 第2・3調査区 第2調査面全景(西から)

図版第8 (1) 第2・3調査区 第2調査面全景(東から)

(2) 第3調査区 第2調査面全景(西から)

図版第9 (1) 第2・3調査区 第3調査面全景(東から)

(2) 第2・3調査区 第3調査面全景(西から)

図版第10 (1) 第3調査区 第2調査面全景(東から)

(2) 第3調査区 第2調査面全景(西から)

図版第11 (1) 第2調査区 西側拡張区全景(北から)

- (2) 第2調査区 西側拡張区全景(南から)
- 図版第12 (1) 第2調査区 南側拡張区全景(東から)
(2) 第2調査区 南側拡張区全景(西から)
- 図版第13 (1) 第3調査区 第4調査面全景(東から)
(2) 第3調査区 第4調査面全景(西から)
- 図版第14 (1) S K 124遺物検出状況(南から)
(2) S K 124堆積状況(南から)
(3) S K 124完掘状況(南から)
- 図版第15 (1) S K 125遺物検出状況(南から)
(2) S K 125完掘状況(南から)
(3) S K 251遺物検出状況(西から)
- 図版第16 (1) S K 251遺物検出状況(西から)
(2) S K 251遺物検出状況(西から)
(3) S K 251周辺烏帽子検出状況(西から)
- 図版第17 (1) S K 126上層遺物検出状況(東から)
(2) S K 126堆積状況(北から)
(3) S K 126西端堆積状況(北から)
- 図版第18 (1) S K 126中層東端遺物検出状況(南から)
(2) S K 126中層中央遺物検出状況(南から)
(3) S K 126中層中央遺物検出状況(北から)
- 図版第19 (1) S K 126中層東端遺物検出状況(北から)
(2) S K 126下層遺物検出状況(西から)
(3) S K 126下層西端遺物検出状況(南から)
- 図版第20 (1) S K 126下層東半部遺物検出状況(西から)
(2) S K 126下層東端遺物検出状況(南から)
(3) S K 126完掘状況(南から)
- 図版第21 (1) S K 127遺物堆積状況(東から)
(2) S K 127遺物出土状況(東から)
(3) S K 127完掘状況(北から)
- 図版第22 (1) S X 130遺物出土状況(西から)
(2) S X 130遺物検出状況(北から)
(3) S X 130堆積状況(北西から)
- 図版第23 (1) S X 130完掘状況(西から)
(2) S K 186遺物検出状況(南から)
(3) S K 186完掘状況(南から)

- 図版第24 (1) S K200遺物検出状況(南から)
(2) S K200遺物検出状況(西から)
(3) S K200底面遺物検出状況(東から)
- 図版第25 (1) S K624遺物検出状況(北から)
(2) S K624堆積状況(北から)
(3) S K624完掘状況(西から)
- 図版第26 (1) S K203遺物検出状況(南から)
(2) S K203遺物検出状況(南から)
(3) S K203完掘状況(南から)
- 図版第27 (1) S K286遺物検出状況(南から)
(2) S K286堆積状況(南から)
(3) S K286完掘状況(南から)
- 図版第28 (1) S K287上層遺物検出状況(南から)
(2) S K287上層遺物検出状況(南から)
(3) S K287中層遺物検出状況(南から)
- 図版第29 (1) S K287堆積状況(東から)
(2) S K287下層遺物検出状況(東から)
(3) S K287完掘状況(南から)
- 図版第30 (1) S K336上層遺物検出状況(東から)
(2) S K336中層遺物検出状況(北から)
(3) S K336下層遺物検出状況(北から)
- 図版第31 (1) S K336完掘状況(北から)
(2) S K353完掘状況(東から)
(3) S K354遺物検出状況(南から)
- 図版第32 (1) S K354完掘状況(南から)
(2) S K371検出状況(南から)
(3) S K371完掘状況(東から)
- 図版第33 (1) S K371烏帽子検出状況(東から)
(2) S K423堆積状況(北から)
(3) S K423遺物検出状況(東から)
- 図版第34 (1) S K423完掘状況(南から)
(2) S K480・626遺物検出状況(北から)
(3) S K480・626遺物検出状況(南から)
- 図版第35 (1) S K480・626遺物検出状況(南から)
(2) S K604・605上層遺物出土状況(南から)

- (3) S K 604・605中層遺物出土状況(南から)
- 図版第36 (1) S K 604・605断ち割り状況(南から)
(2) S K 678上層遺物検出状況(西から)
(3) S K 678下層遺物検出状況(西から)
- 図版第37 (1) S K 678完掘状況(東から)
(2) S K 740遺物検出状況(西から)
(3) S K 740遺物検出状況(東から)
- 図版第38 (1) S K 740遺物検出状況(南から)
(2) S K 321・740・741遺物検出状況(東から)
(3) S K 740遺物検出状況(南から)
- 図版第39 (1) S K 740完掘状況(東から)
(2) S K 774遺物検出状況(南から)
(3) S K 774完掘状況(東から)
- 図版第40 (1) S K 440・775遺物検出状況(南から)
(2) S K 775板材・烏帽子検出状況(西から)
(3) S K 775完掘状況(西から)
- 図版第41 (1) S K 777上層遺物検出状況(南から)
(2) S K 777堆積状況(南から)
(3) S K 777下層遺物検出状況(南から)
- 図版第42 (1) S K 777完掘状況(南から)
(2) S K 825遺物検出状況(西から)
(3) S K 825堆積状況(西から)
- 図版第43 (1) S K 825完掘状況(西から)
(2) S K 835遺物検出状況(東から)
(3) S K 835完掘状況(北から)
- 図版第44 (1) S K 840遺物検出状況(南から)
(2) S K 840遺物検出状況(南から)
(3) S K 840調査地南壁堆積状況(北から)
- 図版第45 (1) S K 840完掘状況(北から)
(2) S K 734遺物検出状況(西から)
(3) S K 972遺物検出状況(東から)
- 図版第46 (1) S K 972完掘状況(西から)
(2) S K 71検出状況(東から)
(3) S K 71完掘状況(東から)
- 図版第47 (1) S K 94検出状況(南から)

- (2) S K94完掘状況(東から)
 (3) S K202検出状況(南から)
- 図版第48 (1) S K202完掘状況(南から)
 (2) S K230検出状況(東から)
 (3) S K230堆積状況(東から)
- 図版第49 (1) S K230完掘状況(南から)
 (2) S K288遺物検出状況(南から)
 (3) S K288完掘状況(南から)
- 図版第50 (1) S K841・842遺物検出状況(南から)
 (2) S K841遺物検出状況(南から)
 (3) S K841糞検出状況(東から)
- 図版第51 (1) S K888遺物検出状況(南から)
 (2) S K888遺物検出状況(南から)
 (3) S K888完掘状況(南から)
- 図版第52 (1) S E11完掘状況(北から)
 (2) S E848検出状況(南から)
 (3) S E848完掘状況(南から)
- 図版第53 (1) S E750検出状況(東から)
 (2) S E750曲物検出状況(東から)
 (3) S E957検出状況(東から)
- 図版第54 (1) S E935曲物内堆積状況(東から)
 (2) S E748完掘状況(東から)
 (3) S E748・750・935・957完掘状況(東から)
- 図版第55 (1) S E438検出状況(東から)
 (2) S E438堆積状況(南から)
 (3) S E438完掘状況(南から)
- 図版第56 (1) S E958検出状況(南から)
 (2) S E958完掘状況(南から)
 (3) S E958断ち割り状況(南から)
- 図版第57 (1) S D238全景(北から)
 (2) S D238堆積状況(南から)
 (1) S D238堆積状況(東から)
- 図版第58 (1) 第3調査区南壁土層断面(北西から)
 (2) 第3調査区南壁土層断面(北から)
- 図版第59 出土遺物1

図版第60	出土遺物 2
図版第61	出土遺物 3
図版第62	出土遺物 4
図版第63	出土遺物 5
図版第64	出土遺物 6
図版第65	出土遺物 7
図版第66	出土遺物 8
図版第67	出土遺物 9
図版第68	出土遺物10
図版第69	出土遺物11
図版第70	出土遺物12
図版第71	出土遺物13
図版第72	出土遺物14
図版第73	(1)出土遺物15
	(2)出土遺物16
図版第74	出土遺物17
図版第75	出土遺物18
図版第76	出土遺物19
図版第77	出土遺物20
図版第78	出土遺物21

平安京跡・東本願寺前古墓群発掘調査報告

1. はじめに

平安京跡・東本願寺前古墓群の発掘調査は、運転免許更新センター及び地域防犯ステーション整備事業に伴い京都府総務部府有資産活用課、ダイワロイヤル株式会社の依頼を受けて実施したものである。調査地は、京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町702番2・3・5、707番2に位置し、京都府警察旧七条警察署跡地にあたる。

京都府では、警察署の再編整備により廃止される予定の七条警察署(平成24年廃止)跡地の活用について、府有資産活用課により跡地活用構想が取りまとめられた。京都駅前という交通の便の良い立地条件を活用して府民生活の利便性の向上や地域の安心・安全につながる効果的な公共サービスの提供施設(ホテル建設、運転免許更新窓口と交番等の地域防犯関連施設)として整備されることになった。整備にあたっては、民間活力を導入した「民間事業者による定期借地権方式」が採用された。

調査地は、平安京の条坊復原によると左京八条三坊九町の中心部に相当する。平安時代後期から室町時代にかけては「七条町」や「八条院町」という職人町が形成され、室町時代には広範囲に東本願寺前古墓群が作られている。

現地調査は、平成26年5月21日～平成27年1月16日まで実施し、遺跡公開を平成27年1月10日(土)に実施し、325名の多くの方々の参加があった。平成27・28年度は、調査により出土した整理箱約800箱にのぼる土器類、金属製品、石製品、動・植物遺体の整理作業、保存処理・化学分析を実施し、報告書の作成・刊行作業を実施した。

現地調査並びに報告書作成にあたっては、京都府教育委員会、京都市文化市民局文化財保護課、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所をはじめとする関係各機関、地元自治会や近隣住民の方々のご指導ご協力をいただいた。特に、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 内田好昭、柏田有香、高橋 潔、前田義明、松吉祐希、丸山真史、吉崎 伸、山本雅和、京都市文化市民局 馬瀬智光、新田和央、熊谷舞子、公益財団法人元興寺文化財研究所 狭川真一、佐藤聖型、塚本敏夫、大阪府教育委員会 小林義孝、公益財団法人栗東市体育協会 佐伯英樹、埼玉県教育委員会 堀口智彦、八幡市教育委員会 小森俊寛、ベルリン自由大学 古崎円子、龍谷大学 國下多美樹、立命館大学 木立雅明、高正龍、山本晃平、同志社大学 鋤柄俊夫、橋本久和、京都大学 西山良平、妹尾裕介、木村啓章、武庫川女子大学 藤本史子、日本中世土器研究会の方々には、現地調査および整理作業時に専門的なご意見をいただいた。記して感謝します。

なお、調査に係る経費は、全額ダイワロイヤル株式会社が負担した。

本報告書の執筆は、増田孝彦と福山博章、黒坪一樹が分担して執筆し、文末に文責を記した。

[調査体制等]

平成26年度

現地調査責任者 調査課長 石井清司

調査担当者 調査課課長補佐兼調査第2係長 岩松 保

同 主 査 増田孝彦

同 調 査 員 福山博章

同 主 査 黒坪一樹

調査場所 京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町702番2・3・5、707番2

調査期間 平成26年5月21日～平成27年1月16日

調査面積 1,900㎡

平成27年度(整理等)

整理等責任者 調査課長 有井広幸

整理等担当者 調査課課長補佐兼調査第3係長 岩松 保

同 総括主査 増田孝彦

同 調 査 員 福山博章

平成28年度(整理等)

整理等責任者 調査課長 森 正

整理等担当者 調査課課長補佐兼調査第3係長 岩松 保

同 総括主査 増田孝彦

同 調 査 員 福山博章

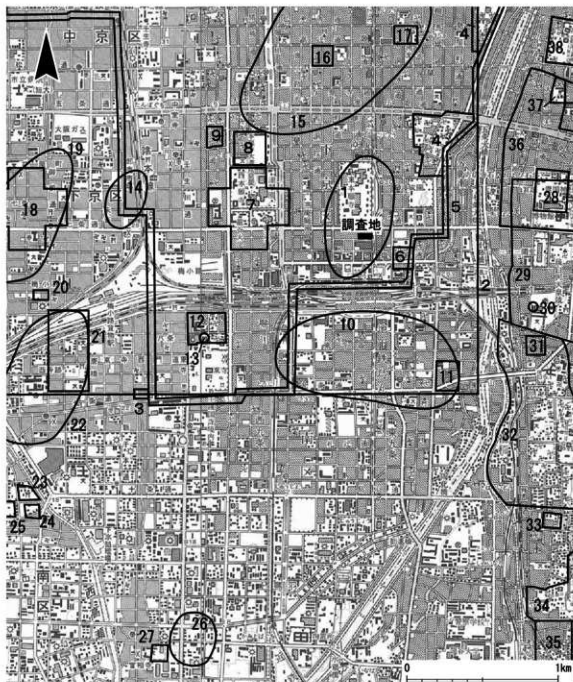
(増田孝彦)

1)位置と環境

調査地は京都市街の中心部に位置し、現在のJ R京都駅北側、七条通の南、烏丸通の西に位置する。調査地は、東側に南流する鴨川によって形成された扇状地上に立地している。一帯は鴨川の氾濫による洪水砂礫層が厚く堆積し、扇状地の砂礫層を基盤層とする。

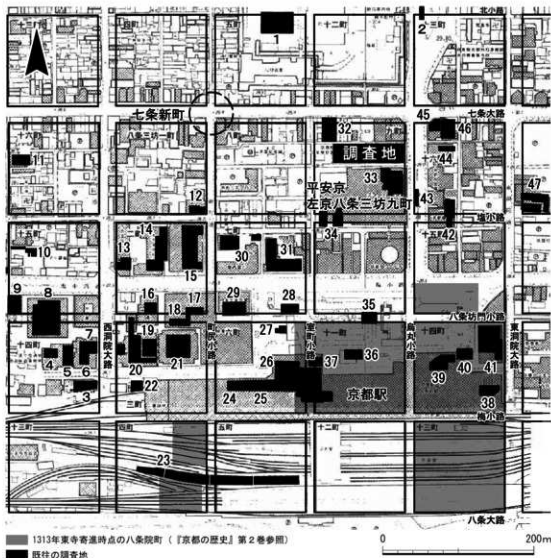
調査地は平安京左京八条三坊九町および東本願寺前古墓群にあたる。調査地の位置する平安京左京八条三坊周辺は平安京内でも発掘調査が数多く行われている地域である(第2図)。

第2図の調査地番号で示すと、平安時代前期から中期の遺構は九町(32)、十六町(45・46)で七条大道路面と南側溝が検出されている。八条二坊十四町(5～8)では平安時代前期の土坑、井戸、池跡が確認されている。八条二坊十五町(8)では平安時代中期の池跡が確認されている。八条三坊九町(33)では平安時代前期から中期の池跡が確認されている。平安時代前期から中期の左京八条二坊・三坊には貴族の邸宅が点在していた。しかし、その他の遺構は希薄であり、各地点では



- | | | | |
|----------------|--------------|--------------|-----------------|
| 1. 東本願寺前古墓群 | 2. 平安京跡 | 3. 羅城門跡 | 4. 寺町旧城 |
| 5. 御土居跡 | 6. 堀小路若山城跡 | 7. 東市跡 | 8. 本國寺城跡 |
| 9. 中堂寺城跡 | 10. 烏丸町遺跡 | 11. 九条河原町城跡 | 12. 教王護国寺(東寺)境内 |
| 13. 教王護国寺境内瓦窯跡 | 14. 堂ノ口町遺跡 | 15. 烏丸綾小路遺跡 | 16. だいうすの城跡 |
| 17. 意似城跡 | 18. 西市跡 | 19. 衣田町遺跡 | 20. 梅小路城跡 |
| 21. 西寺跡 | 22. 唐橋遺跡 | 23. 吉祥院天満宮境内 | 24. 吉祥院政庁城跡 |
| 25. 吉祥院西ノ内城跡 | 26. 上鳥羽遺跡 | 27. 上鳥羽城跡 | 28. 方広寺跡 |
| 29. 法住寺殿跡 | 30. 池田窯跡 | 31. 今村城跡 | 32. 法性寺跡 |
| 33. 正覚寺跡 | 34. 伏見稲荷大社境内 | 35. 極楽寺跡 | 36. 六波羅蜜寺政庁跡 |
| 37. 六波羅蜜寺境内 | 38. 建仁寺境内 | | |

第1図 調査地及び周辺遺跡分布図(国土地理院 1/25,000 京都東南部・西南部)



第2図 平安京跡左京八条三坊と七条町・八条院町
 『京都の歴史』第2巻より

付表1 周辺調査一覧

番号	条坊・町	調査概要	文献
1	七条三坊五町	平安時代前期の自然流路、平安末～鎌倉の柱列、鎌倉～室町の井戸・柱穴、室町の溝・集石・埋塞	『平安京左京七条三坊五町』古代学協会 1985
2	七条三坊十三町・北小路	平安後期～鎌倉後半の井戸・土坑・柱穴、室町の土坑	『No.73』『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982
3	八条二坊十四町	平安前期の土坑、平安後期～鎌倉前半の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉後半～室町前半の井戸・土坑・柱穴、鎌倉の鋳型・輪郭口出土	『平安京左京八条三坊』『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997
4	八条二坊十四町	平安後期の建物、鎌倉の土坑・柱穴、室町の井戸・溝・土坑・柱穴・木棺墓、室町の鋳型・塔壇・金属洋出土	『平安京左京八条二坊1』『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999
5	八条二坊十四町	平安前期の溝・土坑、平安後期の溝、鎌倉の井戸、室町の土坑・木棺墓・犬墓、鋳型・塔壇出土	『平安京左京八条二坊』『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2002
6	八条二坊十四町	平安前期の池状遺構、平安後期の溝、鎌倉～室町の井戸・土坑・欄・柱穴・木棺墓、鎌倉の鋳型・塔壇・輪郭口出土	『平安京左京八条二坊1』『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998

番号	集坊・町	調査概要	文献
7	八条二坊十四町	平安後期の溝、鎌倉～室町の井戸・土坑、鎌倉～室町の鋤型・埴輪出土	『平安京左京八条二坊2』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1998
8	八条二坊十四町・十五町・八条坊門小路	平安後期～室町初頭の八条坊門小路路面・両側溝、平安前期の自然流路、平安中期の池、平安後期の井戸・溝、鎌倉～室町の井戸・土坑・柱穴・炉・埋塞・木棺墓、鎌倉～室町の鋤型・埴輪・輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条二坊2』『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999
9	八条二坊十五町	平安前期の流路、平安中期の閑池、平安後期～室町の井戸・土坑・柱穴・炉、平安後期の鋤型、室町の埴輪出土	『平安京左京八条三坊十五町』株式会社日開コンサルタント 2007
10	八条二坊十五町	平安中期以前の横・土坑・自然流路、平安後期～鎌倉の建物・横・井戸・土坑、室町の建物・横・埋塞・溝・路面・土坑・井戸・炉、室町の埴輪・輪羽口・鋤型・鉄滓出土	『平安京左京八条二坊十五町跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004
11	八条二坊十六町	平安の井戸・溝・土坑・池状遺構、鎌倉～室町の井戸・土坑・柱穴、鎌倉の埴輪出土	『平安京左京八条二坊』『昭和62年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1991
12	八条三坊一町	古墳～平安の流路、平安後期の建物・井戸、鎌倉前半の建物・土坑、鎌倉後半～室町の井戸・土坑・埋塞・墓、鋤型・埴輪出土	『京都第3タワーホテル新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査平安京左京八条三坊跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1978
13	八条三坊二町・西洞院大路	江戸の西洞院川	未刊行
14	八条三坊二町	平安前期～中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴・埋塞・木棺墓・土塚墓、鎌倉の鋤型出土	『平安京左京八条三坊二町～第2次調査～』古代学協会 1985
15	八条三坊二町	平安前期～中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・土坑・柱穴、室町の墓、平安中期～鎌倉の鋤型・埴輪・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊二町』古代学協会 1983
16	八条三坊二町	詳細不明	未刊行
17	八条三坊二町・八条坊門小路	平安後期の八条坊門小路北側溝・井戸	『平安京・左京八条三坊跡』京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-1』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1978
18	八条三坊三町・八条坊門小路	詳細不明	未刊行
19	八条三坊三町・八条坊門小路	平安後期の土坑、鎌倉～室町前半の井戸・土坑・柱穴、室町後半以降の耕作溝、鎌倉～室町の鋤型・埴輪出土	『平安京左京八条三坊2』『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999
20	八条三坊三町	平安前期の土坑・溝、平安後期の土坑、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴・埋塞、鎌倉～室町の鋤型・埴輪・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊1』『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999
21	八条三坊三町	平安中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴、室町の建物・井戸・溝・土坑・柱穴、桃山～江戸の耕作溝、鎌倉～室町の鋤型・埴輪・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊1』『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996
22	八条三坊三町	平安中期の流路、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、室町の鏡の鋤型・埴輪・輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条三坊三町跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2005
23	八条三坊四町・五町	平安後期～室町の町尺小路路面・両側溝、平安後期の池・建物・泉・溝・土坑、鎌倉の泉・井戸・柱列・土坑、室町の井戸、平安後期の湿地、室町以降の耕作溝	『平安京左京八条三坊四・五町跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004
24	八条三坊六町	平安後期～鎌倉の土坑、室町の溝	『左京八条三坊』『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1984
25	八条三坊六町	鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鋤型・埴輪出土	『平安京左京八条三坊』『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996
26	八条三坊六町・十一町・室町小路	平安中期～後期の流路・井戸、平安後期～室町前半の室町小路路面・両側溝、鎌倉～室町前半の建物・壑伏遺構・井戸・溝・土坑・柱穴・炉、室町後半の耕作溝、鎌倉～室町の鋤型・埴輪・輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条三坊2』『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996

番号	集坊・町	調査概要	文献
27	八条三坊六町・八条坊門小路	平安後期～室町の八条坊門小路路面・北側溝、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鑄型・埴輪、輪羽口・金属滓出土。	『平安京左京八条三坊1』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
28	八条三坊七町	平安前期～中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・土坑・柱穴、室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鑄型出土	『平安京左京八条三坊1』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
29	八条三坊七町・八条坊門小路	奈良～平安中期の井戸、鎌倉～室町の八条坊門小路北側溝、平安後期～鎌倉の井戸・土坑・柱穴、室町の井戸・土坑・柱穴・竪・墓	『平安京左京八条三坊』『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988
30	八条三坊七町	平安中期～後期の井戸・土坑、鎌倉前半の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉後半～室町の井戸・溝・土坑・柱穴・埋薬・土藏墓・銭貨埋納土坑、鎌倉～室町の鑄型・磁石・金属滓出土	『平安京左京八条三坊七町』京都文化財団 1988
31	八条三坊七町	平安前期～中期の流路・井戸・土坑、平安後期～鎌倉前半の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉後半～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鑄型出土	『平安京左京八条三坊』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982
32	八条三坊九町	平安前期～江戸の七条大路路面、平安後期の井戸・土坑・柱穴、鎌倉～室町の溝・井戸・土坑・柱穴、平安後期の鑄型・取鍋、鎌倉～室町の鑄型・輪羽口・埴輪・金属滓出土	『平安京左京八条三坊九町跡』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2010
33	八条三坊九町	平安前期～中期の池・井戸、鎌倉の建物、平安後期～室町の井戸・土坑・柱穴	『平安京左京八条三坊九町跡』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2010
34	八条三坊九町・十町・塩小路	平安後期～室町の塩小路路面・両側溝・井戸・土坑・柱穴、平安後期～室町の鑄型・埴輪出土	『平安京左京八条三坊九・十町～七条町の調査』古代文化調査会 2007
35	八条三坊九町・十町・八条坊門小路	平安の八条坊門小路路面と両側溝	『平安京左京八条三坊～京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
36	八条三坊十一町	詳細不明	『平安京左京八条三坊～京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
37	八条三坊六町・十一町・室町小路	室町小路路面・両側溝、室町の井戸	『平安京左京八条三坊～京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
38	八条三坊十四町	平安中期以前の湿地、鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴・堅穴状遺構、室町の井戸・土坑・柱穴、鎌倉の草履・杖木製品出土	『平安京左京八条三坊2』『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996
39	八条三坊十四町	平安前期以前の湿地、平安後期～鎌倉の土坑、室町前半の井戸・溝・土坑	『No.69』『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982
40	八条三坊十四町	平安の包含層、鎌倉末～室町の溝・柱穴	『平安京左京八条三坊～京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
41	八条三坊十四町	平安中期以前の湿地、平安後期～鎌倉の溝、鎌倉後半～室町前半の建物・井戸・土坑・柱穴・堅穴状遺構・埋薬、室町の漆器・皿多量出土	『平安京左京八条三坊2』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
42	八条三坊十六町・塩小路	平安前期～後期の湿地、平安後期の塩小路路面と側溝、鎌倉～室町の建物・井戸・溝・土坑、室町の輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条三坊十五町・十六町』～京都銀行京都駅前支店新築工事に伴う調査～古代文化調査会 2005
43	八条三坊十六町	平安中期の包含層、後期の井戸・土坑、鎌倉～室町前半の溝・土坑・柱穴	『No.74』『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982
44	八条三坊十六町	平安の井戸・溝・土坑・柱穴、平安末～室町の建物・井戸・溝・土坑	『平安京左京八条三坊』『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989
45	八条三坊十六町・七条大路	平安前期～鎌倉の七条大路路面・南側溝、平安～江戸の井戸・溝・土坑・柱穴	『平安京左京八条三坊1』『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994

番号	条坊・町	調査概要	文献
46	八条三坊十六町・七条大路	古墳の流路、平安中期～鎌倉の七条大路路面・南側溝、平安中期～後期の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の跡型・埋堀・輪郭口出土	『平安京左京八条三坊2』『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994
47	八条四坊一町	平安の井戸・溝・土坑、鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴、室町の井戸・溝・土坑・柱穴、江戸の墓跡、平安前期の漆紙文書片出土	『平安京跡発掘調査報告 左京八条四坊一町』関西文化財調査会 2004

古墳時代～平安時代中期頃までの自然流路や湿地が確認されている(1・8・9・12・14・16・21・22・23・26・28・31・38・39・41・42・46)。自然流路は祭祀の対象となっており、左京八条三坊二町では土馬、墨書人面土器などが出土している(15)。

このように、平安京遷都以前から平安時代前期の遺構は希薄であり、自然流路や湿地帯であった。平安時代中期までは文献資料も残されていないことから、平安京遷都以前から平安時代後期までは居住に適した土地ではなかったと考えられ、平安京遷都後もしばらくの間は開発が及んでいなかったと推定される。

一方、平安時代後期より左京八条三坊に関する史料が散見される。調査地の位置する八条三坊九町については、鎌倉時代前半には平宗親の私領があり、のちに源友永や清原為国に譲渡されたことを記した文書が残されている。

調査地北側の左京七条三坊十二町には平安時代中期に藤原実季の邸宅、南東側の左京八条三坊十五町には平安時代末期に藤原為保の邸宅、東側の左京八条三坊十六町には平安時代末期に藤原家経の邸宅が所在したと推定されている。

調査地西側の七条大路と町尻小路の交差点付近は、平安時代後期からの商業、手工業生産の中心地の一つである「七条町」にあたり、活発な経済活動が行われていた。「七条町」は東市の衰退に伴い新たに形成された町屋商業地域である。「新猿蓑記」「吾妻鏡」などの史料に「物師」「細工師」「経師」などの記載がみられ、金属製品を中心とする手工業生産に携わる人々が集住していた。鎌倉時代には土倉、酒屋などが建ち並び、さらなる活況を呈するが、室町時代より衰退の一途をたどる。

調査地南側一帯は平安時代後期から鎌倉時代前半にかけて、左京八条三坊十三町にあった八条院暲子の邸宅が築かれ、周囲に御倉町・院町などの付属施設が営まれた。建暦元(1211)年、八条院暲子が没すると御所や周囲の院序・御倉は荒廃するが、新たに民家が建ち並び、町が形成され、八条院領となる。正和2(1313)年八条院領を伝領していた後宇多法皇により八条院御跡を中心とする院町13か所が東寺に寄進され、東寺領八条院町となる。東寺では居住者から年貢・地子を徴収するための検地帳を作成しており、「金屋」、「塗師」、「蒔繪」などの商工業に携わる人々が暮らしていたことがわかる。しかし、八条院町では応仁・文明の乱(1467～77年)を機に衰退する。

このように文献史料から、左京八条三坊は平安時代後期から室町時代にかけてが最も活況を呈する時期であることを読み取ることができる。同様に遺構・遺物の検出数も大幅に増加する。

平安時代後期より七条大路以南に位置する塩小路(34・42)・八条坊門小路(8・17・18・27・

29・35)・室町小路(26・37)などの街路が整備され、左京八条三坊として整備される。

調査地の位置する左京八条三坊九町(32・33)では、平安時代前期から江戸時代までの七条大路路面、鎌倉時代の大型建物、平安時代後期から室町時代の井戸・土坑・柱穴などが検出されている。調査地北西側の左京七条三坊五町(1)では平安時代末期から鎌倉時代の柱列、鎌倉時代～室町時代の井戸・柱穴・埋壘などが検出されている。調査地北東側の左京七条三坊十三町(2)では、平安時代後期から鎌倉時代後半の井戸・土坑などが検出されている。調査地南西側の左京八条三坊七町(30・31・28・29)では、平安時代中期から後期の井戸・土坑、鎌倉時代前半の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉時代後半から室町時代の井戸・溝・土坑・柱穴・埋壘・銭貨埋納土坑・土壙墓などが検出されている。調査地東側の左京八条三坊十六町(42～46)では、平安時代前期～鎌倉時代の七条大路路面と南側溝、平安時代中期から後期の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉時代から室町時代の井戸・溝・土坑・柱穴などが検出されている。調査地南側の塩小路の調査(34)では、平安時代後期から室町時代の塩小路路面と両側溝・井戸・土坑・柱穴などが検出されている。

これらの調査では、平安時代から室町時代の多量の土器類・瓦類・土製品、石製品、金属製品などが出土している。特筆されるのは、鋳造を中心とする手工業に関わる遺物で、鋳型・取柄・輪羽口などが数多く出土している点である。鋳型には鏡・銭貨・刀装具などがあり、様々な製品が生産されていたことが判明している。その他、東播磨・備前・常滑などで生産された陶器や青磁・白磁などの貿易陶磁器が数多く出土しており、当時の活発な流通経済活動を窺うことができる。

調査地の位置する東本願寺前古墓群は、北は花屋町通、東は東洞院通、南はJR京都駅ビル、西は新町通に囲まれた南北約800m、東西約450mの範囲に広がる鎌倉時代から室町時代にかけての古墓群である。京都市営地下鉄烏丸線建設工事に伴う発掘調査などにより、200基以上の墓跡が検出されている。調査地北西側の左京七条三坊五町(1)では室町時代の埋壘・土坑・集石などが検出されている。調査地北東側の左京七条三坊十三町(2)では、室町時代の土坑などが検出されている。調査地南西側の八条二坊十四町(5・6)、八条三坊一町(12)・二町(14)・七町(29・30)では木棺墓や土壙墓が検出されている。このように、墓の形態には木棺墓、土壙墓、蔵骨器を用いるもの、河原石を積み上げたもの、多量の土師器を埋納したものなどが確認されている。

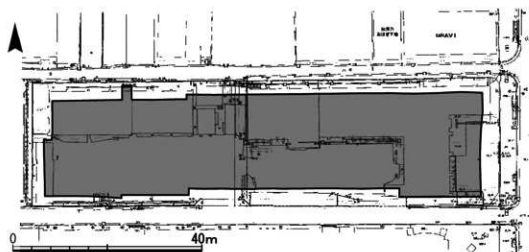
室町時代中期以降になると、七条大路南側の広い範囲で耕作土と耕作溝が検出されていることから、耕作地化が進んだことがわかる(3・14・15・19・20・21・23・26・29・38・41)。調査地周辺は絵図や古地図などの資料より、明治時代まで耕作地として利用されていることが知られており、京都駅開業を契機に周辺の開発が行われ、調査地には七条警察署が設置された。

(福山博章)

2) 調査の経過と基本層序

(1) 調査の経過・方法

発掘調査は、旧七条署の敷地範囲全体を対象に調査を計画した(第3図)。実際の調査は、建物解体工事と並行して実施することになり、解体の工程と排土置き場等を勘案して、調査地を3分

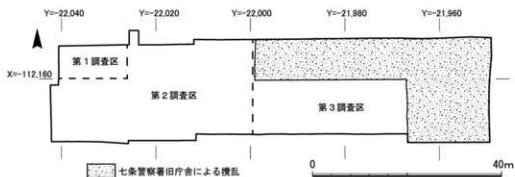


第3図 七条警察署の敷地と調査地

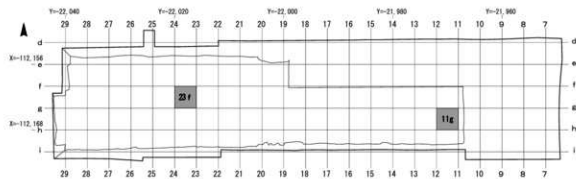
割して行った(第4図)。

解体工事は北西部分の旧車庫部分の跡地から始まり、解体が進んだ範囲から調査に着手した。旧車庫部分に第1調査区を設定し、南側を掘削し置き場とした。第1調査区の調査が終了した時点で埋め戻しを行い、建物解体が終了した第1調査区の南側と東側に第2調査区を設定した。解体工事が終了した段階で、旧警察署建物本体に相当する警察敷地の東半部に第3調査区を設定して調査にあたった。警察署の建物基礎はフーチング工法による基礎部分が間隔をおいてあり、削平が遺構面よりも深くに達し、広範囲に遺構面が失われていた。また、旧七条警察署以前のレンガ建物基礎も一部認められ、遺構検出面よりも下層にまで達していた。結果、建物基礎の範囲である北東部分は「L」字状に大きく削平を受けており、西端で数か所の柱穴を確認したにすぎなかった。以上のように、第3調査区で遺構が良好に遺存していたのは、東西33m、南北9m程度の範囲であった。建物基礎部分の大半は埋め戻しをして、排土置場として利用した。

最終的に、第2調査区の西側・南側は遺構の分布が稠密であるため、西壁に沿って長さ12×幅2m、南壁に沿って長さ28×幅2m拡張して調査を実施した。また、絵図によると、江戸時代以降の東本願寺前を流れる溝の延長部分が、第1・2調査区の北壁に沿って西方向に流れ、西洞院川に繋がることが想定された。調査地の北辺部分で北側に落ちる傾斜面と流路内堆積砂を認め、その幅や河川の構造を確認するため、第1調査区東端付近に南北方向のサブトレンチ(幅2×長



第4図 調査区模式図



第5図 調査地区割模式図

さ3m)を設定し、川跡の確認調査を行った。結果、第1調査区の北側で対象地よりも北側に川跡が位置するようで、その幅を確認することはできなかった。

調査にあたっては調査地全体の地区割りを行い実施した。烏丸七条交差点南西側にある測量基準点を0とし、西に向かい4mごとに1～29、南北側はこの基準点をから南にa～iまで4mごとにアルファベットを付した。これに基づいて、精査時の遺物の取り上げ、遺構の位置を表記した。地区割りによる調査範囲は南北d～i、東西は10～29となる。取り上げ方法はh11というように南北を基準に東西の番号を付し、個別の遺構の記述にその位置を明示した。

(2)基本層序

調査対象地は、東側の高い部分に警察署本体建物、その南側は駐車場となっていた。西側は、北側に車庫、西側にその関連建物があり南側は駐車場であった。中央部分を境に東側が標高28.15m、西側が28.85mと東側が約0.7m高くなっている。

調査区の層序は、近現代の瓦礫を含む攪乱層が全面に広がっており、その一部は第1調査面以下、平面的にも多数検出された。また、調査地の北壁付近は、東西に流れる溝が通じていたため、平安時代以降の土層の堆積は認められなかった。第1調査区西壁も同様で、近世以降の井戸や攪乱土坑が占めていた。第2・3調査区の壁面も多くの攪乱のため、本来の土層の堆積が観察できなかった。比較的本来の層序が安定して観察できたのは、第3調査区東寄り部分である。この部分で遺跡の遺構面の層序を報告する。

調査では、平安時代から室町時代の遺物が出土しており、遺構としては平安時代後期～室町時代までの遺構を検出した。遺構面は4面を確認し、これらの遺構面はほぼ水平で、北東側から南西方向に向けて緩やかに下る傾斜を有していた。現地形で観察された東西の高低差0.7mは、近現代の盛り土に拠るものであった。

南壁東端の基本層序は、次のとおりである。コンクリートを含む近現代の瓦礫層を除去すると、第1層として暗褐色シルト混粗・細砂質土があり、最も新しい段階の耕作土である。その下層には、第2層として黒褐色シルト混粗・細砂質土があり、この上面が第1調査面であり、この土層を5～10cm掘り下げたところが第15調査面となる。東側で標高27.7m前後、西側で標高27.8m前後が遺構検出面となる。主として、室町時代中期以降の遺構を検出した。

その下層の第3層である黒褐色シルト混粗・細砂の上面で第2調査面となる。この層には、炭・



第6図 南壁土層実測図

土器片・焼土が含まれている。東側で標高27.45m前後、西側で標高27.55m前後が遺構検出レベルとなる。鎌倉時代後半から南北朝期の遺構群と判断される。

その下の第4層が黄褐色粗・細砂で、炭・土器・焼土含む整地土と判断される。当該地が大規模に整地され、土地利用が活発になされたものと判断される。この整地土層上面が第3調査面となる。東側で標高27.2m前後、西側で標高27.4m前後が遺構検出レベルとなり、鎌倉時代前半を中心とする遺構を検出した。この面は地区割り図の19地区よりも東側は安定してよく残っていたが、西側は遺構の再掘削や遺構面の削土と盛り土などのため、部分的にしか残存していなかった。

この面を除去すると第6層のにぶい褐色細砂礫が広く分布しており、東側からの鴨川の氾濫堆積層で本調査地の基盤となる地山である。部分的に第5層の褐灰色シルト混細砂礫が堆積しており、この層を除去した第6層上面が第4調査面に相当し、平安時代後期の遺構面となる。東側で標高27.0m前後、西側で標高27.15m前後が遺構検出面となる。第6層上面は、かなり荒れた状況で、調査地内数か所に窪地が点在し、広く湿地が形成されていたようである。窪みには泥土や自然木やわずかに加工痕の認められる板材に混じって平安時代の土器が出土している。こういった地形の状況であったため、多数の遺構が検出され、土地利用が盛んになる第3調査面である鎌倉時代前半までには、第4層により整地する必要があったものと推定される。

天福2(1234)年の大火により、烏丸より西、油小路より東、八条坊門より北など、七条町界隈を広く焼いたとされているが、調査地の中では、部分的に赤く焼けた土に覆われた面を確認したものの、焼土や炭化物の痕跡を広く層状に検出することはできなかった。

(増田孝彦)

2. 各調査面の概要

1) 第1調査面の概要

第1層のコンクリート・瓦礫層を除去すると、七条警察署およびそれ以前の煉瓦建物の基礎、東本願寺に関係する多くの攪乱が検出された。攪乱の最も深いものは第4調査面よりも下層の標高26m付近にまで達していた。攪乱は七条警察署本体建物西端の第2・3調査区境が最も多く認められた。また、第1・2調査区北壁沿いには江戸時代以降の東本願寺東側を流れる溝の東西延長部分が存在しており、この溝の掘削に伴い遺構面は大きく削平されていた。南・西壁では第2層の旧耕作土が部分的に遺存しているのが認められ、これを除去すると、調査地全体に土師器皿を中心とした土器類・焼土等が大量に散乱しているのが認められた。焼土の散乱は特に第2調査区南西側と中央付近に集中していた。これらの散乱する土器・焼土の除去を行いながら精査を行った。これらは攪乱や遺構の再掘削に伴い下層にあった遺構内に埋め置かれた土師器皿等が散乱しているものと考え、とくに密集度が高い部分は遺構内の遺物と考えて調査を実施した。これら遺構の再掘削に伴うと考えられる土器の散乱は、遺構周辺に数cm～十数cm単位で堆積しており、これらを除去した調査面を第15調査面とした。

精査の結果、攪乱がおよんでいない調査地中央より西側と東端に集中して土坑・柱穴を検出した。平面形が円形・楕円形を呈した柱穴と考えられるものは、調査区全面に分布し、特に第1・2調査区で多く認められ、第3調査区ではやや少ない。代表的な遺構としては、第1調査区北端でS E 03・11を検出し、第1・2調査区境では、S K 126・203を検出した。

埋壺土坑としてS K 71・94を検出した。第2調査区では西端付近で検出したS X 130およびその検出面上に認められた根石群、その北側で埋壺遺構としてS K 71を検出した。第2・3調査区の境ではS K 203を検出した。第3調査区西寄りではS K 126、その東側では根石が各所に認められた。第1調査面では柱穴内に根石や壺片を置くものが検出され、ほかにも攪乱や上位からの遺構の重複のため、柱穴の掘削が失われて根石だけが残ったと判断される柱穴も多く検出された。これらの柱穴の存在から、建物が存在したことは確実視されるが、まとまりがほとんどなく、建物を復原するには至らなかった。

土師器皿を大量に埋納した遺構としては、S K 126、S X 130がある。

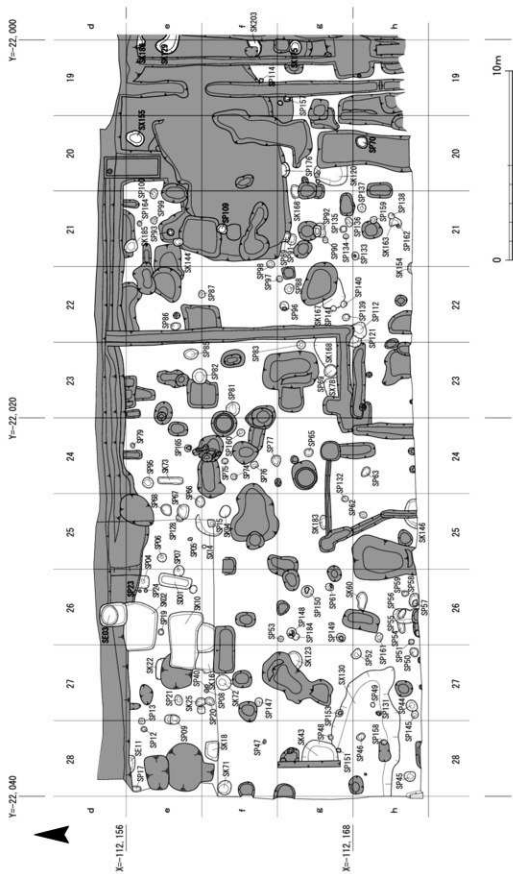
2) 第1.5調査面の概要

第1調査面から、遺構の再掘削や攪乱等により堆積していた土層を除去した段階である。基本的には第1調査面と同じ検出面であるが、第1調査面を数cm～十数cm下げた状態で検出したものである。第1調査面よりもかなり遺構数が増えている。第1・15調査面は、遺構検出面は東側で標高27.7m前後、西側で標高27.8m前後が遺構検出面となる。

この調査面で検出した遺構は、大半が柱穴を中心としたもので、第1調査面同様、根石のみが認められるものや、柱穴内に壺や根石を持つものが認められた。代表的な遺構には、第2調査区西端では埋壺遺構としてS K 202、第1・2調査区境では、S K 125・127・835などの土師器皿を大量に埋納する土坑がある。第2調査区中央部では、南北方向溝S D 275を検出した。第3調査



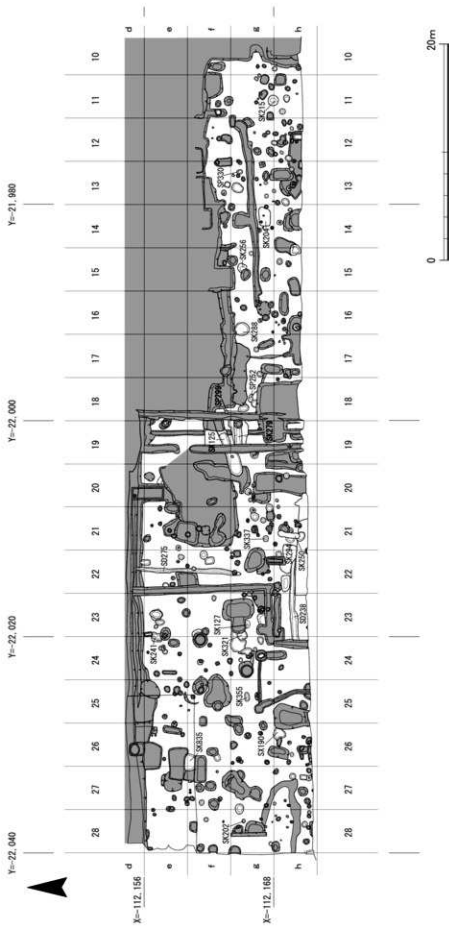
第7図 第1調査面検出遺構配置図(1/350)



第8図 第1調査面検出遺構配置図(1)(1/200)



第9図 第1調査面跡出遺構配置図(2)(1/200)



第10図 第1.5調査面検出遺構配置図(1/350)



第11図 第1.5調査面検出遺構配置図(1)(1/200)



第15調査面検出遺構配置図(2)(1/200)

区西端では埋壘遺構としてS K288を検出した。土師器皿を大量に埋納する土坑は、第2・3調査区境界付近に多く認められた。

第1・15調査面で検出した根石や瓦片を置く小規模な柱穴や根石だけとなった柱穴群から、第101図で示したように、第2調査区西端のS X130の上面、第3調査区東端で小規模な掘立柱建物1・2や欄列を復原できた。調査地全体で多くの柱穴が検出されているが、これ以外には建物を復原するには至らなかった。

3) 第2調査面の概要

この調査面は、遺構検出面の標高が低くなり、浅い攪乱がなくなり調査面が広がるため、土坑・埋壘土坑、井戸、溝、柱穴など検出遺構の数が多くなる。遺構検出面は、東側で標高27.45m前後、西側で標高27.55m前後である。第2調査区西側では、S K200・371、刀子を埋納したS K480、中央部分ではS K336・423、S D238に切られた埋壘土坑S K230、S D399・406・417・238・609、東寄りではS K604・605・448、S E438、南側ではS K840、第3調査区西側ではS K263、東側ではS K287などを検出した。検出された土坑も円形・方形・楕円形・不整形と多岐にわたる。数多く検出された柱穴は根石や瓦片が入るものは少なく、第3調査区東側の北寄りで数か所検出されたにすぎない。建物を復原することはできなかった。

4) 第3調査面の概要

全域で稠密に遺構は分布しているが、調査地西側に対して東側の遺構密集度がやや高い。これは烏丸通りに面して建物が密集していたためと推定される。

遺構は、第4層の黄褐色粗・細砂(黄色整地土・炭・土器・焼土含む)の整地層上面で検出したものである。中央部より西側では、東側に比べて第2調査面の遺構残欠が多く残っており、遺構掘削に伴い第4層の黄褐色粗・細砂(黄色整地土・炭・土器・焼土含む)がかなり削平を受け、安定した状態で検出された部分は少なかった。遺構検出面は、東側で標高27.2m前後、西側で標高27.4m前後である。

第2調査区西側でS K624・678、中央付近でS K739、東側でS K841・842を検出した。第3調査区西側ではS K883・971、S E958、S D736、中央部でS K711・734、S E972、東側でS E748・750・935・957、S D735・752・860・911を検出した。第2・3調査区では、数多くの柱穴を検出したが、根石や瓦片が入るものは少なく、第2調査面同様、第3調査区東側の北寄りで数か所検出されたにすぎない。第3調査区中央付近には多くの柱穴が密集しており、この面での建物跡の存在を示唆するが特定するには至らなかった。

一方、第2調査区西・南側は遺構の分布密度が高いことから、西壁に沿って12×2m、南壁に沿って28×2m拡張して調査を行った。その結果、西側では第1調査面で検出したS X130の延長部や数多くの土坑・柱穴が検出された。南側では第2調査面で検出したS D399の南延長部、埋壘土坑S K888が検出された。

第3調査区の北側の旧七条署本体建物跡は、第3調査面で精査を実施したところ、建物基礎部分が発出されたが、第4遺構面よりも下層にまで削平がおよんでおり遺構面は失われていた。わ



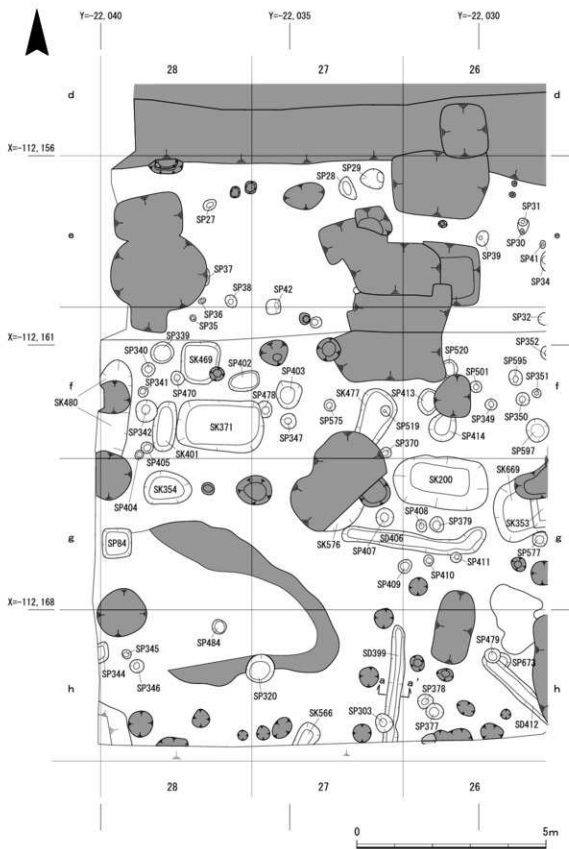
第131図 第2調査面検出遺構配置図(1/350)



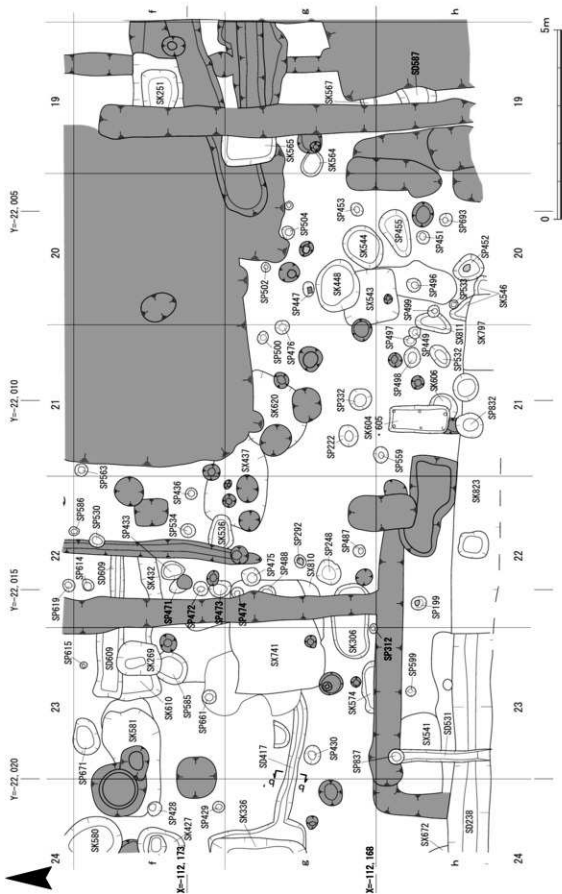
第14図 第2調査面検出遺構配置図(1)(1/200)



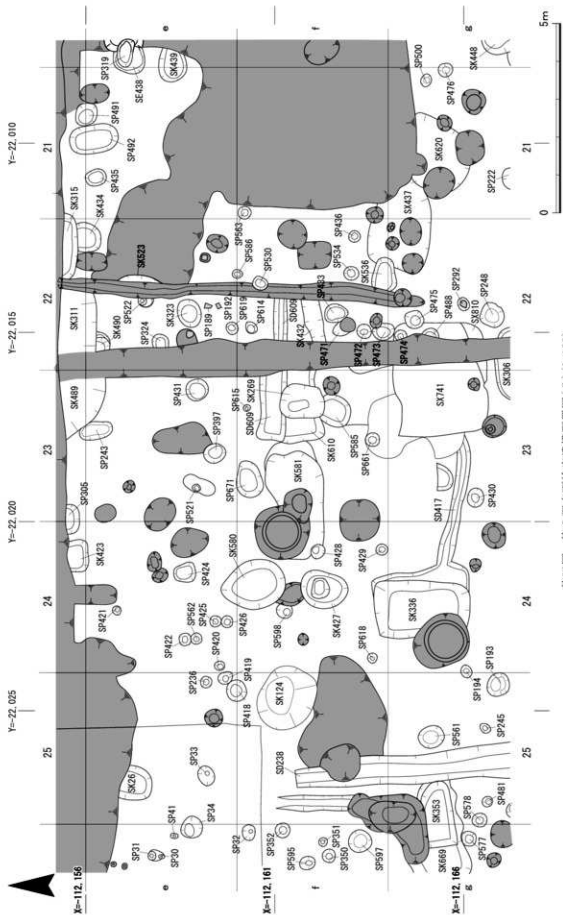
第15図 第2調査面検出遺構配置図(2)(1/200)



第16図 第2調査面検出遺構配置図(1)(1/100)



第171図 第2調査面検出遺構配置図(2)(1/100)



第18図 第2調査面検出遺構配置図(3)(1/100)



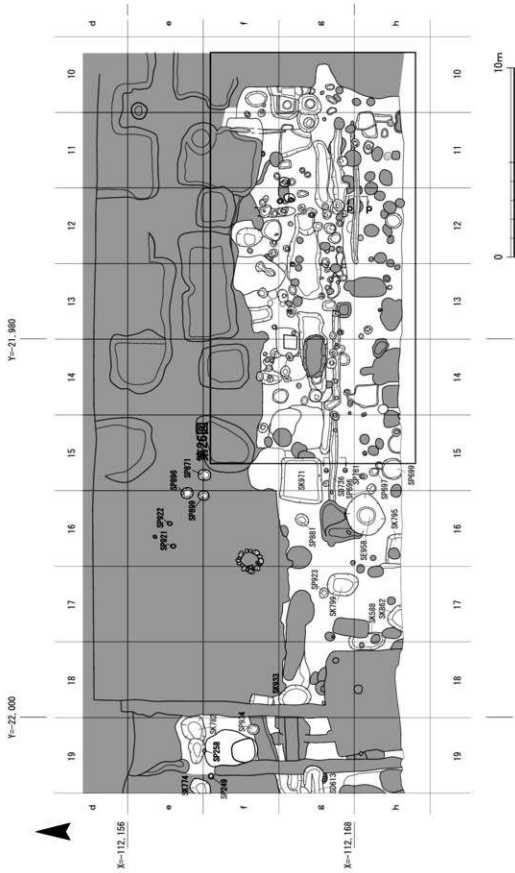
第19図 第2調査面検出遺構配置図(4)(1/100)



第20図 第3調査面発掘遺構配置図(1/350)



第21図 第3調査面検出遺構配置図(1)(1/200)



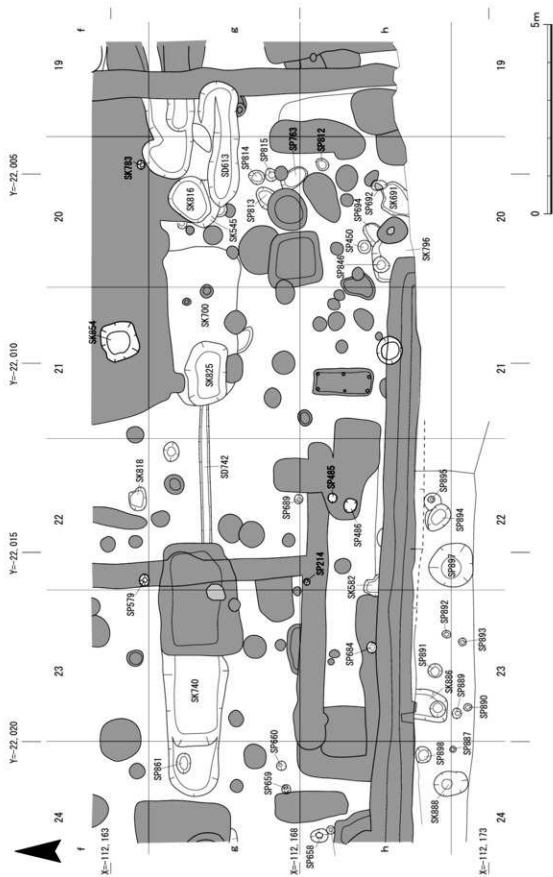
第22図 第3調査面跡出遺構配置図(2)(1/200)



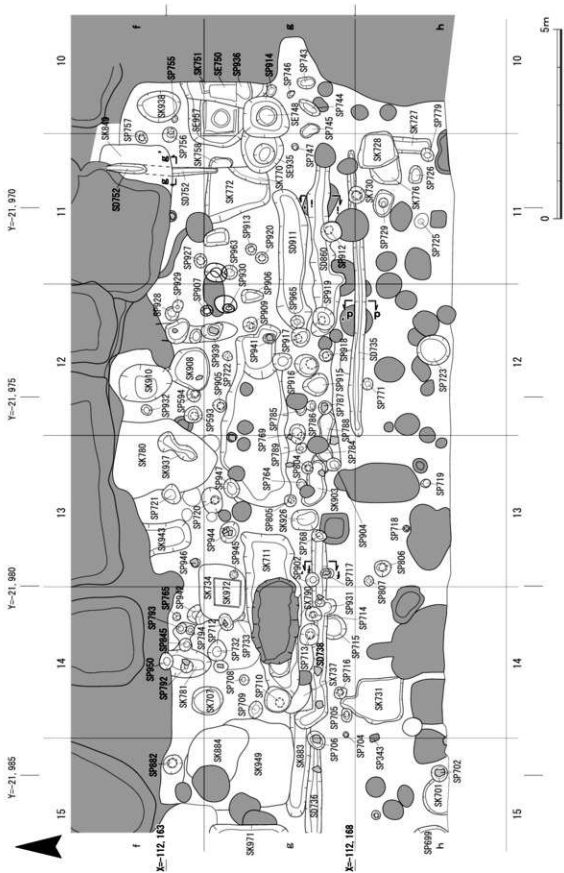
第233図 第3調査面検出遺構配置図(1)(1/100)



第24図 第3調査面検出遺構配置図(2)(1/100)



第25図 第3調査面検出遺構配置図(3)(1/100)



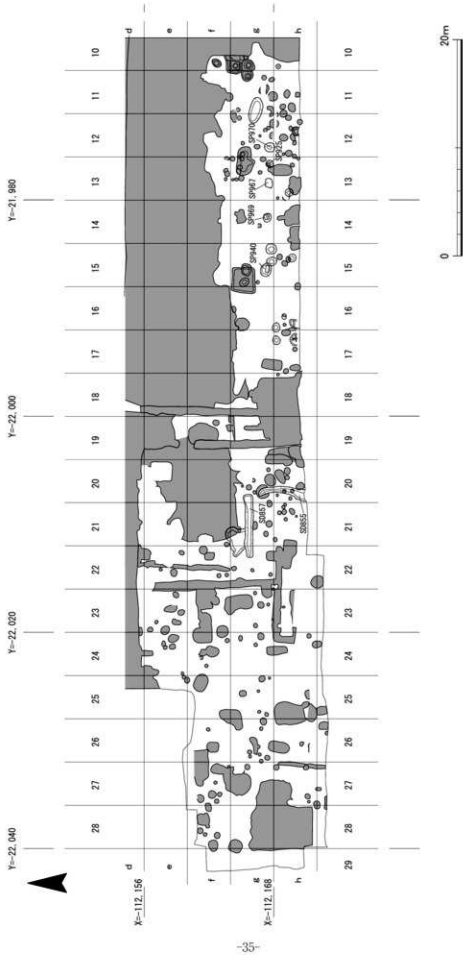
第265図 第3調査面跡由遺構配置図(4)(1/100)

ずかに e15・16、f15・16地区に数か所の柱穴を認めたと過ぎない。f16・17地区に認められた円形石組井戸は近世以降のものである。同様に18～19ラインまでは煉瓦建物の基礎が深くおよんでおり、遺構は失われていた。

5) 第4調査面の概要

第4層の黄褐色粗・細砂(黄色整地土・炭・土器・焼土含む)の整地層を除去した面となる。整地層造成以前はかなり荒れた状態であったようで、部分的ではあるが調査地内の数か所に窪地が残存し、水たまり状態が認められた。窪みには泥土とともに自然木やわずかに加工痕の認められる板材に混じって平安時代の土器が出土している。湿地周辺は削平され平坦化しているが、深い部分はこの土砂で埋めている。泥土周辺の基盤層は鴨川の氾濫により形成された砂礫層で、遺構はこの面より検出した。遺構は第3調査区で比較的まとまって検出できたが、第2調査区においては、第3調査面で遺構が繰り返し掘削されたため、部分的に黄褐色粗・細砂(黄色整地土・炭・土器・焼土含む)の整地層が認められたにすぎない。そのため、第2調査区の遺構は、第3調査面から掘り込まれていたものが遺構の密度が高いため確認できず、最終面まで掘り下げた結果検出できたものである。第3調査区の遺構については、整地層以前の遺構と考えられるが、柱穴内からは遺物が出土していないため時期を特定できないものもある。また、整地に伴い削平を受けたようで柱穴が浅くなっている。遺構検出面は、東側で標高27.0m前後、西側で標高27.15m前後である。第2調査区では、東側で溝2条(S D855・857)、土坑1基(S D857)が検出された。第3調査区では、根石の代わりに板材を敷いたものS P925・940・954・955・969を検出している。g・h境のライン上近くに並ぶ柱穴群(第101図欄列1)については、調査地南側で行われ池跡等が検出された貴族の邸宅等に関係する柱穴群の可能性もある。

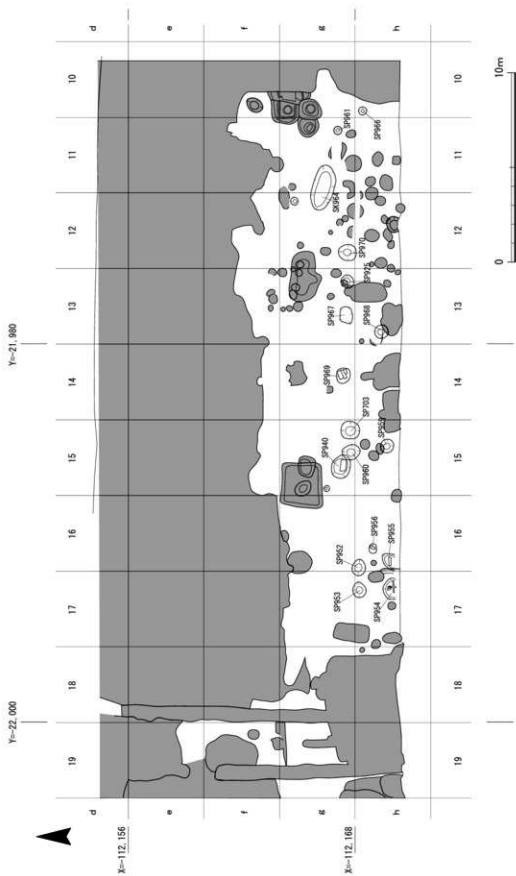
(増田孝彦)



第27図 第4調査面検出遺構配置図(1/350)



第28図 第4調査面検出遺構配置図(1)(1/200)



第29図 第4調査面検出遺構配置図(2)(1/200)

3. 検出遺構

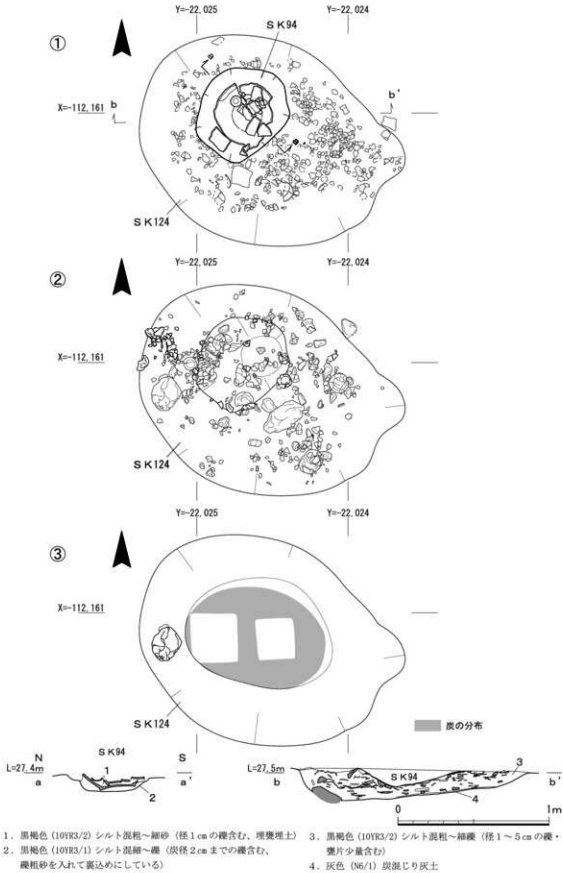
検出された遺構は、土坑、埋甕土坑、井戸、溝、柱穴、根石などがある。このうち遺構番号を付したものは900以上を数える。遺物の出土がなく番号を付さなかったものを含めると約1,000を越える遺構数となる。以下、主要な遺構について説明する。特に土師器皿を埋納した土坑は多数にのぼることから、代表的なもの、特徴あるものを中心に記載した。他の遺構については、遺構一覧表を参照していただきたい。

1) 土坑

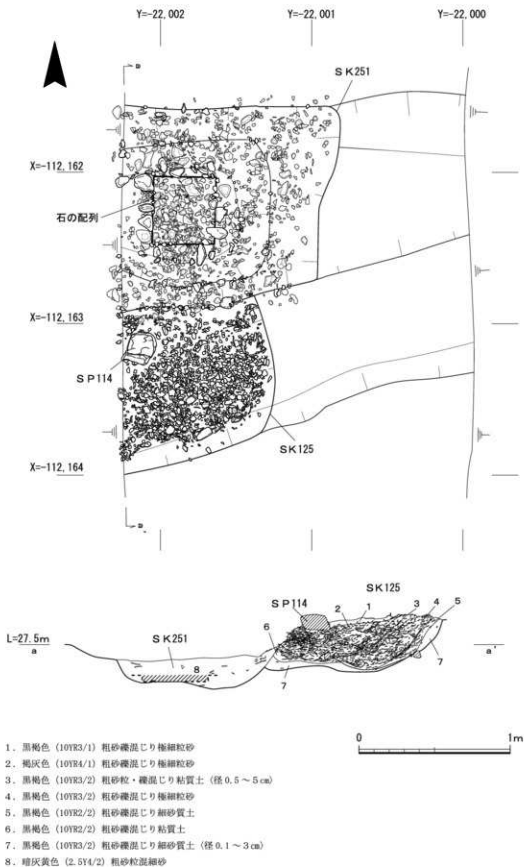
土坑の多くには土師器皿を中心に多数の遺物が埋納されていた。多量の土師器皿を埋納した土坑は、第1調査面から第3調査面で検出し、約230基を検出した。これらの土坑は、円形・方形・長方形・不整形等の多様な平面形を呈し、深く掘り込まれたものや浅い窪み状のものなど、多岐にわたる。以下、土坑の構造、遺物の出土状況で典型的なものを中心に報告する。

SK124 (第30図、図版第14) 第2調査面 f 24・25地区で検出した。埋甕遺構SK94と重複しており、SK94の下層で検出した(2)埋甕遺構SK94の項を参照)。中央部分にSK94が設けられている。平面形は楕円形を呈し、長径1.7m、短径1.35m、深さ0.21mを測る。検出面では多くの土師器皿細片を検出し、これらに混じって常滑大甕片が数点出土した(第30図①)。SK94掘形底面付近には、土師器皿の完形品に混じって南東・南西側に人頭大の石材が置かれていた(同②)。これらの上向きに置かれた土師器皿を除去すると、底面直上で灰土が検出された。灰土はほぼ土坑全面に広がっていたが、一辺25cmと30cmの方形状に灰が認められない部分が2か所認められた。箱状のものが埋置されていた可能性がある(同③)。

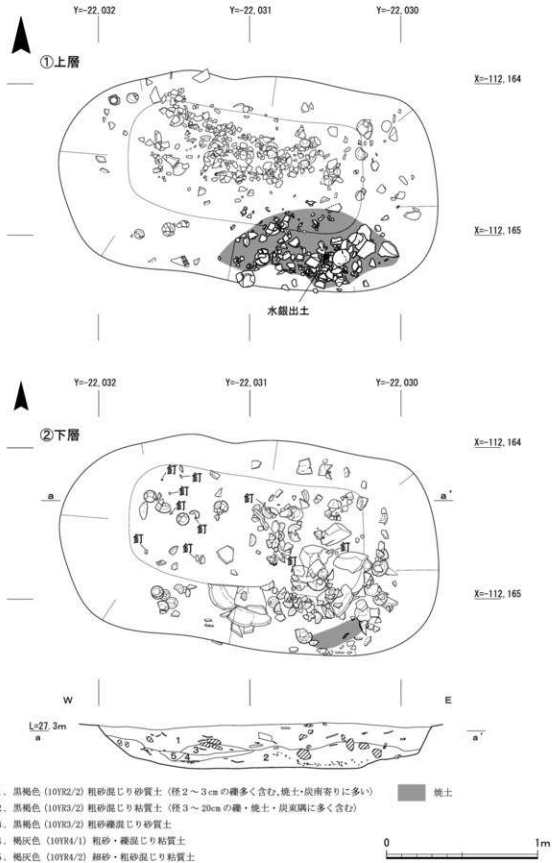
SK125 (第31図、図版第15) 第15調査面 f・g 19地区で検出した。北側ではSK251と重複し、SK251が切り勝つ。西側は攪乱により削平を受けている。規模等は不明であるが、確認できる規模は一辺1m程度で、平面形は方形を呈し、深さは最大で0.39mを測る。検出時には、土坑の北側にSP114の根石が認められた。SK125には土坑全体に多量の土師器皿が細片となって埋められていた。いずれの土層中からも、SK127のように完形品であったものが土圧等で壊れたような状況は観察できなかった。断面観察では、土師器皿の重なり方の不整合が認められ、4基の土坑の重複または掘り返しがあったと想定できる。先行して設けられた土坑の埋土は6・7層で、次いで4・5層、3層、最新の土坑は1・2層が埋土となる。これらの埋土はよく似ているので、時間差を持たずに連続的に掘削・埋め戻しがなされたか、掘り返しが繰り返されたものと考えられる。6・7層を埋土に持つ土坑は底面が不整形で、埋土中には土師器皿の細片が少量含まれていた。4・5層を埋土とする土坑は土師器皿細片が多く混入しているが、破片が斜め方向に揃うような堆積は認められない。3層を埋土とする土坑にも土師器皿細片が多く混入しているが、土器片は斜め方向に揃う堆積をしている。いわば、土坑壁に沿って南から流し込まれたかのような状態である。1・2層は土師器皿細片の混入量が3・4層よりも少ない。このうち2層は、土師器皿の堆積状況からさらに4層に分けられる。まず、南・北側から埋められ、中央部の空間に北側から埋め、最後に南側を埋めている。SK125が埋まった後にSP114が設けられている。



第30図 S K 94・124実測図

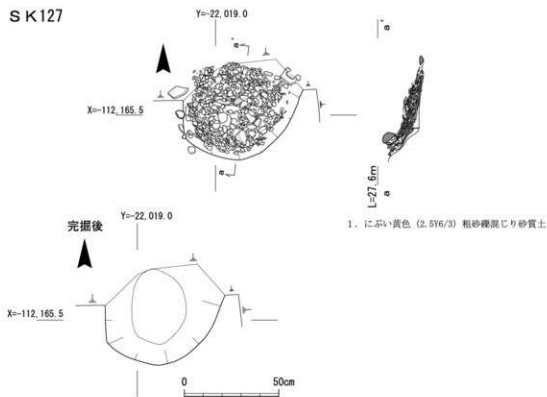


第31図 SK125・251・SP114実測図

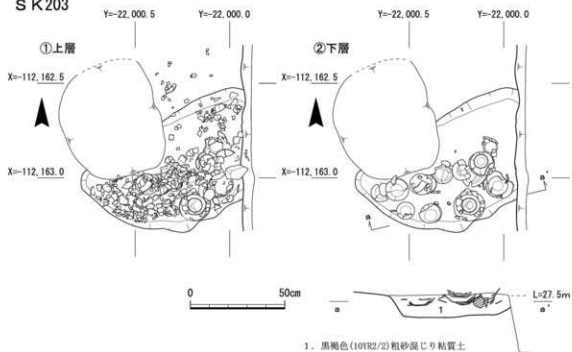


第32図 SK200実測図

S K127



S K203



第33図 S K127・203実測図

S K 127 (第33図、図版第21) 第1.5調査面 g 23地区で検出した。北側約1/2は攪乱により削平されているが、平面形は円形を呈すると考えられる。復原径約0.78m、深さ0.22mを測る。完形の土師器皿がほぼ正位状態で折り重なって隙間なく出土した。それぞれの土師器皿は密着しており、土坑の中央部に向かって傾いた状態であり、南側から流し込まれたような状態であった。この堆積状況は、土坑の検出面から底面まで同じ状態であった。検出面の南端中央部で、拳大の石材1石が認められる。

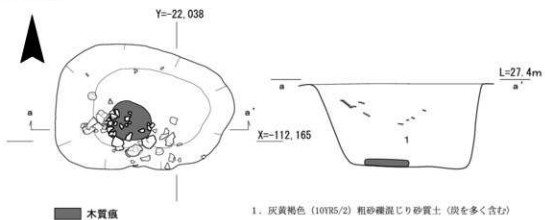
S K 200 (第32図、図版第32) 第3調査区 f 26、g 26・27地区、第2調査面で検出した。隅丸長方形の平面形を呈し、長辺2.5m×短辺1.38m、深さ0.3mを測る。主軸はほぼ東西方向である。検出面においては、南東側に焼土が0.35×0.95mの範囲に広がり、焼土の上には10～25cmの石材とともに銅塊・丸底小鉢がまとまって出土した(第32図①)。これらに混じって微量であるが水銀が出土した。焼土が広がる範囲は別の土坑の可能性も考えられるが、明確な切り合い関係は認められなかった。埋土は、土坑全体が徐々に埋まったような状況をなしており、出土する遺物にまとまりがなく、土師器皿の完形品も少ない。釘は西端付近を中心に8点、東側は石材に混じって5点ほど出土しているが、いずれも規則性がなく棺材等に使用されていたとは断定できなかった。

S K 203 (第33図、図版第26) 第1調査面 f 19地区で検出した。不整形な平面形を呈し、北西・東側を攪乱に削平される。残存長0.85、幅0.6m、深さ0.14mの浅い土坑である。内部からは多量の土師器皿が出土した。検出時には破片が散乱した状態であり、その間に完形の土師器皿が認められた(第33図①)。検出面の埋土を数cm除去して土器片を整理したところ、下層では完形の土師器皿が方形状にまとまり、ほぼ水平に正立していた(同②)。土師器皿が数枚重ねられているものもある。このような状況から、まず完形の土師器皿を底面に据え置き、その上から土師器皿を破砕し、覆うように埋めたものと推測される。

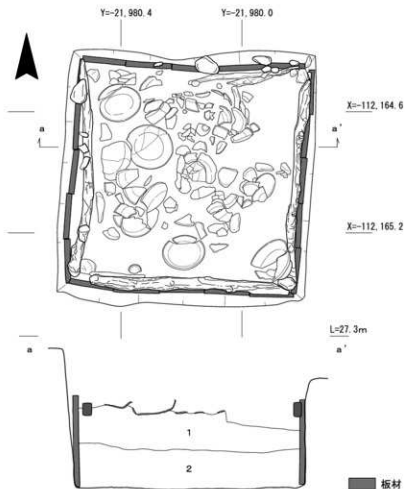
S K 251 (第31図、図版第15・16) 第2調査面 f 19地区で検出した。南側はS K 125と攪乱により、西側は攪乱により削平されている。平面形は方形を呈し、残存長1.07m、幅0.98m、深さ0.29mを測る。主軸は東西方向にとる。埋土は暗灰黄色粗砂粒混細砂で、礫や破砕された土師器皿が中央部分で集中して出土した。最下面の土坑中央部では、一辺0.1～0.15mの川原石が、約0.4m四方に並べられていた(図版第16(2))。これらの川原石は直線的な面を内側に向けて揃えており、この内側には、外側を囲う川原石よりも小振りの川原石が少量認められた。これらを除去すると、下面に薄い灰土が認められた。灰土はこの四角い部分にだけ分布し、土坑全体には広がっていない。この空間部分の外側に5点、南側には2点の土師器皿が完形で口縁部を上に向けて出土した。

S K 263 (第35図) 第2調査面 g 15・16地区で検出した。S K 971と切り合い関係を有し、S K 971より新しい。東側を攪乱により一部削られている。隅丸長方形の平面形を呈し、長辺1.85m、短辺1.17m、深さ0.26mを測る。主軸はほぼ東西を向く。土坑内全体は径5～18cm程度の河原石・角礫を中心に埋められている。検出面より徐々に石材を外しながら底面まで精査を行ったが、土師器皿の細片が少量出土したのみで、底面はほぼ平坦であった。

S K354



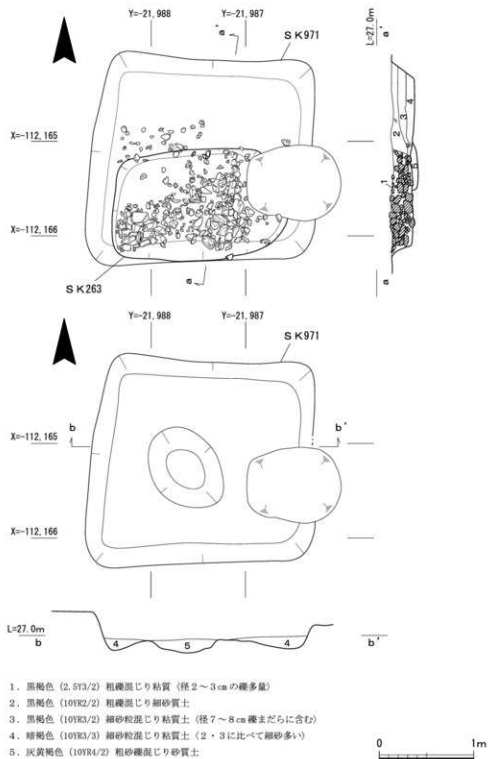
S K972



1. 黄灰色 (2.5Y5/1) 礫混じり砂質土
2. 灰色 (10Y5/1) 粗砂礫混じり粘質土

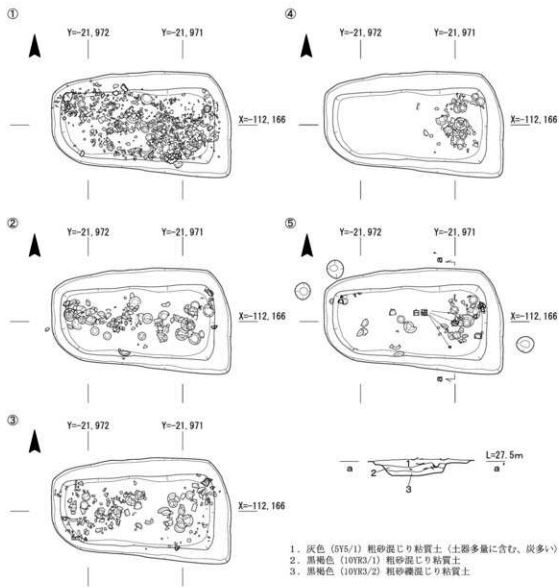


第34図 S K354・972実測図

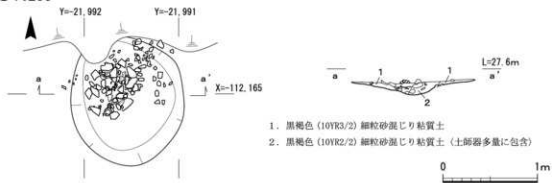


第35図 SK 263・971実測図

S K 287



S K 288

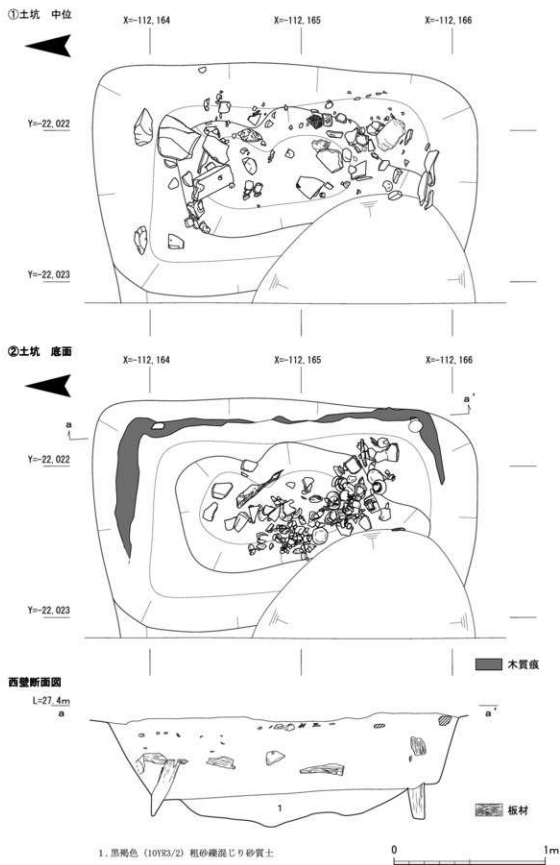


第36図 S K 287・288実測図

S K287 (第36図、図版第28・29) 第2調査面東端、g11・12地区より検出した。平面形はややいびつな隅丸長方形を呈し、主軸はほぼ東西方向である。長さ1.85m、幅0.9～1.07m、深さ0.2mを測り、底面はほぼ水平である。検出面では、細片化した土師器皿が土坑全体を覆うように出土している(第36図①)。これらの遺物を除去し土坑内の掘り下げを行うと、長軸方向の中央部に多くの完形の土師器皿が上向きで、やや傾いた状態で出土した(同②)。これを除去するとさらに同じような状況が確認された(同③)。この下にも遺物の出土が認められ、土師器皿は東側小口部分に集中していた(同④)。底面でも東側小口付近に完形の土師器皿が上向きに出土した(同⑤)。こういった出土状況から、これらの土師器皿は土坑内に乱雑に入れられたものではなく、意図的に据え置かれたものと推測される。出土した土師器皿は完形品が95点、そのほか1/3以上の残存状況があるものが42点ほどあり、総数137点以上の土師器皿が埋納されていたと考えられる。このほか、土製品7点、ミニチュア土器2点の出土も認められ、墓の可能性がある。

S K336 (第37図、図版第30・31) 第2調査面f・g24地区で検出した。西側の一部を削平されており、S K560に切り勝つ。平面形は隅丸長方形を呈し、各辺がほぼ正方位を向く。南北1.55m、東西2.3m、深さ0.66mを測る。土坑検出面から底面近くまで多量の土器や大型の礫、方形有孔磚等が埋められていた。検出面では、両小口付近に人頭大の礫が置かれ、周辺には土器の破片が密集していた(図版第30(1))が、中央部付近ではほとんど検出できなかった。検出面から土坑の中位付近までは破片が多く、土器類は土坑中心部に向けて斜めに傾いて落ち込んだ状況であった(第37図①)。底面付近では、土師器皿片を含んだ土層の上に土師器皿が口縁を上に向け比較的まとまった状態で出土した(同②)。この上にも土器片が出土したが、上位のものと同じく、斜めに傾いて堆積していた。さらに、土坑の各側面の壁には横板が遺存していた。横板は、土坑中位付近が最もよく残り、北側・東側と南側に一部で認められた。土坑底面の北東・南東角には径0.1mの穴が穿たれており、北東隅には杭状の板材が隅柱として斜め方向に打ち込まれていた。土師器皿は板材により開かれていたようである。また、土坑中央部の北寄り斜め方向に板材の一部を検出したことから、上部は板材により覆われていたと考えられる。底面は横板を検出した高さよりさらに約0.16m深く掘り込まれており、底面には凹凸が認められた。この土坑を一旦埋め戻して平坦にしたのちに、方形に組まれた板材が据えられたようである。以上の知見をもとに、土坑内の土器の埋置を復原すると、土坑を掘削した後に中央部分を埋め戻して平坦にし、土坑の側面に板材を立てて置き、土坑底面に土師器皿を並べて板材で蓋をし、土坑を埋め戻し、最後に土坑の小口付近には石材を置く、といった手順が想定される。上位から出土した斜めに傾いた土器片は、西隣のS K560を壊して掘削したため埋め戻し土中に多くの土器片が混じることになったと推定され、木材が腐植した際に中央部が陥没し、斜めに堆積したものと判断される。人骨等は出土しなかったが、内部の遺物出土状況や板材により土坑内に空間を設けている点などから、墓の可能性が考えられる。

S K354 (第34図、図版第31・32) 第2調査面g28地区で検出した。楕円形の平面形を呈し、長径1.17m、短径0.53m、深さ0.55mを測る。検出された小型の土坑中最も深いものである。埋



第37図 SK 336実測図

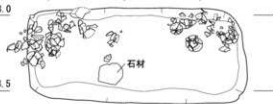
S K 371

①検出面

X=112.163.0

X=112.163.5

Y=22.037.5 Y=22.037.0 Y=22.036.5



②底面

X=112.163.0

X=112.163.5

Y=22.037.5 Y=22.037.0 Y=22.036.5



1. 暗灰黄色 (2.5Y5/2)
粗砂礫混じり砂質土

0 50cm

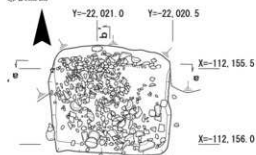
S K 423

①検出面

Y=22.021.0 Y=22.020.5

X=112.155.5

X=112.156.0

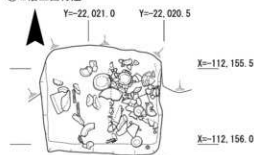


②2層上面付近

Y=22.021.0 Y=22.020.5

X=112.155.5

X=112.156.0

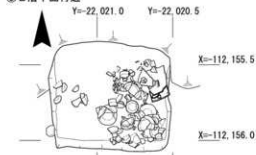


③2層下面付近

Y=22.021.0 Y=22.020.5

X=112.155.5

X=112.156.0

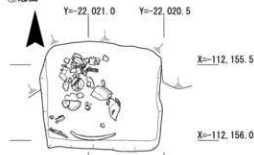


④底面

Y=22.021.0 Y=22.020.5

X=112.155.5

X=112.156.0



1. 黒褐色 (10YR3/1) 粗砂粒混細砂質粘土

2. 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂礫混じり細砂質土 (径0.1~0.3cmの粗砂粒)

3. 黒褐色砂礫混じり細砂 (径0.1~0.3cmの礫と粗砂粒)

4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂混細砂

0 50cm

第38図 S K 371・423実測図

土中より、少量の土師器皿や丸底小鉢がまとめて出土した。完形品は認められなかった。これらの土器は、土坑南側の検出面付近から土坑中央の中位に向かって斜めに堆積していた。底面には、径0.3m程度の丸い木質・木炭を含む土色の変化が認められた。曲物等の容器の存在が窺える。

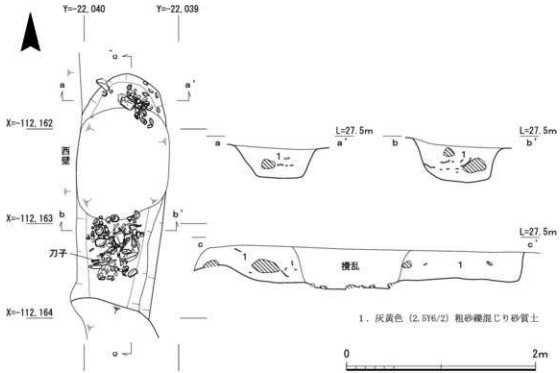
S K 371 (第38図、図版第32・33) 第2調査面 f 27・28地区で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、東西方向に主軸をもつ。規模は長辺1.43m、短辺0.63m、深さ0.13mである。検出面において、東・西小口部分を中心に完形または完形に近い土師器皿が内面を上方向に向けて5～6点ずつ置かれていた。埋土は1層で、土坑底面でも遺物のほか石材を検出した。石材は中央よりやや南西寄りで見出した。この石材を挟んで、東・西側に土師器皿が分布していたが、すべて破片で完形のものとは認められなかった。石材の西側で小型の烏帽子が1点出土した。

S K 423 (第38図、図版第33・34) 第2調査面 d・e 24地区で検出した。北側を東本願寺前から流れる溝により削平されている。残存部分では方形の平面形を呈し、東西0.8×南北0.73m、深さ0.35mである。断面観察では、土坑を掘削した後、南・西側から一旦浅く埋め戻し(3層)、2層、1層の順に破砕された土器とともに土砂を流し込むように埋めている。南北方向の断面で見ると、1層が「U」字状に堆積しており、この凸部の最下面が土坑の南北の中心付近とすると、本来の規模は南北1.5m以上あったものと推定される。遺物は、中央より東壁に沿って2層上面と下面で完形の土師器皿が内面を上に向けた状態で出土した。また、3層の東壁付近では漆器皿が1点出土した。

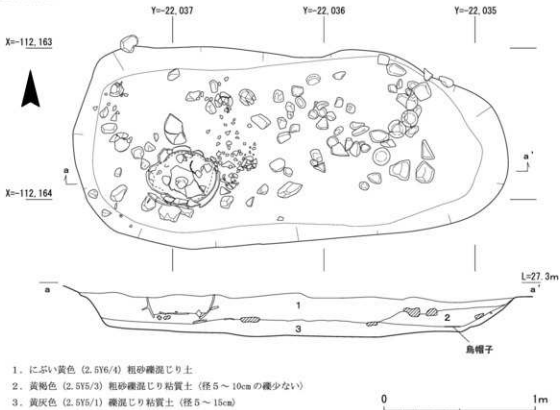
S K 480 (第39図、図版第34・35) 第2調査面 f 28地区で検出した。土坑の南端と中央部分を削平されている。当初、3基の土坑と判断したため遺構番号がS K 480・625・626としたが、調査を進めた結果、一つの遺構であると判断し、S K 480と整理した。残存長2.5m、幅0.9m、深さ0.35～0.47mを測る。主軸はほぼ南北方向である。北端部底面中央付近には0.2×0.1mの石材が置かれ、この東側に土師器皿片がまとめて出土した。南端の東壁寄りには0.26×0.18mの石材が置かれており、この周辺から完形の土師器皿と破片がまとめて出土した。この石材の西側、土坑の中軸線付近には、切先を東に向けた鞘入りの刀が東西方向に置かれていた。

S K 604・605 (第40・41図、図版第35・36) 第2調査面 h 21地区で検出した。平面形は長方形を呈し、長辺1.57m、短辺0.69～0.77m、深さ0.24mを測る。主軸は正方位である。検出面では、掘形よりも外側にまで多くの土師器皿の破片が広がっており、当初、方形の2基の土坑が近接しているものとしてS K 604、S K 605として調査を行ったが、最終的に1基の土坑であることが判明したため、S K 604・605と呼称する。土坑の南北の両小口部にはそれぞれ2か所、長辺の両側壁中央部には径7cm前後、長さ25～27cmの杭が打ち込まれている(第41図⑥)。長辺側の中央の杭は両端の杭に対して直線上に位置しておらず、内側に若干ずれている。両小口に打たれた杭で板材を固定し、中央の杭は横板が内側に張り出すのを防ぐために打ち込まれたものと推定される。同様に小口部分にも板材が嵌められていたと考えられる。杭周辺からは鉄釘が出土した。板材を組み合わせるために用いられたとも考えられるが、釘に木質痕が認められないため、断定はできない。埋土は2層に分かれ、1層中に多量の土師器皿や若干の陶磁器、瓦質取手付鍋が出土した。

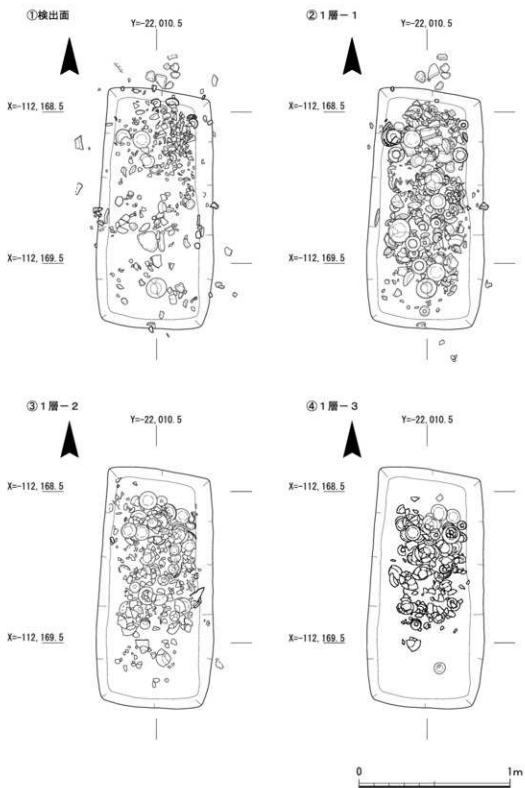
S K 480



S K 678



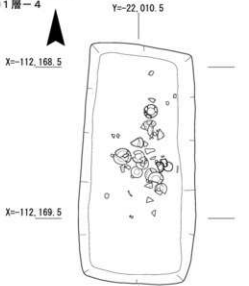
第39図 S K 480・678実測図



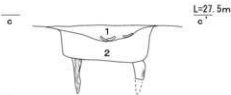
第40図 SK604・605実測図

S K 604・605

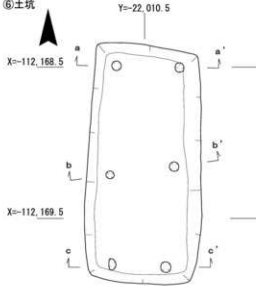
⑤ 1層-4



X=-112,169.5



⑥ 土坑



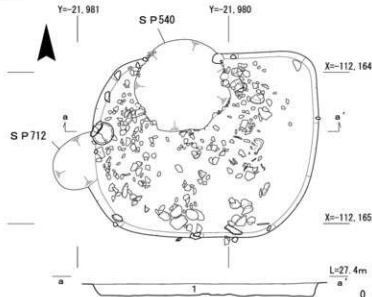
X=-112,169.5



1. 灰色 (7.5YS/1) 粗砂礫混じり砂質土 (炭含む)
2. 灰色 (7.5YS/1) 粗砂礫混じり砂質土 (炭含む、土多多い)



S K 734



X=-112,165

L=27.4m

1. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂礫混じり砂質土 (炭含む)



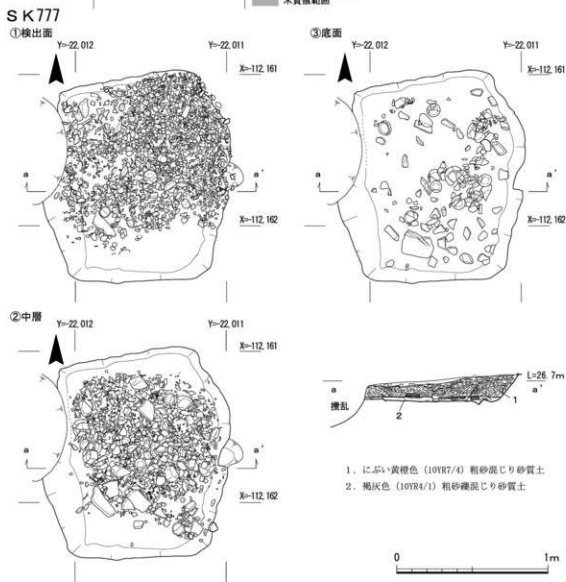
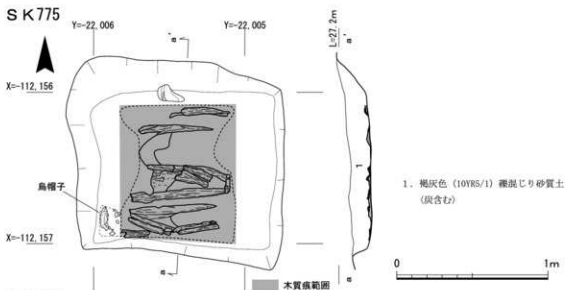
第41図 S K 604・605、734実測図

1層の堆積状況は、北・南の小口部分が薄く、中央部分が厚くなっており、土坑の中心部分に向かって傾斜している状況である。検出時には完形とともに細片も多く見られたが、下位に向かうほど完形品が多くなる傾向にあり、底面中央部では水平に置かれた15点ほどの土器が認められた。土師器皿の出土状況から、杭の上端に備板が置かれ、その上は板材の蓋で覆われていたようで、蓋板の腐朽に伴い、蓋の上に置かれていた完形の土器が内部に落ち込んだものとみられる。完形の土師器の上には土師器皿を中心とした細片で覆うように土砂で埋められたようである。この土坑からは、完形の土師器皿が155点、1/3以上の残存率の土師器皿が172点ほど出土し、総数320点を越える土師器皿が埋納されていたと考えられる。

S K 678 (第39図、図版第36・37) 第3調査面 f・g 27・28地区で検出した。隅丸長方形に近い平面形を呈し、長辺2.88m、短辺1.1~1.25m、深さ0.28mを測る。主軸は正方位である。土坑内の底面付近(2層直上)には拳大の礫が散乱し、西南部分に大型の羽釜、東端付近底面近くで土圧により圧縮された烏帽子が出土した。烏帽子と羽釜の周辺では、礫と礫の間にミニチュア土器の羽釜、完形の土師器皿が口縁部を上に向けて置かれていた。西南部分で出土した大型の羽釜は、底部・胴部を打ち欠いたもので、鐙付近から口縁部にかけての上半部を下向きに置き、羽釜内には打ち欠いた底部片が底を上に向けて置かれている。この羽釜の側に土師器皿の完形品が1枚置かれていた。羽釜の打ち欠き面を塞いでいたような板材等は確認できなかった。この倒立して置かれた羽釜は単独の遺構とも考えられるが、明確な土色の違いは観察できなかった。この土坑内からはミニチュア土器が出土していることから墓の可能性がある。

S K 734 (第41図) 第3調査面 f・g 13・14地区で検出した。北側中央部をS P 540に削平され、西側でS P 712に切り勝つ。平面形は隅丸方形で、長辺1.5m、短辺1.22m、深さ0.15mを測る。この遺構はS K 972の埋土中で検出しており、S K 972に切り勝つものである。土坑内部では、石材や土師器細片が乱雑に混じりこんでいるような状態で、完形品などの出土も認められない。土坑が浅いこともあるが、一気に埋められたような状態で、周囲の遺構を壊して土坑を掘削した際に、埋土中に土器片が混じったものであろう。平面の形状や規模から、井戸の掘削を断念した可能性もある。

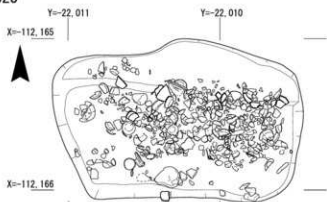
S K 775 (第42図、図版第40) 第3調査面 d・e 20地区で検出した。方形の平面形を呈し、一辺1.3m、深さ0.35mを測る。各辺はほぼ正方位をとる。土坑内中央部の底面には、東西方向に板材が並行して置かれた状態で残存していた。その上に、縦横の方向が異なった木質痕の分布が認められた。土坑南辺の側壁には、木質痕がわずかに残る部分が認められたことから、木箱の状態では納められていたものと考えられる。また、底面では木質が2層で観察されたことから、木箱には蓋があったものと推定される。板材、木質痕が残る部分から見た箱の大きさは南北0.9m、東西0.75mと推定される。土坑底面の南西角では正位で置かれた烏帽子1点が出土した。烏帽子下端には板材が認められないため、木箱の外側に置かれていたものと考えられる。埋土は炭混じりの単一の褐色土礫混じり砂質土で、若干の土師器細片、常滑瓦片と拳大の礫が混入している。検出面付近には土師器皿、陶磁器等の細片とともに数点の土師器皿が認められたが、土坑の規模に



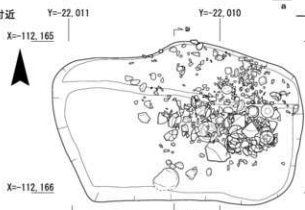
第42図 S K 775・777実測図

S K 825

①上面

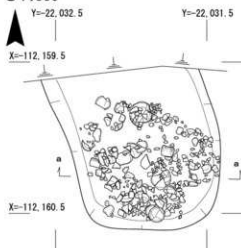


②底面付近

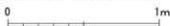


1. 褐灰色 (10YR5/1) 礫混じり砂質土 (炭多い)

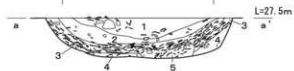
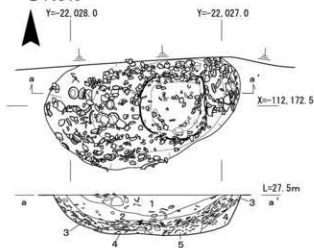
S K 835



1. 黒褐色 (10YR3/1) 礫混じり砂質土 (炭多い)
2. 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂礫混じり砂質土



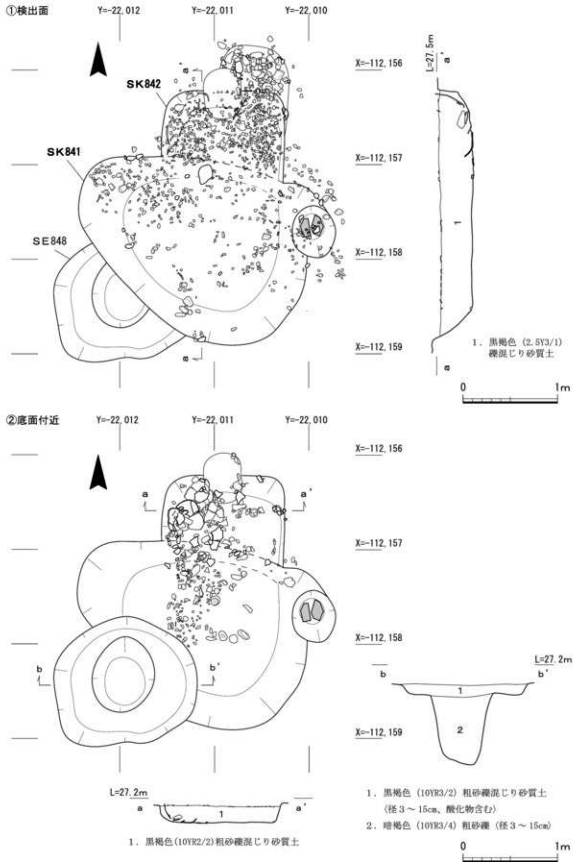
S K 840



1. 黄灰色 (2.5Y4/1) 礫混じり砂質土 (炭多い)
2. 暗灰色 (2.5YR5/2) 粗砂混じり砂質土 (径1~3cmの礫含む、炭多い)
3. にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土 (土師器皿多い、炭混じり)
4. オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 礫混じり砂質土 (炭焼土含む)
5. にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土 (炭含む)



第43図 S K 825・835・840実測図



第44図 SK841・842・SE848実測図

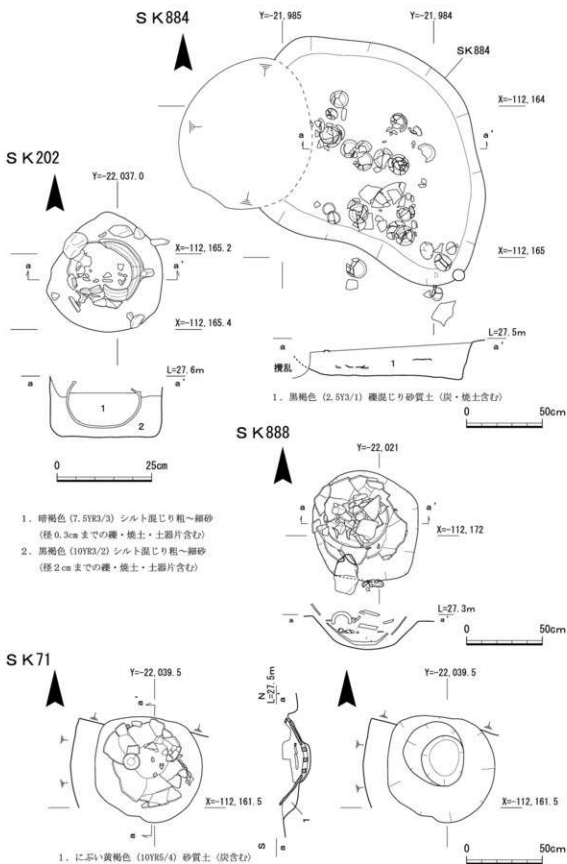
比して、遺物の出土量は少ない。人骨等は出土しなかった。同様なものには、S K972がある。

S K777 (第42図、図版第41・42) 第3調査面 f 21・22地区で検出した。一辺1.28mの方形の平面形を呈し、深さ0.34mを測る。内部はおびただしい土師器細片により埋められている。土坑の掘削・埋設を復原すると、土坑を掘削した後約5cmの厚さで埋め戻して底部を平坦にした後、中央部に瓦器皿を上に向けて置き、中央部よりやや西寄りには0.2m程の扁平な礫を敷いている(同③)。その後、東側から土師器細片を流し込むかのように中央に向かって埋め、その後西側から同様に埋めている。細片化した土師器はすべて回収し、洗浄を行ったところ、土師器皿片の総量は70.1kgを測った。出土している土師器皿は大半が小型のヘソ皿であるが、完形品でその重量を量ると、大型の土師器皿が1枚69.4~114g、中型で46.2~56.3g、小型で25.6~30gである。皿1枚当たりの重量の平均値を採ると、大型91.7g、中型51.25g、小型27.8gとなる。総重量を1枚当たりの平均重量で割ると、大型品では764枚、中型品では1,368枚、小型品では2,521枚の皿が埋められていたと推定される。ちなみに、大型~小型の土師器皿1枚当たりの平均値は56.92gとなり、この重量で除すと約1,232枚の土師器皿が細片となって埋められていたことになる。

S K825 (第43図、図版第42・43) 第3調査面 g 21地区で検出した。北辺は二段に検出しており、平面形は隅丸長方形で、残存長1.63m、幅1.05m、深さ0.2mを測る。主軸はほぼ東西である。埋土は褐色砂礫混じり砂質土で、埋土中に多量の土師器皿が埋められていた。土師器皿は、検出面ではほぼ全面に破片が分布するのに対して、底面近くでは北東部分で完形品を中心に集中していた。特に上面で検出した土師器片の分布は0.45×1.2m程度の長方形を呈しており、何らかの容器に納められていた可能性も窺える。

S K835 (第43図、図版第43) 第1.5調査面 e・f 26・27地区で検出した。北側を攪乱により削平されるが、残存部分で見ると、平面形は隅丸長方形を呈し、残存長1.08m、幅0.98m、深さ0.1mを測る。主軸は北でやや西に傾く。上方が削平されているため底部付近のみ残存しているものと考えられる。土坑の掘削後に黒褐色粗砂礫混じり粘砂質土で整えられた後、土師器皿を底面に敷き並べている。中央主軸付近のものは、土師器皿完形品を水平に口縁を上へ置くが、南端付近のものは底面を上にして置いている。南端付近には、土師器皿が2枚重ねのものも認められた。残存範囲の土坑の北端には遺物の出土は認められない。先に挙げたS K203では土坑の北端部が空洞となっており、南半部に遺物が集中している。S K835の遺物の空白部分がS K203と同じものとするならば、攪乱により削平された北端部分が、ほぼ土坑の端と考えられる。

S K840 (第43図、図版第44・45) 第2調査面の h 25・26地区で検出した。調査地壁面に検出したもので、南側に拡張後に改めて平面で確認したため、遺構平面の位置は第3調査面に掲載している。平面形は楕円形を呈し、長さは1.23m、幅0.65m、深さ0.27mである。埋土の状況は、底面には浅く水平に土師器皿の細片が敷かれ(4層)、それよりも上方の1~3層は土坑の側壁・底面の湾曲に平行するように土師器皿の細片が傾斜して堆積している。その堆積状況より、土師器皿細片を含んだ埋土が、ある段階で上方から下方に落ち込んだものと思われる。土坑底面中央よりやや東寄りでは、3層を切り込む形で、一辺0.4×0.42m、深さ0.4mの土師器細片をほとんど



第45図 S K 884・888・71・202実測図

含まない方形の範囲が認められた。この層は1・2層に近く、土坑を覆っていた土砂の落ち込みと判断された(5層)。この方形の範囲の北・東側辺は直線的に検出できた部分もあり、本来は方形であったものが、土圧等により変形したものとと思われる。以上のことから、土器が含まれない部分には箱等による空間の存在が推定される。同様なものはSK251でも認められる。

S K841・842(第44図) 第3調査面 e 21・22地区で検出した。2基の土坑が重なり合うが、切り合い関係は平面・断面で確認できなかった。検出面の遺物の出土状況を見ると、SK841の遺物を含む密度とSK842のそれとは異なり、遺物の密度を基に推測すると、南北方向のSK842が先に造られ、SK841が後出する(第44図①)。SK841は隅丸三角形の平面形を呈し、最大幅2.1m程度、長さ2.6mを測る。深さは0.31mである。SK842の底面には遺物の出土が認められるのに対して、SK841では遺物がほとんど認められないが、実際の調査ではSK841とSK842の重複部分で遺物の出土は見なかった。このことより、SK841はSK842の検出高よりも浅いと考えられる。SK842の正確な規模は不明であるが、底面の遺物の残存状況からすると長辺2m前後、短辺1.3m、深さ0.33mの隅丸長方形の平面形と推定される。主軸は正方位をとる。検出面の北側には多くの土師器皿細片が散乱し、小口付近の北西側には甕片が散乱していた。北小口付近から北側の外方には口縁部を欠いた須恵器甕が破片となって散乱していたが、その一部が掘り込み内に認められたことから、本来は掘り込み側壁に沿って立位で置かれていたものと復元できる。板等の蓋の痕跡や須恵器甕の内部から土師器皿等遺物の出土は認められなかった。

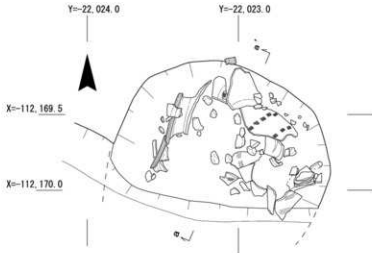
S K884(第45図) 第3調査面 f・g 14・15地区で検出した。西側を攪乱されているが、楕円形の平面形を呈する。長径1.88m、幅0.75~1.45m、深さ0.23mを測る。掘形検出面上には多くの川原石が散乱していたが、これらを除去すると、土坑底面より5~10cm上方で土師器皿・須恵器鉢等が検出された。南寄りに須恵器鉢の破片があり、その周囲に土師器皿を上に向けた状態で置いている。土師器皿の出土位置は面的にはほぼ揃っており、2~3枚重ねられたものも認められた。土師器皿が土圧等で壊れていないため、須恵器鉢は完形品を壊し埋めたものと考えられる。土師器皿を少量含む黒褐色礫混じり砂質土で底面を埋めた後に土師器皿を置き、同じ土で一気に埋めたようである。

S K972(第34図、図版第45・46) 第3調査面 g 13・14地区で検出した。上方をSK734により削平されている。一辺0.8m、深さ0.45mを測る。土坑中位付近より井戸枠状に組まれた板材を検出した。方形縦板横棧留の井戸枠状を成す。底面には横棧はないが上方約0.25mのところに横棧を設ける。縦板は2cm程度の厚さを持ち、各辺ともに5枚を並べる。横棧隅の構造は不明である。板材が遺存していたほぼ同じ高さで多数の完形の土師器皿が検出された。埋土は2層で、最下層は灰色粗砂礫混じり粘質土で泥土を含まないため井戸の可能性は低いと考える。一旦埋め戻した後、土器を含む黄灰色礫混じり砂質土で埋めている。上方はSK734となるが土器の出土状況が全く異なることから土坑とした。

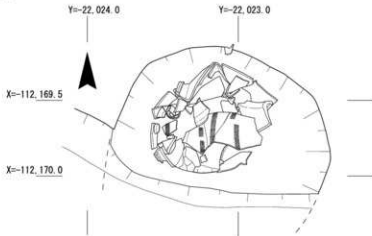
2) 埋壘土坑

埋壘土坑には瓦質土器羽釜・常滑甕・備前甕・須恵器甕を利用したものがある。

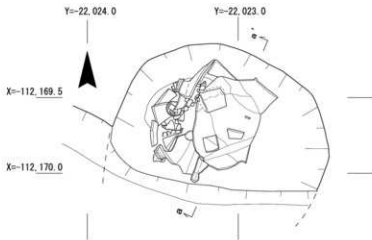
①上層



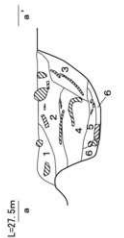
②下層



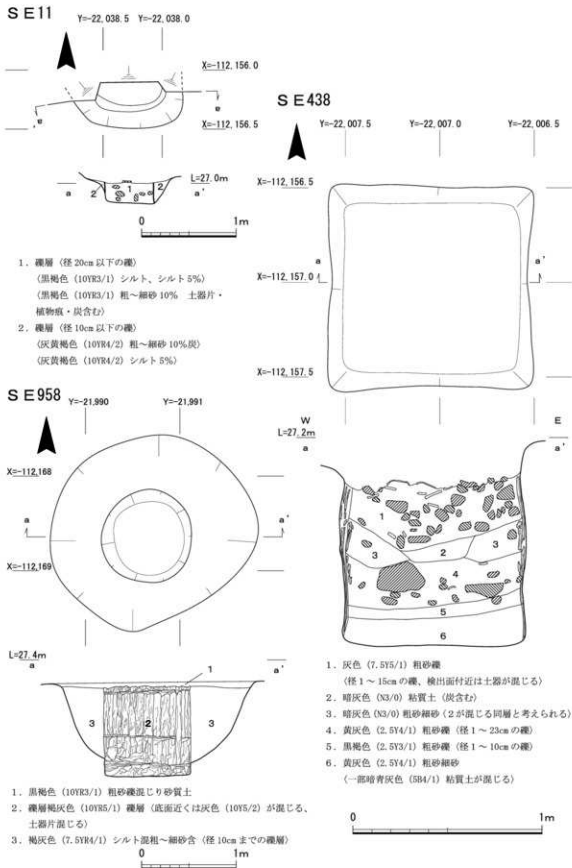
③最下層



1. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗砂礫混じり砂質土 (径3~10cm)
2. 灰黄褐色 (10YR4/2) 礫混じり砂質土 (径3~13cm)
3. 灰褐色 (10YR4/1) 粗砂礫混じり砂質土 (径3~10cm)
4. 黒褐色 (10YR3/2) 礫混じり砂質土 (径2~8cm)
5. 褐灰色 (10YR4/1) 粗砂礫 (径1~3cm, 一部粘質土混じり)
6. 褐灰色 (10YR5/1) 粗砂礫 (径0.5~3cm)



第46図 SK230実測図



第47図 SE11・438・958実測図

S K 71 (第45図、図版第46) 第1調査面 f 28地区で検出した。常滑甕の底部を欠いた甕体部下半だけを埋めたものである。土坑の掘形は甕の径より少し大きい長径0.8m、短径0.74m、深さ0.22mを測り、甕を固定するために、底面をさらに直径約0.34m、深さ0.06mを掘り下げている。この甕を検出した面のすぐ上位は近世～近代の耕作土が堆積しており、部分的に耕作時に削平を受けて欠損したことも想定されるものの、甕の大きさと層序の高さから当初の段階で甕全体が埋置されていたとは考えられない。元々、底部付近のみを埋め置いたものであろう。内部からは土師器皿1枚が口縁部を上に向けた状態で出土した。そのほか、人骨などは認められず、甕を覆っていた蓋の痕跡も確認できなかった。

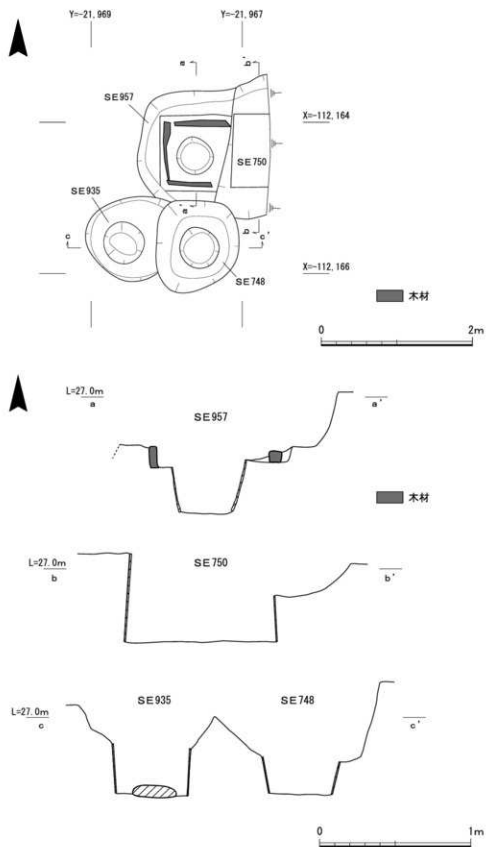
S K 94 (第30図、図版第47) 第1調査面 f 25地区で検出した。平面形は楕円形を呈し、長径0.63m、短径0.55mを測る。下層のS K 124の中央部分を0.1m掘り下げ、常滑焼大甕の底部付近のみを埋置する。S K 71のように甕は底を欠いていない。甕底面の上に削平に伴い北西側の体部破片が落ち込んでいた。S K 71同様、土師器皿1枚が口縁部を上に向けて出土した。

S K 202 (第45図、図版第47・48) 第1.5調査面 g 28地区のS X 130の北側で検出した。土坑内部に瓦質土器の三足付羽釜を正位で埋納したものである。掘形の平面は径0.32m、深さ0.16mを測る。羽釜は、足・口縁・体部の一部を欠き、羽釜内部には人骨や土器類は認められなかったが、日常品を蔵骨器に転用したものとする。土坑の底面に砂利等は敷かれていなかった。口縁部を覆っていた蓋等の痕跡も確認できなかった。

S K 230 (第46図、図版第48・49) 第2調査面 h 24地区で検出した。南側約1/2をS D 822に切られる。円形の平面形を呈すると推定される。長径1.4m、短径0.95mがそれぞれ残存し、深さ0.4mを測る。土坑内部に口縁部を西に向けた常滑焼大甕を横位で埋納している。底部は検出されなかったため、打ち欠いたものを納めたと考えられる。耕作に伴い上位を壊されたようで、肩部～胴部中位付近までの破片が内部に落ち込んでいた。また、甕の内部には流入土とともに土師器皿片が数枚落ち込んでいる状況が確認された。常滑焼甕の口縁部は、土坑底面側が欠失しており、その部分には備前焼甕の口縁部を打ち欠いたもので補填している。口縁部と土坑の壁面の間には、瓦の破損品や拳大の川原石が置かれ、その外側には土師器皿で押さえられていた。このことより、口縁部全体は板状のもので蓋をした後、瓦・川原石等で外側を固定していたと考えられる。甕内部から人骨等は検出されなかった。

S K 288 (第36図、図版第49) 第1.5調査面 g 16・17地区で検出した。S K 126の東側に位置し、長径1.3m、短径1.2m、深さ0.15mを測る。内部に常滑焼大甕胴部片約12点を円形に立て並べていたようである。甕片を並べた範囲よりも掘形がかなり大きい。甕を並べていた部分は一段深く掘り下げられており、これにより固定していたと考えられる。埋納後土圧等により大半の甕片が倒れている。甕片は同一個体と考えられないものも混じっており、土坑周辺に散乱していた土器を再利用した可能性もある。

S K 888 (第45図、図版第51) 第3調査面 h・i 24地区で検出した。長径0.9m、短径0.55～0.65m、深さ0.21mを測る。完形の須恵器甕を正位で据えていたと推定されるもので、土圧によ



第48図 SE748・750・935・957実測図

り中位～肩部にかけて甕片が内部に落ち込んでいた。甕内部の堆積状況は、底面の甕の上に5～7cm程の川原石とともに青磁片があり、その上に方形有孔磚・平瓦の小片が載り、その上に甕の口縁～肩部が検出された。こうした状況から当初、甕には木蓋等で密封され、蓋の上に磚・平瓦片を載せられていたのが、蓋の腐朽に伴い磚・平瓦片等が内部に落ち込み、その後肩部付近が土圧により壊れて堆積したものと推定される。土師器皿の出土はなかった。

3) 井戸跡

井戸跡は10基検出した。その構造により以下の4種に分類できる。(1)井戸枠がなく素掘りの坑の最下部に曲物のみを設置した素掘り曲物式井戸。(2)素掘りの坑に板材を縦・横積みし井戸側とした方形横板木組式と方形縦板棧留式井戸で、最下部に曲物を設置するものとししないものの2種がある。(3)井戸の掘形に桶を埋めこんで井戸側とした円形桶側式井戸。(4)井戸として掘削されたが、埋め戻されたもの。ちなみに第3調査面 f 15・16地区で石組式井戸を検出しているが、これは近世以降の井戸である。

(1)には S E 03・11・748・935がある。方形の掘形のものが S E 03・11・748、円形の掘形のものが S E 935である。いずれも、最下部を曲物設置のためにひとまわり小さく一段掘り下げている。埋土の状況は、一気に埋め戻されたような堆積が認められる。

S E 03 (第8図、図版第1・2) 第1調査面 d 26地区で検出した。北側の大半を東本願寺からの溝により切られる。一辺1.25×1.4m、深さ1.08mを測る。北寄りの長径1.0m、短径0.9mは曲物設置のため底面をさらに掘り下げているが、砂礫層に掘り込まれた遺構であったため、壁面が調査時に崩落し詳細は不明である。

S E 11 (第47図、図版第52) 第1調査面 e 28地区で検出した。北側の大半を東本願寺前からの溝により切られる。直径1.2m前後の掘形が復原され、深さ0.3mを測る。中央部に直径0.5mの曲物が設置される。

S E 748 (第48図、図版第54) 第3調査面 g 10・11地区で検出した。4基が切り合い関係を有する井戸群の中で、最も新しいものである。平面形は隅丸方形で、一辺1.0×1.2m、深さ0.8mを測る。素掘り坑の中央部分に直径0.5m、深さ0.25mの曲物を設置する。

S E 935 (第48図、図版第54) 第3調査面 g 10・11地区で検出した。東側を S E 748に切られる。平面形は円形で、直径1.1m、深さ0.67mを測る。中央部分よりやや西寄りに直径0.48m、深さ0.42mの曲物を設置している。底面中央部には、0.3×0.5cm、厚さ8cmの扁平な石材が置かれている。

(2)には、S E 438・750・957がある。

S E 438 (第47図、図版第55) 第2調査面 e 20・21地区で検出した。隅丸方形の平面形で、一辺1.0m、深さ1.15mを測る。方形横板木組式井戸側の板材はその表面がかろうじて残っている程度で、井戸の掘形に張り付いた状態であった。ほぼ土坑内の全体に側板を確認できた。井戸側の外側での規模は、一辺0.96mを測る。板材の厚さは不明である。

S E 750 (第48図、図版第53) 第3調査面 g 10地区で検出した。西側の S E 957を造り替えた

ような形で検出した。井戸側は側壁に貼り付いた状態で検出した。板材が薄い皮状に残っており厚さは不明であるが、井戸側板の外側での規模は一辺0.96m、深さ0.58mが残存していた。方形縦板横棧留式井戸と考えられるが横棧は検出できなかった。曲物設置のための中央部の掘り下げは認められなかった。

S E 957 (第48図、図版第53・55) 第3調査面 f・g 10・11地区で検出した。東側を S E 750、南側を S E 748に削平される。掘形は一辺1.5m程度の規模が復原され、深さは検出面より0.37～0.45m掘り下げたところで井戸側と考えられる幅5～8cmのやや部厚い板材を検出した。この板材より、井戸側の幅は一辺1.0mと復原される。中央部分に曲物設置のため直径0.5m、深さ0.35mの小坑を掘り下げている。いずれの井戸側も木枠の腐朽が著しく木組みは不明である。井戸側はほぼ正方位である。

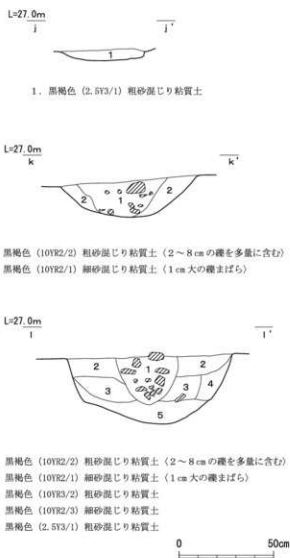
(3)には S E 848・958がある。

S E 848 (第44図、図版第52) 第3調査面 e 21・22地区で検出した。掘形は直径1.33m、深さ0.84mの不整形な円形を呈し、中央部分の底面を長径0.8m、短径0.66m、深さ0.84mにわたって桶設置のために一段掘り下げている。桶は皮状の痕跡が残っており、部分的ではあるが、箍の痕跡も認められた。井戸の内部は、拳大の礫を含んだ埋土で一気に埋め戻された状況を示す。

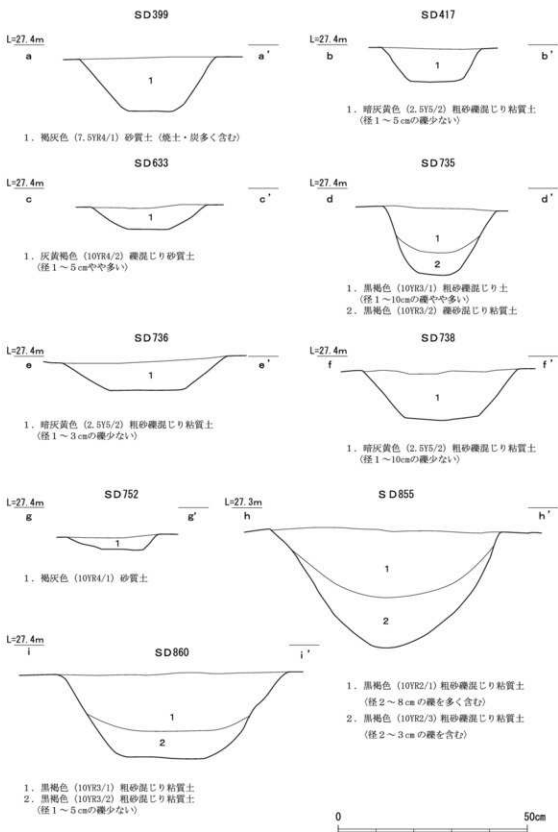
S E 958 (第47図、図版第56) 第3調査面 g・h 16地区で検出した。直径2.18m、深さ0.88mを測る。検出面より0.06m下で直径0.9m、高さ0.95mの掘形があり、その側面に桶の痕跡が確認できた。掘形底面より桶を据えるため約0.15m掘り下げられている。桶の底板はないが、下端より上方に0.13mと0.43m、0.9mの位置に桶を固定していた箍の痕跡が認められる。板材は腐朽しており皮状に残っていた。

(4)には S K 971がある。

S K 971 (第35図) 第3調査面 g 15・16地区で検出した。南側を S K 263、東側を掘乱しに切られる。方形の平面形を呈し一辺2.4×2.05m、深さ0.31mを測る。中央付近に長径0.95m、短径0.7m、



第49図 溝 S D 238断面図



第50図 溝断面一覧

深さ0.08mの柱穴状の掘り込みが認められる。その形状等から、井戸として掘削を行い、中央部分の柱穴は曲物等を設置するために掘削を行ったようであるが、途中で掘削をやめており井戸としては使用されなかったものと考えられる。埋土の状況は、南北方向の断面観察によると、中央の窪みが埋まった後にその周囲が埋められ、最後に大きく全体を埋め戻したようである。

4) 柱穴

柱穴は、調査地全体の各調査面で検出しているが、掘形の大きいものについては土坑の可能性も残り、遺物の出土が少ない傾向が見られる。大半の柱穴は素掘りのままであるが、根石や大型の瓦片、瓦片を置くものや、第4調査面では板材を敷くものなどが認められた。また、大半が削平され、根石部分のみが残存していた柱穴もある。根石がなくなっているものも想定され、建物としてはほとんど復原できなかつた。そのため、第101図に示したように、調査地東・西両端には小規模な掘立柱建物1・2や柵列1～4が復原できただけであるが、各調査面では多くの柱穴が検出されているので、土師器皿を大量に埋納する土坑が造られるまでは、調査地中央部付近でも多くの建物跡が存在していた可能性がある。

柵列のうち、柵列1は第4調査面で検出した東西方向に並ぶ柱穴群で、平安時代後期のものと考えられる。調査地南側で検出している平安時代後期の宅地跡の北限に相当し、境界を画する柵列の可能性が有る。

5) 溝

溝は、調査地内全域で南北・東西方向のものを15条検出した。第101図は、検出した溝を図示したものである。溝の方向は、東西・南北方向であるが、土坑・柱穴の掘削や整地に伴い、浅くなったり、途切れたりしており、不明な点が多い。検出した溝の規模等については一覧表に記載した通りである。もっとも良く残存していた溝はS D238で、第2調査区中央付近のf～h25、h21～24地区にあり、第2調査面で検出した。この溝はf25地区を始点として、南北方向に延び、h25地区で直角に曲がって東西方向に向きを変え、さらにh20地区で南北に方向を変えるものである。北側ほど溝幅が狭く浅く、南に向かうほど幅広く深くなる。検出長27m、検出幅0.4～1.1m、深さ0.07～0.4mを測る。埋土は、黒褐色の粗砂・細砂混じり粘質土で、最下層では部分的ではあるが、水が流れた痕跡を確認した。埋土中からは、常滑焼大瓦片を中心に土師器皿片が出土した。この溝は道の側溝であることも考えられるが、対応する溝が検出されず、路面の痕跡も確認できなかった。土坑や建物等を区画する区画溝である可能性が高い。

このほか、調査地内を途中で途切れながらも南北方向に延びる溝S D275・399・633や東西方向に延びるS D735・736・742・857などが認められる。これらの溝については、後述する「5. 総括 4) 土地利用の変遷」に記載している。

(増田孝彦)

4. 出土遺物

出土した遺物は、土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・瓦・鉄製品・銅製品・金箔・水銀・石製品・木製品・漆製品、鉄・銅生産関連遺物、植物遺体・動物遺体などがあり、整理箱800箱以上を数える。

1) 土器(第51～74図、図版第59～64)

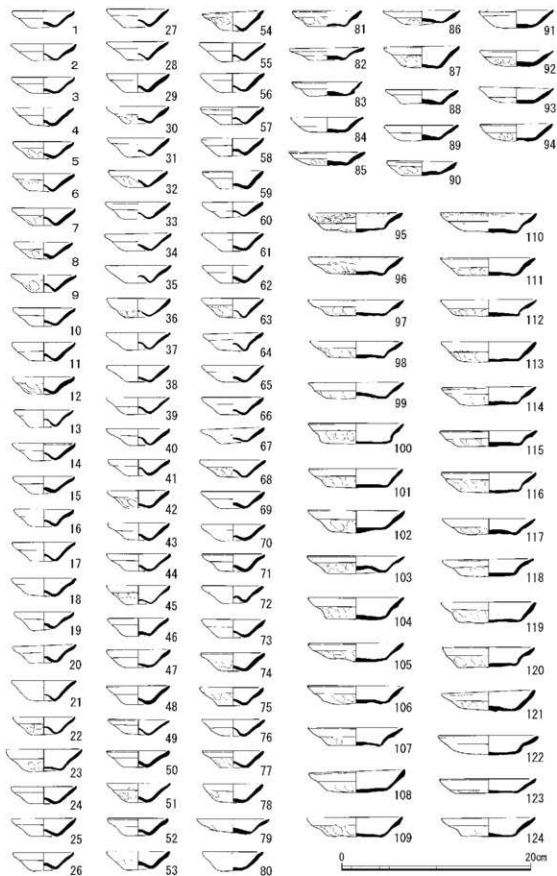
(1) 土坑出土の土器

S K 604・605(第51・52図1～158) 1～155は土師器皿である。1～78は底部が突出するいわゆるへそ皿である。いずれも浅身の小型品である。口縁端部は外反、肥厚、つまみ上げる個体など様々である。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面はナデを施すが、外面にユビオサエを残す個体もある。79・80はへそ皿と同形態であるが、底部は突出しない。81～124は口縁部内外面はヨコナデを施し、体部内面はナデを施す。体部外面はユビオサエ後にナデを施すが、ユビオサエを残す個体、底部に板状圧痕を残す個体、未調整の個体もある。81～94は浅身の小型品、95～124は浅身の大型品、125～155は深身の個体に大別できる。95・96・110は口縁部内外面と体部外面に煤が付着している。灯明皿として使用したと考えられる。156は瓦質土器の鍋である。把手を1か所、片口を2か所、貼り付けにより製作する。内外面と片口部分に煤が付着している。157は東播系須恵器の鉢である。158は青白磁の梅瓶である。外面には唐草文を施す。軸に貫入がある。

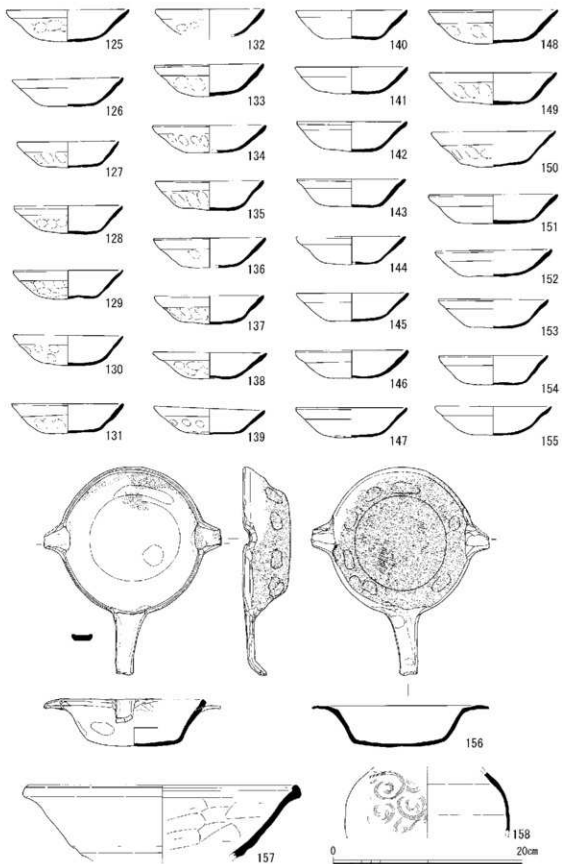
S K 336(第53図159～177) 159～171土師器皿である。159～161はいわゆるへそ皿である。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面はナデを施す。162～165は浅身の小型品、166・167は浅身の大型品、168～171は深身の個体に大別できる。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面はナデを施すが、外面にユビオサエを残す個体もある。

172は陶器插鉢である。備前産である。口縁部に片口を作り出す。口縁内外面にヨコナデ、外面の立ち上がりにケズリを施す。片口部分には指頭圧痕を残す。内面には底部にまで掘り目を施す。使用痕があり、平滑になっている。173は古瀬戸の入子である。内外面に回転ナデ、底部内面にナデを施す。底部をへら切りする。174は樟葉型瓦器椀である。口縁部内外面はヨコナデ、内面にミガキを施す。外面は未調整である。175は瓦質土器の壺である。くびれ部に一条のミガキを施す。176・177は白磁の皿である。口縁部の軸葉を掻き取る口売げの皿である。

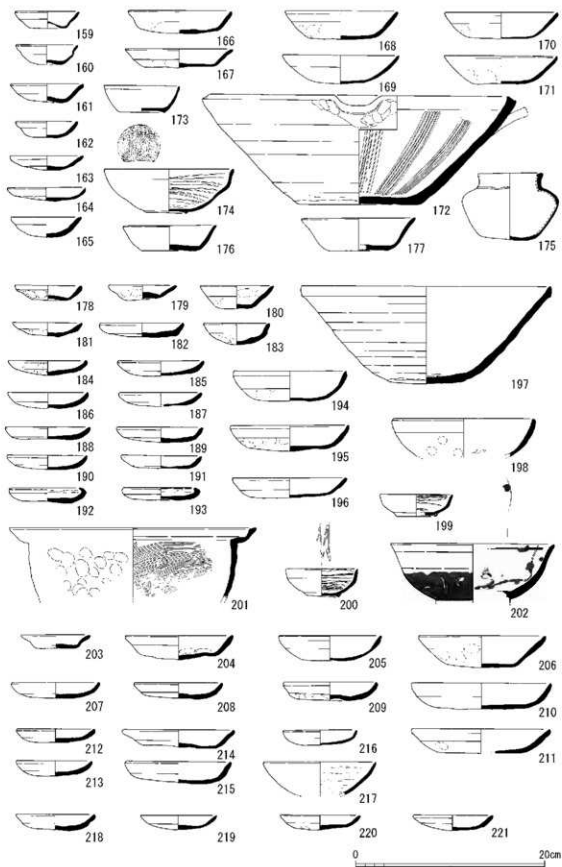
S K 777(第53図178～202) 178～196は土師器皿である。178・179はいわゆるへそ皿である。浅身の小型品である。192・193はいわゆるコースター形の土師器皿である。197は東播系須恵器鉢である。内面は使用痕があり、平滑である。198～200は瓦器椀である。198は和泉型瓦器椀である。内面と見込みにミガキを施す。199・200は小型の樟葉型瓦器椀である。内面と見込みにミガキを施す。口縁部に打ち欠きがあり、仏具(六器)として使用されたと考えられる。201は土師器鍋である。口縁部はヨコナデ、体部内面はヨコハケを施す。体部外面にはユビオサエを残す。202は青磁の椀である。口縁部内面に1条の沈線を施す。内面全体に劃花文を施す。体部から底部外面と内面文様部分に軸葉の発色の違いがみられる。



第51図 出土遺物実測図 S K604・605(1)



第52図 出土遺物実測図 S K604・605(2)



第53図 出土遺物実測図 S K336・777・127・835・124・423

S K 127 (第53図203～206) 203～206は土師器皿である。203は浅身の小型品、204～206は深身の大型品である。

S K 835 (第53図207～211) 207～211は土師器皿である。207～209は浅身の小型品、211は浅身の大型品である。

S K 124 (第53図212～217) 212～215は土師器皿である。212・213は浅身の小型品、214・215は浅身の大型品である。216・217は瓦器である。216は瓦器皿である。217は椀型瓦器椀である。体部内面はミガキ、口縁部外面はヨコナデ、体部外面はナデを施す。

S K 423 (第53図218～221) 218～221は土師器皿である。浅身の小型品である。

S K 203 (第54図222～229) 222～229は土師器皿である。222はいわゆるへそ皿である。223は浅身の小型品、224は浅身の大型品、225～229は深身の大型品である。

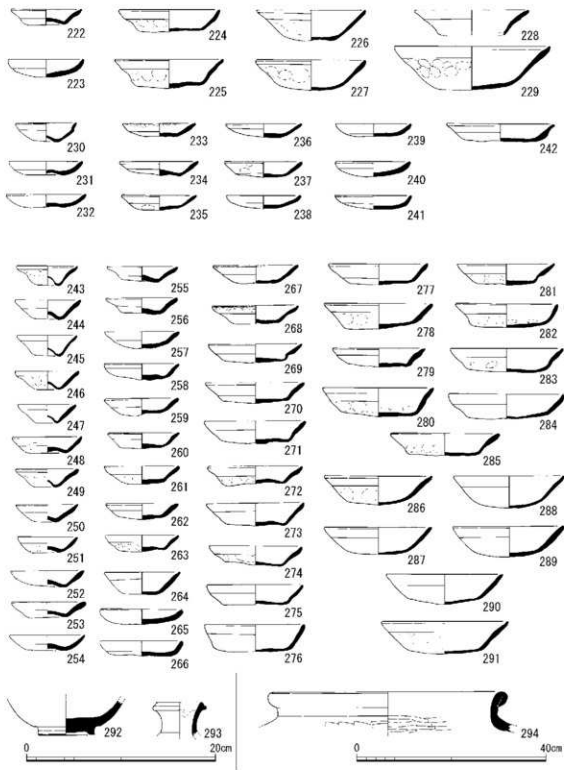
S K 840 (第54図230～242) 230～242は土師器皿である。230はいわゆるへそ皿、231～241は浅身の小型品、242は浅身の大型品である。233は口縁部に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。

S K 126 (第54図243～294) 243～291は土師器皿である。243～255はいわゆるへそ皿である。浅身の小型品である。256～269は浅身の小型品、270～285は浅身の大型品、286～291深身の大型品に大別できる。267・268は口縁部に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。292は青磁椀である。口縁部を欠損し、体部から高台部分のみ残存する。293は古瀬戸の壺である。口縁部分のみ残存する。外面を施釉し、口縁部内面にも釉薬がかかる。294は備前の甕である。口縁部の一部のみ残存する。口縁部を折り曲げ玉縁状を呈する。

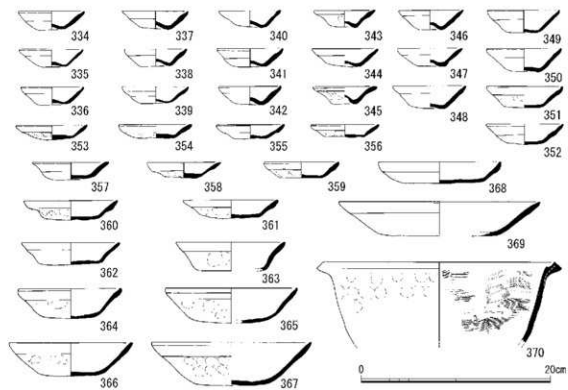
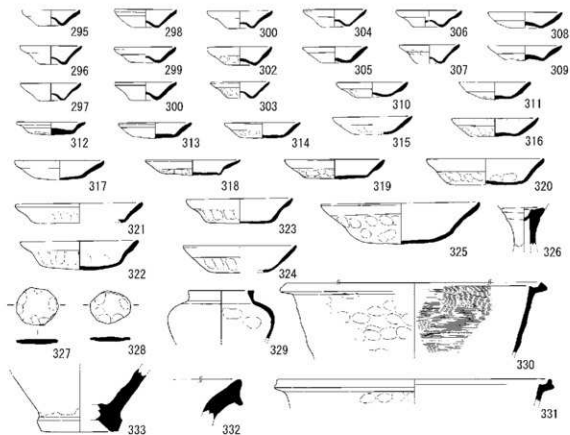
S K 125 (第55図295～333) 295～325は土師器皿である。295～311はいわゆるへそ皿である。312～315は浅身の小型品、316～321は浅身の大型品、322～325は深身の大型品である。316は口縁部に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。326は土師器の高杯脚部である。327・328は土製円板である。四周を打ち欠いて製作している。329～331は瓦質土器である。329は壺である。口縁部から体部の一部のみ残存する。330・331は鍋である。いずれも口縁部から体部の一部のみ残存する。330は体部外面にナデを施す。ユビオサエの痕を残す。体部内面に横方向のハケメを施す。333は白磁の壺である。底部の一部のみ残存する。高台には施釉しない。332は須恵器の鉢である。口縁部の一部のみ残存する。

S K 251 (第55図334～370) 334～369は土師器皿である。334～350はいわゆるへそ皿である。351～361は浅身の小型品、362～367は深身の大型品、368・369は浅身の大型品に大別できる。370は瓦質土器の鍋である。口縁部はヨコナデを施し、体部外面はナデを施す。ユビオサエの痕を残す。体部内面は横方向のハケを施す。口縁部から体部の一部のみ残存する。

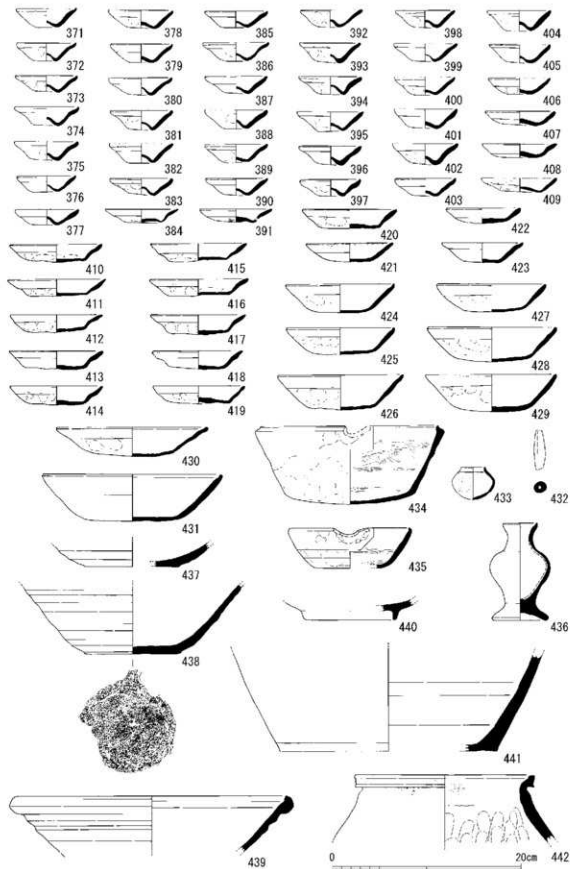
S X 130 (第56図371～442) 371～431は土師器皿である。371～407は浅身の小型品、408～423は浅身の大型品、424～429は深身の大型品に大別できる。371～409はいわゆるへそ皿である。口縁部はつまみ上げ、肥厚、細くなる形態がある。器壁は薄い個体と厚い個体がある。底部の突出が高い個体、低い個体がある。多様な形態が確認できる。421は口縁部に煤が付着している。灯



第54図 出土遺物実測図 S K 203・840・126



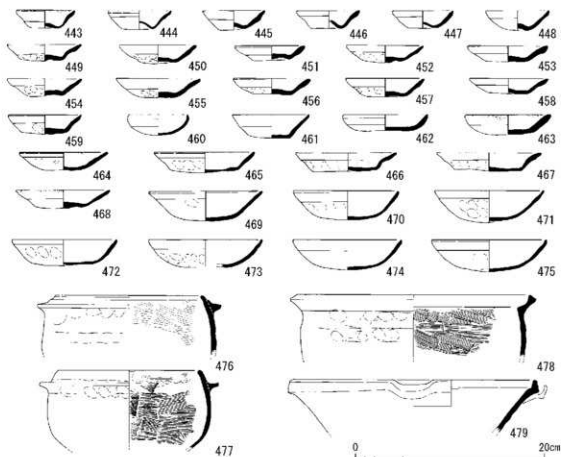
第55図 出土遺物実測図 S K 125・251



第56図 出土遺物実測図 SX130

明皿として使用されたと考えられる。432は土鍾である。長辺を穿孔する。433～436は瓦質土器である。433は壺である。ミニチュア品である。434・435は鉢である。貼り付けにより片口を作る。434は体部外面にユビオサエを残す。体部内面はハケを施した後にナデを施す。436は壺である。完形品である。仏具(花瓶)として使用されたと考えられる。437～439は東播系須恵器の鉢である。438は底部を糸切りする。440は青磁である。底部高台部分の一部のみ残存する。441・442は陶器の甕である。常滑産である。442の口縁部内外面には煤が付着する。

S K 254 (第57図443～479) 443～475は土師器皿である。443～458は浅身の小型品、459～461は深身の小型品、462～468は浅身的大型品、469～475は深身的大型品に大別できる。443～451はいわゆるへそ皿である。463・464・468は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用したと考えられる。476・477は瓦質土器の羽釜である。476は貼り付けにより鐙を作る。口縁部内外面と鐙にヨコナデを施す。体部内面には横方向のハケを施す。体部外面にユビオサエが残り、煤が付着する。477は貼り付けにより鐙を作る。口縁部内外面と鐙にヨコナデを施す。口縁部と体部内面にハケを施す。体部外面に煤が付着する。478は瓦質土器の鍋である。口縁部内外面にはヨコナデ、体部内面にはハケを施す。体部外面にはユビオサエを残す。479は東播系須恵器の鉢である。片口を作り出す。



第57図 出土遺物実測図 S K 254

S K 200 (第58図480～492) 480～485は土師器皿である。480はいわゆるへそ皿である。浅身の小型品である。486は青磁である。底部高台部分のみ残存する。487は緑釉陶器である。削り出しにより蛇の目高台を作り出し、底部を糸切りする。底部高台部分のみ残存する。488～490は丸底小鉢である。488は体部外面にハケを施す。内面に褐色の付着物があるが、詳細は不明である。使用時の内容物であると考えられる。489・490の口縁部はナデを施し、突起を作り出す。体部外面は板ナデを施す。491と492は瓦質土器の鉢である。491は体部に鐙を貼り付ける。底部外面には貼り付けにより脚を作る。内面見込みには斜格子状の暗文を施す。492は平面8弁の輪花形を呈する。底部外面には貼り付けにより脚部を作る。体部外面には3個を一組にして菊花文のスタンピングを施す。口縁部から体部内外面ともにミガキを施す。内面見込みには斜格子状の暗文を施す。

S K 204 (第59図493・494) 493は土師器皿である。いわゆるへそ皿であるが、底部の突出は低い。口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用したと考えられる。494は瓦質土器の鉢である。口縁部はヨコナデを施す。内外面にヘラミガキを施す。口縁部から底部立ち上がり部分のみ残存する。

S K 120 (第59図495～501) 495～501は土師器皿である。495～499は浅身の小型品、500・501は浅身の大型品である。495・496はいわゆるへそ皿である。498・499はへそ皿と同じ形態であるが、底部の突出は小さい。

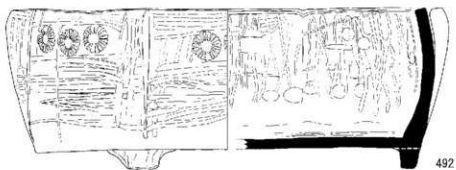
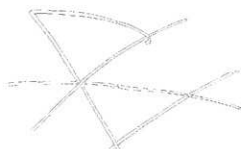
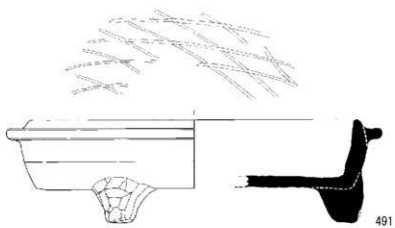
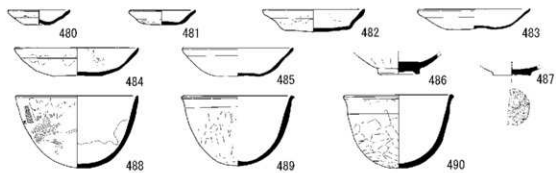
S K 315 (第59図502～505) 502～505は土師器皿である。502はいわゆるへそ皿である。503～505は深身の大型品である。

S K 582 (第59図506～538) 506～533は土師器皿である。506～523は浅身の小型品、524～533は深身の大型品に大別できる。506～508・518はいわゆるへそ皿である。いずれも底部の突出は低い。519は口縁部に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。535は土師器碗である。底部に断面三角形の高台を貼り付ける。534は羽釜である。口縁部から体部の一部が残存する。焼成は土師質である。ミニチュア品であると考えられる。536は瓦器の皿である。見込みに円弧状の暗文を施す。537は瓦質土器の羽釜である。鐙を貼り付ける。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面にユビオサエが残る。体部内面は横方向のハケを施す。538は東播磨須恵器の鉢である。片口部を作り出す。底部はヘラ切りする。

S K 700 (第59図539～541) 539～541は土師器皿である。539～540は浅身の小型品、541は浅身の大型品、539はいわゆるへそ皿である。

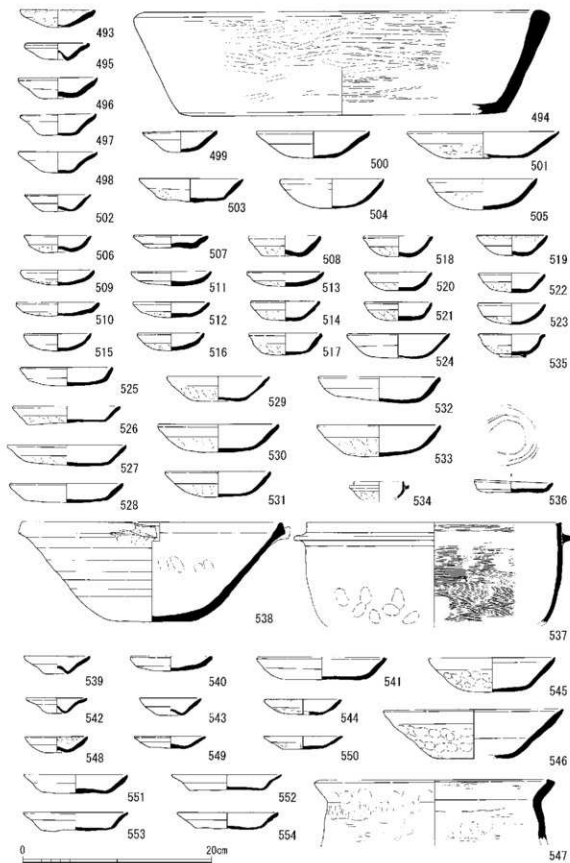
S K 856 (第59図542～547) 542～546は土師器皿である。542～544は浅身の小型品、545・546は深身の大型品である。542・543はいわゆるへそ皿である。544は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用したと考えられる。547は土師器の甕である。口縁部内外面にヨコナデを施す。体部内外面にハケを施す。体部外面はハケを施した後にナデ消す。

S K 870 (第59図548～554) 548～554は土師器皿である。548～550は浅身の小型品、551～554は浅身の大型品である。548はいわゆるへそ皿である。口縁部内外面に煤が付着している。灯明



0 20cm

第58図 出土遺物実測図 S K 200



第59図 出土遺物実測図 S K 204・120・315・582・700・856・870

皿として使用したと考えられる。

S K 287 (第60図555～651) 555～638は土師器皿である。555～601は浅身の小型品、602～623は浅身の大型品、624～626は深身の小型品、627～635は深身の大型品に大別できる。555・635は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用したと考えられる。636～638はいわゆるコースター形の土師器皿である。ミニチュア品であると考えられる。639～641は瓦器である。639は椀である。ミニチュア品である。640・641は皿である。642は回転台土師器の皿である。口縁部と体部内外面に回転ナデを施す。底部はヘラ切りする。搬入品と考えられる。643は羽釜である。口縁部のみ残存する。焼成は土師質である。ミニチュア品である。644は羽釜である。鐏を作り出す。貼り付けにより脚を製作するが、打ち欠きにより欠損する。焼成は瓦質である。645～651は土製円板である。

S K 02 (第61図652～656) 652～655は土師器皿である。652は浅身の小型品、653～655は深身の大型品である。654は口縁部に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。656は瓦質土器の羽釜である。口縁部内外面に鐏はヨコナデ、体部内面はヨコハケ、体部外面はナデを施し、ユビオサエを残す。体部外面の鐏より下には煤が付着する。

S K 18 (第61図657・658) 657・658は緑釉陶器である。いずれも底部高台部分のみが残存するため器形は不明である。657は削り出しにより蛇の目高台を作り出す。658は貼り付け高台で底部外面に糸切り痕が残る。

S K 25 (第61図659) 659は瓦質土器の鉢である。口縁部内面と体部内外面には横方向のヘラミガキを施す。口縁部から底部立ち上がり部の一部のみ残存する。

S K 26 (第61図660) 660は山茶椀の椀である。口縁部は輪花状を呈する。内外面に軸がかかる。口縁部の一部のみ残存する。

S K 144 (第61図661～666) 661～664は土師器皿である。661～662は浅身の小型品、663・664は浅身の大型品である。661はいわゆるへそ皿である。665は青磁の椀である。口縁部はゆるく外反する。体部外面に鎬連弁文を施す。666は青磁の皿である。内面の見込みにはヘラ描きと櫛描き点描文を施す。

S K 166 (第61図667) 667は土鍾である。手づくねで整形し、長辺に穿孔する。

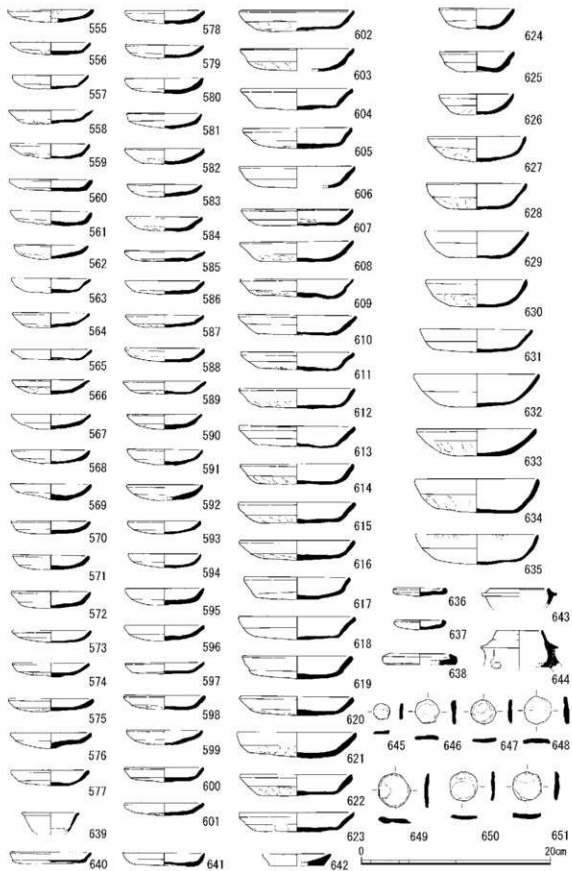
S X 155 (第61図668) 668は青磁の盒子蓋である。平面形は多角形を呈する。天頂部から口縁部の一部が残存する。

S K 167 (第61図669・670) 669は白磁の壺である。口縁部は逆「L」字形を呈する。670は青磁の皿である。体部下半から底部には施釉しない。

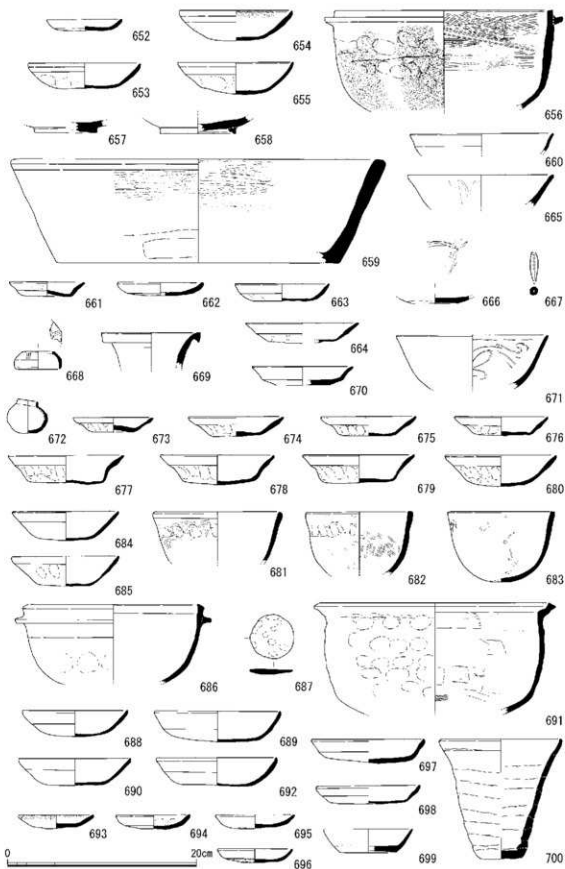
S K 168 (第61図671) 671は青磁の椀である。内面に劃花文を施す。

S K 186 (第61図672～680) 672は瓦質土器の壺である。ナデで整形する。ミニチュア品である。673～680は土師器皿である。673は浅身の小型品、674～676は浅身の大型品、677～680は深身の大型品に大別できる。

S X 190 (第61図681～683) 681～683は丸底小鉢である。681は口縁部をヨコナデし、口縁端



第60図 出土遺物実測図 S K287



第61図 出土遺物実測図

S K02・18・25・26・144・166・167・168・186・249・250・263・288・279・294・299・330・S X155・190

部を肥厚させる。体部外面にくびれ部を作り出し、ユビオサエを施す。体部外面に細かいハケを施す。682は口縁部をヨコナデし、口縁端部を肥厚させる。体部外面にくびれ部を作り出し、ユビオサエを施す。体部内外面に細かいハケを施す。683は口縁端部を方形に取める。口縁部はヨコナデ、体部内外面に不定方向の細かいハケを施す。

S K 249(第61図684) 684は土師器皿である。深身の大型品である。

S K 250(第61図685) 685は土師器皿である。深身の大型品である。内面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。

S K 263(第61図686) 686は瓦質土器の羽釜である。罫を貼り付ける。口縁部から罫部にヨコナデを施す。体部外面はユビオサエ後にナデを施す。体部内面はナデを施す。

S K 288(第61図687) 687は土製門板である。ユビオサエが残る。

S K 279(第61図688～689) 688～689は土師器皿である。深身の大型品である。口縁端部はつまみあげる。

S K 294(第61図690) 690は土師器皿である。深身の大型品である。口縁端部はつまみあげる。

S K 299(第61図691) 691は瓦質土器の鍋である。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はユビオサエの後にナデを施すが、ユビオサエが明瞭に残存している。体部内面はヨコハケを施す。

S K 330(第61図692～700) 692～698は土師器皿である。693～695は浅身の小型品、692・697・698は深身の大型品である。693は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。699は白磁の皿である。口縁部の軸葉を掻き取る口売げの皿である。700は塩壺である。口縁部内外面はヨコナデ、体部から底部内外面はナデで整形するが、粘土紐の巻き上げ痕跡が明瞭に残る。

S K 337(第62図701～706) 701～704は土師器皿である。浅身の小型品である。705は青磁の椀である。内面に割花文を施す。706は白磁の椀である。内面に草花文を施す。

S K 354(第62図707～709) 707～709は丸底小鉢である。707は口縁部内外面をヨコナデし、口縁端部を方形に取める。底部外面にヘラ状工具によるナデを施す。708は口縁部内外面をヨコナデし、口縁端部を突出させる。内外面はヘラ状工具によるナデを施す。709は口縁部内外面をヨコナデし口縁端部を薄く作り出して突出させる。内外面はヘラ状工具によるナデを施す。

S K 371(第62図710・711) 710・711は土師器皿である。浅身の小型品である。口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。

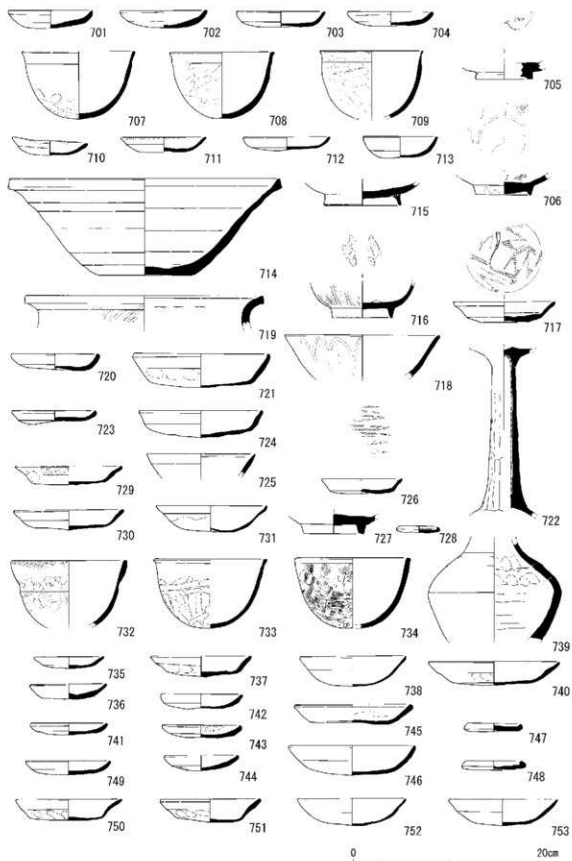
S K 480(第62図712) 712は土師器皿である。浅身の小型品である。

S K 539(第62図713) 713は土師器皿である。深身の小型品である。

S K 440(第62図714) 714は東播系須恵器の鉢である。

S K 489(第62図715) 715は緑釉陶器椀である。底部は糸切りし、貼り付けにより高台を作る。底部高台部分のみ残存する。

S K 505(第62図716) 716は青磁の椀である。体部外面に錦蓮弁文、底部内面見込みに貼り付けによる双魚文を施す。底部に削り出しにより高台を作り出す。



第62図 出土遺物実測図

S K 337・354・371・480・539・440・489・505・338・603・480・610・620・624・724・774・780・783・799

S K 338 (第62図717) 717は青磁の皿である。削り出しにより高台を作り出す。内面見込みにヘラ描きと擗描き点描文を施す。

S K 603 (第62図718) 718は青磁の椀である。外面に鑄連弁文を施す。

S K 480 (第62図719) 719は東播系須恵器の甕である。

S K 610 (第62図720～722) 720・721は土師器の皿である。720は浅身の小型品である。721は深身の大型品である。722は白色土器燗台の脚部である。外面はケズリを施す。

S K 620 (第62図723～728) 723・724は土師器皿である。723は浅身の小型品である。724は深身の大型品である。725は青磁の椀である。口縁部内面に沈線を施す。口縁部のみ残存する。726は瓦質土器の皿である。口縁部内外面はヨコナデ、底部外面はナデを施す。内面の見込みに暗文を施す。727は白磁椀である。削り出しにより蛇の目高台を作り出す。底部のみ残存する。728はいわゆるコースター形の土師器皿である。ミニチュア品である。

S K 624 (第62図729～734) 729～731は土師器皿である。浅身の大型品である。729は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。732～734は丸底小鉢である。732は口縁端部を方形に収める。体部の器壁を薄くし、くびれ部を作り出す。ユビオサエを残す。口縁部外面にハケを施す。体部外面はハケの後にナデを施す。733は口縁部にヨコナデを施し、口縁端部を突出させる。口縁部内外面はヨコナデ、体部から底部外面はヘラ状工具によるナデを施す。734は口縁部をヨコナデし、口縁端部を方形に収める。体部外面は細かいハケを施し、一部をナデ消す。

S K 724 (第62図735～739) 735～738は土師器皿である。735・736は浅身の小型品、737は浅身の大型品、738は深身の大型品である。739は陶器の壺である。体部外面にカキメを施す。体部のみ残存する。

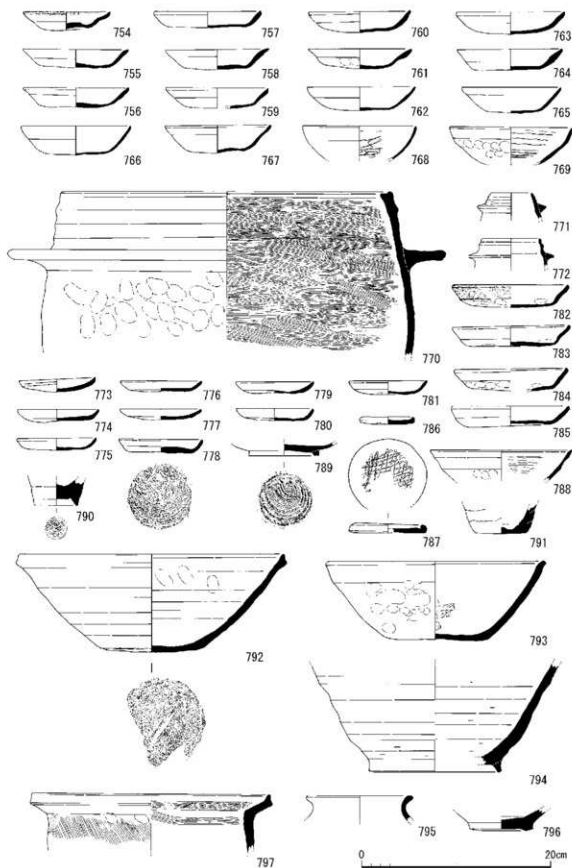
S K 774 (第62図740) 740は土師器皿である。浅身の大型品である。

S K 780 (第62図741～748) 741～744は土師器皿である。741～744は浅身の小型品、745は浅身の大型品、746は深身の大型品である。747・748はいわゆるコースター形の土師器皿である。743は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。

S K 783 (第62図749) 749は土師器皿である。浅身の小型品である。

S K 799 (第62図750～753) 750～753は土師器皿である。750・751は浅身の大型品、752・753は深身の大型品である。

S K 678 (第63図754～772) 754～767は土師器皿である。754は浅身の小型品、755～764は浅身の大型品、765～767は深身の大型品である。754は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。768・769は瓦器椀である。768は和泉型瓦器椀である。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面に螺旋状の暗文を施す。769は樟葉型瓦器椀である。口縁部内外面はヨコナデ、内面にミガキを施す。770は瓦質土器の羽釜である。貼り付けにより鈔を作る。口縁部内外面はヨコナデ、口縁部と体部内面はヨコハケ、体部外面はユビオサエを施す。771・772は羽釜である。ミニチュア品である。焼成は瓦質である。



第63図 出土遺物実測図 S K 678・740・741・791

S K 740・741 (第63図773～796) 773～785は土師器皿である。773～781は浅身の小型品、782～785は浅身の大型品である。778は回転台土師器の皿である。搬入品である。782・785は口縁部から底部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。786～788は瓦器である。786・787は瓦器の皿である。いわゆるコースター形を呈する。787は内面見込みに斜格子状の暗文を施す。788は樟葉型瓦器碗である。内面に密なミガキを施す。789は緑釉陶器碗である。内面見込みに圈線を施す。底部を糸切りし、貼り付けにより高台を作る。底部のみ残存する。790は須恵器の壺である。底部を糸切りし、貼り付けにより高台を作る。791は塩壺である。体部から底部にかけてナデで整形するが、体部に粘土紐痕が明瞭に残る。底部のみ残存する。792は東播系須恵器の鉢である。底部に糸切り痕を残す。793は瓦質土器の鉢である。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はユビオサエとナデ、体部外面はハケメを施す。794は須恵器の鉢である。東海産であると考えられる。795は須恵器の壺である。口縁部から底部の一部のみ残存する。796は白磁である。削り出しにより蛇の目高台を作り出す。底部のみ残存する。

S K 791 (第63図797) 797は土師器の甕である。口縁部をつまみ上げる。体部内外面にハケを施す。

S K 800 (第64図798) 798は青磁碗である。体部に鎬連弁文を施す。削り出しにより高台を作り出す。底部のみ残存する。

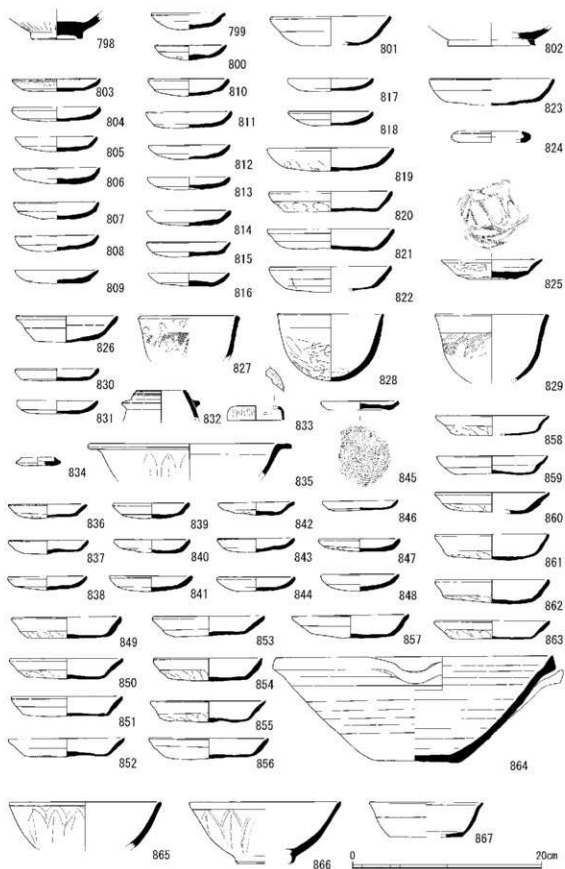
S K 802 (第64図799～801) 799～801は土師器皿である。799・800は浅身の小型品、801は深身の大型品である。800は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。

S K 818 (第64図802) 802は緑釉陶器である。内面見込みに圈線を施す。貼り付けにより高台を製作する。底部のみ残存する。

S K 825 (第64図803～825) 803～824は土師器皿である。803～818は浅身の小型品、819～823は浅身の大型品である。土師器皿は口縁部内外面に強いヨコナデを施し、口縁端部を丸く収めるもの、体部から立ち上がるもの、つまみ上げるもの、口縁端部外面を面取りするもの、口縁部と体部外面に段を作り出すなど様々である。824はいわゆるコースター形の土師器皿である。803は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用されたと考えられる。825は青磁の皿である。内面見込みにヘラ描きと櫛描き点描文を施す。体部外面に付着物が確認できるが、詳細は不明である。

S K 827 (第64図826～829) 826は土師器皿である。深身の大型品である。827～829は丸底小鉢である。827は口縁部内外面はヨコナデし、口縁端部をつまみ出して突出させる。体部外面にハケを施す。体部外面はハケの後にナデを施す。828は口縁部内外面をヨコナデし、口縁端部を薄くし、方形に収める。体部から底部外面はヘラ状工具によるナデを施す。口縁部外面と底部内面に煤が付着する。829は口縁部内外面をヨコナデし、口縁端部をわずかに外反させ、断面方形に収める。体部外面は細かいハケを施し、一部をナデ消す。

S K 842 (第64図830～833) 830・831は土師器皿である。浅身の小型品である。832は瓦質土

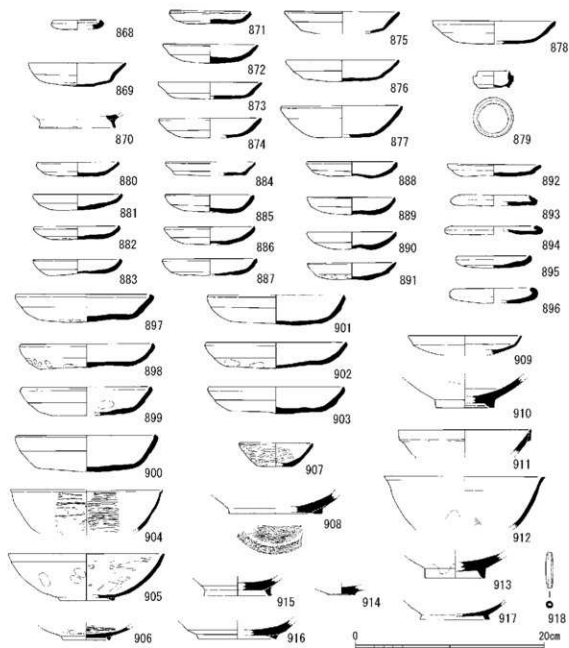


第64図 出土遺物実測図 S K 800・802・818・825・827・842・883・884

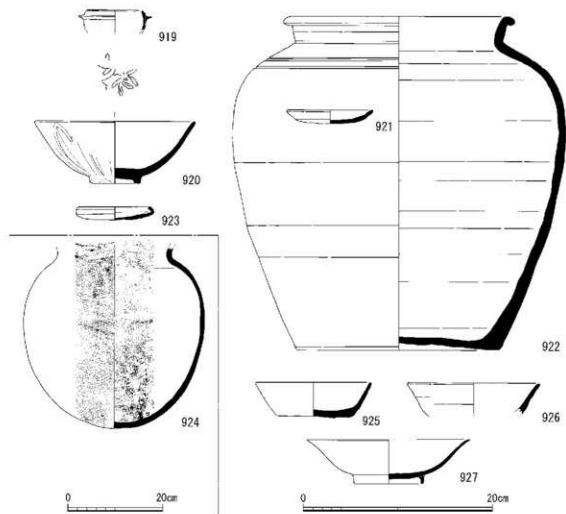
器の羽釜である。ミニチュア品である。833は青白磁の盒子蓋である。口縁部から天頂部の一部のみ残存する。

S K 883 (第64図834～835) 834はいわゆるコースター形の土師器皿である。ミニチュア品である。835は青磁の杯である。口縁部は逆「L」字形を呈する。体部外面に鑄連弁文を施す。

S K 884 (第64図836～867) 836～863は土師器皿である。836～848は浅身の小型品、849～863は浅身の大型品である。845は回転台土師器皿である。口縁部から体部内外面にかけて回転ナデを施す。底部に糸切り痕が残る。回転台土師器は京都近郊産ではない。836は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用したと考えられる。864は東播系須恵器の鉢である。片口部



第65図 出土遺物実測図 S K 910・933・734



第66図 出土遺物実測図 S K 949・831・841

を作り出す。底部に糸切り痕を残す。865・866は青磁の椀である。体部外面に鑄連弁文を施す。867は白磁の皿である。口縁部の軸葉を掻き取る口禿げの皿である。

S K 910 (第65図868～870) 868はいわゆるコースター形の土師器皿である。ミニチュア品である。869は土師器皿である。深身の大型品である。870は陶器である。底部に高台を貼り付ける。底部のみ残存する。

S K 933 (第65図871～878) 871～878は土師器皿である。871は浅身の小型品である。口縁部内外面に強くヨコナデし面取りを行う。872～876は浅身の大型品である。877・878は深身の大型品である。

S K 972 (第65図879～918) 879は青磁の盒子身である。底部に高台を作り出す。底部は施釉しない。欠損していない。880～903は土師器皿である。880～892は浅身の小型品である。897～903は浅身の大型品である。口縁部に強いヨコナデを施し、口縁端部外面に段を作り出すものや、丸く収めるものがある。893～896はいわゆるコースター形の土師器皿である。904～907は瓦器椀である。904は大和型瓦器椀である。口縁端部に沈線を施し、体部内外面にヘラミガキを施す。905は樟葉型瓦器椀である。体部外面にユビオサエを残し、体部内面にヘラミガキを施す。底部

外面に断面三角形の高台を貼り付ける。906は底部内面にヘラミガキを施す。底部外面に断面三角形の高台を貼り付ける。907はミニチュア品である。体部内外面に粗いヘラミガキを施す。908は瓦器の甕である。底部を糸切りし、高台を貼り付ける。909・910は青磁である。909は皿である。口縁部から体部のみ残存する。910は椀である。内面見込みに沈線を施す。底部のみ残存する。911～914は白磁である。911は椀である。口縁部を折り重ねて扁平な玉縁にする。912は椀である。口縁部を外反させる。内面に櫛描き文を施す。913・914は底部高台部分のみ残存する。915・916は灰釉陶器である。底部高台部分のみ残存する。917は緑釉陶器である。底部高台部分のみ残存する。918は土鍾である。

S K 949 (第66図919・920) 919は羽釜である。焼成は土師質である。ミニチュア品である。920は青磁の椀である。外面には鑄連弁文を施す。内面見込みに割花文を施す。

S K 831 (第66図921・922) 921は土師器皿である。浅身の大型品である。922は陶器の甕である。備前産である。肩部外面に3条の沈線を施す。

S K 841 (第66図923～927) 923は土師器皿である。いわゆるコースター形の皿である。924は東播系須恵器の甕である。外面にタタキ、内面に当て具痕を残す。体部のみ残存する。925・926は須恵器の杯である。927は緑釉陶器の椀である。内外面全面に施釉する。底部に貼り付けにより高台を作り出す。

S K 43 (第71図1024～1026) 1024は土師器の皿である。いわゆるへそ皿である。1025は陶器の壺である。底部のみ残存する。1026は瓦質土器の羽釜である。三足が付属するが全て打ち欠く。小型品である。

S K 215 (第71図1041) 1041は須恵器の杯である。底部外面に墨書を施す。底部のみ残存する。

S K 241 (第71図1043) 1043は土師器の皿である。口縁部は2段のヨコナデを施す。

S K 427 (第71図1048・1049) 1048・1049はいわゆるへそ皿である。底部の突出度は低い。

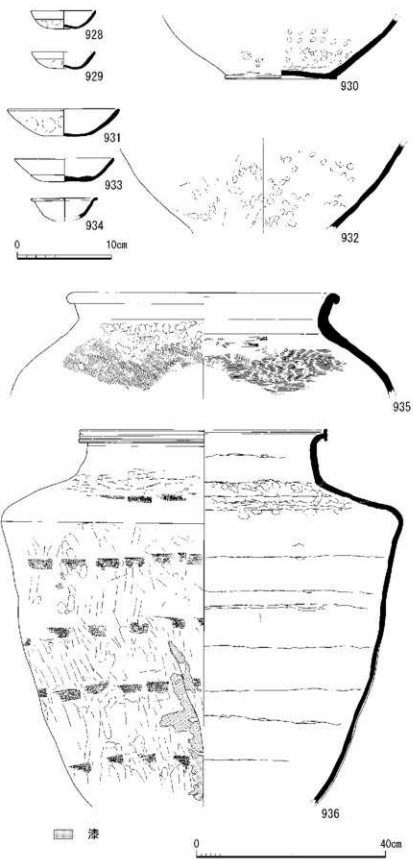
S K 852 (第70図1008) 1008は須恵器の壺である。体部が張り出し、算盤形を呈する。体部から底部の一部のみ残存する。

(2)埋壘土坑出土の土器

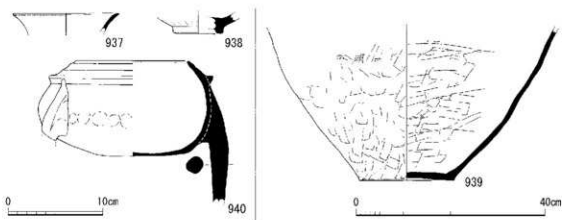
S K 94 (第67図928～930) 928～929は土師器皿のいわゆるへそ皿である。底部の突出度は低い。930は陶器の甕である。常滑産である。底部のみが完全に残存する。底部外面は未調整である。内面にユビオサエを残す。

S K 71 (第67図931～932) 931は土師器皿である。深身の大型品である。932は常滑の甕である。外面はタタキ痕をナゲ消す。内面にユビオサエを残す。体部のみが残存する。底部は打ち欠く。

S K 230 (第67図933～936) 933は土師器の皿である。深身の大型品である。934は瓦器椀である。口縁端部は外反する。ミニチュア品である。935は陶器の甕である。備前産である。口縁部から体部の一部のみ残存する。936は陶器の甕である。常滑産である。口縁部は完存するが、体部と底部の一部を打ち欠いている。口縁部と頸部内外面に軸葉を施す。体部外面に押印文を帯状連続施文し、一部をナゲ消す。内面には粘土紐の巻き上げ痕が残る。体部外面に漆が付着する。



第67図 出土遺物実測図 S K 94・71・230



第68図 出土遺物実測図 S K 888・202

接着して補修したと考えられる。

S K 888 (第68図937～939) 937は白磁の皿である。口縁端部の軸葉を掻き取る口弁げの皿である。口縁部のみ残存する。938は青磁の椀である。外面に鑄連弁文を施す。底部高台部分のみ残存する。939は陶器の甕である。備前産である。内外面は板状工具によるケズリの後ナデを施す。底部のみ残存する。

S K 202 (第68図940) 940は瓦質土器の羽釜である。貼り付けにより鐃と脚を作る。3か所に足が付くが、すべて欠損している。口縁部と体部の一部を欠損する。体部外面の鐃より下に煤が付着する。

(3) 井戸出土の土器

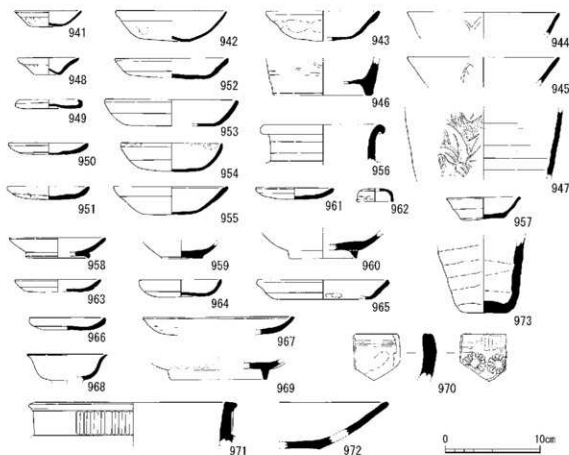
S K 10 (第69図941～947) 941～943は土師器皿である。941はいわゆるへそ皿である。942・943は深身の大型品、943は口縁部に強いヨコナデを施し、外面を面取りするが、口縁端部は肥厚させる。944・945は青磁の椀である。体部外面に鑄連弁文を施す。口縁部のみ残存する。946・947は青白磁の梅壺である。946は外面に花文を施す。削り出しにより高台を作り出す。底部のみ残存する。947は外面に花文を施す。体部のみ残存する。

S E 438 (第69図948～956) 948～955は土師器皿である。948はいわゆるへそ皿である。949はいわゆるコースター形の土師器皿である。950・951は浅身の小型品、952・951は浅身の大型品、954・955深身の大型品である。956は白磁の壺である。口縁部は折り曲げる。

S E 748 (第69図957) 957は山茶椀である。口縁部は外反し、端部を突出させる。底部に糸切り痕が残る。外面の一部と内面全体に赤褐色の付着物が確認できる。

S E 750 (第69図958～960) 958～960は灰釉陶器である。958は皿である。削り出しにより蛇の目高台を作り出す。底部高台部分には施釉しない。959は椀である。削り出しにより高台を作り出す。960は椀である。貼り付けにより高台を作る。

S E 848 (第69図961～962) 961は土師器の皿である。浅身の小型品である。962は青白磁の盒子蓋である。



第69図 出土遺物実測図 S E 10・S E 438・748・750・848・935・957・955・958・971

S E 935(第69図963～965) 963～965は土師器の皿である。浅身の小型品である。

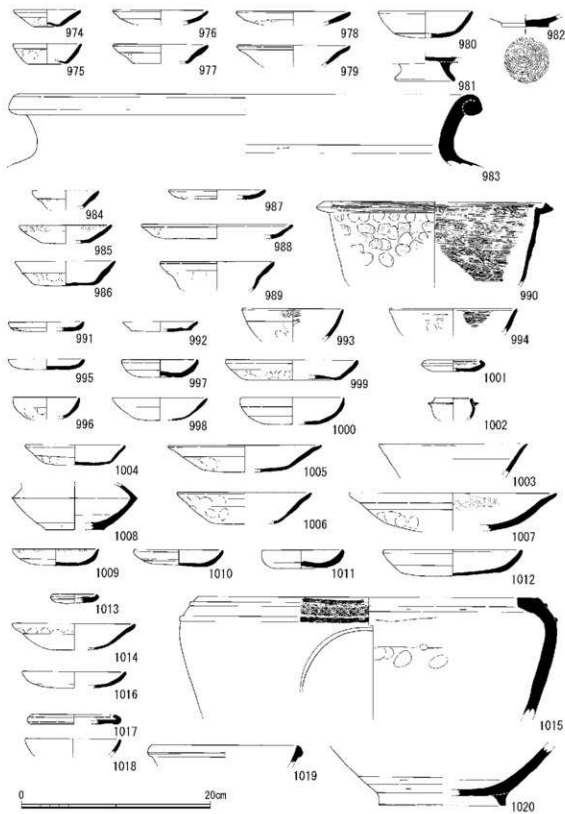
S E 957(第69図966～967) 966・967は土師器の皿である。966は浅身の小型品、967は浅身の大型品である。

S E 955・958(第69図968～972) 968は白磁の椀である。小型品である。口縁部から体部の一部のみ残存する。969は青磁の椀である。体部外面に鎊連弁文を施す。底部のみ残存する。970・971は瓦質土器の鉢である。口縁部のみ残存する。971は口縁部内外面にヘラミガキを施す。体部には菊花文のスタンプを施す。972は陶器の盤である。口縁部と体部内外面に軸葉がかかる。底部外面は施軸しない。内面に砂目が残る。

S E 971(第69図973) 973は塩壺である。内外面はナデを施すが、粘土紐の積み上げ痕が残る。底部のみ残存する。

(4) 溝出土の土器

S D 238(第70図974～982) 974～980は土師器皿である。974・975は深身の小型品、976～979は浅身の大型品、980は深身の大型品である。974・975はいわゆるへそ皿である。981は土師器の台付皿である。底部の高台部分のみ残存する。982は緑軸陶器である。削り出しにより蛇の目高台を作り出す。底部高台部分のみ残存する。



第70図 出土遺物実測図 S D 238・275・531・587・609・855・857・S P 561・S K 852

S D275(第70図983～990) 983は陶器の甕である。備前産である。口縁部の一部のみ残存する。口縁部内外面に施釉する。口縁部の一部のみ残存する。984～989は土師器皿である。984はいわゆるへそ皿である。985～988は浅身の大型品、989は深身の大型品である。985は口縁部内外面に煤が付着している。灯明皿として使用したと考えられる。990は瓦質土器の鍋である。口縁部内外面にハケを施す。体部外面は縦方向の工具によるナデの後にナデを施す。指頭圧痕が残る。体部内面はハケを施す。

S D531(第70図991～994) 991・992は土師器皿である。993は黒色土器の椀である。内外面にミガキを施す。内黒である。994は椀型瓦器椀である。口縁部内面に沈線を施す。体部内面には密にヘラミガキを施す。外面体部にヘラミガキを施す。

S D587(第70図1004～1007) 1004～1007は土師器皿である。1004は浅身の大型品、1005～1007は深身の大型品である。1007は口縁部内面に煤が付着する。灯明皿として使用されたと考えられる。

S D609(第70図1009～1012) 1009～1012は土師器皿である。1009～1011は浅身の大型品、1012は深身の大型品である。1009は口縁部内外面に煤が付着する。灯明皿として使用されたと考えられる。

S D855(第70図1013～1015) 1013・1014は土師器皿である。1013はいわゆるコースター形の土師器皿である。ミニチュア品である。1014は深身の大型品である。1015は瓦質土器の風炉である。体部に円弧状の窓部を持つ。口縁部外面に花菱文の印を施す。

S D857(第70図1016～1020) 1016・1017は土師器皿である。1016は浅身の大型品である。1017はいわゆるコースター形の土師器皿である。1018・1019は白磁である。1019の口縁部は幅の広い玉縁状を呈する。口縁部のみ残存する。1020は陶器の鉢である。東海産と考えられる。底部に貼り付けにより高台を作り出す。底部のみ残存する。

(5) 柱穴出土の土器

S P04(第71図1021・1022) 1021は青磁の皿である。口縁部のみ残存する。1022は常滑産の陶器底部である。

S P29(第71図1023) 1023は黒色土器の盤である。底部内面に細かいヘラミガキを施す。底部外面に断面三角形の高台を貼り付ける。底部のみ残存する。

S P53(第71図1027) 1027は土師器の皿である。浅身の大型品である。

S P63(第71図1028) 1028は土師器の皿である。浅身の大型品である。

S P96(第71図1029) 1029は土師器の皿である。浅身の大型品である。

S P128(第71図1030・1031) 1030・1031は土師器の皿である。1030は浅身の小型品、1031は浅身の大型品である。

S P160(第71図1032) 1032は白磁である。底部高台部分のみ残存する。

S P161(第71図1033) 1033は須恵器の杯である。底部高台部分のみ残存する。

S P184(第71図1034～1038) 1034～1037は土師器の皿である。1034～1037は浅身の小型品で

ある。1034はいわゆるへそ皿である。1035・1036は体部内面に縦方向のナデを施す。1038は丸底小鉢である。口縁部はヨコナデを施し、器壁を薄くして口縁端部を突出させる。体部から底部外面は板状工具でナデを施す。

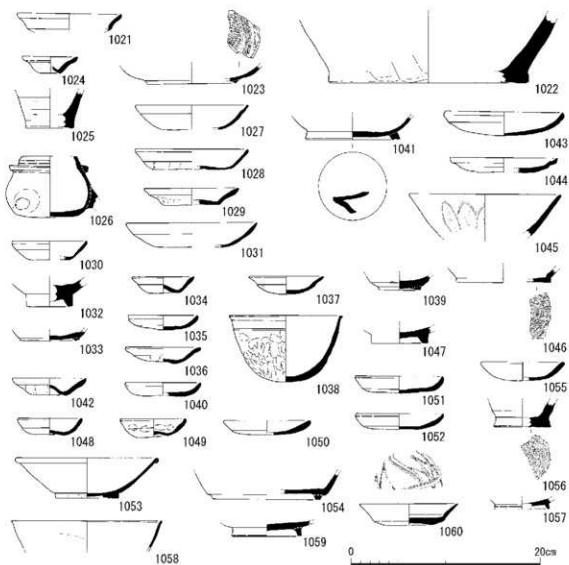
SP198(第71図1039) 1039は山茶碗である。底部は糸切り痕を残し、高台を貼り付ける。底部のみ残存する。

SP214(第71図1040) 1040は土師器の皿である。浅身の小型品である。

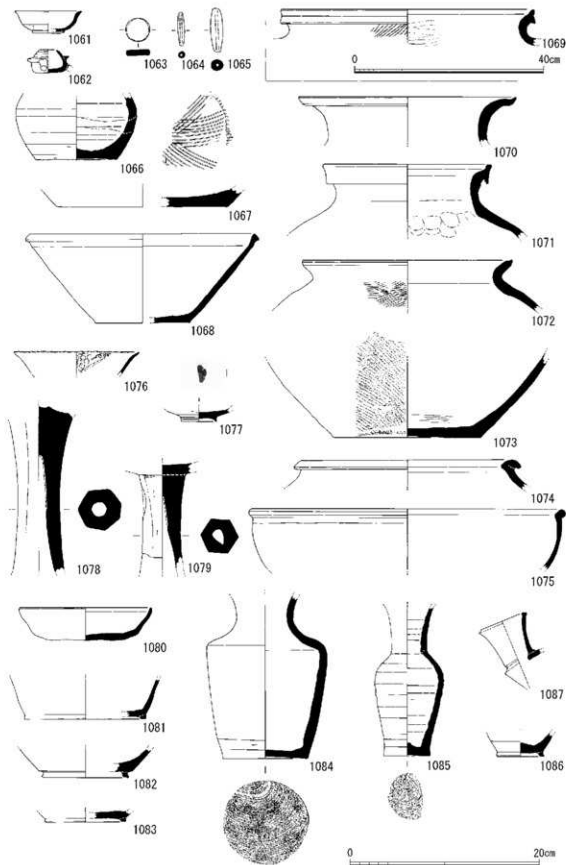
SP239(第71図1042) 1042は土師器の皿である。いわゆるへそ皿である。

SP266(第71図1044) 1044は土師器の皿である。浅身の小型品である。口縁部は「て」の字形を呈する。

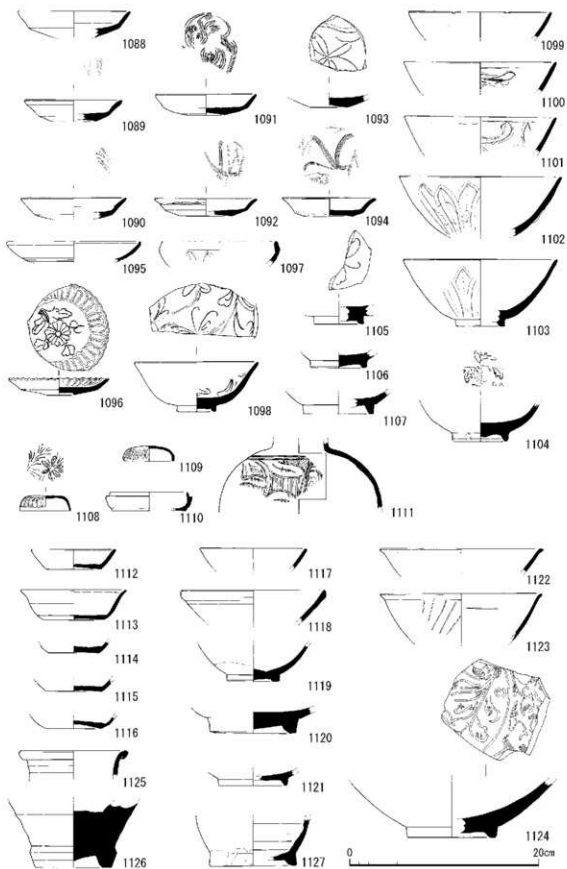
SP329(第71図1045) 1045は青磁の碗である。外面に鎗蓮弁文を施す。口縁部のみ残存する。



第71図 出土遺物実測図 SP04・29・53・63・96・128・160・161・184・198・214・239・266・329・392・414・476・497・652・668・720・826・936・SK43・215・241・427

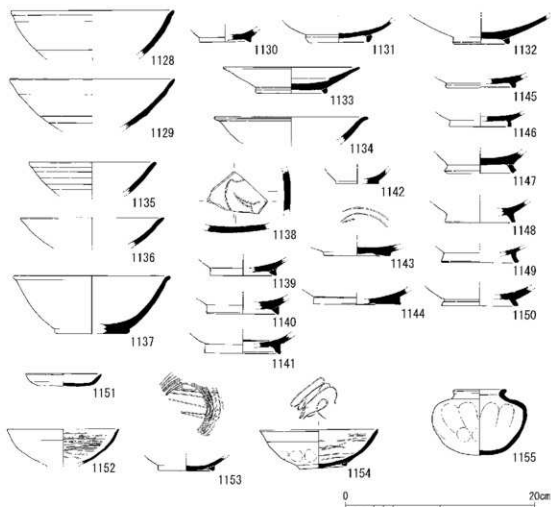


第72図 出土遺物実測図 遺物包含層(1)



第73図 出土遺物実測図 遺物包含層(2)

- S P 392(第71図1046) 1046は須恵器の壺である。底部に糸切り痕を残す。底部のみ残存する。
- S P 414(第71図1047) 1047は白磁である。底部高台部分のみ残存する。
- S P 476(第71図1050) 1050は土師器の皿である。浅身の小型品である。
- S P 497(第71図1051・1052) 1051・1052は土師器の皿である。浅身の小型品である。
- S P 652(第71図1053) 1053は白磁の椀である。口縁部は折り曲げて玉縁状を呈する。削り出しにより蛇の目高台を作り出す。
- S P 668(第71図1054) 1054は須恵器の杯である。底部のみ残存する。
- S P 720(第71図1055・1056) 1055は土師器の皿である。浅身の小型品である。1056は須恵器の壺である。底部に糸切り痕を残す。底部のみ残存する。
- S P 826(第71図1057) 1057は緑釉陶器である。底部のみ残存する。
- S P 936(第71図1058～1060) 1058は白磁である。口縁部のみ残存する。1059は緑釉陶器である。底部のみ残存する。1060は青磁の皿である。内面見込み部にヘラ描きと櫛描き点描文を施す。
- S P 561(第70図995～1003) 995～1001は土師器皿である。995は浅身の小型品、996・997は



第74図 出土遺物実測図 遺物包含層(3)

深身の小型品、998・999は浅身の大型品、1000は深身の大型品である。1001はいわゆるコースター形の土師器皿である。1002は羽釜である。焼成は土師質である。ミニチュア品である。1003は白磁の皿である。体部内面に沈線を施す。口縁部の軸葉を掻き取る口禿げの皿である。

(6) 遺物包含層等出土の土器(第72～74図1061～1155、図版第64)

1061は土師器の椀である。底部に断面三角形の高台を張り付ける。1062は羽釜である。足が付属するが、打ち欠いている。焼成は土師質である。ミニチュア品である。1063は土製円板である。1064・1065は土錘である。長辺に穿孔する。

1066は陶器の壺である。1067は陶器の播鉢である。備前産である。1068は東播系須恵器の鉢である。1069～1071は陶器の甕である。常滑産である。1072・1073は東播系須恵器の甕である。1074は陶器の甕である。1075は陶器の盤である。内外面に施釉する。1076は陶磁器の椀である。1077は染付である。1078・1079は土師器の高杯脚部である。外面を面取りし、断面は多角形を呈する。1080～1083は須恵器の杯である。1084～1086は須恵器の壺である。1087は須恵器の平甕である。1088～1107は青磁である。1088～1096は皿である。1089・1090は内面に櫛描き点描文を施す。1091は内面に放射状に櫛目文を施す。1092・1094は内面見込みにヘラ描きと櫛描き点描文を施す。1093は内面に劃花文を施す。1096は口縁部を花卉状に作る。内面に草花文を施す。1097は東口椀である。体部外面に鑄連弁文を施す。1098～1107は椀である。1098・1100・1101・1105は体部内面に劃花文を施す。1099は口縁部を輪花状に作る。1102・1103は体部外面に鑄連弁文を施す。1104は内面見込みに草花文を施す。1105～1107は底部高台部分のみ残存する。1108・1109は青白磁の盒子の壺である。1110は青白磁の盒子の身である。1111は青白磁の梅瓶である。表面に花文を施す。体部のみ残存する。1112～1116は白磁の椀もしくは皿である。無高台である。1117～1124は白磁の椀である。1124は内面に草花文を施す。1125～1127は白磁の壺である。1128・1129は古瀬戸の椀である。内外面に軸葉がかかる。1130～1132は灰軸陶器である。底部高台部分のみ残存する。1133～1150は緑軸陶器である。1133は皿である。体部内面に圈線を施す。1134～1137は椀である。1138・1143は内面に陰刻で文様を施す。1139～1150は底部高台部分のみ残存する。1151～1154は瓦器である。1151は皿である。1152～1154は瓦器の椀である。1152・1154は樟葉型瓦器椀である。1155は瓦質土器の壺である。

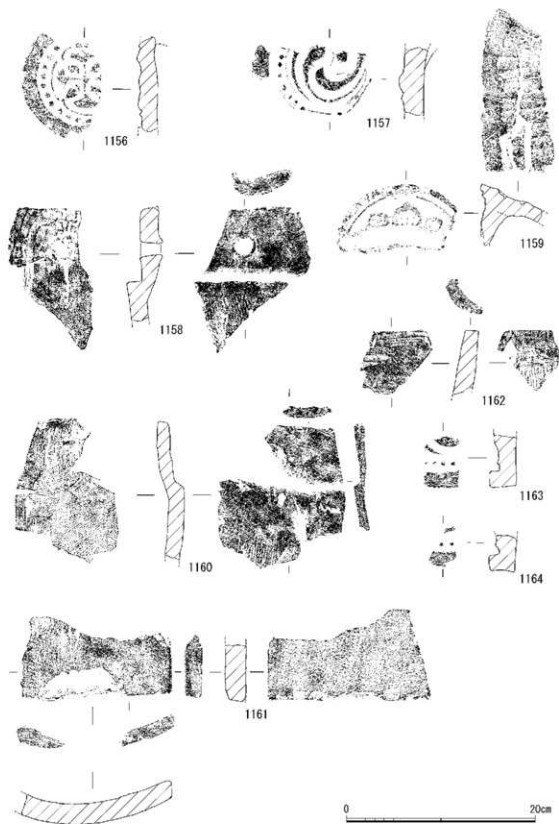
(福山博章)

2) 瓦類

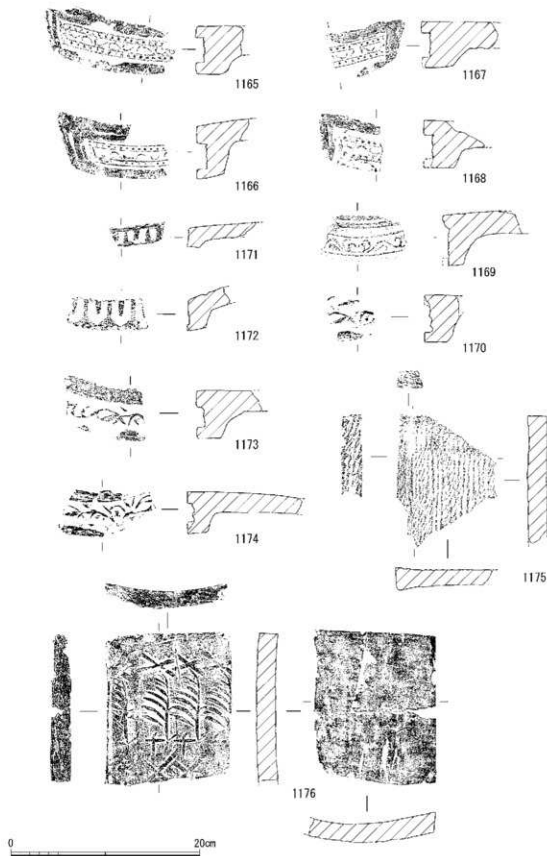
(1) 瓦(第75～77図1156～1179、図版第65・66)

1156～1164は丸瓦である。1156・1159は遺物包含層、1157・1158・1162・1163はS K 294、1160はS K 835、1161はS K 823、1164はS K 126より出土した。1156は四葉宝相華文軒丸瓦である。瓦当の周囲に珠文を施す。内面にナデ、ユビオサエを施す。1159は単弁八葉蓮華文軒丸瓦である。瓦当の周囲に圈線を施す。上面はケズリ、内面にタタキ痕を残す。1157・1163・1164は巴文軒丸瓦である。

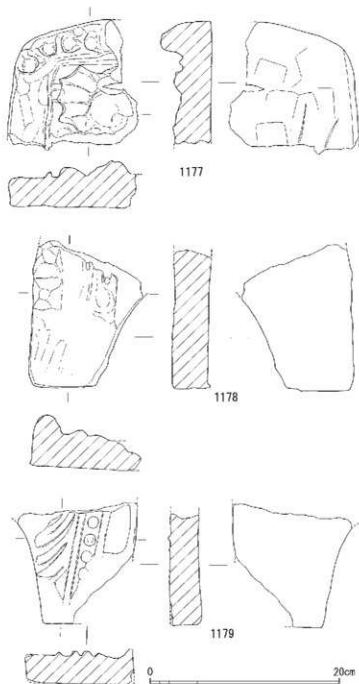
1165～1176は平瓦である。1165～1168は均整唐草文軒平瓦である。唐草文の四周を朱文で囲む。



第75図 出土遺物実測図 軒丸・丸瓦



第76図 出土遺物実測図 軒平・平瓦



第77図 出土遺物実測図 鬼瓦

泥痕が残存する。1171・1172は剣頭文軒平瓦である。1169・1170・1173・1174は唐草文軒平瓦である。1176は外面に草花文を刻んだタタキ具で加飾する。

1177～1179は鬼瓦である。1177はS K 888、1178はS K 230、1179は遺物包含層から出土した。1177は上部に削り出しにより珠文帯を作り出し、界線を施す。眼球は高く盛り上げ、頭髮の表現を行う。眼球の上部分を内面から外面にヘラで穿孔する。1178は足部である。削り出しにより珠文帯を作り出し、界線を施す。1179は足部であり、珠文と界線の一部が残る。

(2) 埴(第78~80図1180~1193、図版第66)

1180~1193は埴である。1180~1182は径8mmまでの長石、石英、雲母など粗い砂粒を多く含む。1180の表面には工具により斜め方向に削られた溝状の痕跡が認められる。1180・1181は表面に強く火を受けている。

1183~1193は方形有孔埴である。精査中に調査地全域から出土が認められたが、土坑内ではS K336・S X130・S X10・S K888から出土している。大型の破片を中心に図化した。方形有孔埴は形態により次のように分類できる。

①中央部がやや凹み、幅が広く細長い長方形のもの(1184・1187・1188・1190・1193)

②片面が凹み、もう片面が平坦なもの(1183・1189)

③中央部が大きく窪むもの(1185・1186・1191・1192)

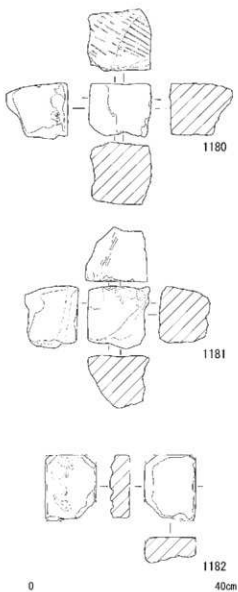
これらの埴の調整は縄タタキの後、全面、部分的にナデを施す。穿孔は2か所残るものと、破片のため1か所しか確認できないものがある。孔は基本的に両面から穿たれ径3~4cm、もともと狭いところで1cmを測る。1188のように片側穿孔のものも見られる。胎土に長石、石英、雲母など粗い砂粒を多く含む。1184・1185・1188・1193のように強く火を受けたものも認められる。類例は京都市内各所で出土しているが、使用方法については不明な点が多い。銅・鉄生産関連遺物が出土していることから、炉本体ないし下部構造の基礎(耐火煉瓦)として利用された可能性も考えられよう。交互に積み上げ、穿孔部を合わせ棒状のものを鉄筋代わりに使用し、凹み部分はスサ入り粘土受け部分ではなかろうか。積み上げ後、上塗りして使用したとも考えられる。

3) 鉄製品

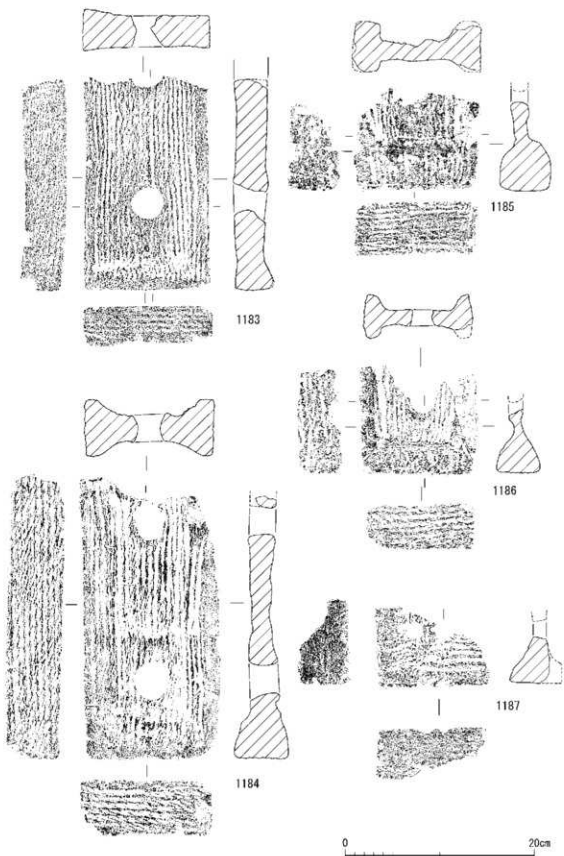
出土した鉄製品には刀子・鉄瓶・飾り金具・釘等がある。また生産関連遺物として鉄滓、輪の羽口、炉壁等がある。

(1) 刀子(第81図1194~1209、図版第67)

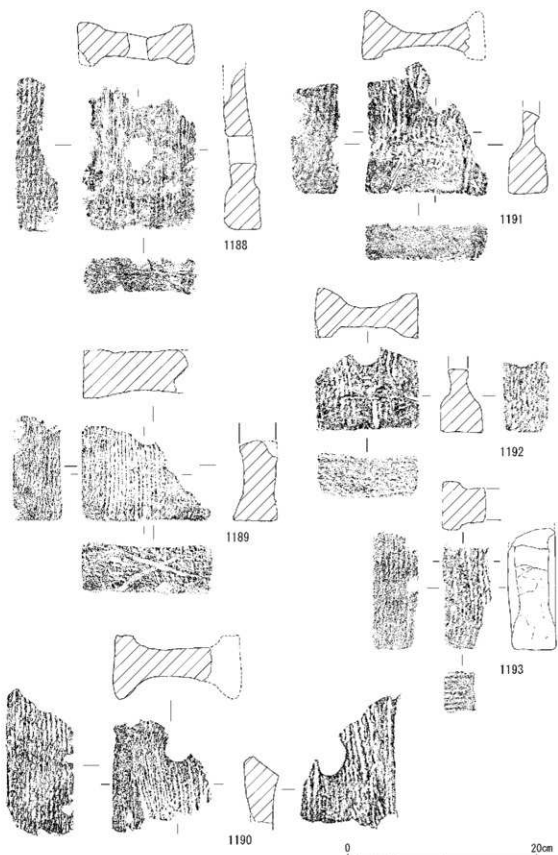
刀子は土坑内から出土したもの、浅い凹み状の遺構から出土したもの、精査中より出土したものがある。1194・1195・1199は唯一、土坑内から出土した完形品でありそのほかのものは破損し



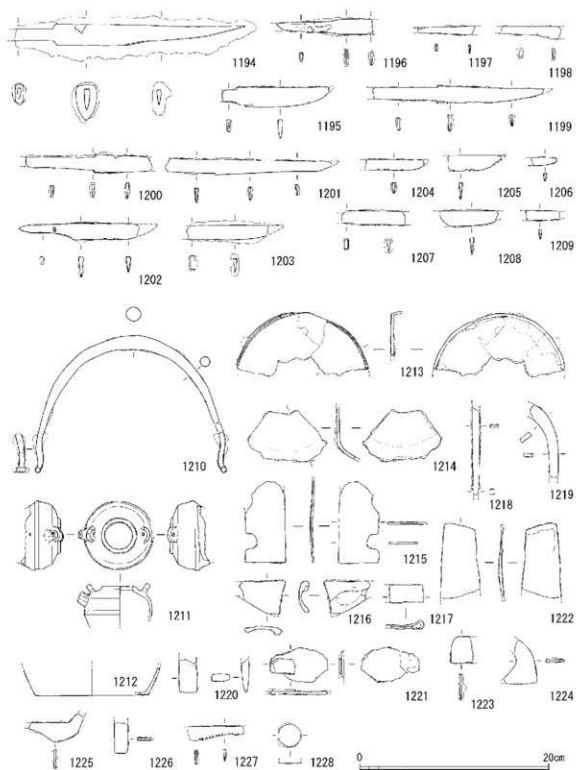
第78図 出土遺物実測図 埴(1)



第79図 出土遺物実測図 罽(2)



第80図 出土遺物実測図 埴(3)



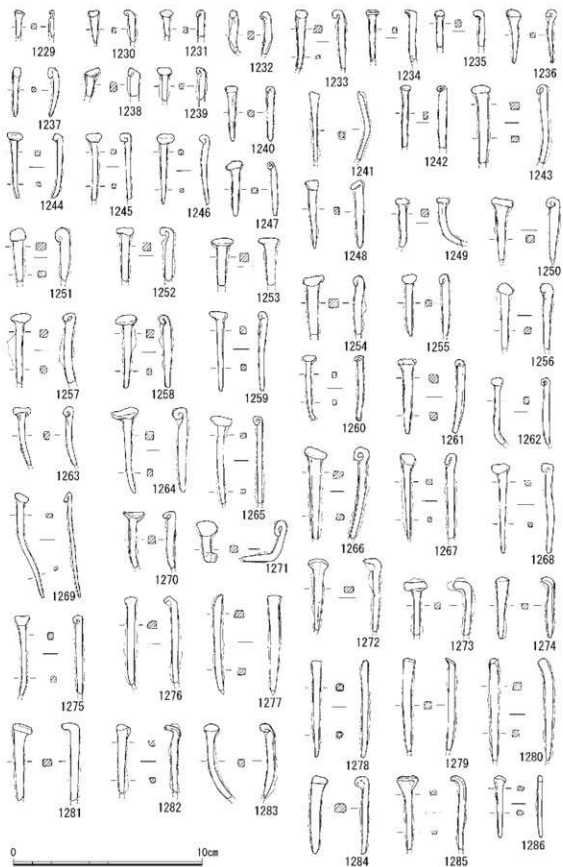
第81図 出土遺物実測図 鉄製品

ている。大半が刀子であり全体の1/2~1/4と大小さまざまな残存状況であり、残存部分を観察すると、刃部中央付近か切先付近、刃部茎寄り意識的に切断ないし折った状況を呈する。鉄素材の再利用を目的とし小割りしたとも考えられる。これらの刀子は1199と同規模程度のもと考えられ、全長20cm前後のものと思像される。1194はS K 480から出土したものである。鞘、柄とも残存していたようで、酸化物に覆われていた。X線写真により全長24.5cm、刀身長20.3cm、刃部幅2.2cmを測る。刀装具等は認められなかった。刀身中央部より切先にかけて砥ぎ減りが認められる。関は斜関である。1195は残存長が11.25cm、残存刀身長9.6cm、刃部幅2.3cmを測り刃部の幅がやや広い。1199は残存長が17.9cm、刀身長11.2cm、刃部幅1.7cmを測る。1199・1200・1201は刀身に対して茎部分が長い。関の形状も棟・刃部側とも直角の両関のもの(1195・1199・1200)、棟側のみ直角で刃部側が斜め関のもの(1198・1202)、両側とも斜め関のもの(1194・1196)、片関のもの(1201)がある。1202には径4mm程度の目釘穴が認められる。

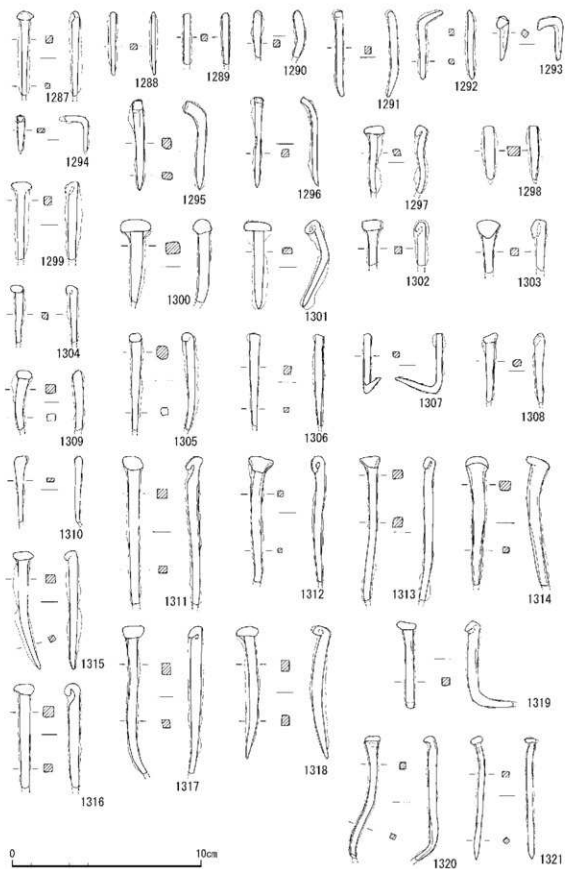
(2) 鉄製品等(第81図1210~1228、図版第68)

1210は鍋か鉄瓶の取手と考えられる半円状の製品で鋳造品の可能性がある。断面円形で取手中央部分での厚さ1.6cm、両端の本体取り付け部分に向かい徐々に細くなる。取り付け部は棒状の本体先端で「T」字状に両側に0.5cm突出していたと思われるが、先端を欠損する。取り付け部の幅は約1.7cm程度が推定される。1211は鉄瓶である。本体下半分と取手、蓋を欠く。胴部径は7.2cmを測る。上部中央には直径2.8cmの蓋孔があり、その下方には斜め上方に約1cm突出した取手取り付け部があり、0.4cmの孔が開けられている。その下には約1cm突出した注ぎ口がある。注ぎ口の内径は0.5~0.7cm程度が推定される。鋳造品と考えられる。

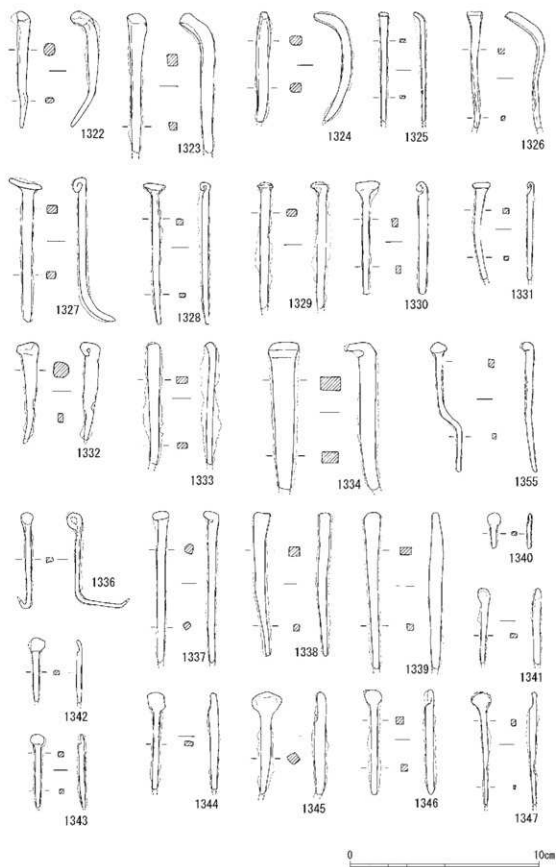
1212は鍋か鉄瓶の底部と考えられるものである。底径12cm、厚さ0.3cmを測る。鋳造品と考えられる。1213・1214は飾り金具と考えられる。1213は直径14cm、厚さ0.3cm、平坦面に対して直角に約1.2cm折り曲げた蓋状のものである。折り曲げ部分の外面には3条の沈線状の凹線が見られる。内面には木質が付着する。1214は1213のように折り曲げ部分が直角でなくやや外に開き気味である。厚さ0.4cmを測る。1215は板状の鉄板で、1215は残存長8.6cm、幅4.3cm、厚さ0.2cmを測る。長辺端付近に半径1.5cmほどの抉りが見られる。1216は平面三角形をなすが底辺側は一部袋状に曲げている。1217は薄い鉄板を折り曲げたもので、折り曲げ部分は環状に仕上げている。1218は鉄鏝と考えられるもので、鏝身部と茎部を欠損する。残存長は9.4cmを測る。関部は棟状関である。1219は薄い板状のものであるが、反り返る部分からやや幅が広がる。1220は楔状のものである。残存長3.6cm、幅2.0cm、厚さ0.85cmを測る。1221は薄い倒卵形のもの先端部分に座金のような薄い鉄板を貼り付けたものであるが折り曲げた環状部分は欠損する。仏具か飾り金具と考えられる。1222は端部付近に何かに取り付け、挟み込まれていた痕跡が残る。1223~1226は不明鉄製品であるが、板状を呈する。1227はX線写真により鋸と考えられるものである。小型のもので、やや弓状に湾曲する。残存長6.1cm、幅1.0~1.5cmを測る。1228は不明鉄製品で直径2.4cm、厚さ0.5cmを測る。内部は中空である。



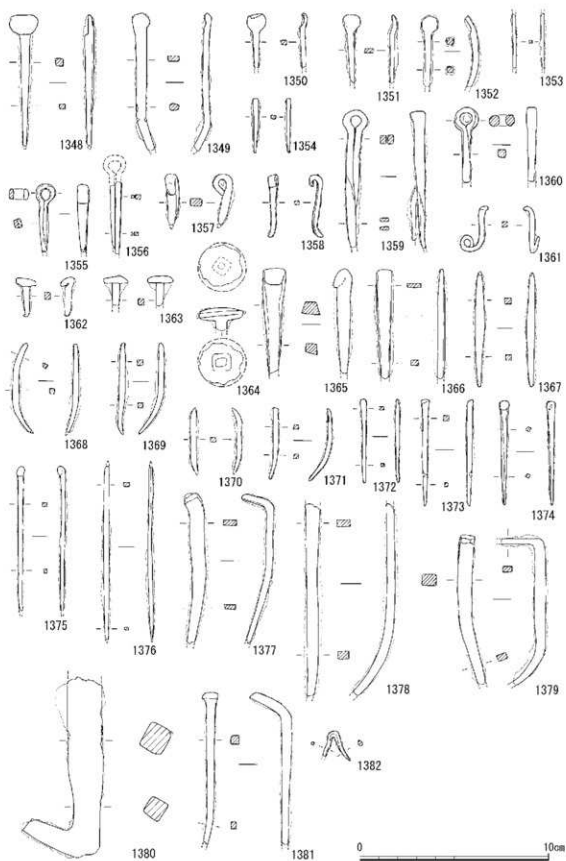
第82図 出土遺物実測図 釘(1)



第83圖 出土遺物実測圖 釘(2)



第84図 出土遺物実測図 釘(3)



第85図 出土遺物実測図 釘(4)

(3) 鉄釘(第82～85図1229～1382、図版第69～71)

鉄釘は各調査面精査中や遺構などから出土した。鉄釘の保存状態は錆の付着が著しく、頭部、先端を欠損しているものもあり全体の形態を知ることができないものも多数あるが完形品、接合できない破損品も1点として総数4,500点が出土した。これらの釘には、未使用品、屈曲したもの、未製品(製作途上)と考えられるものがある。S X 130ではおびただしい量の釘の出土が認められる。出土した鉄釘は頭部の形状により大きく以下に分類される。

(A) 1229・1233・1236・1239・1240・1242～1244・1249～1253・1256～1258・1260～1263・1268・1270・1276・1291・1287・1300・1302・1304・1305・1314・1316・1335・1374は頭部先端を扁平に叩き、内側に丸く曲げたもので、長さにより1.7cm(1236)、4.3cm(1284)、7cm(1314・1335)前後のものに分けられる。

(B) 1245～1247・1264～1266・1275・1301・1318・1327・1328・1330～1332は頭部先端を扁平に叩き、内側に強く巻き込むもので、長さにより3cm(1247)、6～7cm(1318・1330)、8.2cm(1327)前後のものに分けられる。芯部の断面が大きいものや(1332)、頭部付近の芯部断面が長方形を呈するものがある。

(C) 1234・1235・1272・1274・1281～1283・1320・1321・1329・1334・1337・1361は頭部先端を扁平に叩き、水平に曲げた方形のものと、1329・1334・1337は大釘状のものである。長さにより2.3cm(1274)、6.4cm(1321)、8cm(1337)前後のものに分けられる。頭部の厚さの厚いものや、薄いもの(1234)が認められる。芯部断面が極端な長方形を呈する(1334)ものがある。

(D) 1237・1238・1248・1254・1255・1259・1267・1268・1269・1271・1297・1299・1303・1308・1311～1313・1315・1317・1319・1365は頭部先端を扁平に叩き、芯部に接するよう頭部先端が下方に延びたものである。長さにより2.6cm(1237)、5.6cm(1269)、8cm(1317)前後のものに分けられる。1269は芯部断面が極端に細い。

(E) 1273・1292～1295・1322～1324は断面が方形を呈する角釘で、頭部先端が屈曲しやや扁平化した頭部をもつ折り曲げ頭形のものである。屈曲部の長さにより5mmと短いものと(1273)、1.2cmと長いもの(1323)がある。1295は、頭部先端が加工時の切断痕がそのまま残る。1377は芯部断面が長方形である。

(F) 1280・1288～1290・1296・1298・1306・1307・1309・1354は角釘と考えられる。

(G) 1241・1277～1279・1286・1310・1325・1326・1333・1338・1339・1366・1372・1373は頭部先端がややバチ状に広がる。

(H) 1355～1360は環付釘で、芯部の長いもの(1355～1358・1360)と、短い1359の2種が認められる。1356も環部分は小さいが芯部の長い環付釘と考えられる。

(I) 1353・1367～1370・1375・1376は針状の釘で両端が尖り板等の接合に使われる合釘とも考えられるものである。長いもの1375・1376、短い1370の2種が認められる。1375は(D)の可能性もある。

(J) 1363・1364は飾り釘である。1363は直径約5cmを測る。

(K)1340~1352は釘製作途上の未製品と考えられるものである。形態から(A)の巻頭釘と、(B)の頭巻釘が未製品と考える。

(L)1377~1379・1381は、(E)と似ているが、屈曲部が長く大型のものである。断面は、長方形を呈する。

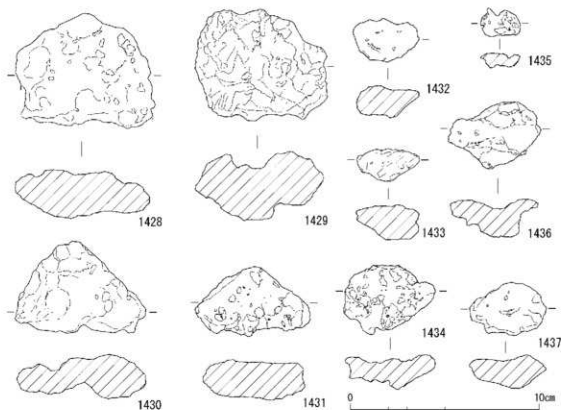
(M)1380は鏝である。「コ」字形を呈し片方の先端部を欠損する。残存長約9.5cmを測る。

(N)1382は又釘である。1点のみ出土した。「U」字形で先端が二段になるものである。

(4)鉄生産関連遺物(第86図1428~1437、図版第73)

鉄生産関連遺物としては、鉄滓・鉄塊・炉壁・鑪の羽口などがある。先述した小割した刀子・釘も含まれる。鑪の羽口は鉄の付着が認められないことや、先端部分を欠いており銅生産関連遺物に載せている。

鉄滓は10点図化した。いずれも碗型鍛冶滓である。表面に気泡が開いているものや、木炭が挟み込まれているものなどが認められる。最大のものは1428で重さ132g、最小のものは1432で重さ11.4gを量る。このうち鉄滓(第86図1428)、楔状製品(第81図1220)は鉄生産の関連を調査するため、株式会社新日鉄九州テクノリサーチに分析を依頼し以下の結果を得た。鉄製産関連遺物については、原料は砂鉄に由来する。楔状製品(第81図1220)は見た目よりもかなり重量があり鋳造品と考えていたが、鍛造品であり、鋳造品は認められず本調査地周辺では鋳造は行われていなかったことが判明した。鍛冶滓はいわゆる碗型鍛冶滓であり小鍛冶生産に伴うものであることが明



第86図 出土遺物実測図 鉄滓

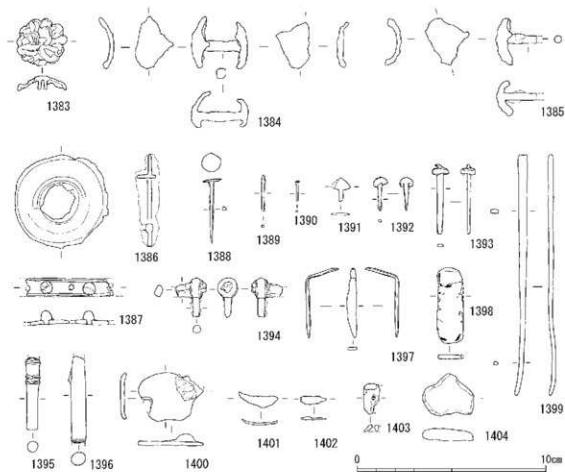
らかとなった。また、金属鉄が残る釘を分析したところ、原料は廃鉄器再生品が想定されるという結果を得た。

4) 銅製品

出土した銅製品には飾り金具・飾釘・鋸・箸・玉等がある。また生産関連遺物として鋳型、取銅、銅滓、原料銅、鑄の羽口、鋳型、炉壁等がある。

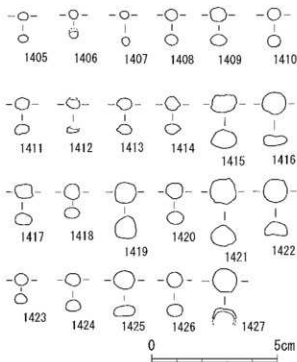
(1) 銅製品(第87図1383~1404、図版第72)

1383は傘型のもので内面中央部にピン状の固定部分が付く。傘全体の骨を左方向に振じったような平面形をなす。傘部分の直径2.4~2.65cm、高さ0.8cmを測る。1384・1385は棒状の両端部に傘型の三角形形状の飾り部分が付く。一体のもので、傘型の三角形形状部分の先端は爪状を呈し、挟み込んだものを固定するようである。1385も同様のものであるが一端の傘型部分を欠く。1386は直径4.9cm、中央部分に2.75cmの孔が開きドーナツ状の平面形をなす。中央部の孔には内面に0.5cm、外面に0.25cm、厚さ0.15cmの突起が回る。外面は1383のような別の飾り金具の取り付け部、内面は本体固定用のものと考えられる。1383の上面に取り付けられるような形状のものである。1388は銅釘で円形の大平頭のもので長さ3.3cm、頭部の直径1cm。1390は頭部がわずかに広がる釘である。頭部の整形、接合技法は不明である。1389は頭部を欠損する。1392は半円状の頭部を



第87図 出土遺物実測図 銅製品

もつ飾鉾である。長さ1.8cm、頭部の直径0.65cm。1393は半円状の頭部がやや凹み鉾である。長さ3.55cm、頭部の直径0.75cm。1398は薄い板状のもので全長4cm。1399は棒状のもので先端が細く元が太い箸状のものである。筭であろうか。全長12.8cm。素材であろうか。1387は飾り金具で幅約1cmの板状のものに1~1.5cm間隔の鉾でとめるもので鉾の直径は6mm、高さ5mmを測る。1394は直径1.05cmの環状の蝶番を作る。蝶番は端部を巻き込み整形し、0.5cmの細い鉄の棒状の軸を通し、鉄製部分が固定され銅製部分が可動するものと考えられる。取手取付部分などが考えられる。1397は細い板状のもので両先端が尖っているため固定するためのものと考えられる。全長



第88図 出土遺物実測図 銅玉

4.4cmを測る。1395は、直径0.55cmの棒状のもので、2か所の接触部分が観察できる。1396同様のものと考えられる。1396は1394・1395同様のものと考えられ、1か所の接触部分が認められる。1400・1401は円形の飾り金具と考えられるもので断面が皿状にやや窪む。1402も飾り金具の一部と考えられる小片である。1403は平面長方形をなすが、断面は半円状で中央部分に孔が見られる。飾り金具と考えられるもので一部を除き金銅貼りの可能性がある。1404は素材と考えられるもので、平面的な形状は1384・1385と似るが、厚さ・断面が異なり、重さ14.1gである。

(2) 銅玉(第88図1405~1427、図版第72)

銅玉については全体で約27点認められ、うち大半のものはS X 130より出土し、23点を図化した。1405~1426はいずれも銅製品である。錆により形がややいびつなものも認められるが、直径3.5~10mm、重さ0.1~1.0gを測る。仏具等の鈴の玉などの用途が考えられる。1427は内部が中空の玉である。1427は2/3を欠損するが、直径9~10mm、厚さ13mmを測る。

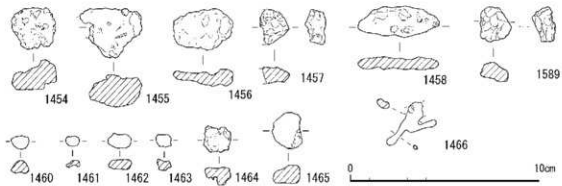
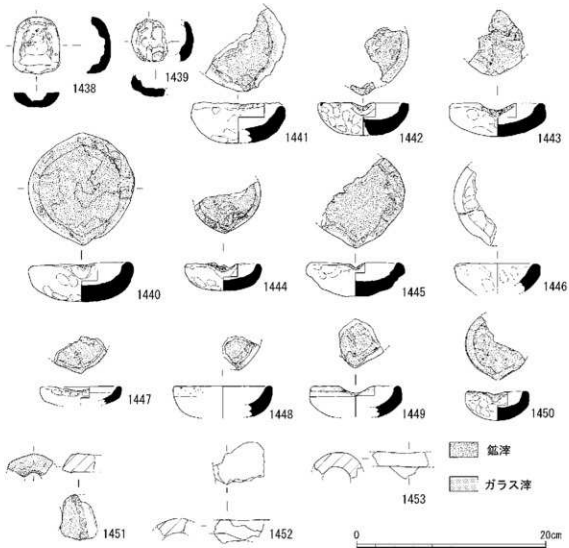
(3) 銅生産関連遺物(第89図1438~1466、図版第73)

鑄型・取鍋・銅滓・銅塊・輪の羽口・炉壁等がある。

鑄型(第89図1438・1439、図版第64)

図化した2点以外は砕けており復元できないが、曲面を持つため何らかの鑄型と考えられるものが多数認められる。1438は刀装具の足金物の鑄型と考えられるもので、S K 840から出土した。縦6.1cm、横4.9cm、厚さ1.6cmを測る。笠型部は五花形にした足金物である。脚部は鑄を立てるために深く彫り込まれている。型面は雲母片を含む土でなめらかに仕上げ、背面は丸く砂粒を多く含む。型の右側に△形の突起の型合わせがある。1439は縦4.5cm、横3.8cm、厚さ1.2cmを測る。

佩表側鍍金の鍍型と考えられる。やや不鮮明であるが柏葉を表し、鍍金の外側に型合わせの長方形の窪みが認められる。柏葉の上下が湯口と考えられる。いずれも型面はなめらかに仕上げ、赤褐色を呈する。背面は丸く砂粒を含み、雲母の細片が混じる。S X 130から出土した。



第89図 出土遺物実測図 銅生産関連遺物

取鍋(第89図1440~1450)は、小型品でいずれも器壁が厚く半円(球)状を呈する。胎土には粗い砂粒や粉殻が混入している。内面は溶解した銹滓が付着するため観察できないが、外面はナデ調整される。全体の大きさが分かるもので分類すると、3種類に分けられる。図化したものは11点であるが、他に細片や破片が約40点出土している。小型銅鍋品で製作に伴うと考えられる。

取鍋1は、1440~1443・1448は口径9~10cm以上、高さ3.3~4.2cmの大型のものである。1440はもっとも大型である。1442は底面がやや平坦に作られるが、1440はやや丸い。内面は黒色、緑青の銹滓が全面に付着する。

取鍋2は、1444~1447・1449は口径7.5~8.8cm、高さ2.9~3.3cmのものである。内面は黒色、緑青の銹滓が全面に付着する。一部は口縁、湯の注ぎ口まで覆っている。1446は未使用品と考えられる。

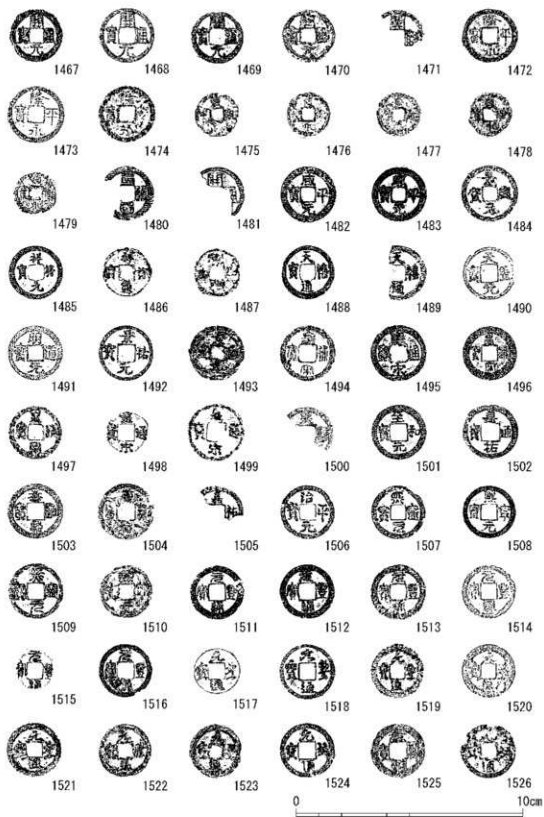
取鍋3は、1450は大きさのわかるものの中で、もっとも小型のものである。口径6cm、高さ3.2cm程度と考えられる。1450はもっとも口径が小さいものであるが、器壁の厚さは他のものとあまり変わらない。

鑪羽口(第109図1451~1453) 図化できたものは3点である。1451は先端、1453は先端付近、1452は元付近の破片である。全体の大きさが分かるものはない。1451は先端に青緑色のガラス質が付着し、炉内に装着されていたと考えられる。内径は1cmを測る。1453は先端付近と考えられ先端部を欠く。一部に青灰色に還元された部分が認められる。内径は1.5cmを測る。1452は送風管接合部付近と考えられる。内面の先端部側の内径に対して接合部付近は漏斗状に開いている。1453・1452とも銹滓の付着は認められない。1451はS K 971、1452はS K 884、1453は遺物包含層から出土した。

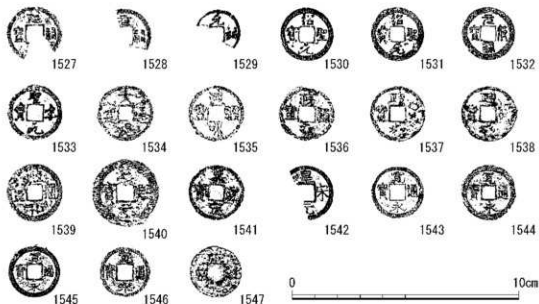
銅滓・原料銅(第89図、図版第73) 1454~1466は銅滓で14点図化した。表面に気泡が開いているものや、緑青に覆われたものがある。最大のものは1458で重さ3.4g、最小のものは1457で重さ3.2gを測る。1458~1465は銅塊で、最大のものは1455で重さ17g、最小のものは1461で重さ0.1gを測る。1466は銅滴で取鍋より湯口に注ぐ際にこぼれ落ちたものと考えられる。重さ3.1gである。

焼土・炉壁 整理箱約2箱出土している。大半が熱を受けて酸化し、赤褐色・橙色に変色している。大型の破片で10cm、大半のものはピンポン玉大で、中には1~2cm程度に破砕され細かくなったものもある。焼土・炉壁の胎土内には、スサ・土師器皿を混ぜるものが認められる。鍛冶炉や溶解炉の本体を構成していた一部である可能性がある。

銅生産関連遺物のうち、銅滓(第89図1454・1466)、銅玉(第87図1419)、取鍋(第89図1441)は銅生産の関連を調査するため、株式会社新日鉄九州テクノロジーに分析を依頼し以下の結果を得た。銅滓(1454)と考えていたものは原料銅であることが明らかとなり、流れた痕跡が残る銅滴(第89図1466)は鑄型に流し込む際に湯がこぼれたものであることが判った。取鍋・鑄型が出土していることから、一連の工程が復元できる結果となった。出土している銅原料には表面が角ばったものと丸いものがある。これは、出土した鑄型からもわかるように、小型品の鑄造を行うために小割りになっていたものと考えられる。



第90図 出土遺物実測図 錢貨(1)



第91図 出土遺物実測図 銭貨(2)

(4) 銭貨(第90・91図、図版第74)

銭貨は総数104枚が出土し、そのうち銘が判明したものは301種76枚である。このうち、1543～1546の寛永通寶を除くと29種72枚となる。大半は1～2枚で出土しているが、S K 336は10枚(1470・1486・1487・1493・1499・1510・1522・1523・1534・1536)、S K 440は3枚(1472～1474)が重なって出土している。初鋳年がもっとも古いものは開元通寶(唐621)で、寛永通寶を除くと、もっとも新しいものが皇宋元寶(南宋1253)である。北宋銭が大半であるが、隆平永寶(日本796)、淳熙元寶(南宋1174)、嘉定通寶(南宋1208・1210)がある。出土枚数も大半が1～4枚であるが、多く出土したものは貞觀通寶(5枚)、皇宋通寶(7枚)、元豐通寶(13枚)がある。出土遺構としてもっとも多いのはS X 130(12枚)、S K 336(10枚)、S K 126(6枚)である。

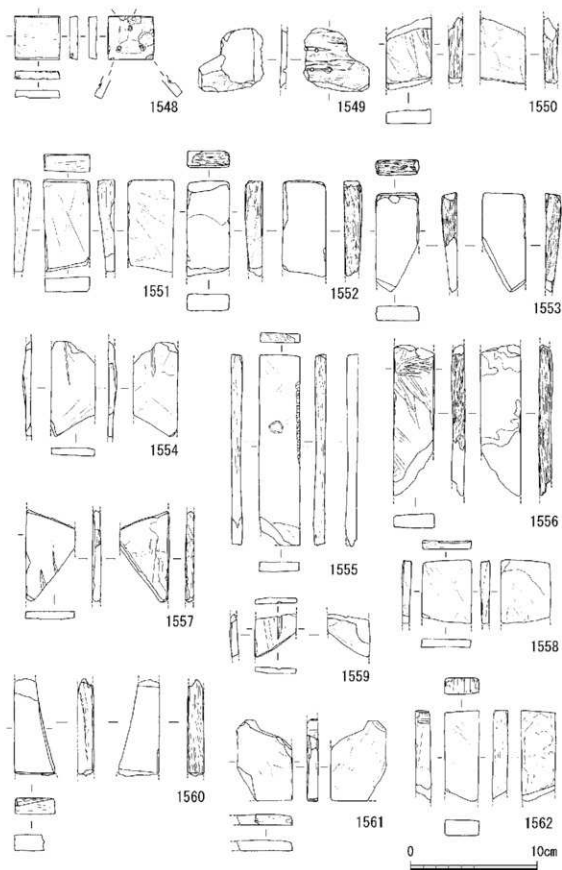
鉄銭(第91図1547、図版第71)はS P 69より出土した。径2.2cmを測る。X線写真でも銘は確認できなかった。日本国内で鉄銭は元文4(1739)年から使用されており、寛永通寶と考えられる。

(増田孝彦)

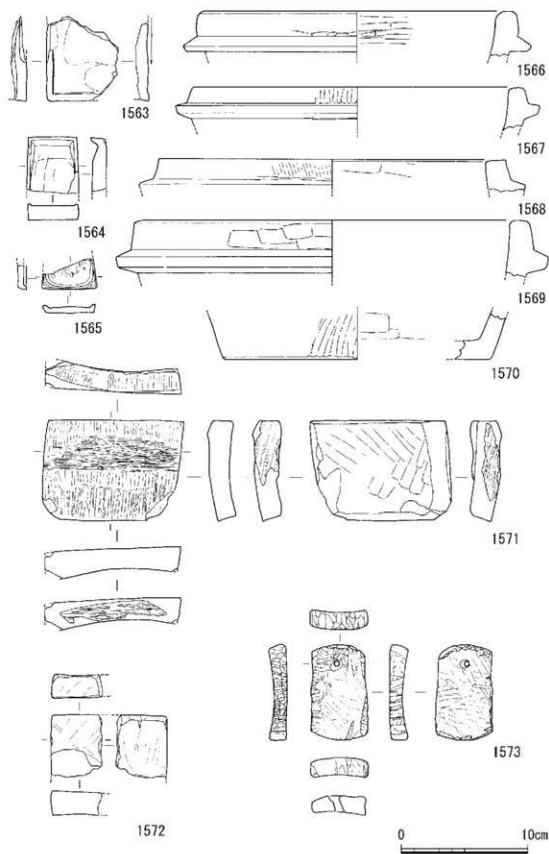
(5) 石製品(第92～96図1548～1594、図版第75～78)

図示した石製品は、巡方1点、その未成品1点、扁平板状砥石18点、その他の砥石類10点、滑石製石鍋5点、その転用品3点、磨き痕のある礫1点、穿孔をもつ軽石1点、結晶片岩の剥片4点、原石2点、一石五輪塔1点である。

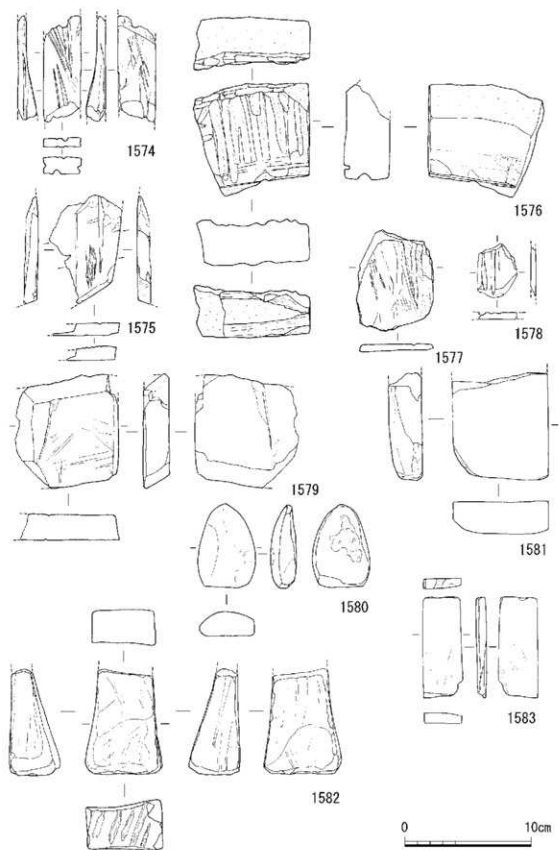
1548は巡方である。漆黒の石材を用いている。表面および側面は研磨され、とくに表面は鏡面のごとく光沢がある。裏面に潜り穴が3か所に穿たれている。1549は、巡方と見られる断片である。淡緑灰色の滑石製で、表面の一部によく研磨された面をとどめ、裏面には潜り穴の穿孔を試みた痕跡が見られる。1550～1558・1561・1562・1574・1575・1583・1585は扁平な板状砥石であ



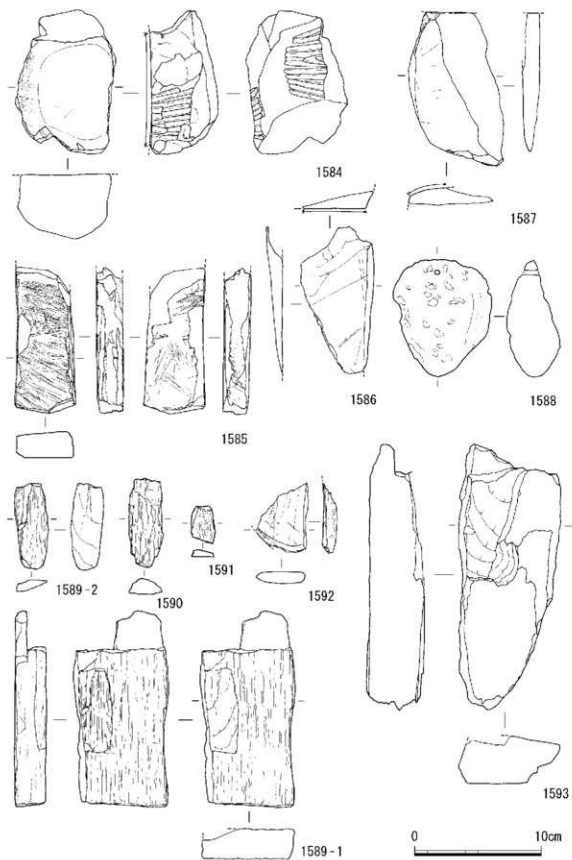
第92図 出土遺物実測図 石製品(1)



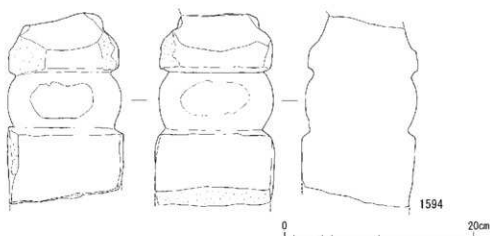
第93図 出土遺物実測図 石製品(2)



第94図 出土遺物実測図 石製品(3)



第95図 出土遺物実測図 石製品(4)



第96図 出土遺物実測図 一石五輪塔

る。淡灰褐色を呈する頁岩ないし粘板岩裂である。両面または片面に、滑らかな磨き面や「V」字形に彫られたような刃物傷が観察されるものがある。また両方あるいは片方の側面は、擦り切りによる切断面となっている。1560は扁平な板状の砥石が分離された一方の残片である。白灰色の頁岩ないし粘板岩である。これら扁平な板状砥石のうち幅・厚さの分かるもの12点(1550～1558、1562・1574・1583)は、幅が3.2～4.4cm、厚さが0.6～1.3cmで、その平均値は3.4cm・1cmを測る。法量・形状に規格性があり、1548の巡方の法量値に近いことから、巡方素材の可能性も考えた。しかし潜り穴のための穿孔の痕跡が見られない。薄く剝離する頁岩ないし粘板岩では潜り穴の強度不足で装着に耐えないからであろう。さらに頁岩裂の巡方は長岡京跡、平安京跡でも例はなく、巡方の素材と考えるのは困難である。

1576は厚みのある方形の砥石で、表面全体に断面半円形の溝状になった砥ぎ痕が並行して認められる。溝の幅は0.5～0.9cmを測る。棒状のものを研磨したようである。1579・1581は扁平な方形で砥石の素材である。1579には刃物傷がつけられ、砥ぎに使用されたと思われる。1580は表面が滑らかに磨かれた小円礫である。用途はわからない。1582は上部を欠損しているが、厚みのある方柱形の砥石である。中間部は研ぎ減りが顕著である。1584は平坦な表面に滑らかな砥面が見られ、側面および裏面に筋状の加工痕が見られる。1585は形の整った方柱形の砥石である。表裏面に顕著な研磨による線状痕が縦横にはしり、使い込まれたことがわかる。1577・1578・1586・1587・1592は、滑らかな砥面および顕著な刃物傷を有する砥石の断片である。以上の砥石類は多様な形態を有し、さまざまな手工業の職人により使用されたものも多かったと推察される。

1588は表面上部に小さな穿孔をもつ軽石である。浮子として使われたものであろう。1589～1593は結晶片岩の剥片(1589-2・1590～1592)と原石(1589-1・1593)である。剥片は、比較的鋭利に剝離された一辺を用い、砥石などの擦り切りに用いられた可能性がある。1563～1565は石製硯の断片である。1566～1570は滑石製石鍋の口縁部(1566～1569)および底部(1570)の断片である。1572・1571は滑石製石鍋の破片をそれぞれ砥石(1572)と温石(1571)への再利用を試みたものである。1573は滑石製石鍋の破片を温石に仕立てている。上部中央に小さな穿孔がある。1594は一石

五輪塔の断片で、火輪から地輪の部分である。

(黒坪一樹)

6) 漆製品

烏帽子 S K371からは大型の烏帽子1点、S K775から小型のもの1点、S K251周辺から小型のもの1点が出土した。出土した時より非常にもろく、保存処理を実施したため図化できていない。

漆器 S K423からそれぞれ1点ずつ皿が出土しているが、土圧で平坦化し非常にもろくなっており、保存処理を行った。全面黒漆塗りであり内面に赤漆が残る。

7) 木製品

木製品には井戸部材や土坑内に用いられていた杭・板材がある。

井戸部材 横板・横桟木・桶・水溜めの曲物などが認められた。遺存状態は非常に悪く、S E 958の桶に至っては表面が薄い皮状に残っているにすぎなかった。

土坑内部材 横板・底板・杭がある。S K336・604・605・775は良好な出土状況であったが、井戸部材同様、表面が薄い皮状に残っているにすぎなかった。井戸、土坑内部材とも酸化物の付着が多く、一般社団法人文化財保存科学研究センターの同定によると針葉樹を利用していることが判明した。一部を除き樹種を特定することはできなかったが、大半のものはスギ・ヒノキと考えられる。

8) その他の遺物

金箔 S K126から細片や塊として出土した。塊として出土したものは、重さ0.07gを測り、丸められた状態で出土している。

水銀 S K200より出土した。約1.6gを採集できた。

9) 動物遺体

動物遺体は微細なものから形状の分かるものまであり、精査中や遺構からも出土した。大半は魚類である。一般社団法人文化財保存科学研究センターに同定を委託した。その結果によると、出土した動物遺存体は、魚類・哺乳類である。魚類は全て食用になるものであり、大部分が被熱して白色を呈する。食用とした後に、炉など火中に投棄することで長時間被熱したため変色したと考えられる。淡水魚はナマズ属のみであり、その他は海水魚が圧倒的である。海水魚のエイ・サメ類・ハモ属・ズズキ・マダイ・キダイは、平安京内の近世遺構で一般的に出土するものであるが、サメ類の歯が出土することは稀である。すなわち、サメ類が頭部を含めて市中に持ち込まれたことを示している。哺乳類は、ネコ、ウマ、ウシ、イノシシ、ブタ、シカは食用と考えられるが、その他は食用かどうか定かではない。

10) 植物遺体

種子 少量の種子が出土した。すべてモモである。

木炭 精査中や遺構内からは微細なものからS K777で出土したような拳大の大きなものまで多数認められたが、大半は米粒大の細片である。樹種は不明である。

(増田孝彦)

5. 総括

1) 13世紀から15世紀に至る時間軸の設定

今回の調査では、土師器集積土坑を中心に多量の土師器皿が出土した。検出遺構の章で見たように、意図的に埋納されたと判断されるものが大多数を占めるが、先行する土坑を掘削することで混入したものも認められる。しかし、土坑への埋納行為を考慮したとき、その中から出土した遺物の同時性は確かなものと判断できる。

そこで、集積土坑出土の土師器皿の編年観で整理すると、S K 972→S K 825→S K 287→S K 336→S K 200→S K 126→S K 604・605の順に古→新となる。

S K 972は第3調査面で検出したもので、口縁部に2段ナデを施す。大皿・小皿ともに口縁端部をナデによって面取りする。

S K 825は第3調査面で検出した。口縁部に2段ナデを施し、口縁端部はナデにより面取りを行う。口径が小さく、口径に対して器高が小さくなり、浅い印象をもつ。

S K 287は第2調査面で検出した土坑である。大皿・小皿ともに端部は上部に突出するが、口縁部に2段ナデを施すタイプのもとの口縁部の下位でやや外反するものがある。

S K 336は第2調査面で検出した土坑である。この段階でいわゆるへそ皿が出現する。大皿・小皿ともに口縁部の下位で外反が強くなり、底部から直線的に外反するものもある。








































S K 200は第2調査面で検出した。大皿・小皿ともに底部から直線的に外反して延びるもので、口縁端部下位が肥厚化する傾向にある。

S K 126は第1調査面で検出した土坑である。大皿・小皿ともに底部から直線的に外反し、口縁部の下の外反が強くなる。

S K 604・605は第2調査面で検出した。へそ皿もまた口縁端部下位で外反するものがあり、大皿・小皿ともに口縁端部下位が肥厚する。

これら各土坑の年代は、S K 972が13世紀前半、S K 825の年代は13世紀中葉、S K 287が13世紀後半、S K 336が13世紀末～14世紀初頭、S K 200が14世紀前半、S K 126が14世紀後半、S K 604・605が14世紀末～15世紀初頭と判断される。

(福山博章)

土坑番号	出土土師器		
S K 972			
			
S K 825			
			
S K 287			
			
S K 336			
			
S K 200			
			
S K 126			
			
S K 604・605			
			

第97図 土坑出土土師器時期別分類

2) 土坑の分類とその性格(第98図)

調査地全域で土坑230基以上を検出した。今回の調査で特に注目されるのは、土師器皿を大量に埋納した土坑で、総数は100基以上を数える。これらの土坑は、1mを超える大型のものや数十センチの小型のものまであり、平面形は長方形、方形、円形、楕円形、不整形など様々である。検出高については浅いもの、深いものがあるが、削平を受けていると考えられるため、本来の検出高はよくわかっていない。

これらの土坑に共通するのは、土坑内から大量に土師皿が出土している点で、土坑埋土の上半もしくは底面近くまでは破片が多く、下半もしくは底面では完形の土師器皿が据え置かれた状態で出土する。上半の土師器皿の破片は、断面図で観察すると土坑底面の中心に向けて傾斜して堆積している。土坑底面に土師器皿と木箱状のものが置かれ、土師器皿を細かく割られて土砂と共に埋め置かれ、木箱状のものが腐朽した際に空間が土砂により押しつぶされ、上位の土師器皿片が斜めに陥没したものと判断される。

しかし、実際の調査においては、掘削の際に既存の土坑を壊したため埋土に多数の土器片が混入したものや、土師器片が多数埋納された大型の柱穴などと明確に分けることは困難である。その実数についてはわからないというのが実状である。これら土師器を多量に埋納した土坑と同様の遺構には、埋甕土坑がある。

ここでは、土師器集積土坑および埋甕土坑の性格を検討するため、以下のように大きく4タイプに分類して検討する。例示した遺構には、本文中で図示していない遺構も含めている。

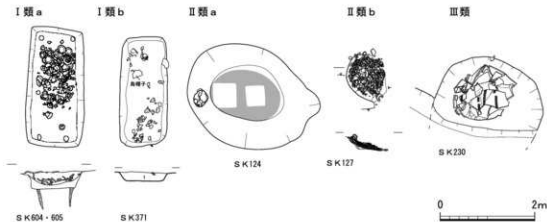
I. 大型で長方形の平面形を呈するもの。主軸はおおむね正方位をとる

- a. 杭・板材を土坑の側面に置くもの
- b. 杭・板材がないもの

II. 小型の土坑

- a. 箱・曲物を土坑底面に置くもの
- b. 箱・曲物の存在が不明なもの

III. 大型の甕を中心に埋納したもの



第98図 土師器集積土坑の分類(1/80)

IV. その他

I aにはSK336、SK604・605などがある。SK336、SK604・605は、隅に杭を打ち込み横板で側面を固定している。SK336は、検出面から土坑中位付近までは甕片や破損した土器や石材が多く含まれ、埋め戻されたような状態を示すが、断面では土坑上に板が存在していたようで、中位付近で中央に向かって斜めに堆積する状態が観察された。検出面では土坑掘形の外側まで土器が散乱していたが、掘形内では側壁付近で遺物の出土が認められず、この板を境に下層出土遺物は中央部分がやや斜めに堆積し最下層は水平堆積をなす。SK604・605は最下層のみ水平堆積で、それより上層は中央部に向かって斜めに堆積する。板等で蓋をして内部に空間を設けており、その蓋の上に盛り土状に掘削された土砂が置かれ蓋の腐朽に伴い内部に落ち込んだものと推定される。SK972は方形の平面形を呈し、横板で側面を固定している。底板は確認されなかったが、底面に土砂を充填し平坦化した後、土器を並べている。SK775は、蓋板・側板・底板を持ち、箱状(棺)のものが埋置されていたと推定できるものである。土師器皿の出土量は少ないが、烏帽子が箱の外側から出土している。

I bにはSK200、SK287、SK371、SK678、SK842など、方形の平面形を呈するものが多い。SK287はSK604・605と同様な形態であるが、SK678は中央より西側に瓦質土器羽釜(下半を意図的に欠く)を正位で備え付ける。甕を埋納したものにSK842がある。SK371からは烏帽子が出土している。

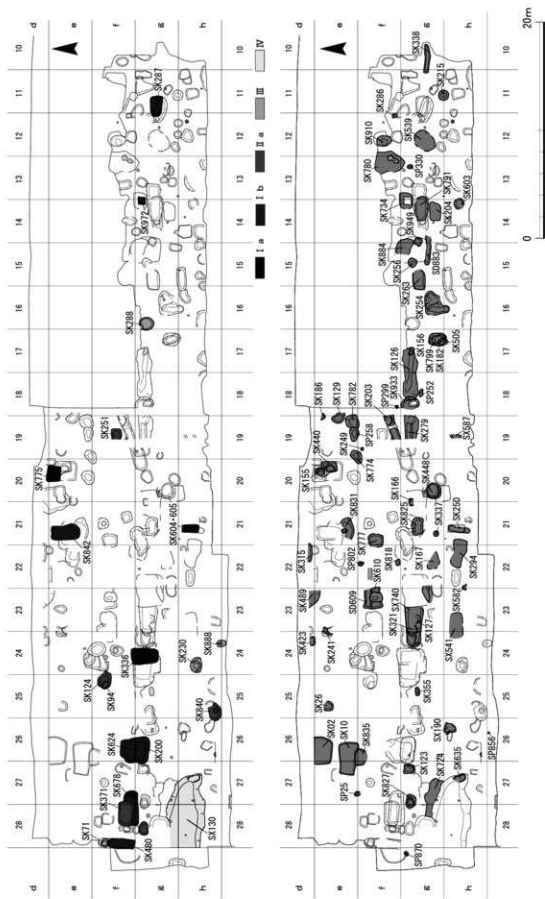
II aにはSK124、SK125、SK251、SK840などがある。SK124底面には灰が敷かれており、方形のものが置かれた痕跡が認められる。SK125は石が方形に組まれていた。SK203は完形の土師器が方形を呈するように出土し、箱に収められていた可能性がある。SK251は底面に灰が敷かれ、底面近くに方形区画があり、箱状のものが置かれていたと考えられる。SK840はSK251のように底面近くに区画はないが、方形の周囲に比べて土師の少ない部分が認められることから、箱状のものが置かれていたと考えられる。

II bは箱状のものが認められないもので、大型のものから小型のものまで様々である。方形土坑については、ほぼ正方位に近い主軸をもち、大型のSK777と小型のSK423がある。SK126・127は平面形が円形のもので、規模は大小様々なものが認められる。平面形が不整形なものには、SK254・841・884などがある。

IIIにはSK71、SK94、SK202、SK842がある。甕・羽釜を埋納する土坑で、SK230を除いて甕片等による蓋は確認できなかったが、木蓋の存在も考えられる。長方形土坑内からも甕が出土するSK842のようなものもある。

IVにはSX130がある。SX130は長辺7.32m、短辺3.54mと大型のもので、検出高0.35mと浅い窪み状のものである。浅い窪みに土師器皿を埋納したものと判断される。

これらの土師器集積土坑の性格については、過去の東本願寺前古墓群の調査では、古墓と報告されているが、今回の調査も含めて人骨の出土が認められていない点で確認を欠くものである。周辺の調査例からすると、墓の形態には、木棺墓、土壙墓、蔵骨器、埋壙、河原石を積み上げる



第999図 土器器集積土坑分布図(1/350)

もの、多量に土師器皿を埋納するものなどが墓と報告されている。このことを参考に、今回検出した遺構の内容を検討すると、I aは、その規模や木棺の残欠と考えられる板材の出土から、木棺墓と判断される。またI bには烏帽子が出土するものがあることから、その構造はI aの木棺の省略形である。または、木質が残存していないものと判断することができなであろうか。このように考えると、I bは木棺墓もしくは、土塋墓と判断されよう。

付表2 土坑時期別分類

標識土坑	時期	土坑分類					
		I		II		III	IV
		a	b	a	b		
S K 972	13前半	SK972			SK337		
S K 825	13中葉				SK777 SK782	SK842	
S K 287	13後半		SK287 SK480 SK678 SK842	SK124	SK423 SK609 SK610 SK620		
S K 336	13末～14初	SK336		SK840	SK884		
S K 200	14前半		SK200 SK371 SK624		SK02 SK120 SK841		
S K 126	14後半			SK251 SK354	SK125 SK126 SK203 SK254 SK779	SK71 SK230	
S K 004・ 605	14末～15初	SK004・ 605			SK127 SK186	SK94	SX130

II aについては、土坑の中に何らかの容器が納められ、容器の周囲もしくは容器の中、蓋の上に土師器皿の完形品が据え置かれ、多量の細片とともに埋め戻されたものと復原できる。木箱などの容器が設置されていたことはほぼ間違いなく、何らかの収納が想定され、骨を納めていた可能性もあるが、確証はない。

II bは調査で最も多く検出されたものである。土師器の細片が傾斜して堆積しており、痕跡を認められなかったII aのものも含まれていると推定される。しかし、SK125は、断面観察では数度にわたって斜めに流し込まれた、もしくは数度にわたって掘り返してその都度斜めに流し込まれた状況を呈するものもあり、II aとは異なる堆積状況を呈する。これらは完形品を含んで多量に土師器皿を埋納していることから、祭祀に関わる可能性が高いと考える。具体的には、祭祀に伴う埋納や祭祀で使用した食器の廃棄などが想定されるが、骨片を直接納めた墓塋である可能性も否定できない。

IIIについては、中心に埋置された土器が藏骨器と判断されることから、土器棺墓と捉えられよう。意識的に底部を打ち欠いたものや、底部付近のみ利用するもの、大型甕片を縦に並べるもの、破損した甕2個体以上を横置きして利用するものなど、様々なものがある。これらは直接藏骨器として利用された可能性もあるが、木櫃等を入れた外容器の可能性もある。

IVのSX130については、多種多様な遺物が出土していることや、ほかの土坑に比べて規模が大きいこと、廃棄のための土坑である可能性がある。

第99図は土師器皿集積土坑の分布をタイプ別に表示したものである。これを見ると、墓と判断できるI・IIタイプは調査地の南西部に分布している。これは一町内のほぼ中央部に相当し、東

西・南北の通りに面した屋敷地の背後に相当する範囲である。いわば、屋敷に囲まれた裏側の空間部分に、多分に屋敷墓的な様相で墓が造られたものと推測される。検出された遺構・遺物から見ると、この空間地には14世紀代に富裕層と考えられる少数の木棺墓や土墳墓が建物に隣接して造られ、いわば屋敷墓として土地利用されたようである。ほぼ同時期にⅢタイプの土器棺墓が造られているが、階層差や職業の差を反映しているのかもしれない。

一方、Ⅱタイプの土器集積土坑は13世紀初頭以降、連綿と造られており、調査地のほぼ全域に分布している。これを墓とするならば、その分布は調査地の全域に及ぶことから、ほぼ全域が共同墓地的なものになったと考えられる。しかし、3節で見るように、鉄滓等の分布から、鍛冶工房の位置は全時期を通じてほぼ同じ場所を占めていたと推定されることから、Ⅱタイプの土器集積土坑すべてを墓と捉えるのは不都合である。

確証はないが、これらを祭祀遺構とするならば、13世紀代以降に急激に造り続けられることは、多数の人々が突如としてこの周辺に集住し始めたことを契機とした蓋然性が高く、今回の調査地が職人町に組み込まれたのは13世紀以降と言えるのでないだろうか。

(増田孝彦・福山博章)

3) 鉄釘・鉄滓・炉壁・銅滓の分布(第100図)

調査に伴い、土器以外の遺物も多数出土した。生産関連の遺物の出土が特筆され、包含層や遺構の掘削土の中から出土している。ここでは鉄釘・鉄滓・炉壁・銅滓の分布状況を検討したい。

第100図は、調査地の4m方眼の地区割り内から遺構精査中に出土した鉄釘・鉄滓・炉壁・銅滓を表したものである。鉄釘は出土点数の多寡を濃淡で示したが、鉄滓・炉壁・銅滓については、出土点数が鉄釘に比して少ないため、出土の有無を示しただけで、量の多さを表したのではない。

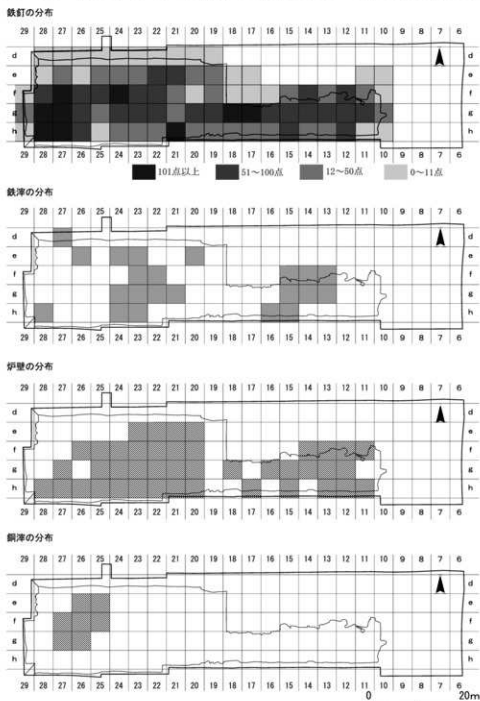
鉄釘は、使用されて変形したものや未使用品・未製品も含まれており、総数は約4,500本以上に達する。鉄釘の分布を見ると、鉄釘は少なくとも3か所で濃密に出土する地区が認められる。特にg27地区周辺が最も大きく、次いでg17・18地区周辺、f24地区周辺と続き、12～15ライン付近にも広く分布している。g27地区を中心とした部分は、北・東に向かうにつれて釘の出土数が減少していく。釘が集中して出土する範囲は、鉄素材の再利用を目的とした鉄製品の集積場、もしくは釘が用いられた木製品の捨て場であった可能性が考えられるが、大型の釘が認められないことや木質部分がほとんど遺存していないことから、建築部材の捨て場とは考えにくい。

鉄滓の分布も大きく2か所にまとまる。g23地区周辺とg15地区周辺である。炉壁はほぼ全面に分布しているが、f・g28地区、e～h19地区にわずかに空白地が認められる。銅滓は、f26地区周辺の限られた範囲にのみ分布している。

鉄釘については、再利用が可能であるため、上述のように貯蔵に伴うものと判断される。一方、鉄滓・炉壁・銅滓はいわばゴミであるため、使用後に廃棄されたのであろう。これら廃棄物は、廃棄される場所が定まっていたとも考えられる。しかし鉄釘のように貯蔵されていたものが、それ以外のもののように廃棄されたものであろうが、いずれもある場所に集中して貯蔵・廃棄された

モノと言え(貯蔵穴や廃棄土坑)、その周辺で土坑や柱穴などが幾度も掘削・埋め戻しされ、整地や土取りが行われたりすることで、周囲にそのモノが広く拡散し、最初に集中していた場所を中心に広く拡散して出土すると考えられる。このようなプロセスで各遺物が拡散して分布したと仮定し、工房の位置を復原してみたい。

鉄滓・炉壁・銅滓などのゴミは、敷地の中の重要でない所に廃棄されるであろうから、分布の無い空白地に工房があったものと想定できる。鉄滓と炉壁の分布を重ねると、e・f 27~29、g 28・29とe~h 27・28地区、e~h 19地区がその候補となる。一方、鉄釘は鉄素材として貯蔵



第100図 各種遺物の出土分布

されたと推測されるため、工房内に近い所に貯蔵されたと考えられる。先の想定では3か所であったが、f～h 27・28地区とf～h・16～19地区に工房が存在したものと復原できる。

後述のように、調査により最も新しい時期の掘立柱建物を2棟復原できた。これらは簡素な建物であり、作業小屋程度のもつと判断された。このうち西側の掘立柱建物1は、ここで復原した工房が存在した場所とほぼ合致した場所で検出している。

鉄釘や鉄滓等はこの建物以前に堆積したものであり、直接には関係しない。しかし、鉄滓・炉壁・銅滓の分布を検討すると、この調査地の中においては、工房の位置が上述の3か所に限られることは明らかである。このように考えると、掘立柱建物1は鍛冶工房であった可能性が高いと言える。そして、この位置は銅滓の分布範囲の横にある空白地に合致している。銅滓もまた工房の横に廃棄されたとするならば、掘立柱建物1が鉄と銅を扱った工房であった可能性も指摘できるのである。

上述のように、鉄釘・鉄滓・炉壁・銅滓の分布を検討すると、工房は基本的に同じ位置を踏襲しながら造り替えられたと言える。そうすると、調査地中央で検出した多数の柱穴群は、直接、鍛冶工房に関係の無い建物であったと推定される。東側の掘立柱建物2については、工房の推定地からやや離れた位置にあるので、直接、工房とは関係の無い建物であったと言えよう。

4) 土地利用の変遷

今回の調査では主に平安時代から室町時代にかけての遺構を検出したが、特に、鎌倉時代後期から室町時代中期の遺構が大半を占める。全時期を通じて、遺構の大半は土坑と柱穴であり、わずかに井戸、溝を検出した。

平安時代の明確な遺構は確認できなかったが、わずかに緑釉陶器・須恵器などの遺物を検出した。この時代の遺構の可能性のあるものとして、調査地の南東部に柵列1条(柵列1)を復原できた(第101図)。これらの柱穴からは明確な遺物は出土しなかったが、第4調査面で検出したことから、この時期のもつと判断した。南側の左京八条三坊九町跡の調査では平安時代後期の宅地跡が検出されており、それ以前の前・中期の遺構・遺物は確認されておらず、後期の段階以降に土地利用が開始されたと推定されている⁽²⁸⁾。その成果に依るならば、後期のもつと判断される。この柵列は正方位を向いていないが、九町域を四行八門で区画した時の北3門と北4門の境界に近似する。時間的には大きく隔たるが、平安京の土地区画をこの時代にまで踏襲していたとも考えられる。これ以外の遺構については確認できず、鎌倉時代以降の土地利用のため、この時期の遺構が削平されたものと考えられる。

鎌倉時代～室町時代にかけては、土師器集積土坑を中心とした遺構がほぼ全面で検出された。土師器集積土坑はこの期間を通じて造られている(1～3節参照)。柱穴や溝は調査地のほぼ全域で検出した。柱穴は掘形を有するもののほか、根石を納めた規模の小さな柱穴があり、その掘形が削平されて根石だけが遺存していると判断される遺構も多数検出した。これらの柱穴は土師器集積土坑などと重複し、多くのものが削平されたと推定されるため、建物跡に復原できるものは皆無である。

れたと推測されるため、工房内に近い所に貯蔵されたと考えられる。先の想定では3か所であったが、f～h・27・28地区とf～h・16～19地区に工房が存在したものと復元できる。

後述のように、調査により最も新しい時期の掘立柱建物を2棟復元できた。これらは簡素な建物であり、作業小屋程度のもつと判断された。このうち西側の掘立柱建物1は、ここで復元した工房が存在した場所とほぼ合致した場所で検出している。

鉄釘や鉄滓等はこの建物以前に堆積したものであり、直接には関係しない。しかし、鉄滓・炉壁・銅滓の分布を検討すると、この調査地の中においては、工房の位置が上述の3か所に限られることは明らかである。このように考えると、掘立柱建物1は鍛冶工房であった可能性が高いと言える。そして、この位置は銅滓の分布範囲の横にある空白地に合致している。銅滓もまた工房の横に廃棄されたとするならば、掘立柱建物1が鉄と銅を扱った工房であった可能性も指摘できるのである。

上述のように、鉄釘・鉄滓・炉壁・銅滓の分布を検討すると、工房は基本的に同じ位置を踏襲しながら造り替えられたと言える。そうすると、調査地中央で検出した多数の柱穴群は、直接、鍛冶工房に関係の無い建物であったと推定される。東側の掘立柱建物2については、工房の推定地からやや離れた位置にあるので、直接、工房とは関係の無い建物であったと言えよう。

4) 土地利用の変遷

今回の調査では主に平安時代から室町時代にかけての遺構を検出したが、特に、鎌倉時代後期から室町時代中期の遺構が大半を占める。全時期を通じて、遺構の大半は土坑と柱穴であり、わずかに井戸、溝を検出した。

平安時代の明確な遺構は確認できなかったが、わずかに緑釉陶器・須恵器などの遺物を検出した。この時代の遺構の可能性のあるものとして、調査地の南東部に柵列1条(柵列1)を復元できた(第101図)。これらの柱穴からは明確な遺物は出土しなかったが、第4調査面で検出したことから、この時期のもつと判断した。南側の左京八条三坊九町跡の調査では平安時代後期の宅地跡が検出されており、それ以前の前・中期の遺構・遺物は確認されておらず、後期の段階以降に土地利用が開始されたと推定されている⁽²⁸⁾。その成果に依るならば、後期のものと判断される。この柵列は正方位を向いていないが、九町域を四行八門で区画した時の北3門と北4門の境界に近似する。時間的には大きく隔たるが、平安京の土地区画をこの時代にまで踏襲していたとも考えられる。これ以外の遺構については確認できず、鎌倉時代以降の土地利用のため、この時期の遺構が削平されたものと考えられる。

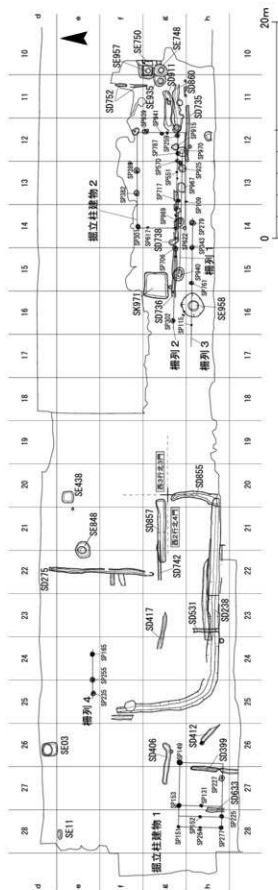
鎌倉時代～室町時代にかけては、土師器集積土坑を中心とした遺構がほぼ全面で検出された。土師器集積土坑はこの期間を通じて造られている(1～3節参照)。柱穴や溝は調査地のほぼ全域で検出した。柱穴は掘形を有するもののほか、根石を納めた規模の小さな柱穴があり、その掘形が削平されて根石だけが遺存していると判断される遺構も多数検出した。これらの柱穴は土師器集積土坑などと重複し、多くのものが削平されたと推定されるため、建物跡に復元できるものは皆無である。

そのような遺構の検出状況であったが、第1調査面と第15調査面において、小規模な掘立柱建物を調査地の東側と西端で復原することができた。これらは根石の残る小柱穴で構成され、土師器集積土坑に切り勝つものである。こういった検出状況から、今回の調査で検出した遺構の中で最も新しい時期のものであり、15世紀初頭以降のものだと判断される。

調査地東側で検出した掘立柱建物2は東西4間分、南北2間分を検出したが、南北は北側が攪乱部分に延びていくため不明である。これらは根石が小さいことから小規模な建物、小屋や作業場、簡単な倉庫であったと考えられる。周囲に簡単な柵列2・3が復原できた。

調査地の中央部では、根石の入った柱穴で、東西方向の柵列4を復原できた。これらは土坑に切られており、部分的な検出に留まったものと推測される。建物が復原できなかったため具体的な様相は不明であるが、柱穴と土坑が複雑に重複する関係が認められることから、建物と土坑が重複しつつ同じ場所で作り替えられたものと推測される。3節で見たように、この範囲には鉄銅関係の工房が存在したとは考えにくい。工房以外の小規模な建物が各所に散在し、その空閑地に土師器集積土坑が造られるというような土地利用が繰り返されたと考えられる。

溝は調査区西側部分と東側部分で検出した。南北方向の溝 S D 275・855、東西方向の溝 S D 857、「L」字形に曲がる溝 S D 238はほぼ南北・東西を向いている。これらの溝は、土坑、特に土師器集積土坑との



第101図 掘立柱建物・柵列等主要遺構分布図

重複関係がほとんど認められない。このことは、これらの溝が区画溝として機能しており、土坑が造られなかったものと考えられる。溝部分にはS D857とS D238の間は4m程度の空開地が東西に連なり通路状にも見えるが、柱穴がこの空開地で検出できていることから、通路ではなかったと推測される。ちなみに溝S D855・857の交点付近は四行八門の西2行北4門の北東隅にあたり、先ほどの櫛列と同じく、平安京の土地区画を踏襲し続けていたものと推測される。

井戸は調査区北側と東側で検出した。調査区北側のd・e地区で検出した井戸はS E03・11・438・848がある。平安京七条大路南側溝より35m付近に位置しており、七条大路に面して建ち並んでいた宅地に付属する井戸と考えられる。

調査地の東側の井戸は、f・g10・11地区で検出した井戸S E750・748・935・957と、g・h15・16地区で検出した井戸S E958・971がある。井戸S E750・748・935・957はほぼ同一地点で重複関係を有しており、こういった検出状況から、井戸を掘り直して長期間にわたって使用されたものであり、炊事空間として固定されていたようである。これらの井戸は烏丸小路西端より21m付近に位置しており、h15・16地区で検出した井戸S E958・971は烏丸小路より約35m離れている。これらの井戸は烏丸小路に面した宅地に付属する井戸と考えられ、屋敷の背後にあたる西側に設けられた井戸と推測される。

平安京内では、町内の空開地に耕作地を設けた事例も存在するが、調査地では小規模な建物が点在していること、先述のように、調査地各所より炉壁、鉄滓などの手工業生産に伴う廃棄物が出土していることから、耕作地には不向きであったと考えられる。

以上のような状況から、調査地である左京八条三坊九町の中央部分、一町内の内部は溝や櫛列により区画され、各所に作業小屋のような小規模な建物が存在したものと考えられる。井戸は、七条通りや烏丸小路に面する宅地の背後に付随するものと判断され、屋敷の背後にはI・Ⅲタイプの土坑が墓として造られ、性格については不明な点を残すが、土師器集積土坑のような祭祀に関わる遺構が頻繁に造られたものと考えられる。

(増田孝彦)

5) 出土土器について

今回の調査で出土した土器は鎌倉時代から室町時代の土器が主体である。多量の土師器皿の他に、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、常滑、備前産などの国産陶器、青磁、白磁などの貿易陶磁器が出土していることから、中世京都の近隣、遠隔地から多様な土器がもたらされていた状況が確認できた。一方、平安時代前・中期の遺構は確認できなかったが、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器が出土した。特に、S P652から出土した定窯・刑窯系の白磁碗は8世紀～10世紀の初期貿易陶磁器である(第71図1053)。

今回の調査では数多くの土師器皿の集積土坑を確認し、土坑から鑄造関係と思しき遺物が出土している。

土師器皿の集積土坑では、土師器皿に混じって瓦器が出土した。個体数は少ないが、その出土状況が目目されるものがある。S K777では大量の土師器皿に混じって小型瓦器碗が土坑の中央

付近から掘えられた状態で出土した(第42図)。この瓦器碗は口縁部を打ち欠いていることから(第53図200)、密教法具である六器として使用された可能性^(文献3)がある。S K 287では同じく小型瓦器碗1点(第60図639)とともに、瓦器皿2点(第60図640・641)が出土した。小型瓦器碗の出土状況は残念ながら確認できなかったが、瓦器皿は土師器皿が集積する範囲の両端に置かれており(第36図)、儀礼上の何らかの意味があった可能性がある。S K 777とS K 287の事例からは、大量の土師器皿とともに、瓦器を意図的に選別し、埋納を行っていた可能性が指摘できる。

また、S K 200(第58図488～490)などで出土した丸底小鉢は、油煙を集める土器であると指摘されており、墨づくりなどに用いられたと考えられている^(文献4)。しかし、これらの土器は、銅・鉄の工房であったと考えられる掘立柱建物1の付近に集中して出土しており、調査地近隣の左京八条二坊十五町では、^(文献5) 鋳鉄の際の埴場に転用された例が報告されている。今回出土した中には、確実に鉄塊が付着している資料はないものの、鋳鉄関係遺物である可能性も考えられる。

今回出土した大半の土器の年代は13世紀前半から15世紀初頭と考えられ、この年代は、商工業の中心地であった「七条町」「八条院町」が存続していた年代と一致し、調査地周辺が活況を呈していた時期と重なるものである。

(福山博章)

参考文献

- 文献1 『平安京左京八条三坊九町跡』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2010
 文献2 山本信夫「11. 貿易陶磁器〔2〕中世前期の貿易陶磁器」(『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 中世土器研究会)1995
 文献3 島羽正剛「瓦器小塊にみる特異な使用痕に関する考察(2) - 天台密教の仏前作法からの検討 - 」(『中近世土器の基礎研究』21 中世土器研究会)2007
 文献4 小森俊寛「丸底小鉢考」(『リーフレット京都』No.133 財団法人京都市埋蔵文化財研究所)2000
 文献5 『平安京左京八条二坊十五町跡』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004

付表3 検出遺構一覧

(凡例)

-- : 長軸と同一

遺構名	地区名	遺構面	規模(形状)			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
S D 01	e 26	1	1.75	0.6 - 0.68	0.1	
S K 02	e 26・27	1	2.3 - 2.58	1.5 - 1.7	0.43	
S E 03	d 26	1	1.4	1.25	1.08	中央より北寄り曲物(径0.9 - 1.0 m)
S P 04	e 26	1	0.65	(0.4 - 0.52)	0.22	
S P 05	e 25	1	0.23	0.15	0.04	
S P 06	e 25	1	0.5	0.45	0.09	
S P 07	e 25・26	1	0.58	--	0.07	
S P 08	f 27	1	0.2	--	0.07	
S P 09	e 27・28	1	0.8	0.5	0.39	
S K 10	e 26・27	1	3.05	(1.38 - 1.84)	0.48	
S E 11	e 28	1	(1.2)	--	0.3	中央に径0.5 m曲物
S P 12	e 28	1	0.33	0.26	0.09	
S P 13	e 27・28	1	1.12	0.7	0.08	
S X 14	e・f 25	1	1.45	(1.3 - 0.3)	0.23	浅い凹み
S P 15	f 25	1	0.4	0.36	0.17	
S K 16	e・f 27	1	(1.1)	(0.5 - 0.9)	0.1	
S P 17	e 28	1	(0.42)	(0.27)	0.13	
S K 18	f 28	1	0.7 - 1.1	0.68	0.2	
S P 19	e 26	1	0.32	--	0.21	
S P 20	f 27	1	0.5	0.4	0.07	
S P 21	e 27	1	0.54	0.38	0.06	
S K 22	e 27	1	1.1	(0.28 - 0.32)	0.12	
S P 23	e 26	1	0.15	--	0.09	
S P 24	e 26	1	0.18	--	0.11	
S K 25	e・f 27	1	0.5	0.4	0.06	
S K 26	e 25	2	0.9	0.85	0.23	北側を東本願寺溝に切られる
S P 27	e 28	2	0.38	0.3	0.2	
S P 28	e 27	2	0.7	0.38	0.23	
S P 29	e 27	2	0.6	0.4 - 0.5	0.19	
S P 30	e 26	2	0.18	0.1	0.09	
S P 31	e 26	2	0.24	0.2	0.16	
S P 32	f 26	2	0.42	0.32	0.19	
S P 33	e 25	2	0.53	0.42	0.25	
S P 34	e 25・26	2	0.6	0.52	0.37	
S P 35	f 28	2	0.15	--	0.26	
S P 36	e 28	2	0.2	0.12	0.1	
S P 37	e 28	2	0.45	0.07	0.27	
S P 38	e 28	2	0.38	0.29	0.08	
S P 39	e 26	2	0.4	0.3	0.19	
S P 40	f 27	1	0.18	--	0.07	
S P 41	e 26	2	0.2	0.12	0.09	
S P 42	e・f 27	2	0.4	0.38	0.04	
S K 43	g 28	1	(1.5 - 1.9)	(1.2 - 1.5)	0.25	
S P 44	h 27	1	0.65	0.55	0.29	
S P 45	h 28	1	0.6	0.45 - 0.5	0.31	
S P 46	h 28	1	0.48	0.3 - 0.35	0.06	
S P 47	f 28	1	0.22	0.18	0.17	
S P 48	g 28	1	0.3	0.25	0.06	
S P 49	h 27	1	0.25	0.2	0.13	
S P 50	h 27	1	0.52	0.3 - 0.4	0.05	S P 291 (1.5 面) と同じ
S P 51	h 26	1	0.28	0.26	0.06	
S P 52	g・h 27	1	0.58	0.44	0.32	
S P 53	g 26	1	0.3	--	0.22	
S P 54	h 26	1	0.55	0.28 - 0.35	0.04	
S P 55	h 26	1		0.67 - 0.78	0.07	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 56	h 26	1	0.57	0.26 ~ 0.3	0.08	
S P 57	h 26	1	0.4	0.3	0.24	
S P 58	h 26	1	0.75	0.5	0.15	
S P 59	h 26	1	0.4	0.3	0.16	
S K 60	h 26	1	0.98	0.35 ~ 0.6	0.1	
S P 61	g 26	1	0.45	0.4	0.16	根石あり
S P 62	h 25	1	0.38	0.35	0.15	
S P 63	h 24	1	0.6	0.4	0.17	
S P 64	g 24	1.5	0.7	0.45	0.06	
S P 65	g 24	1	0.5	0.4	0.06	
S P 66	e・f 25	1	0.6	0.5	0.29	
S P 67	e 25	1	0.75	0.6	0.07	
S P 68	e 25	1	0.65	0.4 ~ 0.56	0.08	
S P 69	g 23	1	0.67	→	0.07	鉄銭
S P 70	h 20	1	0.7	0.6	0.19	
S K 71	f 28	1	0.8	0.74	0.22	埋薬土坑
S K 72	f 27	1	0.8	→	0.48	
S K 73	e 24	1	1.35	0.35	0.09	
S P 74	f 24	1	0.33	→	0.22	
S P 75	f 24	1	0.34	0.3	0.12	
S P 76	f 24	1	0.38	0.34	0.2	
S P 77	f・g 24	1	0.6	0.4 ~ 0.5	0.16	
S X 78	g 23	1	1	0.6 ~ 0.7	0.13	
S P 79	e 24	1	0.28	0.22	0.18	
S K 80	g 23・24	1.5	(2.2)	(0.6 ~ 1.5)	0.07	
S P 81	f 23	1	0.7	→	0.42	
S P 82	e・f 23	1	0.8	→	0.21	
S P 83	g 22・23	1	0.45	→	0.1	
S P 84	g 28	2	0.8	→	0.17	
S P 85	e 23	1	0.8	0.56	0.2	
S P 86	e 22	1	0.52	0.38	0.24	
S P 87	e・f 22	1	0.4	0.38	0.24	
S P 88	g 22	1	0.52	0.48	0.27	
S P 89	g 21	1	(0.55)	(0.3)	0.48	
S P 90	g 21	1	0.35	0.3	0.14	S P 445 (1.5 面) と同じ
S P 91	g 21	1	0.6	(0.35 ~ 0.4)	0.31	
S P 92	g 21	1	0.74	(0.3 ~ 0.4)	0.32	
S P 93	e 21	1	0.35	→	0.08	
S K 94	f 25	1	0.63	0.55	0.1	埋薬土坑
S P 95	e 24	1	0.6	0.57	0.15	
S P 96	g 22	1	0.5	→	0.28	根石あり
S P 97	f・g 22	1	0.35	→	0.21	
S P 98	f 21・22	1	0.43	0.4	0.37	
S P 99	e 21	1	0.4	0.3 ~ 0.35	0.18	
S P 100	e 20・21	1	0.52	0.4	0.06	
S P 101	h 15	1	0.2	0.17	-	根石のみ
S P 102	g 14	1	0.25	0.1 ~ 0.15	-	根石のみ
S P 103	g 13	1	0.28	0.22	-	根石のみ
S P 104	f 12	1	0.17	0.1	-	根石のみ
S P 105	g 12	1	0.22	0.15	-	根石のみ
S P 106	h 11	1	0.25	0.14	-	根石のみ
S P 107	g・h 13	1	0.22	0.1	-	根石のみ
S P 108	e・f 21	1.5	0.45	→	0.08	
S P 109	f 21	1	0.6	0.5	0.48	
S P 110	g 24	1.5	0.6	(0.35)	0.18	根石あり
S K 111	g 24	1.5	1.3	0.15 ~ 0.7	0.15	
S P 112	g・h 22	1	(0.9)	0.84	0.15	
S K 113	g 18	1.5	1	0.5 ~ 0.6	0.12	
S P 114	f 19	1	0.2	→	-	根石のみ

遺構名	地区名	遺構面	規模(形状)			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
S P 115	h 16	1.5	0.26	0.24	-	根石のみ
S P 116	g・h 16	1.5	0.38	←	-	根石のみ
S P 117	h 16	1.5	0.15	0.28	-	根石のみ
S P 118	f 12	1.5	0.3	←	-	根石のみ
S D 119	g 24	1.5	長(1.0)	幅0.2～0.3	0.14	
S K 120	g 20	1	1.76	(0.42～1.52)	0.25	
S P 121	g・h 22・23	1	(0.7)	(0.65)	0.08	
S P 122	h 26	1.5	0.45	0.35	0.27	
S K 123	g 27	1	0.9	(0.35～0.6)	0.18	
S K 124	f 24・25	2	1.7	1.35	0.21	銅銭
S K 125	f・g 19	1.5	(0.7～1)	(0.9)	0.39	
S K 126	g 17・18	1	長4.85	幅(0.9～1.3)	0.61	
S K 127	g 23	1.5	0.78	←	0.22	
S P 128	e 25	1	0.4	0.25	0.27	
S K 129	e 18・19	1	長(1.2)	幅(0.8～1.0)	0.25	
S X 130	g・h 27・28	1	(7.32)	(2.2～3.54)	0.35	銅銭
S P 131	h 27	1	0.3	0.22	0.35	根石あり
S P 132	g 25	1	0.37	0.3	0.17	S P 316(1.5面)と同じ
S P 133	g・h 21	1	0.4	←	0.29(0.11)	根石あり
S P 134	g 21	1	0.3	0.28	0.17	
S P 135	g 21	1	0.36	0.32	0.29	
S P 136	g 21	1	0.5	0.35	0.1	
S P 137	h 21	1	0.46	←	0.35	
S P 138	h 21	1	0.32	0.3	0.43	
S P 139	g 22	1	0.4	0.35	0.28	
S P 140	g 22	1	0.38	0.3	0.22	根石あり
S P 141	g 22	1	0.3	←	0.17	
S P 142	g 11	1	0.2	0.15	-	根石のみ
S P 143	g 24	1.5	0.36	0.32	0.18	
S K 144	e 21	1	0.5	0.4	0.31	
S P 145	h 27	1	0.4	0.36	0.23	
S K 146	h 25	1	1.6	0.5～0.65	0.07	
S P 147	f 27	1	0.45	0.42	0.26	
S P 148	g 26	1	0.55	0.32～0.48	0.2	根石あり
S P 149	g 26	1	0.5	0.45	0.21	根石あり
S P 150	g 26	1	0.64	0.6	0.15	根石あり
S P 151	g 28	1	0.23	0.2	-	根石のみ
S P 152	g 11	1.5	0.15	←	-	根石のみ
S P 153	g 27	1	0.4	0.38	0.05	根石あり
S K 154	h 21・22	1	0.6	(0.2)	0.23	
S K 155	e 20	1	1	0.5～0.8	0.12	
S K 156	g 17	1	0.8	0.4	0.12	S K 126(1面)と同じ
S P 157	g 19	1	0.3	(0.2)	-	根石のみ
S P 158	h 28	1	0.3	0.28	0.07	
S P 159	h 21	1	0.35	0.32	0.45	
S P 160	f 24	1	0.4	←	0.19	
S P 161	h 26	1	0.48	0.36	0.3	
S P 162	h 21	1	0.12	0.1	0.06	根石あり
S K 163	h 21	1	0.68	(0.35～0.52)	0.3	S P 833と同じ
S P 164	e 21	1	0.3	0.24	0.18	
S P 165	e 24	1	0.45	0.4	0.13	根石あり
S K 166	g 20・21	1	0.85	(0.42)	0.15	
S K 167	g 22	1	(1.7)	(0.2～0.7)	0.16	
S K 168	g 22・23	1	(1.6)	(0.73～1.2)	0.11	S K 306(2面)上面の浅い凹み
S P 169	g 11	1	0.35	←	0.13	
S P 170	h 16	1	0.55	0.4	0.46	根石あり
S P 171	g・h 11	1	0.7	0.56	0.06	
S K 172	g 13	1	0.96	0.64	0.18	
S K 173	h 13	1	2.05	(1.5)	0.06	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
SK 174	g・h 12	1	0.56	0.6 ~ 0.7	0.2	
SK 175	g 19	1	0.76	(0.58)	0.25	
SP 176	g 20	1	0.8	(0.3 ~ 0.4)	0.23	
SP 177	g・h 12	1	0.55	0.38	0.41	
SP 178	h 12	1	0.35	↔	0.37	
SK 179	g 11・12	1	1	(0.6)	0.11	
SP 180	h 11	1	0.4	0.35	0.28	
SP 181	g 13	1.5	0.3	0.25	-	根石のみ
SK 182	g・h 17	1	1.6	0.65 ~ 0.7	0.19	銅銭
SK 183	g 25	1	0.75	(0.32)	0.19	
SP 184	g 26	1	0.37	(0.25)	0.08	
SK 185	d・e 21	1	0.8	0.4	0.31	
SK 186	e 18・19	1	(0.65)	(0.2 ~ 0.4)	0.17	
SK 187	g 11	1	0.9	0.6 ~ 0.7	0.11	根石あり
SP 188	h 14	1	0.4	0.3	0.04	
SP 189	e 22	2	0.18	0.1	-	根石のみ
SX 190	h 26	1.5	1.14	0.8 ~ 1.1	0.15	
SK 191	g 27・28	1.5	0.94	0.78	0.17	
SP 192	e 22	2	0.15	0.1	-	根石のみ
SP 193	g 25	2	0.66	0.57	0.28	
SP 194	g 24・25	2	0.25	0.22	0.19	
SP 195	g・h 24	2	0.35	↔	0.06	根石あり
SP 196	g 24	2	0.23	↔	0.13	
SP 197	g 24	1.5	0.75	0.5 ~ 0.55	0.27	
SP 198	g 24	1.5	0.4	0.32 ~ 0.48	0.22	
SP 199	h 22	2	0.4	↔	0.18	根石あり
SK 200	f 26・g 26・27	2	2.5	1.38	0.3	銅銭
SP 201	g 22	1.5	0.21	0.2	0.14	
SK 202	g 28	1.5	0.32	↔	0.16	埋薬土坑
SK 203	f 19	1	0.85	(0.6)	0.14	
SK 204	g 14	1.5	1.4 ~ 1.7	1 ~ 1.05	0.25	
SK 205	g 13	1.5	1.1	0.86	0.14	
SP 206	h 14	1.5	0.4	0.3	0.16	
SP 207	h 13・14	1.5	0.76	0.62	0.34	
SP 208	h 12	1.5	0.6	0.5	0.22	
SP 209	h 12	1.5	0.4	0.26	0.12	
SP 210	h 12	1.5	0.4	0.3	0.11	
SP 211	h 12	2	0.58	0.49	0.17	
SP 212	h 11	2	0.88	0.54	0.21	
SP 213	h 11	1.5	0.56	0.5	0.25	
SP 214	h 22	3	0.18	↔	0.24	
SK 215	g・h 11	1.5	0.95	↔	0.65	
SP 216	h 11	1.5	0.68	0.61	0.4	
SP 217	g・h 10	1.5	0.45	↔	0.3	
SP 218	e 24	1.5	0.58	0.36	0.21	根石あり
SP 219	e 24	1.5	0.5	↔	0.26	
SP 220	e 23	1.5	0.4	0.34	0.19	
SK 221	e 23	1.5	0.9	0.5	0.4	
SP 222	g 21	2	0.55	0.5	0.22	SK 337 (1.5面) と同じ
SP 223	g 18	1.5	0.24	0.16	-	根石のみ
SP 224	h 28	1.5	0.54	0.5	0.19	
SP 225	h 28	1.5	0.35	↔	0.16	根石あり
SP 226	h 28	1.5	0.35	↔	0.15	
SP 227	h 27	1.5	0.52	0.48	0.24	根石あり
SK 228	h 27	1.5	(0.62)	0.45	0.09	
SP 229	h 27	1.5	0.57	↔	0.18	
SK 230	h 24	2	(1.4)	(0.95)	0.4	埋薬土坑
SK 231	f 19	2	1.08	0.96	-	
SP 232	g 21	1.5	0.54	0.44	0.22	根石あり

遺構名	地区名	遺構面	規模(形状)			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
S P 233	g 20	1.5	0.35	→	-	根石のみ
S P 234	g 20	1.5	0.45	0.35	0.22	根石あり
S P 235	e 25	1.5	0.5	0.45	0.18	根石あり
S P 236	e 25	2	0.3	→	0.18	
S P 237	e 21・22	1.5	0.52	0.47	0.11	根石あり
S D 238	f-h 25、h 21-24	2	長27	幅0.4-1.1	0.07-0.4	S D 822(2面)と同じ
S P 239	g 20	1.5	0.58	→	0.25	
S P 240	g 21	1.5	0.8	0.58-0.68	0.3	
S K 241	e 23・24	1.5	0.8	0.55-0.65	0.21	
S K 242	e 23	1.5	長1.2	幅0.45-0.96	0.34	
S P 243	d・e 23	2	0.9	0.46	0.13	根石あり
S P 244	f 22	1.5	0.4	0.35	0.15	
S P 245	g 25	2	0.3	0.23	0.04	
S P 246	g 23	1.5	0.35	→	0.22	
S K 247	g 23	1.5	-	-	-	S X 78(1面)と同じ
S P 248	g 22	2	0.7	0.59	0.35	
S K 249	f 19	3	0.3	0.25	0.18	
S K 250	h 21	1.5	2.02	0.42-1.32	0.06	S K 604・605上面の浅い凹み
S K 251	f 19	2	(1.07)	0.98	0.29	
S P 252	g 18	1.5	0.76	(0.28-0.4)	0.13	
S P 253	h 16	1.5	0.4	0.34	0.16	根石あり
S K 254	g 16	2	2.3	1.4-2.2	0.23	根石あり
S P 255	e 24・25	1.5	0.45	0.4	0.08	根石あり
S K 256	g 15	1.5	0.8	0.7	0.41	
S P 257	g 14	1.5	0.42	(0.32)	0.2	根石あり
S P 258	e・f 19	3	0.2	→	0.16	
S P 259	g 12	1.5	0.38	→	0.28	根石あり
S K 260	h 12	2	1.3	1.1	0.12	
S P 261	g 10・11	1.5	0.3	→	0.2	
S P 262	g 11	1.5	0.4	0.3	0.21	
S K 263	g 15・16	2	1.85	1.17	0.26	S K 949(3面)と同じ、浅い凹み
S P 264	h 15	1.5	0.6	0.5	0.28	
S K 265	-	-	-	-	-	
S P 266	f 28	1.5	0.4	→	0.14	
S P 267	g 21	1.5	0.38	0.3	0.1	根石あり
S K 268	f 23	1.5	(0.9)	(0.32)	0.43	
S K 269	f 23	2	1.2	0.9	0.25	
S P 270	g 23	1.5	0.35	0.3	0.13	
S P 271	f 22	1.5	0.8	0.68	0.58	
S P 272	f 22	1.5	0.85	0.63	0.31	
S P 273	h 26	1.5	0.38	→	0.08	根石あり
S K 274	e 22	1.5	0.58	(0.35)	0.06	
S D 275	d-g 22	1.5	長8.0	0.25-0.4	0.3	
S P 276	e 22	1.5	0.6	0.5	0.22	
S P 277	h 28	1.5	0.35	→	0.11	根石あり
S P 278	h 21	1.5	0.96	(0.4-0.58)	0.13	
S K 279	g 19	1.5	長(2.15)	幅(0.65)	0.27	
S P 280	g 18	1.5	(0.7)	(0.48)	0.19	
S P 281	h 26	1.5	0.3	0.25	0.14	浅い凹み
S P 282	g 17	1.5	0.56	0.51	0.44	
S P 283	f 13	1.5	0.5	→	0.04	
S P 284	f 12・13	1.5	0.4	0.35	0.22	根石あり
S P 285	g 25	1.5	0.78	(0.3)	0.2	
S K 286	f 12	2	0.5	0.4	0.24	銅銭
S K 287	g 11・12	2	1.85	0.9-1.07	0.2	
S K 288	g 16・17	1.5	1.3	1.2	0.15	埋塞土塊
S P 289	f 11	1.5	0.56	→	0.17	
S K 290	h 22	1.5	0.6	(0.4-0.45)	0.49	
S P 291	h 27	1.5	-	-	-	S P 50(1面)と同じ

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 292	g 22	2	0.35	→	0.21	根石あり
S K 293	h 14・15	1.5	1.1	06～09	0.12	
S K 294	h 21・22	1.5	2.68	(11～13)	0.33	
S P 295	g 22・23	1.5	0.48	0.42	-	根石のみ
S P 296	h 11	2	0.42	→	0.19	
S P 297	h 14	1.5	0.55	0.42	0.2	S P 508 (2面) と同じ
S P 298	e 24	1.5	0.4	(0.25)	0.06	
S K 299	f 18	1.5	0.3	→	0.12	
S P 300	h 13	1.5	0.5	(0.4)	0.11	根石あり
S P 301	f 14	1.5	0.4	→	0.1	
S P 302	g 16	1.5	0.4	→	0.23	根石あり
S P 303	h 27	2	0.5	0.38	0.16	
S P 304	g 19	1.5	0.75	(0.55)	0.37	
S P 305	d 23・24	2	0.8	0.35	0.26	
S K 306	g 22・23	2	2	09～10	0.12	S X 168 (1面) の本体部分
S P 307	h 17	1.5	0.32	→	-	根石のみ
S P 308	h 17	1.5	0.28	→	-	根石のみ
S P 309	h 17	1.5	0.25	→	-	根石のみ
S P 310	h 16	1.5	0.68	→	0.15	根石あり
S K 311	d・e 22・23	2	(1.65)	(09～10)	0.65	S K 489 (2面) と同一遺構か
S P 312	g・h 22・23	2	0.3	0.2	0.07	
S P 313	f 27	1.5	0.5	0.46	0.17	
S P 314	f 27	1.5	0.24	→	0.26	
S K 315	d 21・22	2	1.75	(0.4)	0.2	
S P 316	g 25	1.5	-	-	-	S P 132 (1面) と同じ
S P 317	g 20・21	1.5	0.72	0.64	0.21	
S P 318	h 20・21	1.5	0.32	0.28	0.16	
S P 319	e 20	2	0.74	0.4	0.11	
S P 320	h 27・28	2	0.76	→	0.13	根石あり
S K 321	g 23・24	1.5	0.75	(0.6)	0.14	
S P 322	f 24	1.5	0.6	0.5	0.22	
S K 323	e 22	2	0.75	0.6	0.39	
S P 324	e 22	2	0.42	0.35	0.18	
S P 325	e 22	1.5	0.29	→	0.13	根石あり
S P 326	f 23	1.5	0.5	0.38	0.13	
S P 327	g 10	2	0.3	0.25	0.2	
S P 328	g 11・12	2	0.89	→	0.26	
S P 329	h 13	1.5	(0.4)	0.2～0.38	0.14	
S K 330	g 13	1.5	0.55	0.4	0.23	
S P 331	g 17	1.5	0.46	→	0.21	
S P 332	g 21	2	0.6	0.58	0.29	
S P 333	h 20	1.5	0.27	→	0.19	
S P 334	-	-	-	-	-	
S P 335	g 15	2	1.6	0.75	0.08	S K 971 の落ち込み
S K 336	f・g 24	2	2.3	1.55	0.66	銅銭
S K 337	g 21	1.5	0.52	→	0.24	
S K 338	g 10・11	2	長 2.66	幅 0.42	0.15	
S P 339	-	-	-	-	-	
S P 340	f 28	2	0.35	→	0.11	
S P 341	f 28	2	0.22	→	0.29	
S P 342	f 28	2	0.57	→	-	根石のみ
S P 343	h 14・15	3	0.25	0.18	-	根石のみ
S P 344	h 28・29	2	長 0.7	幅 0.22～0.3	0.08	S P 526 (3面) と同じ
S P 345	h 28	2	0.24	→	0.06	S P 527 (3面) と同じ
S P 346	h 28	2	0.38	→	0.14	S P 528 (3面) と同じ
S P 347	f 27	2	0.4	→	0.05	銅銭
S P 348	f 26	1.5	(0.72)	0.68	0.21	
S P 349	f 26	2	0.3	→	0.08	
S P 350	f 26	2	0.35	→	0.1	

遺構名	地区名	遺構面	規模(形状)			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
S P 351	f 26	2	0.2	→	0.09	
S P 352	f 26	2	0.4	→	0.15	
S K 353	g 25・26	2	長1.75	幅0.76	0.18	銅銭
S K 354	g 28	2	1.17	0.53	0.55	
S K 355	g 25	1.5	0.8	0.45	0.12	
S K 356	h 22	1.5	1.5	0.6~0.8	-	
S K 357	h 11	2	0.6	0.18	0.08	
S P 358	h 12	2	0.42	0.35	0.15	
S P 359	h 12	1.5	0.2	→	0.24	
S P 360	h 12	2	0.48	→	0.14	
S K 361	h 12	1.5	(0.85)	0.6	0.15	
S P 362	g・h 12	1.5	0.55	0.45	0.06	
S P 363	h 12	1.5	0.35	→	0.2	
S P 364	h 12	1.5	0.4	0.25	0.16	
S P 365	h 12・13	1.5	(0.8)	(0.35)	0.16	
S P 366	g 13	1.5	0.3	→	0.18	
S P 367	g・h 13	1.5	0.3	→	0.2	
S P 368	g 13	1.5	0.4	→	0.17	
S P 369	h 12	1.5	0.3	0.2	0.12	
S P 370	f 27	2	0.3	0.27	0.09	
S K 371	f 27・28	2	1.43	0.63	0.13	鳥帽子
S P 372	g 25	2	0.42	0.38	0.15	
S P 373	g 28	1.5	0.12	→	-	根石のみ
S P 374	h 28	1.5	0.15	→	0.08	
S P 375	g 28	1.5	0.3	→	0.1	
S P 376	g・h 27	1.5	0.25	→	0.15	
S P 377	h 26	2	0.4	→	0.08	
S P 378	h 26	2	0.4	0.35	0.18	
S P 379	g 26	2	0.48	0.4	0.13	
S K 380	h 15・16	2	0.82	(0.62)	0.16	
S P 381	g 13・14	2	0.5	0.42	0.15	
S P 382	f 13	1.5	0.52	0.45	0.1	根石あり
S P 383	g 13	2	0.4	0.34	0.06	
S P 384	g 13	2	0.55	0.42	0.15	
S P 385	g 13	2	0.31	→	0.15	
S P 386	f 13	2	0.4	0.25	0.08	
S P 387	f 13	2	0.5	0.43	0.07	
S P 388	f 13	2	0.5	0.28	0.05	
S P 389	f 13	2	0.52	→	0.1	根石あり
S P 390	g 13	2	0.5	0.44	0.07	
S P 391	f 13	2	0.5	0.41	0.06	
S P 392	g 13	2	0.4	→	0.06	
S P 393	g 13	2	0.35	→	0.32	
S P 394	g 12	2	0.44	0.4	0.32	
S P 395	g 12	2	0.39	0.35	0.11	
S P 396	g 12・13	1.5	0.36	0.32	0.11	根石あり
S P 397	e 23	2	0.6	0.5	0.26	
S P 398	g 20	1.5	0.28	0.2	0.12	
S D 399	h 27	2	長3.1	幅0.3~0.38	0.14	
S P 400	g 15	1.5	0.4	→	0.21	
S K 401	f 28	2	0.8	0.6	0.12	
S P 402	f 27・28	2	0.81	0.5	0.07	
S P 403	f 27	2	0.7	0.6	0.22	
S P 404	f 28	2	0.2	→	0.05	
S P 405	f 28	2	0.3	→	0.13	根石あり
S D 406	g 26・27	2	長3.72	幅0.35~0.68	0.18	
S P 407	g 27	2	0.48	0.45	0.17	
S P 408	g 26	2	0.3	0.25	0.11	
S P 409	g 26・27	2	0.4	0.3	0.09	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 410	g 26	2	0.3	↔	0.08	
S P 411	g 26	2	0.3	↔	0.14	
S D 412	h 26	2	長 2.6	幅 0.4 ~ 0.43	0.09	
S P 413	f 26	2	0.7	0.4	0.13	
S P 414	f 26	2	0.7	0.68	0.18	
S K 415	f・g 26	3	(1.02)	(0.4 ~ 0.6)	0.16	
S P 416	f 26	3	0.6	(0.2)	0.09 ~ 0.1	
S D 417	g 23・24	2	長 3.3	幅 0.28 ~ 0.4	0.1	
S P 418	e・f 25	2	0.56	↔	0.19	
S P 419	e 24・25	2	0.41	0.3	0.18	
S P 420	e 24	2	0.29	0.25	0.06	
S P 421	e 24	2	0.22	↔	0.04	
S P 422	e 24	2	0.3	↔	0.15	
S K 423	d・e 24	2	0.8	0.73	0.35	北側を東本願寺溝に切られる
S P 424	e 24	2	0.6	0.46	0.11	
S P 425	e 24	2	0.3	↔	0.29	
S P 426	e 24	2	0.3	↔	0.21	
S K 427	f 24	2	1.25	0.92	0.22	
S P 428	f 24	2	0.38	↔	0.21	
S P 429	f 24	2	0.3	↔	0.2	
S P 430	g 23	2	0.5	0.42	0.29	
S P 431	e 23	2	0.6	↔	0.12	
S K 432	f 22	2	1.1	0.5	0.11	
S P 433	f 22	2	0.62	0.45	0.09	
S K 434	d・e 22	2	0.75	(0.6)	0.18	
S P 435	e 21	2	0.55	0.41	0.08	
S P 436	f 22	2	0.3	↔	0.13	
S X 437	f・g 21・22	2	(2.3)	1.6	0.11	浅い凹み
S E 438	e 20・21	2	1	↔	1.15	
S K 439	e 20・21	2	0.8	0.7	0.15	
S K 440	e 20	2	2	0.68 ~ 0.9	0.10	
S K 441	e 20	2	0.55	0.5	0.08	銅銭
S K 442	d・e 20	2	(0.9)	0.58	0.23	
S K 443	e 19	2	1.0	(0.7)	0.12	
S P 444	e 19	1.5	0.58	↔	0.18	
S P 445	g 21	1.5	-	-	-	S P 90 (1面)と同じ
S P 446	g 21	1.5	0.5	↔	0.2	
S P 447	g 20	2	0.4	0.31	0.08	
S K 448	g 20	2	1.4	1.15	0.21	
S P 449	h 21	2	0.3	↔	0.07	
S P 450	h 20	3	0.3	↔	0.23	
S P 451	h 20	2	0.32	↔	0.09	
S P 452	h 20	2	0.5	0.38	0.29	根石あり
S P 453	g 20	2	0.31	↔	0.15	
S P 454	h 20	1.5	0.5	↔	0.6	
S P 455	h 20	2	1.3	0.6	0.13	
S K 456	g・h 15・16	2	2.15	0.8	0.18	根石あり
S P 457	h 17	2	0.43	0.9	0.15	
S P 458	h 15	2	0.65	0.4	0.18	
S P 459	g 13・14	2	0.45	↔	0.2	
S K 460	g 13	2	0.83	0.8	0.48	
S P 461	h 14・15	2	0.41	↔	0.07	根石あり
S P 462	h 13	2	0.72	0.52	0.12	
S P 463	f 13	2	0.3	0.28	0.07	
S P 464	f 13	2	0.52	0.45	0.12	根石あり
S P 465	f 11	2	0.27	0.2	0.19	
S P 466	g 11	2	0.61	0.53	0.2	
S P 467	g・h 11	2	0.52	0.4	0.14	
S K 468	h 14	2	1.3	(0.9)	0.1	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S K 469	f 28	2	11	0.75 ~ 1.0	0.1	
S P 470	f 28	2	0.4	0.35	0.21	
S P 471	f 22	2	0.36	0.2	0.23	
S P 472	f 22	2	0.37	—	0.13	
S P 473	f・g 22	2	0.6	0.46	0.12	
S P 474	g 22	2	0.34	0.2	0.14	
S P 475	g 22	2	0.49	0.48	0.14	
S P 476	g 20・21	2	0.4	—	0.19	
S K 477	f 27	2	1.25	0.7 ~ 1.0	0.11	
S P 478	f 27	2	0.47	0.3	0.37	
S P 479	h 26	2	0.42	0.38	0.19	
S K 480	f 28	2	2.5	0.9	0.35 ~ 0.47	S K 625・626と同じ
S P 481	g 25	2	0.27	—	0.19	
S P 482	g 27	3	0.4	—	0.11	
S P 483	g 28	3	0.4	—	0.15	
S P 484	h 28	2	0.33	—	0.12	
S P 485	h 22	3	0.2	—	0.09	
S P 486	h 22	3	0.4	0.35	0.1	
S P 487	g 22	2	0.32	—	0.41	
S P 488	g 22	2	0.45	0.2	0.22	
S K 489	d・e 23	2	(1.6)	(1.2)	0.34	S K 311 (2面)と同じ
S K 490	e 22	2	0.53	0.4	0.18	
S P 491	d・e 21	2	0.7	0.6	0.07	
S K 492	d・e 21	2	1.3	0.72	0.12	
S P 493	h 21	1.5	0.8	(0.3)	0.13	
S K 494	h 21	1.5	0.3	0.2	0.19	
S P 495	h 21	1.5	0.45	(0.2)	0.14	
S P 496	h 20	2	0.4	—	0.2	
S P 497	h 21	2	0.3	0.26	0.04	
S P 498	h 21	2	0.53	0.42	0.06	
S P 499	h 20	2	0.3	—	0.17	
S P 500	g 21	2	0.32	0.25	0.14	
S P 501	f 26	2	0.3	—	0.06	
S P 502	g 20	2	0.25	—	0.2	
S P 503	g 20	3	0.23	—	0.21	
S P 504	g 20	2	0.3	—	0.23	
S K 505	g・h 17	2	0.9	0.6	—	銅銭
S P 506	h 16・17	2	0.46	0.4	0.24	
S K 507	h 15	2	1.0	0.46 ~ 0.75	0.08	
S P 508	h 14	—	—	—	—	S P 297 (15面)と同じ
S P 509	g 13	2	0.4	0.2	0.18	根石あり
S K 510	g・h 12	2	0.87	0.75	0.13	
S P 511	h 12	2	0.58	0.4	0.1	
S P 512	h 12	2	0.49	0.39	0.05	
S P 513	h 12	2	0.6	0.5	0.09	
S P 514	h 11・12	2	0.41	—	0.1	
S K 515	h 11・12	2	0.7	0.65	0.09	
S K 516	h 11	2	1.23	0.9 ~ 1.0	0.11	
S K 517	g・h 12	2	0.7	—	0.38	
S P 518	g 12	2	0.3	—	0.13	
S P 519	f 27	2	0.3	0.25	0.1	
S P 530	f 26	2	0.5	0.22	0.1	
S P 521	e 23	2	0.28	0.2	0.26	
S P 522	e 22	2	0.4	0.25	0.17	
S K 523	e 22	2	1.2	0.2	0.09	
S P 524	f 26	3	(0.5)	(0.3)	0.07	
S K 525	f・g 11・12	2	1.2	0.6 ~ 1.0	0.05	
S P 526	h 28・29	3	—	—	—	S P 344 (2面)と同じ
S P 527	h 28	3	—	—	—	S P 345 (2面)と同じ

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 528	h 28	3	-	-	-	S P 346 (2面) と同じ
S P 529	h 25	2	(31)	(14 ~ 21)	0.18	
S P 530	f 22	2	-	-	-	S P 244 (15面) と同じ
S D 531	h 23	2	2.3	0.32	0.12	
S P 532	h 21	2	0.68	0.4	0.14	
S P 533	h 20	2	0.25	-	0.08	
S P 534	f 22	2	0.4	0.34	0.13	
S P 535	h 10	2	0.46	-	0.18	
S K 536	f・g 22	2	0.95	0.45 ~ 0.68	0.17	
S P 537	g 13	2	0.48	0.37	0.29	
S K 538	g 10・11	2	(0.9)	0.5	0.05	
S K 539	g 12	2	2.2	1.6	0.18	浅い凹み
S P 540	g 14	2	0.6	0.5	0.33	
S X 541	h 23・24	2	2.1	1.1	0.11	
S P 542	f 26	3	(0.45)	(0.4)	0.15	
S X 543	e 19	2	(0.55)	0.5	0.18	
S K 544	g・h 20	2	1.2	0.9	0.18	浅い凹み
S K 545	g 20	3	(0.9)	(0.2 ~ 0.8)	0.53	浅い凹み
S K 546	h 20	2	0.6	0.45	0.3	
S P 547	f 12	2	0.5	0.55	0.05	
S P 548	g 12・13	2	0.4	0.33	0.11	根石あり
S P 549	g・h 12・13	2	0.7	0.5	0.07	
S P 550	g 13	2	0.4	-	0.11	
S P 551	g 13	2	0.52	0.3	0.1	
S P 552	h 12	2	0.42	0.38	0.05	
S P 553	h 13	2	0.45	0.42	0.07	
S P 554	h 12・13	2	0.4	-	0.07	
S K 555	h 13	2	0.95	0.5 ~ 0.7	0.15	
S P 556	g・h 11	2	0.32	0.2	0.1	副銭
S P 557	g・h 10・11	2	0.92	0.65	0.09	
S P 558	g 28	3	0.35	-	0.18	
S P 559	g・h 21	2	0.4	-	0.06	
S D 560	f・g 24・25	3	2.55	2.2	0.53	
S P 561	g 25	2	0.7	0.6	0.21	S P 667 と同じ
S P 562	e 24	2	0.28	-	0.17	
S P 563	f 21	2	0.3	-	0.12	
S K 564	g 19・20	2	0.67	0.55	0.09	
S K 565	f・g 19	2	1.45	(0.7)	0.15	
S K 566	h 27	2	(0.7)	(0.55)	0.12	
S K 567	g 19	2	0.45	0.2	0.2	
S K 568	h 17・18	2	0.7	0.55	0.05	
S P 569	g 13	2	0.48	-	0.06	根石 (土器) あり
S P 570	g 12・13	2	0.38	0.2	0.35	
S K 571	g 11	2	1.5	0.65	0.09	
S K 572	g 10	2	1.4	(0.2 ~ 0.5)	0.08	
S K 573	f 10	2	0.5	(0.2)	0.05	
S K 574	g 23	2	1.4	0.18 ~ 0.3	0.19	
S P 575	f 27	2	0.3	-	0.09	
S K 576	g 27	2	1.3	0.2 ~ 0.35	0.5	
S P 577	g 26	2	0.38	-	0.2	
S P 578	g 25・26	2	0.36	-	0.19	
S P 579	f 22	3	0.32	0.22	0.31	
S K 580	e・f 24	2	1.7	1.3	0.44	
S K 581	f 23・24	2	2.8	0.4 ~ 1.6	0.05	
S K 582	h 22・23	3	(0.6)	(0.4)	0.08	副銭
S K 583	h 25	2	(0.6)	(0.5)	0.06	
S X 584	f 23	2	1.2	0.9	0.25	S K 610 (2面) の横出面の浅い凹み
S P 585	f 23	2	0.8	0.7	0.13	
S P 586	e・f 22	2	0.33	0.25	0.08	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S D 587	h 19	2	長 (L1)	幅 0.3 ~ 0.4	0.11	
S K 588	g · h 17 · 18	3	1.9	0.6 ~ 1.0	0.12	
S P 589	g 13 · 14	2	0.6	0.2	0.16	
S P 590	f 13	2	0.21	↔	0.04	
S P 591	f 13	2	0.3	↔	0.05	
S P 592	f 12 · 13	2	0.5	0.4	0.07	
S P 593	f 12	3	0.5	0.4	0.22	
S P 594	f 12	3	0.35	0.3	0.07	
S P 595	f 26	2	0.41	0.35	0.21	
S P 596	h 20	3	0.8	0.7	0.25	
S P 597	f 26	2	0.6	↔	0.19	
S P 598	f 24	2	0.42	0.33	0.14	
S P 599	h 23	2	0.29	0.2	0.24	
S P 600	g 23	1.5	0.24	↔	0.22	
S P 601	h 13	2	0.3	0.25	0.12	
S P 602	d 20	3	0.58	0.5	0.12	
S K 603	h 13 · 14	2	1.02	0.94	0.19	
S K 604 · 605	h 21	2	1.57	0.69 ~ 0.77	0.24	
S K 606	h 21	2	0.75	0.3 ~ 0.4	0.1	
S P 607	g 13	2	0.4	0.28	0.14	
S P 608	g 13	2	0.28	0.25	0.13	
S D 609	f 22 · 23	2	3.7	0.4 ~ 0.78	0.18	
S K 610	f 23	2	1.05	0.74 ~ 1.08	0.07	
S D 613	g 19 · 20	3	3.27	0.6 ~ 0.85	0.37	
S P 614	f 22	2	0.35	0.3	0.03	
S K 615	f 23	2	1.7	↔	0.07	
S P 616	g 14	2	0.31	↔	0.18	根石あり
S P 617	g 14	2	0.17	0.08	-	根石のみ
S P 618	f 24	2	0.3	0.26	0.31	
S P 619	e · f 22	2	0.32	↔	0.11	
S K 620	g 21	2	2	1.7	0.13	
S P 621	h 12 · 13	2	0.28	0.23	0.16	
S P 622	g 14	2	0.29	↔	0.1	根石あり
S P 623	h 24	2	0.43	0.37	0.22	
S K 624	f · g 26 · 27	3	2.56	2.4	0.34	
S K 625	f 28 · 29	-	-	-	-	S K 480 (2面) と同じ
S K 626	f 28 · 29	-	-	-	-	S K 480 (2面) と同じ
S K 627	f · g 19 · 20	1.5	(2.28)	1.2	0.29	
S K 628	e 22	3	(1.3)	1.2	0.28	
S P 629	h 28	3	0.4	0.35	0.23	
S P 630	h 28	3	0.4	↔	0.16	
S P 631	h 28	3	0.35	0.3	0.16	
S P 632	h 27	3	0.38	0.3	0.07	
S D 633	h 27 · 28	3	1.7	幅 0.3 ~ 0.42	0.06	
S P 634	h 27	3	(0.6)	(0.45)	0.15	
S K 635	h 27	3	1.1	0.65	0.06	
S P 636	g 28	3	0.4	0.3	0.2	S P 838 (3面) と同じ
S P 637	g 28	3	0.4	0.28	0.04	
S P 638	f 27 · 28	3	0.28	0.25	0.2	
S P 639	f 27	3	0.4	0.35	0.05	
S P 640	g 27	3	0.28	↔	0.05	
S P 641	g 26 · 27	3	0.5	0.4	0.22	
S P 642	g 26	3	0.52	0.45	0.11	
S P 643	g 26	3	0.4	0.3	0.06	
S P 644	g 27	3	0.42	0.38	0.14	
S P 645	g 27	3	0.3	↔	0.12	
S P 646	g 26	3	0.4	0.28	0.15	
S P 647	h 26	3	0.5	0.45	0.35	
S P 648	h 26	3	0.32	0.25	0.25	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 649	h 26	3	0.33	←	0.28	銅銭
S P 650	h 26	3	0.25	(0.1)	0.05	
S P 651	f 26	3	0.35	0.28	0.1	
S P 652	f 26	3	0.35	0.3	0.09	
S K 653	e・f 24	3	(1.5)	0.5 - 0.8	0.25	
S P 654	f 26	3	0.45	0.3	0.06	
S D 655	g 26	3	長 2.2	幅 0.3 - 0.4	0.09	
S P 656	h 27	3	(0.6)	(0.49)	0.04	
S P 657	h 24	3	0.5	0.35	0.16	
S P 658	h 24	3	0.48	0.35	0.19	
S P 659	g 24	3	0.25	←	0.22	
S P 660	g 24	3	0.25	←	0.14	
S P 661	f 23	2	0.35	←	0.11	
S P 662	e 23	3	0.6	0.5	0.34	
S P 663	e 23	3	0.5	←	0.06	
S P 664	e 23	3	0.3	0.27	0.1	
S P 665	e 22	3	0.28	←	0.04	
S P 666	e 22	3	0.25	0.2	0.04	
S P 667	g 25	2	-	-	-	S P 561 (2面) と同じ
S P 668	g 25・26	3	0.7	0.5	0.22	
S K 669	g 25・26	2	2.75	0.7 - 1.68	0.11	銅銭
S P 670	h 26	3	(1.1)	0.9	0.07	
S P 671	f 23	2	0.98	0.66	0.18	
S X 672	h 24	2	(0.98)	(0.72 - 0.6)	0.06	
S P 673	h 26	2	0.4	0.3	0.33	
S K 674	h 25	3	(0.84)	(0.3 - 0.4)	0.02	
S P 675	e 23・24	3	0.45	←	0.22	
S P 676	f 27	3	0.9	0.28 - 0.32	0.17	
S P 677	f 28	3	(0.34)	0.25	0.11	
S K 678	f・g 27・28	3	2.88	1.1 - 1.25	0.28	銅銭、烏帽子
S K 679	f 28	3	0.68	0.53	0.07	
S P 680	g 28	3	0.3	←	0.19	銅銭
S P 681	g 28	3	0.9	0.22 - 0.4	0.24	
S P 682	g 28	3	0.8	0.46 - 0.68	0.41	
S K 683	g 27	3	2.1	(0.6 - 1.0)	0.07	
S P 684	h 23	3	0.3	0.25	0.15	
S K 685	e 23・24	3	0.6	(0.3)	0.07	
S P 686	e 23	3	0.8	0.5	0.04	
S P 687	f 22	3	0.5	0.4	0.15	
S P 688	f 22	3	長 0.7	幅 0.25 - 0.45	0.15	
S P 689	g・h 22	3	0.25	0.2	0.3	
S K 690	e 20	3	0.75	←	0.42	
S K 691	h 20	3	(0.8)	0.6 - 0.8	0.04	
S P 692	h 20	3	0.4	0.2 - 0.27	0.11	根石あり
S P 693	h 20	2	0.34	←	0.08	
S P 694	h 20	3	(0.5)	(0.4 - 0.45)	0.02	
S K 695	h 16	2	1.3	0.7	0.08	S E 958 (3面) の上面の落ち込み
S P 696	h 15・16	3	0.5	0.45	0.34	
S P 697	h 15	3	0.48	0.4	0.21	
S P 698	h 15	3	0.45	0.35	0.05	
S P 699	h 15	3	1.1	←	0.18	
S K 700	g 20・21	3	4.2	(1.6 - 2.0)	0.11	
S K 701	h 15	3	0.9	(0.7)	0.08	銅銭
S P 702	h 15	3	0.42	←	0.13	根石あり
S P 703	g・h 15	4	1	0.92	0.34	
S P 704	g 14	3	0.15	←	0.2	根石あり
S P 705	g 14	3	0.38	0.25	0.07	
S P 706	g 14・15	3	0.5	0.4	0.14	根石あり
S K 707	f・g 14	3	0.85	0.75	0.08	銅銭

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 708	g 14	3	0.25	—	0.1	
S P 709	g 14	3	0.45	0.35	0.12	
S P 710	g 14	3	0.7	—	0.14	
S K 711	g 13・14	3	(1.2～2.5)	(1.2)	0.13	
S P 712	g 14	3	0.45	0.35	0.17	
S P 713	g 14	3	0.6	0.45	0.19	
S P 714	g 14	3	0.42	0.34	0.36	
S P 715	g 14	3	0.7	(0.5)	0.04	
S P 716	g 14	3	0.35	0.32	0.22	根石あり
S P 717	g 13	3	0.3	0.25	0.22	根石あり
S P 718	h 13	3	0.2	—	0.1	
S P 719	h 13	3	0.3	0.2	0.05	
S P 720	f・g 13	3	0.7	0.55	0.29	
S P 721	f 13	3	0.5	0.3～0.45	0.17	
S P 722	g 12	3	0.3	0.25	0.1	
S P 723	h 12	3	0.9	0.78	0.20	S P 948 (3面) と同じ
S K 724	g 27・28	3	(4.55)	0.5～1.0	0.14	
S P 725	h 11	3	—	—	—	S K 516 (2面) の残欠
S P 726	h 11	3	0.5	0.3	0.1	
S K 727	h 11	3	(0.95)	0.39～0.42	0.06	
S K 728	h 10・11	3	1.1	0.8～0.95	0.17	
S P 729	h 11	3	0.7	0.45	0.18	
S K 730	g・h 11	3	0.45	—	0.10	
S K 731	g・h 14	3	1.65	0.3～1.2	0.06	
S P 732	g 14	3	0.58	0.5	0.2	
S P 733	g 14	3	(0.4)	(0.1)	0.05	
S K 734	f・g 13・14	3	1.5	1.22	0.15	
S D 735	g・h 11～13	3	長 7.5	幅 0.15～0.4	0.19	
S D 736	g 15・16	3	長 (4.2)	幅 0.25～0.45	0.08～0.19	
S X 737	g 14	3	(0.9)	(0.3～0.4)	0.1	
S D 738	g 13・14	3	長 4.95	幅 0.3～0.5	0.13～0.16	溝内に根石3か所あり
S K 739	f・g 24・25	3	長 2.5	幅 (1.8～2.2)	0.53	
S K 740	g 23・24	3	(2.4)	1.4～1.7	0.46	
S X 741	g 22・23	2	3	2.5	0.57	
S D 742	g 21・22	3	(3.6)	0.25	0.11	
S P 743	g 10	3	0.5	0.3	0.31	
S P 744	g 10	3	0.63	0.3	0.11	
S P 745	g 10・11	3	0.5	0.3	0.18	
S P 746	g 10	3	0.25	0.16	0.03	
S P 747	g 11	3	0.2	0.18	0.04	
S E 748	g 10・11	3	1.2	1.0	0.8	
S P 749	g 10・11	2	0.3	—	0.07	根石あり
S E 750	g 10	3	1.8	0.7	0.58	
S K 751	f・g 10	3	(0.45)	(0.1)	0.22	
S D 752	f・g 11	3	(2.9)	0.1～0.25	0.05	
S P 753	f 10・11	2	0.7	0.5	0.14	
S P 754	f 10	2	0.3	0.25	0.15	
S P 755	f 10	3	0.18	0.1	0.12	
S P 756	f 10・11	3	0.4	0.35	0.18	
S P 757	f 10・11	3	0.35	0.3	0.14	
S K 758	g 11	3	(0.6)	(0.25～0.3)	0.04	
S K 759	h 26	3	1.3	0.4～0.83	0.13	
S P 760	h 26	3	(1.05)	(0.2)	0.07	
S P 761	h 15	3	0.4	0.3	0.2	根石あり
S P 762	g 28	3	0.33	(0.2)	0.08	
S P 763	g・h 20	3	0.8	0.45	0.08	
S P 764	g 13	3	0.25	(0.2)	0.16	
S P 765	f 14	3	0.22	0.2	0.15	
S P 766	g 28	3	0.3	(0.18)	0.03	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
SK 767	d・e 20・21	3	(2.6)	14～24	0.31	
SP 768	g 13	3	0.4	0.2～0.3	0.28	
SP 769	g 12・13	3	0.5	0.45	0.1	
SK 770	g 11	3	(1.15)	(0.35～0.45)	0.1	
SP 771	h 12	3	0.27	→	0.18	
SK 772	g 11	3	1.7	(0.52～1.4)	0.13	
SK 773	e・f 24	3	2.35	(1.3～1.5)	0.13	
SK 774	e・f 19・20	3	1.35	0.6～0.9	0.28	
SK 775	d・e 20	3	1.3	→	0.35	鳥帽子
SK 776	h 11	3	0.6～0.9	(0.4～0.6)	0.09	
SK 777	f 21・22	3	1.28	→	0.34	銅銭
SK 778	h 10・11	2	2.3	0.2～0.35	0.14	
SP 779	h 11	3	0.4	0.35	0.26	
SK 780	f・g 12・13	3	(2.7)	0.5～2.0	0.18	
SK 781	f・g 14	3	(1.1)	2	0.13	
SK 782	e 18・19、f 19	3	1.5	1.0～1.3	0.16	銅銭
SK 783	f 20	3	0.25	0.2	0.03	根石のみ
SP 784	g 13	3	0.4	(0.25)	0.25	根石のみ
SP 785	g 12	3	0.3	(0.15)	0.03	
SP 786	g 12	3	0.28	→	0.14	
SP 787	g 12	3	0.35	→	0.18	根石あり
SP 788	g 12・13	3	(0.7)	0.25～0.4	0.19	
SP 789	g 13	3	0.3	0.25	0.1	
SX 790	g 14	3	(1.5)	(0.04～0.2)	0.05	
SK 791	g 13・14	2	2.25	1.2	0.35	
SP 792	f 14	3	0.32	→	0.18	根石あり
SP 793	f 14	3	0.3	0.24	0.16	
SP 794	f 14	3	0.22	→	0.22	
SK 795	h 16	3	(1.5)	(0.8)	0.06	
SK 796	h 20	3	(1.1)	(0.9～1.1)	0.06	
SK 797	h 20・21	2	1.9	0.6～0.8	0.15	
SP 798	f 24	3	(0.42)	0.35	0.11	
SK 799	g・h 17	3	1.65	1.0～1.2	0.58	
SK 800	e 22	3	0.2	0.18	0.06	根石あり
SK 801	f・g 28	3	0.8	0.5	0.18	根石あり
SK 802	f 22	3	0.55	0.48	0.3	
SK 803	f 24	3	(1.5)	0.5～0.8	0.31	
SP 804	g 13	3	0.31	→	0.17	
SP 805	g 13	3	0.3	→	0.26	
SP 806	h 13	3	0.45	0.42	0.36	
SP 807	h 13	3	0.25	→	0.2	
SP 808	h・i 27	3	0.55	0.30	-	根石のみ
SP 809	f 28	3	0.4	0.28	0.08	
SX 810	g 22・23	2	1.7	0.4	0.24	
SX 811	h 20・21	2	1	0.5～0.6	0.08	
SP 812	h 20	3	0.35	0.3	0.06	
SP 813	g 20	3	(0.5)	0.4	0.05	
SP 814	g 20	3	0.45	0.38	0.03	
SP 815	g 20	3	0.3	→	0.08	
SK 816	g 20	3	1.2	(0.8～1.1)	0.07	
SP 817	e 22	3	0.25	→	0.14	
SK 818	f 22	3	0.64	0.5	0.86	
SP 819	e 22	3	0.26	→	0.15	根石あり
SP 820	e 22	3	0.36	(0.27)	0.16	
SP 821	e・f 21	3	0.4	0.3	0.1	
SD 822	f～h 25、h 21～24	2	-	-	-	SD 288 (2面) と同じ
SK 823	h 22	2	長4.0	幅1.0	0.46	銅銭
SP 824	f 22	3	0.32	0.29	0.12	
SK 825	g 21	3	1.63	1.05	0.2	

遺構名	地区名	遺構面	規模(形状)			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
S P 826	f 22	3	0.54	0.4	0.19	
S K 827	g 27・28	3	長1.2	幅0.9	0.56	銅銭
S P 828	e 25	3	0.5	--	0.12	
S P 829	e 24	3	0.5	--	0.13	
S P 830	e 21	3	0.55	0.45	0.33	
S K 831	e 21	3	2.4	0.7~1.1	0.23	
S P 832	h 21	2	--	--	--	S P 278(2面)と同じ
S P 833	h 21	3	--	--	--	S P 163(3面)と同じ
S P 834	f 22	3	0.35	0.25	0.15	
S K 835	e・f 26・27	1.5	1.08	0.98	0.1	
S P 836	h 24	3	0.2	--	0.15	
S P 837	h 23	2	0.38	0.32	0.2	
S P 838	g 28	3	0.38	0.3	0.2	
S P 839	f 22	3	0.4	0.34	0.11	根石あり
S K 840	h 25・26	2	1.23	0.65	0.27	
S K 841	e 21・22	3	2.6	2.1	0.33	
S K 842	e 21	3	(2.0)	(1.3)	0.31	
S P 843	e 20	3	0.3	0.26	0.13	
S P 844	e 20	3	0.22	--	0.13	
S P 845	f 14	3	0.35	0.3	0.16	
S P 846	h 20	3	0.4	--	0.22	
S P 847	i 27	3	0.2	--	0.15	
S E 848	e 21・22	3	1.33	--	0.84	
S K 849	f 11	3	1.8	(0.5~1.0)	0.15	
S K 850	f 12	2	0.55	0.46	0.2	
S P 851	g 26	3	0.25	--	0.08	
S K 852	e・f 20	3	1.25	0.8~1.2	0.45	
S K 853	f 21	3	1	0.9	0.16	銅銭
S K 854	f 21	3	1	--	0.18	
S D 855	g・h 20	4	長(4.18)	幅(0.5~1.1)	0.38	S D 857に接続小
S K 856	i 26	3	0.18	--	0.15	
S D 857	g 20~22	4	長5.83	幅0.59~0.9	0.29	S D 855に接続小
S K 858	f 21・g 21・22	4	2.7	(1.3~1.8)	0.26	
S P 859	i 26	3	0.4	(0.25)	0.17	
S D 860	g 11・12	3	長(4.49)	幅0.32~0.9	0.23~0.31	
S P 861	g 24	3	0.5	0.4	0.07	
S K 862	h 17	3	(1.35)	(0.75)	0.15	
S K 863	g 27	3	1.1	0.8~0.83	0.3	
S P 864	f 29	3	0.37	0.3	0.28	
S P 865	g 29	3	0.3	0.2	0.05	
S P 866	g 29	3	(0.6)	(0.5)	0.18	
S P 867	g 29	3	2.1	0.2~0.45	0.24	
S K 868	g・h 29	3	1.5	(0.5~0.6)	0.59	
S P 869	h 29	3	0.6	--	0.33	
S K 870	g 29	3	(0.45)	(0.4)	0.17	
S P 871	e・f 15	3	0.65	0.55	0.05	
S P 872	f・g 29	3	0.34	--	0.13	
S D 873	h 29	3	長(1.7)	幅0.1~0.15	0.13	
S P 874	i 28	3	0.25	--	0.22	
S K 875	i 27・28	3	1.23	0.18~0.22	0.19	
S K 876	h・i 27・28	3	0.75	0.55	0.29	
S P 877	i 26	3	0.2	0.16	0.14	
S P 878	i 26	3	0.2	--	0.21	
S P 879	h・i 26	3	0.18	--	0.16	
S P 880	i 26	3	0.2	--	0.29	
S P 881	g 16	3	0.72	0.6	0.27	
S P 882	f 15	3	0.55	0.45	0.28	
S K 883	g 14・15	3	(2.3)	0.5	0.15	
S K 884	f・g 14・15	3	(1.88)	0.75~1.45	0.23	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 885	h 24	3	0.2	→	0.08	
S K 886	h 23	3	0.9	0.7 ~ 0.8	0.29	
S P 887	h・i 24	3	0.25	→	0.17	
S K 888	h・i 24	3	0.9	0.55 ~ 0.65	0.21	埋戻土坑
S P 889	i 23	3	0.3	0.25	0.16	
S P 890	i 23	3	0.2	0.18	0.15	
S P 891	h 23	3	0.38	→	0.07	
S P 892	h 23	3	0.2	→	0.04	
S P 893	i 23	3	0.35	→	0.16	
S P 894	h 22	3	0.8	0.5	0.18	
S P 895	h 22	3	0.45	0.4	0.15	
S P 896	e 15・16	3	0.6	0.5	0.05	
S P 897	h・i 22	3	1.2	1.15	0.86	
S P 898	h 24	3	0.4	→	0.11	
S P 899	e・f 16	3	0.5	→	0.04	
S K 900	f 28・29	3	1.4	0.5 ~ 0.7	0.26	
S K 901	f・g 29	3	(2.3)	(0.3 ~ 0.7)	0.1	
S P 902	g 13	3	0.38	0.35	0.27	
S K 903	g 13	3	1.25	0.45 ~ 0.5	0.27	
S P 904	g 13	3	0.4	0.3	0.16	
S P 905	g 12	3	0.35	0.3	0.22	
S P 906	g 12	3	0.6	0.3 ~ 0.4	0.15	
S P 907	f・g 12	3	0.3	→	0.23	
S K 908	f・g 12	3	1.13	0.8 ~ 1.05	0.1	
S P 909	g 12	3	0.4	→	0.17	
S K 910	f 12	3	1.4	0.8 ~ 1.0	0.46	
S D 911	g 11・12	3	長 3.72	幅 0.6 ~ 0.8	0.42	
S P 912	g 11	3	0.5	0.38	0.2	
S P 913	g 11	3	0.3	→	0.03	
S P 914	g 10	3	0.35	0.2	0.05	
S P 915	g 12	3	0.7	0.35 ~ 0.6	0.42	
S P 916	g 12	3	0.65	0.6	0.28	
S P 917	g 12	3	0.5	0.45	0.31	
S P 918	g 12	3	0.35	→	0.1	
S P 919	g 12	3	0.61	0.55	0.31	
S P 920	g 11	3	0.32	0.3	0.22	
S P 921	e 16	3	0.25	0.2	0.04	
S P 922	e 16	3	0.25	0.2	0.05	
S P 923	g 17	3	0.55	0.45	0.18	
S D 924	g 11・12	3	-	-	-	S D 860 (3面) と同じ
S P 925	g 13	4	0.7	0.62	0.28	
S K 926	g 13	3	0.73	0.5 ~ 0.55	0.34	根石あり
S P 927	f・g 11	3	0.4	0.35	0.04	
S P 928	f 12	3	0.35	0.28	0.19	
S P 929	f 12	3	0.32	0.25	0.19	
S P 930	g 12	3	0.6	0.48	0.26	
S P 931	g 14	3	0.44	(0.3)	0.12	
S P 932	f 12	3	0.28	0.25	0.13	
S K 933	g 18	3	1.7	(1.05)	0.4	
S P 934	f 19	3	0.5	0.6	0.12	
S E 935	g 10・11	3	(1.1)	→	0.67	中央部分よりやや西寄り曲物 (0.48 m)
S P 936	g 10	3	(0.45)	(0.36)	0.25	
S K 937	f 13	3	1.1	0.2 ~ 0.55	0.21	根石あり
S K 938	f 10	3	1.12	0.8	0.03	
S P 939	f・g 12	3	0.6	0.3 ~ 0.4	0.25	
S P 940	g 15	4	1.26	0.99	0.42	
S P 941	g 12	3	0.3	0.25	0.07	根石あり
S P 942	f 14	3	0.48	0.42	0.21	
S K 943	f 13	3	(1.1)	(0.8)	0.16	

遺構名	地区名	遺構面	規模 (形状)			備考
			長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
S P 944	g 13	3	0.6	0.5	0.16	根石あり
S P 945	g 13	3	0.2	↔	0.12	
S P 946	f 13	3	0.23	↔	0.33	根石あり
S P 947	g 13	3	0.5	0.4	0.15	
S P 948	h 12	3	-	-	-	S P 723 (3面) と同じ
S K 949	f 15, g 14・15	3	2.85	2.1 - 2.25	0.27	
S P 950	f 14	3	0.45	0.35	0.33	
S P 952	g・h 16・17	4	0.9	0.72	0.25	
S P 953	g・h 17	4	0.82	0.7	0.22	
S P 954	h 17	4	(1.11)	(0.7)	0.16	
S P 955	h 16	4	(0.9)	(0.7)	0.16	
S P 956	h 16	4	0.5	0.4	0.5	
S E 957	f・g 10・11	3	(1.32)	(1.2)	0.37	
S E 958	g・h 16	3	-	-	-	S K 695 (2面) と同じ
S P 959	h 15	4	0.71	↔	0.28	
S P 960	g・h 15	4	0.9	0.8	0.29	
S P 961	g 11	4	0.41	↔	0.1	
S P 962	g 11	3	0.61	0.5	0.07	
S P 963	g 11	3	0.42	↔	0.1	
S K 964	g 11・12	4	2.4	1.1	0.22	
S P 965	g 12	3	0.35	0.3	0.14	
S P 966	h 10	4	0.42	↔	0.09	
S P 967	g 13	4	0.82	0.63	0.15	
S P 968	h 13	4	0.71	↔	0.22	
S P 969	g 14	4	0.85	0.76	0.18	
S P 970	h・g 12	4	0.95	0.85	0.12	
S K 971	g 15・16	3	2.4	2.05	0.31	
S K 972	g 13・14	3	0.8	↔	0.45	

付表4 土器・土製品一覧

(凡例)

・小数字第2位を四捨五入、第1位で表示
 - : 該当部位なし / : 測定不能

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調査・備考
1	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	1.8	-	8/12	浅黄橙 75YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
2	土師器	皿	2	S K 604・605	6.8	1.8	-	口 8/12 全 9/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面: ヨコナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
3	土師器	皿	2	S K 604・605	6.6	1.8	-	口 8/12 全 8/12	にふい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
4	土師器	皿	2	S K 604・605	6.4	2.0	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
5	土師器	皿	2	S K 604・605	6.4	1.9	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
6	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	2.0	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
7	土師器	皿	2	S K 604・605	6.7	1.9	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
8	土師器	皿	2	S K 604・605	6.2	1.8	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
9	土師器	皿	2	S K 604・605	6.9	2.0	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
10	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	2.0	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
11	土師器	皿	2	S K 604・605	6.6	2.1	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
12	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	1.9	-	12/12	灰白 75YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
13	土師器	皿	2	S K 604・605	6.2	1.9	-	12/12	浅黄橙 75YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
14	土師器	皿	2	S K 604・605	6.4	1.9	-	口 11/12 全 11/12	灰白 25YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
15	土師器	皿	2	S K 604・605	6.4	2.0	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
16	土師器	皿	2	S K 604・605	6.2	1.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
17	土師器	皿	2	S K 604・605	6.6	2.0	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
18	土師器	皿	2	S K 604・605	6.8	2.0	-	12/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
19	土師器	皿	2	S K 604・605	6.3	2.0	-	12/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
20	土師器	皿	2	S K 604・605	6.6	2.1	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
21	土師器	皿	2	S K 604・605	6.7	2.2	-	口 9/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
22	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	1.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ
23	土師器	皿	2	S K 604・605	8.0	2.4	-	7/12	灰白 75YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
24	土師器	皿	2	S K 604・605	6.9	1.8	-	8/12	にふい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
25	土師器	皿	2	S K 604・605	6.8	1.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
26	土師器	皿	2	S K 604・605	6.4	2.0	-	12/12	にふい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
27	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	2.0	-	12/12	灰白 10YR8/1	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
28	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	2.0	-	口 5/12 全 6/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
29	土師器	皿	2	S K 604・605	6.6	2.1	-	12/12	浅黄橙 75YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
30	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	1.9	-	12/12	灰白 10YR8/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
31	土師器	皿	2	S K 604・605	6.5	2.1	-	12/12	灰白 75YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
32	土師器	甗	2	S K 604・605	62	18	-	12/12	灰白 10YR8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
33	土師器	甗	2	S K 604・605	68	18	-	□ 6/12 全) 7/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
34	土師器	甗	2	S K 604・605	70	19	-	□ 10/12 全) 10/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
35	土師器	甗	2	S K 604・605	68	19	-	□ 11/12 全) 11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
36	土師器	甗	2	S K 604・605	66	21	-	□ 7/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
37	土師器	甗	2	S K 604・605	66	19	-	□ 7/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
38	土師器	甗	2	S K 604・605	65	18	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
39	土師器	甗	2	S K 604・605	66	18	-	□ 10/12 全) 11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
40	土師器	甗	2	S K 604・605	66	18	-	11/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
41	土師器	甗	2	S K 604・605	65	18	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
42	土師器	甗	2	S K 604・605	64	19	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
43	土師器	甗	2	S K 604・605	65	19	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
44	土師器	甗	2	S K 604・605	66	19	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
45	土師器	甗	2	S K 604・605	65	21	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
46	土師器	甗	2	S K 604・605	63	19	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
47	土師器	甗	2	S K 604・605	66	19	-	12/12	淡黄 25Y8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
48	土師器	甗	2	S K 604・605	67	20	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
49	土師器	甗	2	S K 604・605	65	17	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
50	土師器	甗	2	S K 604・605	66	18	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
51	土師器	甗	2	S K 604・605	67	21	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
52	土師器	甗	2	S K 604・605	64	19	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
53	土師器	甗	2	S K 604	65	30	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
54	土師器	甗	2	S K 604・605	66	22	-	11/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
55	土師器	甗	2	S K 604・605	69	21	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
56	土師器	甗	2	S K 604・605	66	20	-	12/12	灰白 25YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
57	土師器	甗	2	S K 604・605	66	18	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
58	土師器	甗	2	S K 604・605	65	20	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
59	土師器	甗	2	S K 604・605	65	19	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
60	土師器	甗	2	S K 604・605	64	17	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・未調整
61	土師器	甗	2	S K 604・605	65	20	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
62	土師器	甗	2	S K 604・605	63	19	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
63	土師器	甗	2	S K 604・605	65	21	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ
64	土師器	甗	2	S K 604・605	63	20	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
65	土師器	甗	2	S K 604・605	65	18	-	□ 8/12 全) 10/12	灰白 25YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
66	土師器	皿	2	S K 604・605	64	19	-	12/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
67	土師器	皿	2	S K 604・605	66	18	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
68	土師器	皿	2	S K 604・605	69	19	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
69	土師器	皿	2	S K 604・605	67	18	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
70	土師器	皿	2	S K 604・605	68	18	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
71	土師器	皿	2	S K 604・605	66	19	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
72	土師器	皿	2	S K 604・605	65	19	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
73	土師器	皿	2	S K 604・605	67	20	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
74	土師器	皿	2	S K 604・605	67	20	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
75	土師器	皿	2	S K 604・605	67	20	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	やや密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
76	土師器	皿	2	S K 604・605	66	18	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
77	土師器	皿	2	S K 604・605	64	18	-	12/12	灰白 25Y8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
78	土師器	皿	2	S K 604・605	62	20	-	口 9/12 全 10/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
79	土師器	皿	2	S K 604・605	76	16	-	口 6/12 全 7/12	浅黄 25Y7/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナダ、外面：ユビオサエ
80	土師器	皿	2	S K 604・605	64	21	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
81	土師器	皿	2	S K 604・605	72	17	-	7/12	にぶい橙 7.5YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
82	土師器	皿	2	S K 604・605	8.0	13	-	4/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ、底部外面：未調整
83	土師器	皿	2	S K 604・605	7.4	15	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
84	土師器	皿	2	S K 604・605	7.7	1.6	-	8/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
85	土師器	皿	2	S K 604・605	8.2	1.5	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
86	土師器	皿	2	S K 604・605	8.2	1.5	-	6/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
87	土師器	皿	2	S K 604・605	7.9	2.4	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
88	土師器	皿	2	S K 604・605	7.7	1.5	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
89	土師器	皿	2	S K 604・605	8.0	1.6	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
90	土師器	皿	2	S K 604・605	7.4	1.1~1.6	-	11/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
91	土師器	皿	2	S K 604・605	8.0	1.9	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
92	土師器	皿	2	S K 604・605	7.8	1.7	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
93	土師器	皿	2	S K 604・605	8.0	1.7	-	10/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・未調整
94	土師器	皿	2	S K 604・605	7.8	1.9	-	12/12	にぶい黄橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
95	土師器	皿	2	S K 604・605	9.9	2.1	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ 口縁部内外面：僅付き
96	土師器	皿	2	S K 604・605	9.9	2.0	-	12/12	にぶい橙 5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・未調整 内外面：僅付き
97	土師器	皿	2	S K 604・605	10.0	1.8	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・底面外面：未調整
98	土師器	皿	2	S K 604・605	9.7	1.9	-	12/12	にぶい橙 5YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・底面外面：未調整

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
99	土師器	甕	2	S K 604・605	100	18	-	12/12	浅黄緑 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ 底部外面:板状圧痕あり
100	土師器	甕	2	S K 605	(101)	2.2	-	2/12	橙 7.5Y6/6	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ
101	土師器	甕	2	S K 604・605	9.9~10.3	2.1	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
102	土師器	甕	2	S K 604・605	10.2	2.4	-	8/12	にぶい黄緑 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内外面:ナテ
103	土師器	甕	2	S K 604・605	10.4	1.7	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
104	土師器	甕	2	S K 604・605	10.1~10.7	2.4	-	11/12	浅黄緑 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
105	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0	2.0	-	8/12	浅黄緑 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
106	土師器	甕	2	S K 604・605	10.3	2.0	-	9/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
107	土師器	甕	2	S K 604・605	10.1	2.0	-	11/12	にぶい黄緑 7.5YR6/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
108	土師器	甕	2	S K 604・605	10.3	2.0~2.5	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
109	土師器	甕	2	S K 604・605	10.1	2.1	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
110	土師器	甕	2	S K 604・605	10.1	2.1	-	12/12	浅黄緑 10YR8/3	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ 口縁部内外面:煤付着
111	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0~10.6	1.9	-	12/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
112	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0	1.8	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ、底部外面:未調整
113	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0	2.2	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ、底部外面:未調整
114	土師器	甕	2	S K 604・605	9.8	1.9	-	12/12	にぶい橙 7.5YR6/4	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
115	土師器	甕	2	S K 604・605	10.3	1.7	-	9/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
116	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0	2.3	-	10/12	にぶい黄緑 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
117	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0	1.7	-	4/12	にぶい黄緑 10YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
118	土師器	甕	2	S K 604・605	9.8	1.9	-	7/12	橙 7.5YR6/6	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
119	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0	2.2	-	11/12	浅黄 25Y7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
120	土師器	甕	2	S K 604・605	9.7~10.5	2.2	-	11/12	淡黄緑 25Y8/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
121	土師器	甕	2	S K 604・605	10.0	2.0~2.5	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
122	土師器	甕	2	S K 604・605	10.6	2.1	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
123	土師器	甕	2	S K 604・605	10.2	1.5~2.0	-	9/12	にぶい黄緑 7.5YR7/4、一部浅黄緑 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
124	土師器	甕	2	S K 604	9.8	2.0	-	12/12	にぶい黄緑 10YR7/3~橙 7.5YR6/6	やや粗	やや軟	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
125	土師器	甕	2	S K 604・605	(128)	3.4	-	3/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
126	土師器	甕	2	S K 604・605	11.7	3.1	-	11/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:未調整
127	土師器	甕	2	S K 604・605	10.6	2.8	-	12/12	灰白 5YR8/1	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ 底部外面:格子状圧痕あり
128	土師器	甕	2	S K 604・605	11.3	3.1	-	12/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
129	土師器	甕	2	S K 604・605	11.4	3.1	-	12/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ
130	土師器	甕	2	S K 604・605	11.5	3.2	-	12/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナテ、内面:ナテ、外面:ユビオサエ・ナテ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
131	土師器	甕	2	S K 604・605	118	32	-	11/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
132	土師器	甕	2	S K 604・605	114	(29)	-	口 11/12 全 9/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ 底部内面・外面：黒斑あり
133	土師器	甕	2	S K 604・605	115	34	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
134	土師器	甕	2	S K 604・605	120	29	-	4/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
135	土師器	甕	2	S K 604・605	114	32	-	11/12	淡黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
136	土師器	甕	2	S K 604・605	118	32	-	口 9/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
137	土師器	甕	2	S K 604・605	115	31	-	口 7/12 全 6/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
138	土師器	甕	2	S K 604・605	119	28	-	4/12	灰白 5YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
139	土師器	甕	2	S K 604・605	118 ~ 121	26 ~ 3.0	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
140	土師器	甕	2	S K 604・605	118	30 ~ 32	-	11/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ 底部内面：黒斑あり
141	土師器	甕	2	S K 604・605	118	30	-	口 7/12 全 7/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
142	土師器	甕	2	S K 604・605	118	32	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
143	土師器	甕	2	S K 604・605	115	30	-	11/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
144	土師器	甕	2	S K 604・605	114	30	-	口 9/12 全 6/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
145	土師器	甕	2	S K 604・605	117	30	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
146	土師器	甕	2	S K 604・605	118	30	-	口 11/12 全 11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
147	土師器	甕	2	S K 604・605	116	32	-	口 12/12 全 11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
148	土師器	甕	2	S K 604・605	137	36	-	8/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
149	土師器	甕	2	S K 604・605	136	34	-	8/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
150	土師器	甕	2	S K 604・605	130	38	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
151	土師器	甕	2	S K 604	136	31	-	口 6/12 全 7/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
152	土師器	甕	2	S K 604・605	122	30	-	口 9/12	灰白 10YR8/2	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
153	土師器	甕	2	S K 604・605	115	32	-	口 8/12 全 9/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
154	土師器	甕	2	S K 604・605	115	32	-	口 6/12	淡黄 2.5Y8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
155	土師器	甕	2	S K 604・605	122	31	-	口 6/12 全 8/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
156	瓦質土器	鍋	2	S K 604・605	147	50	-	11/12	灰白 2.5Y8/1	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ナデ 全体に煤付着
157	須恵器	鉢	2	S K 604・605	(284)	(7.7)	-	2/12	灰 5Y5/1	やや粗	堅緻	口縁部内外面・外面：回転ナデ、内面：ヘラケズリ
158	青白磁	梅瓶	2	S K 604・605	体) 173	(6.6)	-	-	釉) 明緑灰 5G 7/1、素地) 灰白 5Y8/1	精良	堅緻	内面：回転ナデ、外面：回転ナデのち施釉、唐草文
159	土師器	甕	2	S K 336	66	18	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
160	土師器	甕	2	S K 336	64	21	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
161	土師器	甕	2	S K 336	76	20	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
162	土師器	甕	2	S K 336	65	18	-	8/12	灰白 2.5Y8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
163	土師器	甕	2	S K 336	73	16	-	12/12	橙 2.5Y8/8 ~ にぶい黄橙 10YR7/4	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
164	土師器	皿	2	S K 336	8.2	1.5	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
165	土師器	皿	2	S K 336	7.3	2.2	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、内外面：ナデ
166	土師器	皿	2	S K 336	10.8~11.5	2.4	-	12/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
167	土師器	皿	2	S K 336	11.4	2.1	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
168	土師器	皿	2	S K 336	11.7	3.0	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
169	土師器	皿	2	S K 336	12.3	3.1	-	5/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
170	土師器	皿	2	S K 336	11.9	2.9	-	12/12	灰白 10YR8/1	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
171	土師器	皿	2	S K 336	11.9	3.1	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
172	陶器	椀鉢	2	S K 336	31.1	11.6	13.0	口) 10/12 全) 11/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面・外面：ヨコナデ、内面：襷目、底部外面：未調整、備前
173	陶磁器	入子	2	S K 336	8.0	2.8	-	7/12	内) 淡黄 2.5Y8/3 外) 灰黄 10YR7/3	精良	堅緻	内外面：回転ナデ、外面：へら切り後工による調整、古瀬戸
174	瓦器	椀	2	S K 336	13.6	4.7	-	口) 9/12 全) 10/12	暗灰 N3/0	密	良好	口縁部内外面・高台胎り付け：ヨコナデ、内面：ミガキ、外面：未調整
175	瓦質土器	壺	2	S K 336	6.5	7.1	幅) 10.2	12/12	灰 N4/0～暗灰 N3/0	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ミガキ・ユビオサエ
176	白磁	皿	2	S K 336	9.8	2.7	-	口) 11/12	灰白 7.5Y7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
177	白磁	皿	2	S K 336	12.0	3.4	-	4/12	灰白 10YR8/1	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
178	土師器	皿	2	S K 777	6.9	1.7	-	12/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ
179	土師器	皿	2	S K 777	7.2	1.5	-	口) 11/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
180	土師器	皿	2	S K 777	7.8	2.5	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
181	土師器	皿	2	S K 777	7.3	1.5	-	口) 10/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ナデ
182	土師器	皿	2	S K 777	8.8	1.6	-	6/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
183	土師器	皿	2	S K 777	6.9	2.3	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内外面：ヨコナデ
184	土師器	皿	2	S K 777	8.1	1.6	-	9/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
185	土師器	皿	2	S K 777	9.0	1.7	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
186	土師器	皿	2	S K 777	8.4	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
187	土師器	皿	2	S K 777	8.6	1.5	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
188	土師器	皿	2	S K 777	8.8	1.4	-	5/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
189	土師器	皿	2	S K 777	9.0	1.9	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
190	土師器	皿	2	S K 777	8.3	1.5	-	11/12	内) 橙 7.5YR7/6 外) 浅黄橙 7.5YR8/3～橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
191	土師器	皿	2	S K 777	8.5	1.4	-	口) 10/12	にぶい橙 7.5YR	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
192	土師器	皿	2	S K 777	6.8	1.6	-	12/12	灰白 2.5Y8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、ユビオサエ、内外面：ナデ
193	土師器	皿	2	S K 777	7.4	1.4	-	12/12	灰白 10YR8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
194	土師器	皿	2	S K 777	11.8	3.2	-	口) 6/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
195	土師器	皿	2	S K 777	12.5	2.8	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
196	土師器	皿	2	S K 777	12.0	2.2	-	9/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
197	須恵器	鉢	2	S K 777	26.1	10.4	-	口) 4/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面・内外面：回転ナデ、底部外面：ナデ
198	瓦器	椀	2	S K 777	14.7	(4.0)	-	口) 7/12	灰 N5/0～灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ミガキ、外面：ユビオサエ
199	瓦器	小型椀	2	S K 777	(7.5)	(2.4)	-	口) 3/12	灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面・高台胎り付け・外面：ナデ、内面：ミガキ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
200	瓦器	小型椀	2	S K 777	7.5	3.0	-	11/12	暗灰 N3-0	密	良好	口縁部内外面・高台貼付け: ヨコナデ、内面: ミガキ、外面: エビオサエ・ナデ
201	土師器	鍋	2	S K 777	(25.9)	(7.4)	-	口 3/12	灰 5Y5/1 ~ 灰 N5-0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ハケ、外面: エビオサエ
202	青磁	椀	2	S K 777	(17.2)	(6.0)	-	口 1/12	灰オリーブ 5Y5/3	精良	堅緻	内外面: 回転ナデのち造輪
203	土師器	皿	2	S K 127	7.4	1.4	-	12/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
204	土師器	皿	2	S K 127	(11.3)	2.7	-	口 7/12 全 7/12	浅黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ、底部外面: 未調整
205	土師器	皿	2	S K 127	10.8	2.7	-	11/12	灰白 2.5Y8/2	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
206	土師器	皿	2	S K 127	(13.3)	3.4	-	口 8/12 全 8/12	にぶい黄椀 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
207	土師器	皿	1	S K 835	9.1	1.7	-	9/12	にぶい黄椀 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
208	土師器	皿	1	S K 835	9.2	1.6	-	11/12	椀 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
209	土師器	皿	1	S K 835	9.8	2.0	-	口 12/12	にぶい黄椀 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
210	土師器	皿	1	S K 835	14.6	2.8	-	4/12	椀 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
211	土師器	皿	1	S K 835	14.6	3.1	-	8/12	灰黄 2.5Y6/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
212	土師器	皿	2	S K 124	8.1	1.4	-	12/12	椀 7.5YR6/6	密	良好	口縁部内外面・内外面: ヨコナデ、底部外面: 未調整
213	土師器	皿	2	S K 124	8.0	1.6	-	12/12	にぶい黄椀 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
214	土師器	皿	2	S K 124	11.6	1.9	-	口 7/12 全 8/12 弱	にぶい黄椀 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ、底部外面: 未調整、内面: 煤付着
215	土師器	皿	2	S K 124	11.0	2.3	-	口 8/12 全 9/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
216	瓦器	皿	2	S K 124	7.6	1.6	-	12/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面・内面: 回転ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
217	瓦器	椀	2	S K 124	(11.8)	(3.5)	-	口 2/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ミガキ、外面: エビオサエ・ナデ
218	土師器	皿	2	S K 423	8.2	1.8	-	12/12	にぶい黄椀 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ、底部外面: 板状圧痕あり
219	土師器	皿	2	S K 423	8.1	1.5	-	12/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
220	土師器	皿	2	S K 423	8.4	1.6	-	12/12	椀 5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
221	土師器	皿	2	S K 423	8.4	1.7	-	12/12	にぶい黄椀 10YR6/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
222	土師器	皿	3	S K 203	7.4	1.6	-	9/12	にぶい黄椀 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
223	土師器	皿	3	S K 203	(7.8)	2.1	-	2/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
224	土師器	皿	2	S K 203	10.5	2.4	-	11/12	椀 5YR7/6	密	やや粗	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ・ナデ
225	土師器	皿	2	S K 203	11.3	3.1	-	11/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ、底部外面: 未調整
226	土師器	皿	2	S K 203	11.4	3.3	-	9/12	浅黄椀 7.5YR8/3 ~ 浅黄椀 10YR8/3	密	やや粗	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: エビオサエ・ナデ
227	土師器	皿	2	S K 203	11.5	3.3	-	12/12	浅黄椀 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
228	土師器	皿	3	S K 203	(11.8)	(2.7)	-	2/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面・内外面: ナデ
229	土師器	皿	2	S K 203	16.3	4.7	-	口 11/12	灰白色 10YR8/1	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: エビオサエ
230	土師器	皿	2	S K 840	6.3	2.1	-	12/12	灰白 10YR8/1	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
231	土師器	皿	2	S K 840	7.7	1.5	-	12/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
232	土師器	皿	2	S K 840	8.4	1.4	-	12/12	にぶい椀 7.5YR6/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
233	土師器	皿	2	S K 840	7.7	1.4	-	10/12	にぶい椀 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整、口縁部内外面: 煤付着

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
234	土師器	甗	2	S K 840	83	16	-	12/12	にぶい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
235	土師器	甗	2	S K 840	78	16	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・未調整
236	土師器	甗	2	S K 840	80	15	-	12/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
237	土師器	甗	2	S K 840	81	17	-	12/12	にぶい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・未調整
238	土師器	甗	2	S K 840	78	14	-	12/12	にぶい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
239	土師器	甗	2	S K 840	78	15	-	12/12	にぶい褐 75YR6/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・未調整
240	土師器	甗	2	S K 840	78	11	-	12/12	にぶい橙 5YR7/4	やや軟	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
241	土師器	甗	2	S K 840	80	15	-	12/12	にぶい橙 5YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
242	土師器	甗	2	S K 840	112	19	-	7/12	にぶい橙 75YR7/3	やや軟	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
243	土師器	甗	2	S K 126	65	21	-	12/12	浅黄橙 75YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
244	土師器	甗	2	S K 126	68	21	-	12/12	浅黄橙 75YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
245	土師器	甗	2	S K 126	65	22	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	やや軟	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
246	土師器	甗	2	S K 126	66	20	-	12/12	浅黄橙 75YR8/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
247	土師器	甗	2	S K 126	61	20	-	12/12	浅黄橙 75YR8/4～灰白 75YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
248	土師器	甗	2	S K 126	73	18	-	11/12	淡黄 25YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ底部外面：未調整
249	土師器	甗	3	S K 126	66	19	-	12/12	浅黄橙 75YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
250	土師器	甗	2	S K 126	66	19	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
251	土師器	甗	3	S K 126	63	17	-	12/12	灰白 10YR8/2	やや粗	やや粗	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：摩滅の為調整不明、外面：ユビオサエ・ナデ
252	土師器	甗	2	S K 126	78	15	-	12/12	橙 75YR7/6	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
253	土師器	甗	2	S K 126	77	28	-	□) 7/12 全) 11/12	灰色 10YR8/2	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
254	土師器	甗	2	S K 126	78	17	-	12/12	橙 5YR7/8	粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ、底部外面：未調整
255	土師器	甗	2	S K 126	75	16	-	9/12	浅黄橙 75YR8/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
256	土師器	甗	2	S K 126	75	18	-	12/12	灰白 25YR/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
257	土師器	甗	2	S K 126	79	18	-	12/12	橙 5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
258	土師器	甗	2	S K 126	78	17	-	□) 10/12 全) 11/12	灰黄 25Y7/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
259	土師器	甗	3	S K 126	76	19	-	12/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
260	土師器	甗	2	S K 126	75	17	-	12/12	にぶい橙 75YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
261	土師器	甗	3	S K 126	98	39	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
262	土師器	甗	3	S K 126	76～79	17	-	11/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
263	土師器	甗	3	S K 126	77	17	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ
264	土師器	甗	2	S K 126	80	24	-	12/12	浅黄橙 75YR8/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
265	土師器	甗	3	S K 126	85	16	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
266	土師器	甗	3	S K 126	86	16	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ 底部外面：工具痕あり
267	土師器	甗	3	S K 126	90	19	-	12/12	浅黄橙 75YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ 口縁部内外面：覆付着

平安京跡・東本願寺前古葛群発掘調査報告

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
368	土師器	甗	2	S K 126	90	19	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ 口縁部外面：焼付着
369	土師器	甗	2	S K 126	99	20	-	9/12	にふい黄橙 10YR7/3	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
270	土師器	甗	3	S K 126	104	22	-	口 6/12	にふい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
271	土師器	甗	3	S K 126	107	23	-	11/12	にふい黄橙 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
272	土師器	甗	2	S K 126	100	18	-	12/12	にふい橙 7.5YR7/3	粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
273	土師器	甗	3	S K 126	103	24	-	口 10/12 全 11/12	灰白 7.5YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
274	土師器	甗	2	S K 126	97	21	-	12/12	にふい橙 5YR7/4 ～橙 5YR7/6	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
275	土師器	甗	2	S K 126	104	21	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ 底部外面：工具痕あり
276	土師器	甗	2	S K 126	104 ～ 122	29	-	口 9/12 全 10/12	にふい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
277	土師器	甗	3	S K 126	103 ～ 105	22	-	12/12	にふい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
278	土師器	甗	2	S K 126	115	27	-	12/12	にふい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
279	土師器	甗	2	S K 126	97	20	-	12/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
280	土師器	甗	3	S K 126	115	30	-	11/12	にふい黄橙 10YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビ オサエ・ナデ
281	土師器	甗	2	S K 126	105	22	-	11/12	にふい橙 7.5YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
282	土師器	甗	2	S K 126	106	27	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビ オサエ・ナデ
283	土師器	甗	3	S K 126	119	25	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
284	土師器	甗	3	S K 126	121	25	-	口 10/12 全 11/12	浅黄 2.5Y7/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
285	土師器	甗	2	S K 126	113	24	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
286	土師器	甗	2	S K 126	113	31	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
287	土師器	甗	3	S K 126	113	29	-	口 10/12 全 11/12	灰白 10YR8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
288	土師器	甗	3	S K 126	116	34	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
289	土師器	甗	3	S K 126	116	32	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
290	土師器	甗	2	S K 126	124	32	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
291	土師器	甗	2	S K 126	134	35	-	11/12	灰白 7.5Y8/2	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
292	青磁	碗	3	S K 126	-	(3.7)	高台 (5.8)	3/12	オリーブ黄 7.5Y6/3	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施輪
293	陶器	壺 (口縁部)	2	S K 126	46	(36)	-	口 12/12	釉) 灰白 10Y7/2 素地) 灰白 2.5Y8/2	精良	堅緻	外面：回転ナデのち施輪、内面：回転ナデ、 古瀬戸
294	陶器	甗	3	S K 126	(4.8)	(8.7)	-	口 2/12	暗緑 7.5YR3/3	密	堅緻	外面：ナデ、内面：ケズリ、焼前
295	土師器	甗	2	S K 125	62	17	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
296	土師器	甗	2	S K 125	65	20	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
297	土師器	甗	2	S K 125	63	19	-	口 8/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
298	土師器	甗	2	S K 125	65	19	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
299	土師器	甗	2	S K 125	65	17	-	口 8/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
300	土師器	甗	2	S K 125	66	19	-	6/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
301	土師器	甗	2	S K 125	69	19	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
302	土師器	甗	2	S K 125	67	20	-	12/12	灰色 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
303	土師器	甗	2	S K 125	62	18	-	12/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：ユビオサエ・ナデ
304	土師器	甗	2	S K 125	66	19	-	口 9/12 全 10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：ユビオサエ・ナデ
305	土師器	甗	2	S K 125	68	18	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
306	土師器	甗	2	S K 125	68	18	-	口 6/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
307	土師器	甗	2	S K 125	63	20	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：ユビオサエ・ナデ
308	土師器	甗	2	S K 125	77	17	-	口 6/12 全 7/12	にぶい・褐 7.5YR6/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
309	土師器	甗	2	S K 125	78	17	-	口 8/12	にぶい・黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
310	土師器	甗	2	S K 125	75	16	-	12/12	にぶい・橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：ユビオサエ・ナデ
311	土師器	甗	2	S K 125	74	19	-	口 8/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
312	土師器	甗	2	S K 125	71	14	-	11/12	にぶい・黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
313	土師器	甗	2	S K 125	76	17	-	6/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
314	土師器	甗	2	S K 125	79	22	-	口 6/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ
315	土師器	甗	2	S K 125	84	19	-	口 5/12	(内) にぶい・黄橙 10YR7/2 (外) 褐灰 10YR4/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
316	土師器	甗	2	S K 125	91	20	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ 口縁部内外面：襷付着
317	土師器	甗	2	S K 125	94	21	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ 口縁部内外面：襷付着
318	土師器	甗	2	S K 125	100	17	-	口 9/12 全 10/12	黄橙 7.5YR8/8	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ
319	土師器	甗	2	S K 125	115	20	-	口 9/12 全 10/12	淡黄 25Y8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
320	土師器	甗	2	S K 125	123	29	-	口 3/12 全 7/12	にぶい・橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ユビオサエ・ナデ
321	土師器	甗	2	S K 125	(134)	(21)	-	2/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：ユビオサエ・ナデ
322	土師器	甗	2	S K 125	125	30	-	7/12	橙 7.5YR7/6 - 灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：未調整（指跡あり）
323	土師器	甗	2	S K 125	112	27	-	11/12	にぶい・橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
324	土師器	甗	2	S K 125	(118)	(29)	-	口 3/12	にぶい・黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
325	土師器	甗	2	S K 125	165	45	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ 底部外面：板状圧痕あり
326	土師器	高杯 (脚部)	2	S K 125	-	(40)	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	外面：ナデ 内面：竹筒痕あり
327	土製品	円板	2	S K 125	44	厚) 0.6	-	12/12	にぶい・橙 7.5YR7/4	密	良好	外面：ユビオサエ・ナデ
328	土製品	円板	2	S K 125	42	厚) 0.5	-	12/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	外面：ユビオサエ・ナデ
329	瓦質土器	壺	2	S K 125	(68)	(53)	-	3/12	(外) 暗灰 N3/0 (内) 灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：ユビオサエ・ナデ
330	瓦質土器	鍋	2	S K 125	(269)	(75)	-	口 1/12	にぶい・橙 7.5YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ハケ、外面：ユビオサエ
331	瓦質土器	鍋	2	S K 125	(286)	(26)	-	口 1/12	灰白 5Y7/1	やや粗	やや軟	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：ユビオサエ
332	須恵器	鉢 (口縁部)	2	S K 125	-	(44)	-	-	灰 N5/0	密	堅緻	口縁部内面：回転ナテ、口縁部外面：回転ナテ・タタキ
333	白磁	壺	2	S K 125	-	(68)	80	底) 4/12	明オリブ灰 2.5GY7/1	密	堅緻	内外面：回転ナテのち施軸
334	土師器	甗	2	S K 251	69	21	-	口 8/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
335	土師器	甗	2	S K 251	67	19	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
336	土師器	甗	2	S K 251	65	20	-	11/12	灰白 2.5Y8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
337	土師器	甗	2	S K 251	70	19	-	12/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ

平安京跡・東本願寺前古墓群発掘調査報告

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
338	土師器	甗	2	S K 251	65	1.8	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
339	土師器	甗	2	S K 251	70	1.8	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
340	土師器	甗	2	S K 251	65	1.8	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
341	土師器	甗	2	S K 251	69	2.0	-	11/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
342	土師器	甗	2	S K 251	64	2.0	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
343	土師器	甗	2	S K 251	65	1.8	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
344	土師器	甗	3	S K 251	70	1.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
345	土師器	甗	2	S K 251	66	1.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
346	土師器	甗	2	S K 251	67	2.1	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
347	土師器	甗	2	S K 251	70	1.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
348	土師器	甗	2	S K 251	7.8	1.9	-	10/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内外面: ナダ
349	土師器	甗	2	S K 251	7.6	2.3	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
350	土師器	甗	2	S K 251	7.9	2.5	-	口 10/12 全 11/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内外面: ナダ
351	土師器	甗	2	S K 251	7.9	2.3	-	口 12/12 全 11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
352	土師器	甗	2	S K 251	8.1	2.2	-	11/12	灰白 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
353	土師器	甗	2	S K 251	7.6	1.6	-	口 6/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
354	土師器	甗	2	S K 251	7.8	1.5	-	8/12	にぶい橙 7.5YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
355	土師器	甗	2	S K 251	(7.0)	1.5	-	口 5/12 全 6/12	にぶい橙 5YR6/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
356	土師器	甗	2	S K 251	7.0	1.4	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ、底部外面: 未調整
357	土師器	甗	2	S K 251	8.2	1.8	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
358	土師器	甗	2	S K 251	7.7	1.7	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
359	土師器	甗	2	S K 251	7.8	1.7	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
360	土師器	甗	2	S K 251	10.0	2.1	-	7/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
361	土師器	甗	2	S K 251	(9.8)	2.0	-	口 7/12 全 7/12	橙 7.5YR7/6	粗	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ、底部外面: 未調整
362	土師器	甗	2	S K 251	10.4	2.4	-	12/12	橙 5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ、底部外面: 板状圧痕あり
363	土師器	甗	2	S K 251	11.6	(3.1)	-	5/12	(外) にぶい黄橙 10YR7/2 (内) 橙 2.5Y6/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
364	土師器	甗	2	S K 251	10.8	3.2	-	口 11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
365	土師器	甗	2	S K 251	14.0	3.7	-	4/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
366	土師器	甗	2	S K 251	13.0	3.6	-	6/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ
367	土師器	甗	2	S K 251	17.0	4.6	-	6/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ
368	土師器	甗	3	S K 251	13.0	2.3	-	10/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナダ、内面: ナダ、外面: ユビオサエ・ナダ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
369	土師器	甗	2	S K 251	21.2	3.6	-	□ 15/12 全) 1/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
370	瓦質土器	鍋	2	S K 251	(24.3)	(8.6)	-	□ 2/12	(外) 灰 N4/0 (内) 灰黄 25Y7/2	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ヘラ状工具によるケスリ残ナデ, 外面: ナデ・ユビオサエ
371	土師器	甗	2	S X 130	64	20	-	6/12	灰白 10YR8/2	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
372	土師器	甗	2	S X 130	63	20	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
373	土師器	甗	2	S X 130	64	18	-	11/12	灰白 10YR8/2	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
374	土師器	甗	2	S X 130	65	20	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
375	土師器	甗	2	S X 130	66	21	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
376	土師器	甗	2	S X 130	60	18	-	11/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
377	土師器	甗	2	S X 130	66	17	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
378	土師器	甗	2	S X 130	67	20	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
379	土師器	甗	2	S X 130	64	20	-	12/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
380	土師器	甗	2	S X 130	65	19	-	11/12	灰白 10YR8/1	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
381	土師器	甗	2	S X 130	64	21	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
382	土師器	甗	2	S X 130	67	21	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
383	土師器	甗	2	S X 130	65	19	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
384	土師器	甗	2	S X 130	7.6	1.4	-	6/12	明赤褐 5YR5/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
385	土師器	甗	2	S X 130	65	18	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
386	土師器	甗	2	S X 130	70	20	-	11/12	淡橙 5YR8/4 - 灰白 5YR8/1	やや軟	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
387	土師器	甗	2	S X 130	64	19	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
388	土師器	甗	2	S X 130	66	20	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
389	土師器	甗	2	S X 130	67	20	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
390	土師器	甗	2	S X 130	65	19	-	12/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
391	土師器	甗	2	S X 130	7.5	1.5	-	8/12	(にぶい黄橙 10YR7/3)	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ, 径5mm孔あり
392	土師器	甗	2	S X 130	65	19	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
393	土師器	甗	2	S X 130	65	21	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
394	土師器	甗	2	S X 130	66	19	-	12/12	(にぶい) 橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
395	土師器	甗	2	S X 130	70	21	-	11/12	浅黄橙 7.5YR8/4	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
396	土師器	甗	2	S X 130	65	20	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/4	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
397	土師器	甗	2	S X 130	62	18	-	□ 9/12 全) 10/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
398	土師器	甗	2	S X 130	63	18	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
399	土師器	甗	2	S X 130	67	20	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
400	土師器	甗	2	S X 130	64	20	-	11/12	浅黄橙 7.5YR8/4	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ 口縁端部: 保付着
401	土師器	甗	2	S X 130	66	21	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
402	土師器	甗	2	S X 130	70	22	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
403	土師器	皿	2	S X 130	63	2.1	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
404	土師器	皿	2	S X 130	66	2.2	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/4	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
405	土師器	皿	2	S X 130	63	2.0	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
406	土師器	皿	2	S X 130	66	1.8	-	12/12	淡黄 5YR6/3	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
407	土師器	皿	2	S X 130	7.1 ~ 7.7	1.6	-	11/12	橙 5YR6/6	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
408	土師器	皿	2	S X 130	80	1.4	-	12/12	橙 2.5YR6/5	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
409	土師器	皿	2	S X 130	79	1.5	-	7/12	にぶい黄橙 10YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
410	土師器	皿	2	S X 130	95	2.0	-	12/12	橙 7.5YR6/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ユビオサエ・ナデ
411	土師器	皿	2	S X 130	103	1.8	-	11/12	橙 5YR7/6	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ、底部外面: 工具痕あり
412	土師器	皿	2	S X 130	96	2.0	-	12/12	淡黄 2.5Y8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
413	土師器	皿	2	S X 130	9.8 ~ 10.4	2.0	-	12/12	橙 7.5YR7/6	粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
414	土師器	皿	2	S X 130	97	2.1	-	12/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
415	土師器	皿	2	S X 130	100	2.0	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
416	土師器	皿	2	S X 130	102	1.8	-	11/12	橙 5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ユビオサエ・ナデ、底部外面: 未調整
417	土師器	皿	2	S X 130	99	2.2	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
418	土師器	皿	2	S X 130	9.3 ~ 9.7	2.0	-	12/12	淡黄 2.5Y8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
419	土師器	皿	2	S X 130	95	2.0	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ、内面一部: 工具痕あり
420	土師器	皿	2	S X 130	9.8 ~ 10.4	2.1	-	11/12	橙 7.5YR7/6	粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
421	土師器	皿	2	S X 130	(9.0)	2.0	-	(口) 10/12 全) 10/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ、底部外面: 未調整、内外面: 煤付着
422	土師器	皿	2	S X 130	7.3	1.7	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
423	土師器	皿	2	S X 130	8.5	2.2	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
424	土師器	皿	2	S X 130	11.4	3.1	-	11/12	灰白 2.5Y8/2	やや粗	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
425	土師器	皿	2	S X 130	11.3	2.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
426	土師器	皿	2	S X 130	13.1	3.8	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
427	土師器	皿	2	S X 130	11.1	3.1	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
428	土師器	皿	2	S X 130	13.3	3.8	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ユビオサエ・ナデ
429	土師器	皿	2	S X 130	13.9	4.0	-	9.5/12	浅黄橙 10YR8/3 ~ 浅黄橙 7.5YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
430	土師器	皿	2	S X 130	15.6	3.2	-	11/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
431	土師器	皿	2	S X 130	18.8	5.0	-	6/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 煤付着
432	土製品	土鉢	2	S X 130	幅) 12 長) 4.2	4.2	-	11/12	にぶい橙 5YR6/4 ~ 黄橙 10YR7/2	密	やや軟	外面: ナデ、重さ: 5.7 g
433	土師器	ミニチュア密	2	S X 130	24	3.5	-	(口) 6/12	灰白 2.5Y7/1	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ユビオサエ・ナデ
434	土師器	片口鉢	2	S X 130	18.8	8.3	-	5/12	淡赤橙 2.5YR7/4 ~ 浅黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面・注ぎ口貼り付け: ヨコナデ、内面: ハケ後ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ、外面: 黒底あり

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調査・備考
435	瓦質土器	片口鉢	2	S X 130	12.6	4.3	-	4/12	灰 NS/0	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ミガキ、外面:ユビオサエ・ナデ
436	瓦質土器	壺	2	S X 130	3.5	10.3	5.8	口 4/12 全 10/12	灰 SY5/1	密	良好	口縁部内外面:回転ナデ、外面:ナデ
437	須恵器	鉢(底部)	2	S X 130	-	(26)	(100)	底 3/12	灰 7.5Y5/1	密	堅緻	内外面:回転ナデ、底部:糸切り、束縛系
438	須恵器	鉢	2	S X 130	-	(7.4)	10.1	底 10/12	灰 7.5 Y 6/1	密	堅緻	内外面:回転ナデ、束縛系
439	須恵器	鉢 (口縁部)	2	S X 130	(28.5)	(5.9)	-	口 2/12	オリーブ灰 5CY6/1	密	堅緻	口縁部内外面・内外面:回転ナデ、束縛系
440	青磁	椀(底部)	2	S X 130	-	(2.3)	高台(9.2) 高台(2/12)	2/12	灰青 2.5Y6/4	密	堅緻	内外面:回転ナデのち地輪
441	陶器	壺(底部)	2	S X 130	-	(10.4)	(23.0)	底 2/12	黄灰 2.5Y5/1	密	堅緻	内外面:回転ナデ
442	陶器	壺	2	S X 130	18.7	(7.2)	-	口 4/12	褐 7.5YR4/4	密	良好	内面:ユビオサエ・ナデ、外面:ヨコナデ
443	土師器	皿	2	S K 254	6.1	1.9	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	やや粗	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ 口縁部内外面:覆付着
444	土師器	皿	2	S K 254	6.6	2.0	-	7/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内外面:ナデ、底部外面:ユビオサエ
445	土師器	皿	3	S K 254	6.5	2.0	-	口 9/12 全 10/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
446	土師器	皿	3	S K 254	6.7	1.9	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
447	土師器	皿	2	S K 254	6.4	1.9	-	口 8/12 全 9/12	浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
448	土師器	皿	3	S K 254	6.8	2.1	-	12/12	灰白 7.5YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
449	土師器	皿	3	S K 254	7.8	1.8	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
450	土師器	皿	3	S K 254	8.1	2.0	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・未調整
451	土師器	皿	2	S K 254	7.8~8.1	1.7	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
452	土師器	皿	3	S K 254	8.1	1.9	-	口 9/12 全 10/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
453	土師器	皿	3	S K 254	8.4	1.7	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
454	土師器	皿	3	S K 254	8.0	1.9	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
455	土師器	皿	3	S K 254	9.0	2.0	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
456	土師器	皿	3	S K 254	8.0~8.4	1.6	-	12/12	にぶい橙 5YR7/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
457	土師器	皿	3	S K 254	8.2	1.9	-	口 7/12 全 8/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
458	土師器	皿	3	S K 254	8.3	1.6	-	7/12	橙 7.5YR7/6	やや粗	良好	口縁部内外面・内面:ヨコナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
459	土師器	皿	3	S K 254	7.7	2.1	-	口 9/12 全 11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
460	土師器	皿	3	S K 254	(6.1)	2.2	-	口 3/12 全 4/12	浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内外面:ナデ
461	土師器	皿	3	S K 254	8.2	2.5	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
462	土師器	皿	3	S K 254	8.8	1.7	-	口 6/12 全 7/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内外面:ナデ 底部外面:工具痕あり
463	土師器	皿	3	S K 254	9.0~9.2	2.1	-	口 10/12 全 11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内外面:ナデ 口縁部内外面:覆付着
464	土師器	皿	3	S K 254	9.2	1.9	-	口 8/12 全 11/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ 口縁部内面:覆付着
465	土師器	皿	3	S K 254	10.6	2.2	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・ナデ
466	土師器	皿	2	S K 254	10.5	1.8	-	11/12	橙 7.5YR6/6	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・未調整
467	土師器	皿	2	S K 254	11.0	2.0	-	6/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、外面:ユビオサエ・未調整

平安京跡・東本願寺前古葛群発掘調査報告

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調査・備考
468	土師器	皿	3	S K 254	10.0	2.0	-	12/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ、底部外面：未調整
469	土師器	皿	3	S K 254	11.8	3.2	-	5/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
470	土師器	皿	2	S K 254	11.2	3.1	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
471	土師器	皿	2	S K 254	11.6	3.4	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
472	土師器	皿	2	S K 254	11.0	2.8	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
473	土師器	皿	3	S K 254	(120)	(29)	-	3/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・未調整
474	土師器	皿	3	S K 254	11.4	3.2	-	口) 6/12 全) 7/12	浅黄橙 75YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
475	土師器	皿	3	S K 254	(120)	(34)	-	3/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・未調整
476	瓦質土器	羽釜	3	S K 254	(150)	(64)	-	3/12	暗灰 N3/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ハケ、外面：ユビオサエ・ナデ
477	瓦質土器	羽釜	3	S K 254	(150)	(84)	-	口) 3/12	灰白 25Y7/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ハケ、外面：ユビオサエ・ナデ、ハケ
478	瓦質土器	鍋	3	S K 254	(247)	(66)	-	2/12	灰白 N7/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ハケ、外面：ユビオサエ・ナデ、ハケ
479	須恵器	片口鉢	3	S K 254	(254)	(56)	-	2/12	灰 N4/0	密	堅細	内外面：回転ナデ、葉巻系
480	土師器	皿	2	S K 200	66	16	-	12/12	灰白 25Y8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
481	土師器	皿	2	S K 200	70	16	-	口) 9/12 全) 10/12	淡黄 25Y8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
482	土師器	皿	2	S K 200	107	24	-	10/12	橙 75YR7/6	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
483	土師器	皿	2	S K 200	118	2.1	-	口) 4/12 全) 4/12	灰色 25Y8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
484	土師器	皿	2	S K 200	130	3.0	-	口) 4/12 全) 4/12	灰色 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ、底部外面：未調整、内面：煤付着
485	土師器	皿	2	S K 200	11.6	3.1	-	8/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
486	青磁	椀(底部)	2	S K 200	-	(22)	高台) 42	12/12	オリープ灰 5GY6/1	密	堅細	内外面：回転ナデのち縁軸
487	緑釉陶器	椀(底部)	2	S K 200	-	(11)	高台) 40)	高台) 6/12	暗青灰 5PB4/1	密	堅細	内外面：回転ナデ、底部：糸切り
488	土師器	丸底小鉢	2	S K 200	12.8	7.7	-	6/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：内面：ナデ、外面：ハケ後ナデ
489	土師器	丸底小鉢	2	S K 200	11.3	7.5	-	11/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ヘラ状工具によるケズリ後ナデ
490	土師器	丸底小鉢	2	S K 200	(11.2)	8.2	-	3/12	橙 75YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ヘラ状工具によるケズリ後ナデ
491	瓦質土器	鉢	2	S K 200	(34.0)	(10.9)	-	口) 3/12	灰 N5/0	やや粗	やや軟	内面：ナデ・ミガキ、外面：ナデ、底部外面：摩滅により調整不明
492	瓦質土器	鉢	2	S K 200	45.4 ~ 50.0	17.0	-	口) 4/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面：内外面：ミガキ、底部外面：ハケ
493	土師器	皿	3	S K 204	7.8	2.1	-	7/12	浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ、口縁部内外面：煤付着
494	瓦質土器	鉢	2	S K 204	(41.6 ~ 44.0)	(11.1)	-	2/12	灰 N5/0	やや粗	良好	口縁部内外面：内外面：ミガキ、底部外面：ケズリ後ミガキ
495	土師器	皿	2	S K 120	6.5	1.9	-	12/12	灰色 75YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
496	土師器	皿	2	S K 120	8.3	2.2	-	12/12	浅黄橙 75YR8/3 ~ 浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
497	土師器	皿	2	S K 120	7.9	2.3	-	11/12	灰白 10YR8/2	粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
498	土師器	皿	2	S K 120	8.2	2.3	-	11/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
499	土師器	皿	2	S K 120	7.6	2.2	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
500	土師器	皿	2	S K 120	11.8	2.9	-	6/12	灰白 10YR8/2	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
501	土師器	甗	2	S K 120	(15.8)	2.8	-	2/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
502	土師器	甗	2	S K 315	7.0	1.8	-	4/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
503	土師器	甗	2	S K 315	11.0	2.5	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
504	土師器	甗	2	S K 315	10.8	3.1	-	6/12	灰白 10YR8/1	密	やや粗	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
505	土師器	甗	2	S K 315	11.6	3.3	-	8/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
506	土師器	甗	2	S K 582	7.0	1.8	-	10/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
507	土師器	甗	2	S K 582	7.8	1.3	-	5/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：未調整（指縁あり）
508	土師器	甗	2	S K 582	7.5	2.2	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
509	土師器	甗	2	S K 582	7.7	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
510	土師器	甗	2	S K 582	8.7	1.5	-	12/12	灰黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
511	土師器	甗	2	S K 582	8.4	1.6	-	11/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ 底部外面：徳布痕あり
512	土師器	甗	2	S K 582	8.0	1.7	-	11/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ 底部外面：徳布痕あり
513	土師器	甗	2	S K 582	8.0	1.6	-	10/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
514	土師器	甗	2	S K 582	7.2	2.1	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
515	土師器	甗	2	S K 582	6.5 ~ 7.0	1.9	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：内面：ヨコナダ、外面： ユビオサエ・ナダ
516	土師器	甗	2	S K 582	7.0	1.9	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
517	土師器	甗	2	S K 582	7.6	2.4	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
518	土師器	甗	2	S K 582	7.2	2.3	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
519	土師器	甗	2	S K 582	7.4	2.2	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ 内外面：縋付着
520	土師器	甗	2	S K 582	7.0	2.0	-	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
521	土師器	甗	2	S K 582	7.1	2.0	-	11/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
522	土師器	甗	2	S K 582	7.1	2.1	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
523	土師器	甗	2	S K 582	7.1	2.3	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
524	土師器	甗	2	S K 582	10.7	2.7	-	11/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
525	土師器	甗	2	S K 582	6.6	2.5	-	12/12	灰白 2.5Y7/1	密	良好	口縁部内外面：高台階付け：ヨコナダ、 内外面：ナダ
526	土師器	甗	2	S K 582	9.7	2.0	-	12/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
527	土師器	甗	2	S K 582	11.3	2.0	-	12/12	浅黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
528	土師器	甗	2	S K 582	12.5	2.3	-	11/12	灰黄褐 10YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
529	土師器	甗	2	S K 582	11.8	2.1	-	□ 5/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：未調整 底部外面：板状圧痕あり
530	土師器	甗	2	S K 582	10.8	2.7	-	6/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ 底部外面：徳布痕あり
531	土師器	甗	2	S K 582	12.7	3.0	-	□ 4/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
532	土師器	甗	2	S K 582	11.1	2.8	-	8/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：ユビオサエ・ナダ
533	土師器	甗	2	S K 582	12.6	2.6	-	□ 6/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、 外面：未調整

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
534	土師器	ミニチュア羽釜	2	S K 582	130	3.3	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
535	土師器	椀	2	S K 582	52	(1.8)	-	口 4/12	浅黄緑 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
536	瓦器	2	S K 582	82	14	-	8/12	灰 N4-0	密	堅緻	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ・ミオサエ、外面：ユビオサエ・ナダ	
537	瓦質土器	羽釜	2	S K 582	(269)	(10.8)	-	2/12	灰白 25Y7/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ハケ、外面：ユビオサエ・ナダ、外面：襷付着
538	須恵器	片口鉢	2	S K 582	(273)	10.6	-	口 2/12	灰白 5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：回転ナダ、内面：ナダ・ユビオサエ、外面：ナダ、底部：ヘラ切り、裏掻き
539	土師器	皿	2	S K 700	69	1.9	-	口 6/12	浅黄緑 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナダ、外面：未調整、底部外面：ユビオサエ
540	土師器	皿	2	S K 700	85	1.6	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
541	土師器	皿	2	S K 700	133	2.4	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
542	土師器	皿	2	S K 856	64	1.7	-	口 4/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
543	土師器	皿	2	S K 856	(66)	1.9	-	口 3/12	浅黄緑 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
544	土師器	皿	2	S K 856	82	(1.6)	-	口 9/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ 口縁部内外面：襷付着
545	土師器	皿	2	S K 856	133	3.7	-	11/12	浅黄緑 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
546	土師器	皿	2	S K 856	188	5.2	-	口 4/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ、底部外面：襷付着
547	土師器	羹	2	S K 856	(298)	(6.5)	-	2/12	にぶい椀 7.5YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ユビオサエ・ヨコナダ、内面：ハケ後ナダ、外面：ハケ
548	土師器	皿	2	S K 870	66	1.7	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ、内面：襷付着
549	土師器	皿	2	S K 870	7.5	1.8	-	口 6/12	椀 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
550	土師器	皿	2	S K 870	8.3	1.4	-	12/12	椀 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・未調整
551	土師器	皿	2	S K 870	109	2.0	-	口 9/12	椀 7.5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
552	土師器	皿	2	S K 870	(115)	1.6	-	3/12	浅黄緑 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
553	土師器	皿	2	S K 870	11.0	1.9	-	11/12	椀 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
554	土師器	皿	2	S K 870	10.6	1.7	-	12/12	にぶい黄緑 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
555	土師器	皿	3	S K 287	9.0	1.3	-	5/12	にぶい椀 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ 口縁部内面：襷付着
556	土師器	皿	3	S K 287	8.5	1.8	-	9/12	浅黄緑 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
557	土師器	皿	3	S K 287	8.0	1.5	-	12/12	にぶい椀 7.5YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
558	土師器	皿	2	S K 287	8.8	1.5	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
559	土師器	皿	3	S K 287	8.3	1.6	-	12/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
560	土師器	皿	3	S K 287	8.5	1.3	-	12/12	にぶい椀 7.5YR7/3 ～にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
561	土師器	皿	3	S K 287	8.6	1.3 ~ 1.7	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ
562	土師器	皿	3	S K 287	7.8	2.1	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
563	土師器	皿	3	S K 287	8.3	1.6	-	口 6/12 全 7/12	にぶい黄緑 10YR6/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
564	土師器	皿	3	S K 287	8.0	1.7	-	11/12	にぶい黄緑 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
565	土師器	皿	3	S K 287	8.5	1.2	-	口 8/12 全 11/12	淡黄 2.5Y8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
566	土師器	皿	3	S K 287	8.1	1.6	-	9/12	にぶい黄緑 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
567	土師器	皿	3	S K 287	8.4	1.6	-	口 6/12	明濁灰 7.5YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
568	土師器	甗	3	S K 287	82	1.4	-	口 8/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
569	土師器	甗	3	S K 287	86	1.7	-	口 10/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
570	土師器	甗	3	S K 287	84	1.4	-	12/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
571	土師器	甗	3	S K 287	80	1.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
572	土師器	甗	3	S K 287	84	1.8	-	12/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
573	土師器	甗	3	S K 287	83	1.4	-	口 11/12 全 11/12	浅黄 25Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
574	土師器	甗	3	S K 287	80	1.5	-	10/12	にぶい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
575	土師器	甗	3	S K 287	88	1.4	-	10/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
576	土師器	甗	3	S K 287	84	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
577	土師器	甗	3	S K 287	81	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
578	土師器	甗	3	S K 287	82	1.5	-	12/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
579	土師器	甗	3	S K 287	83	1.5	-	6/12	灰黄褐 10YR6/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
580	土師器	甗	3	S K 287	82	1.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
581	土師器	甗	3	S K 287	78	1.6	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
582	土師器	甗	3	S K 287	83	1.7	-	7/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
583	土師器	甗	3	S K 287	78	1.4	-	8/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
584	土師器	甗	3	S K 287	80	1.6	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
585	土師器	甗	3	S K 287	84	1.2	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
586	土師器	甗	3	S K 287	83	1.5	-	口 10/12 全 11/12	にぶい黄橙 10YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
587	土師器	甗	3	S K 287	81	1.4	-	6/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
588	土師器	甗	3	S K 287	83	1.6	-	口 9/12 全 10/12	にぶい黄橙 10YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
589	土師器	甗	3	S K 287	87	1.4	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
590	土師器	甗	3	S K 287	79	1.6	-	口 9/12 全 11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
591	土師器	甗	3	S K 287	79	1.7	-	口 10/12 全 11/12	灰黄 25Y6/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
592	土師器	甗	3	S K 287	79	1.7	-	口 11/12 全 11/12	浅黄 25Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
593	土師器	甗	3	S K 287	76	1.4	-	口 12/12 全 11/12	灰黄 25Y6/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
594	土師器	甗	3	S K 287	77	1.6	-	口 10/12 全 11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
595	土師器	甗	3	S K 287	82	1.8	-	12/12	浅黄褐 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
596	土師器	甗	3	S K 287	83	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
597	土師器	甗	3	S K 287	83	1.3	-	10/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
598	土師器	甗	3	S K 287	85	1.5	-	6/12	にぶい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
599	土師器	甗	3	S K 287	80	1.6	-	8/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
600	土師器	甗	3	S K 287	81	1.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
601	土師器	甗	3	S K 287	83	1.4	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
602	土師器	甗	3	S K 287	119	2.3	-	12/12	にぶい橙 75YR7/4	粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ケズリ、底部外面：未調整 底部外面：板状圧痕あり

平安京跡・東本願寺前古葛群発掘調査報告

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
603	土師器	甗	3	S K 287	11.9	2.4	-	9/12	にぶい黄 5YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
604	土師器	甗	3	S K 287	11.7	2.3	-	口) 5/12 全) 6/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
605	土師器	甗	3	S K 287	11.3	2.2	-	口) 11/12 全) 11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
606	土師器	甗	3	S K 287	12.2	2.3	-	口) 12/12	にぶい黄 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
607	土師器	甗	3	S K 287	11.6	1.8	-	5/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ、底部外面：板状圧痕あり
608	土師器	甗	3	S K 287	12.0	2.3	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
609	土師器	甗	3	S K 287	11.9	2.2	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
610	土師器	甗	3	S K 287	12.4	2.1	-	口) 12/12 全) 11/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
611	土師器	甗	3	S K 287	11.8	2.0	-	口) 11/12 全) 11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
612	土師器	甗	3	S K 287	12.1	2.2	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
613	土師器	甗	3	S K 287	12.0	2.3	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
614	土師器	甗	3	S K 287	11.8	2.2	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
615	土師器	甗	3	S K 287	12.2	2.3	-	10/12	にぶい黄 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
616	土師器	甗	3	S K 287	11.9	2.2	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
617	土師器	甗	3	S K 287	11.0	2.8	-	口) 10/12 全) 11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
618	土師器	甗	3	S K 287	12.2	2.5	-	口) 11/12 全) 11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
619	土師器	甗	3	S K 287	11.4	2.5	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ユビオサエ・ナデ、外面：ナデ
620	土師器	甗	3	S K 287	11.7	2.0	-	8/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
621	土師器	甗	3	S K 287	12.5	2.8	-	11/12	にぶい黄 7.5YR7/4	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
622	土師器	甗	3	S K 287	11.7	2.3	-	10/12	にぶい黄 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
623	土師器	甗	3	S K 287	12.1	2.0	-	8/12	にぶい黄 7.5YR7/3	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
624	土師器	甗	2	S K 287	7.8	2.1	-	11/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
625	土師器	甗	3	S K 287	7.9	2.2	-	6/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
626	土師器	甗	3	S K 287	7.8	2.2	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
627	土師器	甗	3	S K 287	10.3	2.7	-	7/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
628	土師器	甗	3	S K 287	10.5	2.8	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
629	土師器	甗	3	S K 287	10.8	2.9	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
630	土師器	甗	3	S K 287	10.6	3.0	-	10/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
631	土師器	甗	3	S K 287	11.7	2.5	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
632	土師器	甗	3	S K 287	13.2	3.5	-	口) 12/12 全) 11/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
633	土師器	甗	3	S K 287	12.6	2.9	-	6/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
634	土師器	甗	3	S K 287	12.9	3.7	-	11/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
635	土師器	甗	3	S K 287	13.0	3.2	-	10/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ 口縁部内外面：煤付着
636	土師器	ミニチュア型	3	S K 287	5.4	0.9	-	口) 4/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ 底部外面：煤付着
637	土師器	ミニチュア型	3	S K 287	5.2	1.0	-	8/12	浅黄橙 10YR8/3	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
638	土師器	ミニチュア皿	3	S K 287	(64)	(12)	-	1/12	にぶい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナテ
639	瓦器	ミニチュア碗	3	S K 287	(61)	(22)	-	□ 3/12	(外) 灰 N4/0 (内) 灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面・内外面：ヨコナテ、底部外面：磨減のため調整不明
640	瓦器	皿	3	S K 287	84	13	-	12/12	灰 N6/0	密	良好	口縁部内外面・内面：回転ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
641	瓦器	皿	3	S K 287	86	14	-	12/12	灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
642	土師器	皿	3	S K 287	(72)	(11)	-	□ 2/12	橙 75YR7/6	密	良好	口縁部内外面・内外面：回転ナテ、底部外面：ヘラ切り
643	土師器	ミニチュア羽釜	3	S K 287	(64)	(19)	-	2/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナテ
644	瓦質土器	羽釜	3	S K 287	48	(39)	-	4/12	灰白 N7/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナテ
645	土製品	円板	3	S K 287	17	厚) 0.3	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	外面：ナテ
646	土製品	円板	3	S K 287	径) 26	厚) 0.5	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	外面：ナテ
647	土製品	円板	3	S K 287	26	厚) 0.4	-	12/2	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	外面：未調整・ナテ
648	土製品	円板	3	S K 287	径) 29	厚) 0.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	外面：ナテ
649	土製品	円板	3	S K 287	径) 36	厚) 0.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	外面：ナテ
650	土製品	円板	3	S K 287	径) 29	厚) 0.3	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	外面：ナテ
651	土製品	円板	3	S K 287	30	厚) 0.5	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	外面：未調整・ナテ
652	土師器	皿	1	S K 02	78	12	-	5/12	にぶい黄橙 10YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
653	土師器	皿	1	S K 02	119	27	-	5/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
654	土師器	皿	1	S K 02	120	32	-	8/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ 口縁端部：厚付き
655	土師器	皿	1	S K 02	122	34	-	11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
656	瓦質土器	羽釜	1	S K 02	230	105	-	4/12	灰白 N8/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ハケ、外面：ナテ・ユビオサエ
657	緑釉陶器	椀/皿(底部)	1	S K 18	-	(13)	高台) (64)	高台) 3/12	釉) 暗オリーブ 75Y4/3 素地) 浅黄橙 10YR8/3	密	良好	内外面：回転ナテのち地輪、底部：張り出し高台(蛇の目)
658	緑釉陶器	椀(底部)	1	S K 18	-	(19)	高台) (80)	高台) 3/12	釉) オリーブ黄 75Y6/3 素地) 浅黄橙 10YR8/3	密	良好	内外面：回転ナテのち地輪、底部：貼り付け高台・糸切り
659	瓦質土器	鉢	2	S K 25	(37.4 ～ 39.3)	(110)	-	1/12 以下	灰 N5/0	やや粗	良好	口縁部内外面：ミガキ、内外面：ミガキ・ナテ、底部外面：ケズリ
660	山茶碗	椀	1	S K 26	(15.0)	(2.0)	-	□ 1/12	釉) オリーブ黄 75Y6/3 素地) 灰 N6/0	密	堅緻	内外面：回転ナテのち地輪
661	土師器	皿	2	S K 144	8.0	1.5	-	4/12	浅黄橙 75YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
662	土師器	皿	2	S K 144	9.0	1.4	-	5/12	(外) 浅黄橙 75YR8/4 (内) にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
663	土師器	皿	2	S K 144	10.0	1.9	-	□ 6/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ユビオサエ・ナテ
664	土師器	皿	2	S K 144	(12.0)	(2.2)	-	3/12	にぶい黄橙 10YR7/3～褐灰 10YR6/1	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナテ、外面：ユビオサエ・ナテ
665	青磁	椀	2	S K 144	(15.3)	(3.4)	-	□ 1/12	灰オリーブ 75Y5/2	密	良好	内外面：回転ナテのち地輪
666	青磁	皿	2	S K 144	-	(0.8)	(5.0)	底) 3/12	灰オリーブ 5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナテのち地輪
667	土製品	土鉢	2	S K 166	径) 31	幅) 0.9	厚) 0.9	12/12	にぶい赤褐 5YR5/4	密	良好	外面：ナテ 重さ：1.4 g

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
668	青磁	盒子蓋	2	S X 155	-	(1.9)	蓋径 4.6	2/12	釉) 明緑灰 10GY8/1 素地) 灰白 N8/0	精良	良好	内面: ナデ, 外面: 回転ナデのち輪縁
669	白磁	壺 (口縁部)	2	S K 167	104	(3.7)	-	4/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち輪縁
670	青磁	皿	2	S K 167	107	2.0	-	4/12	灰オリーブ 5Y6/2	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち輪縁
671	青磁	碗	2	S K 168	(160)	(5.7)	-	口) 2/12	釉) オリーブ灰 10Y6/2 素地) 灰白 N7/0	精良	堅緻	内外面: 回転ナデのち輪縁, 龍泉窯
672	瓦質土器	ミニチュア壺	2	S K 186	20	3.5	-	12/12	灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ, 底部外面: ユビオサエ
673	土師器	皿	2	S K 186	84	1.6	-	7/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
674	土師器	皿	2	S K 186	100	2.2	-	9/12	浅黄橙 75YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
675	土師器	皿	2	S K 186	100	2.1	-	10/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
676	土師器	皿	2	S K 186	99	2.1	-	11/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
677	土師器	皿	2	S K 186	122	3.1	-	9/12	にぶい橙 75YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
678	土師器	皿	2	S K 186	120	3.2	-	11/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
679	土師器	皿	2	S K 186	118	3.1	-	11/12	橙 5YR7/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ 底部外面: 黒斑?, 板状圧痕あり
680	土師器	皿	2	S K 186	117	3.4	-	10/12	灰白 75YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
681	土師器	丸底小鉢	2	S X 190	131	5.4	-	口) 5/12	灰褐 75YR4/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ハケ後ナデ
682	土師器	丸底小鉢	2	S X 190	110	(6.5)	-	口) 4/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面・内面: ナデ, 外面: ハケ後ナデ
683	土師器	丸底小鉢	2	S X 190	106	7.5	-	6/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ヘラ状工具によるケズリ後ナデ
684	土師器	皿	2	S K 249	112	3.2	-	12/12	浅黄橙 75YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
685	土師器	皿	2	S K 250	113	3.2	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・未調整
686	瓦質土器	羽蓋	2	S K 263	180	8.4	-	口) 6/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ナデ・ユビオサエ
687	土製品	円板	2	S K 288	縦) 5.7 横) 4.6 厚) 0.5	-	-	12/12	橙 5YR7/6	密	良好	ユビオサエ
688	土師器	皿	3	S K 279	110	2.8	-	6/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
689	土師器	皿	3	S K 279	132	3.3	-	10/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
690	土師器	皿	2	S K 294	118	2.9	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
691	瓦質土器	鍋	2	S K 299	(24.2)	(11.8)	-	2/12	灰 N6/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ヘラ状工具によるケズリ後ナデ, 外面: ナデ, 外面外面に埋付着
692	土師器	皿	3	S K 330	12.7	3.0	-	12/12	灰白 25Y8/2	やや軟	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
693	土師器	皿	3	S K 330	7.8	1.5	-	6/12	にぶい橙 75YR7/3	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ 口縁部内外面: 埋付着
694	土師器	皿	3	S K 330	7.8	1.5	-	12/12	にぶい橙 75YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ユビオサエ・ナデ
695	土師器	皿	3	S K 330	8.3	1.6	-	口) 12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
696	土師器	皿	3	S K 330	7.8	1.6	-	口) 7/12	淡黄 25Y8/3 断面) 褐灰 N3/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
697	土師器	皿	3	S K 330	11.7	2.6	-	11/12	にぶい黄橙 10YR6/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
698	土師器	皿	3	S K 330	10.9	2.0	-	口) 4/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内面: ナデ, 外面: ユビオサエ・ナデ
699	白磁	皿	3	S K 330	9.4	2.5	-	口) 6/12	明オリーブ灰 2.5GY7/1	密	堅緻	口縁部内外面・内外面: 回転ナデのち輪縁
700	土師器	壺蓋	3	S K 330	12.7 ~ 13.2	12.7	-	口) 9/12	にぶい橙 75YR6/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ
701	土師器	皿	2	S K 337	8.8	1.9	-	8/12	にぶい褐色 75YR6/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ, 内外面: ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
702	土師器	皿	2	S K 337	91	1.4	-	10/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
703	土師器	皿	2	S K 337	92	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ユビオサエ・ナデ
704	土師器	皿	2	S K 337	88	1.5	-	65/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
705	青磁	碗	2	S K 337	-	(1.8)	高台) 6.0)	2/12	オリーブ灰 10Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施輪
706	白磁	碗	2	S K 337	-	(2.3)	高台) 5.9)	8/12	灰白 7.5Y7/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施輪
707	土師器	丸底小鉢	2	S K 354	11.7	7.2	-	6/12	黒褐 10YR3/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ヘラ状工具によるケズリ
708	土師器	丸底小鉢	2	S K 354	10.9	7.1	-	9/12	黒 N1.5/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ヘラ状工具によるケズリ後ナデ
709	土師器	丸底小鉢	2	S K 354	(10.6)	(7.2)	-	口) 1/12	黒褐 10YR3/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：工具によるケズリ後ナデ
710	土師器	皿	2	S K 371	7.9	2.0	-	6/12	にぶい黄橙 10YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ 口縁部内外面：僅存
711	土師器	皿	2	S K 371	(8.8)	1.6	-	3/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ 口縁部内外面：僅存
712	土師器	皿	2	S K 480	9.0	1.5	-	11/12	灰黄 2.5Y7/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
713	土師器	皿	3	S K 539	7.8	2.3	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
714	須恵器	鉢	2	S K 440	(28.2)	10.3	-	3/12	灰 5Y6/1	やや粗	堅緻	口縁部内外面・内外面：回転ナデ、底部：ケズリ、束縛系
715	緑釉陶器	輪(底部)	2	S K 489	-	(2.4)	高台) 4.9)	高台) 4/12	暗オリーブ 7.5Y4/5	精良	やや軟-良好	内外面・高台貼り付け：回転ナデのち施輪
716	青磁	輪(底部)	3	S K 505	-	(3.8)	高台) 6.3)	高台) 11/12	輪) オリーブ灰 10Y6/2 素地) 灰白 10Y7/1	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施輪、底部：削り出し高台、糊塗弁、龍泉窯
717	青磁	皿	3	S K 338	(10.7)	(2.2)	高台) 5.0)	口) 3/12 高台) 12/12	輪) オリーブ黄 5Y6/3 素地) 灰白 5Y7/1	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施輪、底部：高台内面：回転
718	青磁	碗	3	S K 603	(16.3)	(4.5)	-	口) 3/12	輪) オリーブ 5Y5/3 素地) 灰白 5Y7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施輪 糊塗弁文
719	須恵器	羹	2	S K 480	(25.0)	(3.2)	-	口) 1/12	灰 5Y6/1	やや粗	やや軟	口縁部内外面・内面：回転ナデ、外面：ナデ、ハケ、束縛系
720	土師器	皿	2	S K 610	9.0	1.7	-	12/12	浅黄橙 10YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
721	土師器	皿	2	S K 610	14.3	3.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
722	白色土器	壇台(脚部)	2	S K 610	脚部) 2.5)	(18.0)	-	脚) 12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	外面：ケズリ
723	土師器	皿	2	S K 620	8.7	1.5	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
724	土師器	皿	2	S K 620	(13.0)	(2.9)	-	3/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ、底部外面：未調整
725	青磁	碗	2	S K 620	(11.3)	(2.3)	-	1/12	輪) 明緑灰 7.5GY7/1 素地) 灰白 8/0	精良	良好	内外面：回転ナデのち施輪
726	瓦器	皿	2	S K 620	(8.4)	(1.6)	-	3/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ミガキ、外面：ナデ
727	白磁	輪(底部)	2	S K 620	-	(1.5)	高台) 6.4)	6/12	輪) 明オリーブ灰 2.5GY7/1 素地) 灰 N8/0	精良	良好	内面：回転ナデのち施輪、蛇の目縁はぎ、底面：削り出し高台
728	土師器	ミニチュア皿	2	S K 620	3.8	0.7	-	7/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：未調整
729	土師器	皿	2	S K 624	11.2	2.0	-	12/12	黄灰 2.5Y6/1	密	良好	口縁部内外面・内外面：ヨコナデ、底部外面：未調整 底部外面：板状圧痕あり
730	土師器	皿	2	S K 624	11.4	2.2	-	口) 5/12	にぶい黄橙 10YR7/4	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整(掌跡あり)
731	土師器	皿	2	S K 624	11.6	2.8	-	10/12	灰白 2.5Y8/1	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：未調整・ユビオサエ
732	土師器	丸底小鉢	2	S K 624	11.8	7.0	-	口) 6/12	灰褐 10YR4/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ後ハケ
733	土師器	丸底小鉢	2	S K 624	11.7	7.4	-	6/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ヘラ状工具によるケズリ後ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
734	土師器	丸底小鉢	2	S K 624	11.5	(7.5)	-	□ 4/12	黒褐 25Y3/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ後ハケ
735	土師器	皿	2	S K 724	(74)	(13)	-	3/12	明褐色 7.5YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
736	土師器	皿	2	S K 724	8.0	1.6	-	8/12	橙 5YR6/6～灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
737	土師器	皿	2	S K 724	10.5	2.2	-	9/12	橙 7.5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
738	土師器	皿	2	S K 724	11.2～11.9	3.2	-	11/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
739	陶器	壺	2	S K 724	体 14.1	(10.3)	-	-	黒褐 2.5Y3/1	やや粗	堅緻	内面：ユビオサエ・ナダ、外面：回転ナダ・カキメ
740	土師器	皿	2	S K 774	13.7	2.5	-	6/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
741	土師器	皿	3	S K 780	8.0	0.8	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ヨコナダ、底部外面：ユビオサエ
742	土師器	皿	3	S K 780	8.5	1.5	-	9/12	浅黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整 (指跡あり)
743	土師器	皿	3	S K 780	8.3	1.3	-	12/12	浅黄 2.5YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ヨコナダ、底部外面：ユビオサエ・未調整、口縁部内外面：傷付き
744	土師器	皿	3	S K 780	7.7	1.7	-	□ 8/12	にぶい黄橙 10YR7/3	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ヨコナダ、底部外面：ユビオサエ
745	土師器	皿	3	S K 780	12.2	1.9	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ユビオサエ・ナダ、外面：未調整
746	土師器	皿	3	S K 780	13.3	3.2	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
747	土師器	皿	3	S K 780	5.4	0.9	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ユビオサエ、底部外面：未調整
748	土師器	皿	3	S K 780	5.8	1.0	-	12/12	浅黄橙 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：内面：ヨコナダ、外面：ユビオサエ、底部外面：未調整
749	土師器	皿	2	S K 783	8.9	1.5	-	7/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
750	土師器	皿	3	S K 799	11.2	2.3	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
751	土師器	皿	3	S K 799	10.5	2.5	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
752	土師器	皿	3	S K 799	11.4	2.9	-	6/12	灰白 2.5Y8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ユビオサエ・ナダ、外面：ナダ
753	土師器	皿	3	S K 799	11.4	2.8	-	4/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
754	土師器	皿	2	S K 678	9.2	2.0	-	10/12	灰白 10YR7/1、煤部分黒 10YR7/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ
755	土師器	皿	2	S K 678	11.2	2.0	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/3、橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
756	土師器	皿	2	S K 678	11.2	2.0	-	7/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ、底部外面：板状圧痕あり
757	土師器	皿	2	S K 678	11.2	1.7	-	4/12	にぶい橙 7.5YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
758	土師器	皿	2	S K 678	11.0	2.2	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
759	土師器	皿	2	S K 678	10.8	(2.2)	-	□ 11/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
760	土師器	皿	2	S K 678	10.7	2.2	-	10/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
761	土師器	皿	2	S K 678	11.0	2.1	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ユビオサエ・ナダ、外面：ユビオサエ・未調整
762	土師器	皿	2	S K 678	11.5	2.5	-	10/12	灰白 10YR8/1、褐灰 10YR4/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ、底部外面：傷付き
763	土師器	皿	2	S K 678	(11.3)	(2.4)	-	3/12	にぶい黄橙 10YR7/3	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
764	土師器	皿	2	S K 678	11.1	2.2	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
765	土師器	皿	2	S K 678	10.4	2.8	-	12/12	灰白 2.5Y8/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
766	土師器	皿	2	S K 678	(11.5)	(3.1)	-	3/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
767	土師器	皿	2	S K 678	11.2	3.0	-	12/12	灰白 10YR8/1、10YR7/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
768	瓦器	椀	2	S K 678	(12.0)	(3.6)	-	1/12	暗灰 N3-0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ミガキ、外面：ユビオサエ
769	瓦器	椀	2	S K 678	(13.0)	(4.0)	-	3/12	暗灰 N3-0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ミガキ、外面：ユビオサエ
770	瓦質土器	羽釜	2	S K 678	34.6	(17.5)	-	口 12/12	(内) 白 25Y7/0 (外) 暗灰 N3-0	密	良好	内面：ナダ後ハケメ、外面：ユビオサエ・ナダ
771	瓦質土器	ミニチュア羽釜	2	S K 678	(4.0)	(2.7)	-	3/12	暗灰 N3-0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ミガキ・ナダ
772	瓦質土器	ミニチュア羽釜	2	S K 678	(6.0)	(3.0)	-	2/12	灰 NS-0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
773	土師器	皿	2	S K 740	8.1	1.9	-	12/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
774	土師器	皿	2	S K 740・741	8.5	1.3	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
775	土師器	皿	2	S K 741	8.4	1.4	-	口 8/12	灰黄 25Y7/2 (一部口縁部) にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
776	土師器	皿	2	S K 740・741	8.4	1.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
777	土師器	皿	2	S K 740・741	8.5	1.1	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整
778	土師器	皿	2	S K 740	7.7	1.9	-	9/12	橙 7.5YR6/6	密	良好	口縁部内外面・外面：ヨコナダ、内面：回転ナダ、底部外面：糸切り
779	土師器	皿	2	S K 740	8.2	1.2	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
780	土師器	皿	2	S K 740・741	8.1	1.3	-	口 9/12	浅黄 25Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ、内外面：煤付着
781	土師器	皿	2	S K 740・741	8.2	1.5	-	口 9/12 全 10/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
782	土師器	皿	2	S K 740・741	12.0	2.5	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ、内外面：煤付着
783	土師器	皿	2	S K 740・741	12.3	2.3	-	口 10/12 全 11/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ、未調整
784	土師器	皿	2	S K 740・741	11.9	2.6	-	口 12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
785	土師器	皿	2	S K 740	12.3	2.3	-	口 12/12 全 11/12	灰黄 25Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内外面：ナダ
786	瓦器	皿	2	S K 740・741	5.1	0.8	-	12/12	暗灰 N3-0	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナダ、外面：未調整（指跡あり）
787	瓦器	皿	2	S K 740・741	7.0	1.0	-	9/12	暗灰 N3-0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ナダ後ミガキ、外面：未調整
788	瓦器	椀	2	S K 741	(15.0)	(3.2)	-	口 1/12	灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ミガキ、外面：ユビオサエ・ナダ
789	緑釉陶器	椀(底部)	2	S K 740	-	(1.4)	高台) 7.4	高台) 12/12	釉) 洗緑素地 灰 N5-0	精良	堅緻	内外面・貼り付け高台：回転ナダのち施輪、底部：糸切り
790	須恵器	壺	2	S K 740・741	4.5	(2.7)	-	底) 12/12	灰 5Y5/1	密	堅緻	内外面：回転ナダ、底部：糸切り
791	土師器	壺底	2	S K 740	-	(3.1)	3.4 ~ 5.5	底) 12/12	浅黄 25Y7/3	密	良好	内面：ヨコナダ、外面：ナダ
792	須恵器	鉢	2	S K 740・741	27.8	10.4	-	口 4/12 全 5/12	灰 NS-0	やや粗	良好	口縁部内外面：回転ナダ、内面：ナダ・ケズリ、外面：回転ナダ、底部：糸切り、東瀬系
793	瓦質土器	鉢	2	S K 740・741	22.9	8.8	-	11/12	(外) 暗灰 N3-0 (内) 灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ハケ状工具によるケズリ後ナダ、外面：ユビオサエ・ナダ
794	須恵器	鉢	2	S K 740	(13.1)	(11.5)	-	底) 2/12	(外) 灰 5Y6/1 (内) 灰 N6/0	密	良好	内面：回転ハケケズリ、外面：回転ナダ・回転ハケケズリ、底部：高台貼り付け、東瀬系
795	須恵器	壺	2	S K 741	(10.9)	(2.7)	-	口 2/12	(内) 灰白 5Y7/1 (外) 灰 NS-0	密	良好	口縁部内外面・内外面：回転ナダ
796	白磁	底部	2	S K 740・741	-	(2.3)	高台) 6.7	高台) 11/12	釉) 灰白 7.5Y7/1	密	堅緻	内外面：回転ナダのち施輪
797	土師器	甕	3	S K 791	(25.0)	(6.3)	-	口 3/12	内) 橙 5YR6/6 外) にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナダ、内面：ハケ・ナダ、外面：ハケ・ユビオサエ、外面：煤付着

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
798	青磁	椀(底部)	2	S K 800	-	(2.8)	高台) 4.8	高台) 12/12	釉) 明緑灰 7.5Y6/1 素地) 灰白 N7/0	精良	堅緻	内外面: 回転ナデのち埴輪、底部: 削り出し高台、蓮弁文、龍泉窟
799	土師器	皿	2	S K 802	7.7~8.2	1.8	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
800	土師器	皿	2	S K 802	7.6~7.8	1.6	-	12/12	にぶい黄橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ、口縁部内外面: 葉付着
801	土師器	皿	2	S K 802	12.7	3.1	-	4/12	灰白 25Y8/1	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
802	緑釉陶器	椀/皿(底部)	2	S K 818	-	(1.9)	高台) (9.2)	高台) 2/12	オリーブ灰 10Y4/2	精良	良好	内外面: 回転ナデのち埴輪
803	土師器	皿	2	S K 825	9.2	1.3	-	10/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整、口縁部内外面: 葉付着
804	土師器	皿	2	S K 825	9.1	1.6	-	8/12	にぶい黄 5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
805	土師器	皿	2	S K 825	8.4	1.6	-	口) 7/12 全) 8/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
806	土師器	皿	2	S K 825	9.0	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
807	土師器	皿	2	S K 825	8.8	1.8	-	口) 8/12 全) 9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
808	土師器	皿	2	S K 825	8.5	1.6	-	口) 9/12 全) 11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
809	土師器	皿	2	S K 825	8.8	1.5	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
810	土師器	皿	2	S K 825	8.3	1.8	-	11/12	にぶい黄橙 10YR6/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
811	土師器	皿	2	S K 825	8.8	1.7	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
812	土師器	皿	2	S K 825	8.5	1.5	-	8/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
813	土師器	皿	2	S K 825	8.7	1.3	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
814	土師器	皿	2	S K 825	8.7	1.6	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
815	土師器	皿	2	S K 825	8.7	1.6	-	11/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: ユビオサエ・ナデ
816	土師器	皿	2	S K 825	8.5~8.9	1.4	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整、ユビオサエ
817	土師器	皿	2	S K 825	8.9	0.9	-	12/12	灰白 25Y8/2	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
818	土師器	皿	2	S K 825	8.8	1.5	-	10/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
819	土師器	皿	2	S K 825	13.2	2.5	-	6/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
820	土師器	皿	2	S K 825	12.9	2.2	-	4/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
821	土師器	皿	2	S K 825	12.4	2.4	-	8/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
822	土師器	皿	2	S K 825	12.7	2.7	-	11/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 未調整
823	土師器	皿	2	S K 825	13.0	2.8	-	口) 4/12 全) 5/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
824	土師器	皿	2	S K 825	(6.4)	(1.2)	-	口) 2/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面・内外面: ヨコナデ
825	青磁	皿	2	S K 825	10.2	2.0	-	口) 4/12 底) 12/12	灰 7.5Y7/1 釉) 灰オリーブ 7.5Y6/2	精良	堅緻	内外面: 回転ナデのち埴輪
826	土師器	皿	2	S K 827	10.5	2.5	-	11/12	橙 5YR7/6	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ 底部外面: 工具痕あり
827	土師器	丸底小鉢	2	S K 827	4.3	(4.5)	-	口) 5/12	明赤褐 5YR5/6	密	良好	口縁部内外面・内面: ナデ、外面: ハケ後ナデ
828	土師器	丸底小鉢	2	S K 827	(10.0)	7.2	-	3/12	灰褐 5YR	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、外面: 工具によるケズリ後ナデ
829	土師器	丸底小鉢	2	S K 827	11.5	(7.1)	-	3/12	黒 10YR2/1	密	良好	口縁部内外面・内面: ナデ、外面: ハケ後ナデ
830	土師器	皿	2	S K 842	8.7	1.4	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
831	土師器	皿	2	S K 842	8.7	1.4	-	口) 10/12 全) 11/12	浅黄 2.5Y7/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
832	瓦質土器	ミニチュア羽釜	2	S K 842	(52)	(3.1)	-	2/12	灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ヨコナテ
833	青白磁	盒子蓋	2	S K 842	(60)	(1.5)	-	1/12	釉：明緑灰 10GY8/1 素地：白 N9/0	精良	良好	内外面：回転ナデのち地輪
834	土器器	ミニチュア皿	3	S K 883	34	(0.9)	-	4/12	灰白 25Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナテ、外面：未調整
835	青磁	杯	3	S K 883	(21.2)	(3.5)	-	1/12	釉：明緑灰 7.5GY7/1 素地：灰白 5Y7/1	精良	良好	内外面：回転ナデのち地輪、龍泉窯
836	土器器	皿	3	S K 884	82	1.5	-	口) 7/12 全) 6/12	にぶい黄 7.5YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
837	土器器	皿	3	S K 884	83	1.5	-	11/12	にぶい黄 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
838	土器器	皿	3	S K 884	83	1.6	-	口) 7/12 全) 8/12	浅黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面・内外面：ヨコナテ
839	土器器	皿	3	S K 884	80	1.7	-	11/12	にぶい黄 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ
840	土器器	皿	3	S K 884	80	1.5	-	口) 11/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
841	土器器	皿	3	S K 884	86	1.7	-	12/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
842	土器器	皿	3	S K 884	80	1.5	-	12/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
843	土器器	皿	3	S K 884	81	1.5	-	12/12	にぶい黄 10YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
844	土器器	皿	3	S K 884	80	1.5	-	口) 11/12 全) 11/12	暗灰黄 2.5YR5/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
845	土器器	皿	3	S K 884	81	0.9	-	口) 6/12 全) 8/12	にぶい黄 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面・内面：回転ナデ、底部外面：糸切り
846	土器器	皿	3	S K 884	79	1.1	-	口) 12/12	にぶい黄 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
847	土器器	皿	3	S K 884	8.5	1.4	-	口) 9/12 全) 10/12	にぶい黄 10YR6/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
848	土器器	皿	3	S K 884	8.1	1.8	-	11/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ
849	土器器	皿	3	S K 884	11.4	2.3	-	10/12	にぶい黄 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
850	土器器	皿	3	S K 884	11.8	2.2	-	9/12	にぶい黄 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
851	土器器	皿	3	S K 884	11.7	2.3	-	口) 10/12 全) 8/12	にぶい黄 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ、底部外面：板状圧痕あり
852	土器器	皿	3	S K 884	12.2	2.0	-	口) 5/12 全) 7/12	浅黄 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
853	土器器	皿	3	S K 884	11.7	2.2	-	口) 8/12 全) 9/12	にぶい黄 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ
854	土器器	皿	3	S K 884	11.4	2.5	-	11/12	にぶい黄 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
855	土器器	皿	3	S K 884	12.1	2.3	-	口) 8/12	浅黄 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
856	土器器	皿	3	S K 884	12.5	2.2	-	12/12	にぶい黄 10YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
857	土器器	皿	3	S K 884	12.3	2.4	-	12/12	にぶい黄 10YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナテ、内外面：ナデ、底部外面：工具痕あり
858	土器器	皿	3	S K 884	11.9	2.2	-	11/12	にぶい黄 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
859	土器器	皿	3	S K 884	11.7	2.1	-	11/12	にぶい黄 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
860	土器器	皿	3	S K 884	12.1	2.3	-	11/12	にぶい黄 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
861	土器器	皿	3	S K 884	12.0	2.8	-	11/12	にぶい黄 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
862	土器器	皿	3	S K 884	11.9-12.5	2.6	-	11/12	にぶい黄 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
863	土器器	皿	3	S K 884	12.1	2.0	-	10/12	にぶい黄 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
864	須恵器	片口鉢	3	S K 884	29.2	11.3	-	11/12	灰 N6/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナテ、東播磨系
865	青磁	椀	3	S K 884	(16.0)	(4.8)	-	2/12	オリブ黄 5Y5/3	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち地輪
866	青磁	椀	3	S K 884	(16.0)	(6.6)	-	口) 1/12	オリブ黄 5Y6/3	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち地輪

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
867	白磁	皿	3	S K 884	(12.0)	(3.7)	-	3/12	明緑灰 7.5Y8/1	精良	堅緻	内外面：・回転ナデのち施釉
868	土師器	ミニチュア皿	3	S K 910	(4.8)	-	-	3/12	灰白 5YR8/2	密	良好	口縁部内外面：内面：ヨコナデ、外面ナデ
869	土師器	皿	3	S K 910	102	25	-	12/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：スピオサエ・ナデ、外面：ナデ 底部外面：板状圧痕あり
870	陶器	底部	3	S K 910	-	(1.1)	高台) (8.0)	1/12	灰白 10YR8/1	密	良好	内面：貼り付け高台：ナデ
871	土師器	皿	3	S K 933	84	14	-	口) 4/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
872	土師器	皿	3	S K 933	(99)	20	-	口) 3/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：摩滅により調整不明、外面：未調整
873	土師器	皿	3	S K 933	(109)	1.8	-	口) 3/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
874	土師器	皿	3	S K 933	(108)	(2.1)	-	口) 3/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
875	土師器	皿	3	S K 933	119	(2.3)	-	口) 5/12	浅黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面：内面：ヨコナデ、外面：未調整
876	土師器	皿	3	S K 933	117	2.3	-	口) 9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：スピオサエ・ナデ、外面：未調整
877	土師器	皿	3	S K 933	127	(3.4)	-	口) 6/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
878	土師器	皿	3	S K 933	130	(2.5)	-	口) 3/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：摩滅により調整不明(ナデか)、外面：未調整
879	青磁	盒子(身)	3	S K 972	3.3	1.8	-	12/12	釉) 灰白 7.5Y7/2 素地) 灰白 2.5Y8/2	密	堅緻	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：回転ナデのち施釉、底面：削り出し高台
880	土師器	皿	3	S K 972	8.6	1.5	-	口) 9/12 全) 11/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ・ナデ
881	土師器	皿	3	S K 972	9.4	1.7	-	口) 7/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整 底部外面：板状圧痕あり
882	土師器	皿	3	S K 972	8.8	1.5	-	口) 5/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整・スピオサエ
883	土師器	皿	3	S K 972	9.1	1.8	-	12/12	灰黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
884	土師器	皿	2	S K 972	(9.5)	(1.5)	-	口) 3/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
885	土師器	皿	3	S K 972	9.2	1.9	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
886	土師器	皿	3	S K 972	9.4	1.9	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ・ナデ
887	土師器	皿	3	S K 972	9.7	1.8	-	6/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整、底部外面：板状圧痕あり
888	土師器	皿	3	S K 972	9.4	1.4	-	11/12	灰黄 2.5Y7/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ・ナデ
889	土師器	皿	3	S K 972	9.0	1.9	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
890	土師器	皿	3	S K 972	9.4	1.8	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ
891	土師器	皿	3	S K 972	9.4	1.7	-	口) 9/12 全) 11/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ
892	土師器	皿	3	S K 972	9.8	1.2	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：未調整
893	土師器	皿	3	S K 972	(7.4)	(1.1)	-	口) 3/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ・未調整
894	土師器	皿	3	S K 972	(9.2)	(0.9)	-	口) 2/12	にぶい黄橙 10YR7/3～橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ・未調整
895	土師器	皿	3	S K 972	(7.8)	1.3	-	3/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	やや粗	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
896	土師器	皿	3	S K 972	8.1	1.6	-	口) 12/12 全) 7/12	にぶい橙 7.5YR6/4	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
897	土師器	皿	3	S K 972	14.1	3.0	-	口) 6/12	浅黄 2.5Y7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：スピオサエ・未調整
898	土師器	皿	3	S K 972	13.8	2.5	-	口) 9/12 全) 10/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ、底部外面：未調整

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
899	土師器	皿	3	S K 972	13.6	(3.1)	-	□) 9/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、 外面: 未調整 底部外面: 板状圧痕あり
900	土師器	皿	3	S K 972	14.6	3.9	-	□) 10/12 全) 11/12	浅黄 2.5Y7/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ 底部外面: 工具痕あり
901	土師器	皿	3	S K 972	14.4	3.1	-	12/12	にぶい黄 7.5YR7/3	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
902	土師器	皿	3	S K 972	14.3	2.8	-	8/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、 外面: ユビオサエ
903	土師器	皿	3	S K 972	14.2	2.9	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、 外面: ユビオサエ・未調整
904	瓦器	椀	3	S K 972	(160)	(4.4)	-	1/12 以下	灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ミガキ、 外面: ユビオサエ
905	瓦器	椀	3	S K 972	(164)	(5.0)	-	2/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面・高台貼り付け: ヨコナデ、 内面: ミガキ、外面: ユビオサエ
906	瓦器	椀(底部)	3	S K 972	-	(1.5)	(5.0)	3/12	灰 N4/0	密	良好	高台貼り付け: ヨコナデ、内面: ミガキ、 外面: ユビオサエ
907	瓦器	ミニチュア 椀	3	S K 972	(7.7)	(2.5)	-	□) 2/12	(外) 暗灰 N3/0 (内) 灰白 N7/0	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ミガキ、 底部外面: ユビオサエ
908	瓦質土器	盤(底部)	2	S K 972	-	(1.7)	(9.8)	3/12	暗青灰色 5PB4/1	密	良好	内外面・高台貼り付け: ヨコナデ、底部 外面: 糸切り
909	青磁	皿	3	S K 972	(120)	(2.0)	-	1/12	釉) 浅黄 5Y7/3 素地) 灰白 5Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち施釉、同安室
910	青磁	椀	3	S K 972	-	(3.3)	高台) (6.2)	高台) 3/12	釉) オリーブ黄 5Y6/4 素地) 灰白 5Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち施釉、底面: 削り 出し高台
911	白磁	椀(口縁部)	3	S K 972	(140)	(2.6)	-	1/12	釉) 灰白 7.5Y8/1 素地) 灰白 N8/0	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち施釉
912	白磁	椀	3	S K 972	(170)	(5.4)	-	1/12 以下	釉) 灰白 7.5Y7/2 素地) 灰白 7.5Y7/1	やや粗	堅緻	内外面: 回転ナデのち施釉、髹日文
913	白磁	椀(底部)	3	S K 972	-	(2.7)	高台) (6.3)	高台) 3/12	灰白 5Y8/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち施釉
914	白磁	壺(底部)	3	S K 972	-	-	高台) 2.9	高台) 12/12	釉) 浅黄 5Y7/3 素地) 灰白 2.5Y7/1	密	やや軟	内面: 回転ナデのち施釉、外面: 回転ナ デ、底部: 削り出し高台
915	灰輪陶器	椀(底部)	3	S K 972	-	(1.5)	高台) (6.6)	高台) 2/12	釉) 灰白 7.5Y7/1 素地) 灰白 7.5Y8/1	密	堅緻	内外面・貼り付け高台: 回転ナデのち施 釉
916	灰輪陶器	壺(底部)	3	S K 972	-	(1.6)	高台) (8.2)	高台) 3/12	灰白 2.5Y7/1	密	堅緻	内外面・貼り付け高台: ヨコナデ、底面: 糸切り
917	緑釉陶器	椀(底部)	3	S K 972	-	(1.6)	高台) (7.3)	高台) 3/12	釉) 浅黄 7.5Y7/3 素地) 灰白 7.5Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち施釉、底面: 削り 出し高台
918	土製品	土鉢	3	S K 972	幅) 0.8	長) 3.8	-	11/12	橙 5YR8/6	密	やや軟	外面: ナデ 重さ: 1.9 g
919	土師器	ミニチュア 羽釜	3	S K 949	(5.8)	(2.2)	-	3/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内外面: ナデ
920	青磁	椀	3	S K 949	16.9	6.7	高台) 4.8	高台) 12/12	釉) 灰オリーブ 7.5Y5/2 素地) 灰白 5Y7/1	精良	堅緻	口縁部内外面: 回転ナデ、龍泉窯
921	土師器	皿	2	S K 831	9.0	1.5	-	11/12	灰白 5YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、 外面: ユビオサエ・ナデ
922	陶器	甕	2	S K 831	22.8	35.3	21.2	6/12	灰 5Y6/1	密	良好	内面: ナデ、外面: 回転ナデ、底面: ヘ ラ切り後ナデ
923	土師器	皿	2	S K 841	7.6	1.4	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、 外面: ユビオサエ・ナデ
924	須恵器	甕	2	S K 841	胴径) 24.1	(38.3)	-	8/12	内) 灰白 10YR7/1 外) にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	内面: ヨコナデ、外面: タタキ、東橋系
925	須恵器	杯	2	S K 841	12.2	3.8	-	□) 6/12	灰白 7.5Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデ、底面: ヘラ切り
926	須恵器	杯	2	S K 841	(13.9)	(3.3)	-	□) 2/12	灰白 7.5Y7/1	密	堅緻	口縁部内外面: 内外面: 回転ナデ
927	緑釉陶器	椀	2	S K 841	17.2	5.7	-	□) 4/12 高台) 9/12	灰白 N8/0	密	良好	内外面: 回転ナデのち施釉、貼り付け高 台: 回転ナデ
928	土師器	皿	2	S K 94	6.9	2.0	-	10/12	灰白 10YR8/2	やや粗	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、 外面: ユビオサエ・ナデ
929	土師器	皿	2	S K 94	6.8	1.9	-	12/12	灰白 2.5YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面: ヨコナデ、内面: ナデ、 外面: ユビオサエ・ナデ
930	陶器	甕	2	S K 94	-	(13.1)	高台) 23.2	高台) 12/12	赤褐 5YR4/6 底) 明赤褐 5YR5/8	密	良好	内面: ユビオサエ・ナデ、外面: ナデ、 底面: 未調整一部ケズリ工具痕あり、常 滑

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調査・備考
931	土師器	皿	2	S K 71	11.8	3.0	-	12/12	灰白 10YR8/2	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
932	陶器	甕	2	S K 71	体) 59.4	(12.7)	-	不明	内) 灰黄褐 10YR6/2 外) 黒褐 10YR3/2	密	良好	内外面：ユビオサエ・ナデ、常滑
933	土師器	皿	2	S K 230	10.3	2.5	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
934	瓦器	ミニチュア板	2	S K 230	(7.0)	(2.3)	-	3/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ナデ
935	陶器	甕	2	S K 230	(54.6)	(21.5)	-	口) 3/12	内) 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 外) (軸あり) オリーブ黒 5Y3/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、ユビオサエ、内面：ハケ状工具によるケズリ後ナデ、外面：ハケ状工具によるナデ、備前
936	陶器	甕	2	S K 230	(52.0)	(79.1)	-	口) 12/12 全) 8/12	にぶい黄褐 10YR5/4	密	良好	口縁部内外面：回転ナデ、内面：工具で調整後ナデ、外面：タタキ後ナデ、漆が染み込んだ痕あり、常滑
937	白磁	皿	2	S K 888	(11.0)	(1.9)	-	3/12	軸) 灰白 7.5Y7/1 素地) 白 N9/0	精良	良好	内外面：回転ナデのち施釉
938	青磁	椀(底部)	2	S K 888	-	(2.1)	高台) 5.3	高台) 4/12	明オリーブ灰 5GY7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉、龍泉窯
939	陶器	甕	2	S K 888	-	(32.0)	19.8	全) 不明 底) 12/12	灰 N5/0	密	良好	内面：ナデ、外面：板状工具によるケズリ後ナデ、底面：未調整、備前
940	瓦質土器	三足羽釜	2	S K 202	12.0	(14.9)	-	口) 6/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ナデ
941	土師器	皿	1	S K 10	7.1	1.7	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
942	土師器	皿	1	S K 10	11.7	3.2	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
943	土師器	皿	1	S K 10	12.0	3.2	-	4/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
944	青磁	椀	1	S K 10	(16.0)	(2.4)	-	口) 1/12 以下	オリーブ灰 5GY6/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
945	青磁	椀	1	S K 10	(16.0)	(2.8)	-	口) 1/12 以下	オリーブ灰 5GY6/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
946	青白磁	梅瓶	1	S K 10	-	(3.7)	(10.2)	底) 3/12	明緑灰色 5G7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
947	青白磁	梅瓶	1	S K 10	体) (16.1)	(7.0)	-	体) 1/12	明緑灰色 5G7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
948	土師器	皿	2	S E 438	6.4	1.8	-	12/12	浅黄橙 10YR8/3	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
949	土師器	皿	2	S E 438	6.2	1.0	-	8/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
950	土師器	皿	2	S E 438	8.4	1.3	-	8/12	褐灰 10YR4/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
951	土師器	皿	2	S E 438	8.5	1.4	-	8/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
952	土師器	皿	2	S E 438	11.9	2.2	-	10/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
953	土師器	皿	2	S E 438	(13.6)	2.8	-	3/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
954	土師器	皿	2	S E 438	10.6	3.1	-	11/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
955	土師器	皿	2	S E 438	12.0	3.0	-	8/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
956	白磁	盃	2	S E 438	12.0	3.9	-	口) 4/12	灰白 5Y7/1	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
957	山茶椀	皿	3	S E 748	7.6	2.4	-	10/12	黄灰 2.5Y6/1	密	良好	口縁部内外面・内外面：回転ナデ
958	灰釉陶器	皿	3	S E 750	(10.1)	(2.2)	-	1/12 以下	黄灰 2.5Y6/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
959	灰釉陶器	椀	3	S E 750	4.4	1.5	-	高台) 12/12	灰 N6/0	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉、底面：糸切り
960	灰釉陶器	椀	2	S E 750	-	(2.7)	高台) 7.0	高台) 5/12	黄灰 2.5Y6/1	やや粗	堅緻	内外面・貼り付け高台：回転ナデのち施釉
961	土師器	皿	2	S E 848	(8.0)	(1.2)	-	口) 1/12	にぶい黄橙 10YR7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
962	青白磁	盒子(蓋)	2	S E 848	(3.8)	(1.4)	-	2/12	明オリーブ灰 2.5GY7/1	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
963	土師器	皿	3	S E 935	(9.0)	1.4	-	15/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
964	土師器	皿	2	S E 935	8.5	1.4	-	12/12	浅黄橙 7.5YR8/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
965	土師器	皿	3	S E 935	13.6	2.1	-	1/12	にぶい黄橙 10 Y R 7.3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
966	土師器	皿	3	S E 957	(7.8)	1.3	-	2/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ

報告 番号	器種	器形	調査 区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
967	土師器	皿	3	SE 967	(15.8)	(1.9)	-	□ 1/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ケズリ後ナデ 底部外面：煤付着
968	白磁	碗	3	SE 968	(8.5)	(2.9)	-	3/12	釉：灰白 2.5GY8/1 素地：白 N9/0	精良	良好	内外面：回転ナデのち施釉
969	青磁	碗	3	SE 968	-	(2.1)	高台 (10.2)	2/12	釉：明緑灰 7.5GY8/1 素地：灰白 8/0	精良	良好	内外面：回転ナデのち施釉、底面：削り 出し高台
970	瓦質 土器	鉢	3	SE 968	/	(5.0)	幅 1.4	不明	灰 N5/0	密	良好	口縁部：ナデ、内面：ミガキ・ユビオサ エ、外面：ミガキ
971	瓦質 土器	鉢	3	SE 968	(20.0)	(4.4)	-	1/12	灰 N3/0	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： 切り込み飾り
972	陶器	盤	3	SE 968	(28.0)	(5.0)	-	□ 1/12 底) 3/12	灰白 2.5Y8/2 ~ 浅 黄 5Y7/4	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
973	土師器	塩釜	2	S K 263	9.3	(8.0)	5.2	底) 12/12	にぶい黄橙 10YR7/3 ~ 褐灰色 10YR5/1	やや 粗	やや 軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
974	土師器	皿	2	S D 238	7.0	1.8	-	6/12	浅黄橙 7.5YR8/3	密	やや 軟	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
975	土師器	皿	2	S D 238	(7.0)	2.2	-	2/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
976	土師器	皿	2	S D 238	(10.0)	(1.5)	-	2/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ナデ
977	土師器	皿	2	S D 238	(9.8)	(2.1)	-	2/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
978	土師器	皿	2	S D 238	(12.0)	(1.4)	-	2/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ナデ
979	土師器	皿	2	S D 238	(11.8)	(2.1)	-	2/12	淡橙 5YR8/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
980	土師器	皿	2	S D 238	(9.8)	(2.9)	-	3/12	灰白 10YR8/2 ~ に ぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ、 底部外面：板状圧痕あり
981	土師器	合付皿	2	S D 238	-	(2.6)	6.0	底) 6.0	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	内外面：ナデ
982	緑釉 陶器	碗(底部)	2	S D 238	-	(1.2)	高台) 4.9	高台) 12/12	オリーブ灰 10Y6/2	密	良好	内外面：回転ナデ、底部：糸切り高台
983	陶器	羹	2	S D 275	(47.8)	(7.1)	-	□ 1/12	赤灰 10R5/1	密	良好	口縁部内外面・外面：回転ナデ、自然釉、 内面：へつ状工具による回転ナデ、盤前
984	土師器	皿	2	S D 275	6.9	1.9	-	4/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
985	土師器	皿	2	S D 275	(9.6)	2.1	-	3/12	浅黄橙 7.5Y8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ナデ、内外面：煤付着
986	土師器	皿	2	S D 275	10.4	2.6	-	5/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
987	土師器	皿	2	S D 275	(10.2)	1.0	-	□ 2/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
988	土師器	皿	2	S D 275	(16.0)	1.5	-	1/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
989	土師器	皿	2	S D 275	(11.9)	(3.0)	-	2/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
990	瓦質 土器	鍋	2	S D 275	(23.4)	(8.1)	-	4/12	褐灰 10YR4/1	密	良好	口縁部内外面・内面：ハケ状工具による ナデ
991	土師器	皿	2	S D 531	(8.0)	1.0	-	2/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
992	土師器	皿	2	S D 531	(8.0)	1.1	-	3/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ナデ
993	黒色 土器	碗	2	S D 531	(10.6)	(3.2)	-	□ 1/12	(外) 灰黄褐 10YR5/2 (内) 黒褐 2.5Y3/1	密	良好	口縁部内外面・内面：回転ナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
994	瓦器	碗	2	S D 531	(13.4)	(3.0)	-	□ 1/12	黒 N1.5/0	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ユビオサエ・ナデ
995	土師器	皿	2	S P 561	(8.0)	1.1	-	3/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
996	土師器	皿	2	S P 561	(6.9)	(2.3)	-	3/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面： ナデ
997	土師器	皿	2	S P 561	(8.0)	(1.9)	-	□ 2/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
998	土師器	皿	2	S P 561	(10.0)	2.4	-	3/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
999	土師器	皿	2	S P 561	13.8	2.1	-	4/12	にぶい黄橙 10YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、 外面：ユビオサエ・ナデ
1000	土師器	皿	2	S P 561	(11.0)	2.8	-	3/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
1001	土師器	皿	2	S P 561	(58)	1.2	-	3/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ナデ
1002	土師器	ミニチュア羽釜	2	S P 561	(40)	(2.2)	-	2/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内外面：ヨコナデ、
1003	白磁	皿	2	S P 561	(15.6)	(3.2)	-	口 1/12	明緑灰 7.5GY7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1004	土師器	皿	2	S D 587	10.5	2.2	-	8/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1005	土師器	皿	2	S D 587	(16.2)	2.8	-	3/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1006	土師器	皿	2	S D 587	14.2	(3.3)	-	口 8/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1007	土師器	皿	2	S D 587	(21.8)	4.1	-	口 2/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1008	須恵器	壺	2	S K 852	-	(4.9)	(6.0)	底 2/12	灰白 2.5Y7/4	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底部外面：回転ヘラケズリ
1009	土師器	皿	2	S D 609	9.0	1.4	-	12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ、口縁部内外面：煤付着、底部外面：工具痕あり
1010	土師器	皿	2	S D 609	9.2	1.8	-	9/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ、底部外面：煤付着
1011	土師器	皿	2	S D 609	8.5	2.0	-	9/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1012	土師器	皿	2	S D 609	14.4	2.8	-	11/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1013	土師器	ミニチュア皿	2	S D 855	(4.6)	1.0	-	3/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ナデ
1014	土師器	皿	2	S D 855	13.0	2.8	-	4/12	灰白 10YR8/2～浅黄橙 7.5YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
1015	瓦質土器	風埴	2	S D 855	(31.4 ～ 35.8)	(12.5)	-	口 2/12	灰 N4/0	密	良好	口縁部内外面：工具によるナデ、ケズリ、内面：ヨコナデ、ユビオサエ、外面：ナデ、花菱文印あり
1016	土師器	皿	2	S D 857	(10.8)	1.8	-	3/12	浅黄橙 10YR8/3～橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
1017	土師器	皿	2	S D 857	(8.6)	-	-	1/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面・内面：ヨコナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1018	白磁	碗 (口縁部)	2	S D 857	(10.0)	(1.6)	-	口 1/12	灰白 5Y7/2	密	堅緻	内外面：回転ナデ
1019	白磁	碗 (口縁部)	2	S D 857	(15.4)	(2.0)	-	口 1/12	灰 2.5Y7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1020	陶器	鉢(底部)	2	S D 857	-	(6.4)	(13.2)	底 4/12	灰 5Y6/1	密	堅緻	内外面：回転ナデ・ケズリ、底部：高台貼り付け、東海産
1021	青磁	皿	1	S P 04	(11.0)	(1.9)	-	口 2/12	浅黄 5Y7/3	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1022	陶器	葉/壺 (底部)	1	S P 04	-	(7.2)	(20.8)	底 2/12	黒褐 10YR3/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸、常滑
1023	黒色土器	盤	1	S P 29	(9.4)	(1.8)	-	2/12	(外) 橙 7.5YR6/6 (内) 黄灰 2.5Y6/1	密	良好	内面：ミガキ、高台貼り付け・外面：回転ナデ
1024	土師器	皿	2	S K 43	(5.8)	(2.1)	-	3/12	浅黄橙 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1025	陶器	壺(底部)	2	S K 43	-	(3.9)	5.0	底 4/12	灰オリーブ 7.5Y5/2	密	堅緻	内面：回転ナデのち施軸、外面：ケズリのち施軸
1026	瓦質土器	小型三足羽釜	2	S K 43	5.6	6.5	-	11/12	灰 N6/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
1027	土師器	皿	2	S P 53	(11.8)	(2.6)	-	3/12	灰白 10YR8/2	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1028	土師器	皿	2	S P 63	(11.8)	(2.2)	-	3/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1029	土師器	皿	2	S P 96	(9.8)	(1.8)	-	3/12	にぶい橙 7.5YR7/3	密	やや粗	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1030	土師器	皿	2	S P 128	7.8	2.0	-	3/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1031	土師器	皿	2	S P 128	(13.8)	(3.6)	-	口 2/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1032	白磁	碗 (底部)	2	S P 160	-	(3.0)	高台 (4.8)	3/12	灰白 7.5Y7/1	密	堅緻	内面：回転ナデのち施軸、外面：回転ナデ、
1033	須恵器	杯 (底部)	2	S P 161	-	(0.9)	(6.3)	底 3/12	灰白 N5/0	密	堅緻	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底部：ヘラ切り
1034	土師器	皿	2	S P 184	6.6	1.8	-	9/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
1035	土師器	皿	2	S P 184	7.4	1.6	-	11/12	橙 7.5YR7/6	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：エビオサエ・ナデ
1036	土師器	皿	2	S P 184	7.8	1.7	-	12/12	にぶい黄橙 10YR6/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1037	土師器	皿	2	S P 184	8.0	1.8	-	6/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1038	土師器	丸底小鉢	2	S P 184	(11.7)	7.1	-	3/12	橙 5YR6/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：工具によるケズリ接ナデ
1039	山茶碗	碗(底部)	2	S P 198	-	(1.7)	高台) 4.3	高台) 9/12	灰白 5Y7/1	密	堅緻	内面：回転ナデ、外面：回転ナデ・ケズリ、底部：削り出し高台
1040	土師器	皿	3	S P 214	(7.8)	(1.5)	-	3/12	浅黄橙 10YR8/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1041	須恵器	杯(底部)	3	S K 215	-	(2.5)	10.0	底) 8/12	黄灰 2.5Y5/1	密	堅緻	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底部：ヘラ切り、墨書有り
1042	土師器	皿	2	S P 239	7.6	1.8	-	5/12	浅黄橙 10YR8/3	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1043	土師器	皿	2	S K 241	12.2	2.6	-	5/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
1044	土師器	皿	2	S P 266	(11.2)	(1.6)	-	1/12	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1045	青磁	碗	3	S P 329	(16.0)	(4.5)	-	口) 2/12	灰オリーブ 7.5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉 墨書弁文
1046	須恵器	壺(底部)	3	S P 392	-	(1.5)	(10.1)	底) 2/12	灰 5Y6/1	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底部：糸切り
1047	白磁	碗(底部)	2	S P 414	-	(1.3)	高台) 6.0	高台) 6/12	灰白 2.5GY8/1	密	堅緻	内面：回転ナデのち施釉、外面：回転ナデ
1048	土師器	皿	2	S K 427	6.7	1.8	-	12/12	灰白 10YR8/2	やや粗	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1049	土師器	皿	2	S K 427	6.8	1.8	-	12/12	灰白 10YR8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1050	土師器	皿	2	S P 476	9.0	1.5	-	4/12	灰黄 2.5Y7/2	やや粗	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1051	土師器	皿	2	S P 497	9.2	1.9	-	12/12	橙 7.5YR7/6	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ
1052	土師器	皿	2	S P 497	9.2	1.7	-	12/12	橙 5YR7/6	密	やや軟	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：エビオサエ・ナデ
1053	白磁	碗	2	S P 652	14.8	4.3	高台) 6.6	高台) 11/12	釉) 灰白 7.5Y8/1 素地) 灰白 5Y8/1	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉、底部：削り出し高台(蛇の目) 輸入陶磁器
1054	須恵器	杯	2	S P 668	-	(2.7)	(11.2)	底) 3/12	灰白 N6/0	密	良好	内外面・底部高台貼り付け：回転ナデ
1055	土師器	皿	3	S P 720	(8.6)	(2.0)	-	1/12	にぶい黄橙 10YR7/4	やや粗	密	口縁部内外面：内外面：ナデ
1056	須恵器	壺(底部)	3	S P 720	-	(1.6)	6.0	底) 4/12	灰白 7.5Y5/1	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底部：糸切り
1057	緑釉陶器	碗(底部)	2	S P 826	-	(1.2)	高台) 5.8	高台) 4/12	淡緑灰(番号は誤当無し)	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底部：削り出し高台
1058	白磁	碗(口縁部)	3	S P 906	(15.8)	(3.0)	-	1/12 以下	灰白 5Y8/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉
1059	緑釉陶器	底部	3	S P 906	-	(1.7)	高台) 7.2	高台) 5/12	オリーブ灰 10Y4/2	精良	良好	内外面：回転ナデのち施釉
1060	青磁	皿	3	S P 906	(10.3)	(2.3)	(4.7)	3/12	灰オリーブ 5Y6/2	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉、同安宮系
1061	土師器	碗	2	第2面	(6.8)	2.4	-	2/12	灰黄 2.5Y7/2	密	良好	口縁部内外面・高台貼り付け：回転ナデ
1062	土師器	ミニチュア羽釜	不明	第2面	1.8	(2.5)	-	12/12	淡黄 2.5Y8/3 ~ 灰白 2.5Y8/2	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ 脚部無し
1063	土製品	円板	3	第1面	長) 2.5	幅) 2.5	-	12/12	にぶい橙 7.5YR6/4	密	良好	外面：ナデ
1064	土製品	土鉢	2	第2面	長) 3.6	径) 0.75	中孔径) 0.25	12/12	橙 2.5YR6/6	密	良好	外面：ナデ 重さ：1.9 g
1065	土製品	土鉢	2	第3面	長) 4.7	径) 1.3	中孔径) 0.25	12/12	灰白 2.5Y8/2	密	良好	外面：ナデ 重さ：5.9 g
1066	陶器	壺(底部)	2	第2面	-	(6.7)	8.6	底) 6/12	(外) にぶい赤褐色 5YR4/3 (内) 黄灰 2.5Y5/1	密	堅緻	内外面：回転ナデ・ケズリ
1067	陶器	罐鉢	2	第1面	-	(2.0)	(18.0)	底) 2/12	暗赤褐 2.5YR3/3	密	堅緻	内面：掘り目、外面：回転ナデ、髷部
1068	須恵器	鉢	3	S K 741	(23.7)	(9.5)	(10.0)	口) 2/12 底) 3/12	灰白 5Y7/1	密	良好	口縁部内外面・内外面：回転ナデ、底部 外面：糸切り、束橋系
1069	陶器	壺(口縁部)	2	第2面	(5.7)	(7.7)	-	口) 1/12	黒褐 10YR3/1	密	堅緻	内面：回転ナデ、外面：回転ナデ・クダキ、常滑
1070	陶器	壺	2	第1面	(23.0)	(4.9)	-	口) 1/12	暗灰 N3/0	密	堅緻	内外面：回転ナデ、常滑

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考	
1071	陶器	甕	不明	第1面	(17.7)	(7.9)	-	□ 3/12	(外) 灰緑 7.5Y5/2 (内) 灰白 N7/0	密	堅緻	外面：回転ナデ、内面：ユビオサエ、常滑	
1072	須恵器	甕	3	第2面	(220)	(5.5)	-	□ 1/12	(外) 灰 N3-0 (内) 灰白 10Y7/1	密	堅緻	□縁部内外面・内面：ナデ、外面：タタキ、束縛系	
1073	須恵器	甕	2	第3面	-	(8.0)	15.6	9/12	灰 N5-0	密	良好	内面：ナデ、外面：タタキ、底部外面：ユビオサエ・ナデ、束縛系	
1074	陶器	甕	3	第1面	(21.8)	(3.2)	-	□ 2/12	暗赤褐 5YR3/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1075	陶器	盤	2	第1面	32.4	(6.6)	-	□ 4/12	オリーブ灰 10Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1076	陶磁器	碗	2	第1面	(13.1)	(2.4)	-	□ 2/12	明緑灰 10GY8/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸、中国(明)	
1077	染付	碗	2	第1面	-	(1.5)	高台) 5.7	高台) 5/12	灰白 10Y8/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸、染付	
1078	土師器	高杯(脚部)	1	第1面	脚部) 4.5	(17.7)	-	脚) 12/12	にぶい黄橙 10YR7/3	密	良好	外面：ナデ	
1079	土師器	高杯(脚部)	3	第4面	長) 11.5	-	幅) 4.0	不明	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	外面：ケズリ六角面をもつ脚柱、復付着	
1080	須恵器	杯	3	第3面	(13.8)	3.5	-	□ 1/12 全) 6/12	灰白 2.5Y7/1	密	良好	□縁部内外面：ヨコナデ、内外面：ナデ	
1081	須恵器	杯	不明	第4面	-	(4.3)	(12.7)	底) 2/12	(内) 灰 N6-0 (外) 灰 N5-0	密	良好	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底部外面：ヘラ切り後ナデ	
1082	須恵器	杯	2	第2面	e 23	-	(3.1)	(9.0)	底) 1/12	灰白 N7/0	密	堅緻	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、
1083	須恵器	杯(底部)	2	第1面	34 h・i 35 h・i	-	(1.1)	(8.4)	底) 3/12	灰 10Y6/1	密	堅緻	内外面・高台貼り付け：回転ナデ、底部：ヘラ切り
1084	須恵器	甕	3	第3面	-	(17.3)	8.9	底) 12/12 体) 7/12	(外) 灰 N4/0 (内) 灰黄 2.5Y7/2	密	良好	内面：回転ナデ、外面：回転ナデ・ケズリ、底部：糸切り	
1085	須恵器	甕	3	第4面	-	(15.8)	4.8	底) 7/12	灰 N4-0	密	良好	内外面：回転ナデ、底部外面：糸切り	
1086	須恵器	甕(底部)	3	第2面	-	(2.6)	4.9	底) 4/12	灰白 7.5Y7/1	密	堅緻	内面・高台貼り付け：回転ナデ、外面：回転ナデ・ケズリ、底部：糸切り・ナデ	
1087	須恵器	平瓶	2	第3面	4.7	(7.3)	-	□ 4/12	灰白 N6-0	密	堅緻	内外面：回転ナデ	
1088	青磁	皿	3	第1面	(12.0)	(2.9)	-	□ 2/12	明オリーブ灰 5GY7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1089	青磁	皿	2	第2面	g 24	(10.2)	(2.3)	-	2/12	灰オリーブ 7.5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1090	青磁	皿	2	第2面	g 27	(11.0)	(2.2)	-	□ 2/12	オリーブ灰 10Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1091	青磁	皿	2	第2面	10.6	2.3	-	□ 6/12 全) 6/12	灰オリーブ 5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1092	青磁	皿	2	第2面	(10.8)	(1.9)	-	□ 2/12 底) 3/12	オリーブ黄 7.5Y6/3	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1093	青磁	皿(底)	2	第3面	g 20	-	(1.3)	3.8	底) 9/12	明オリーブ灰 2.5GY7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1094	青磁	皿	2	第2面	9.8	2.0	-	□ 10/12 高台) 12/12	灰オリーブ 7.5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1095	青磁	皿	2	第1面	(14.0)	(2.2)	-	□ 1/12	釉) 灰オリーブ 7.5Y5/2 素地) 灰 7.5Y6/1	精良	堅緻	□縁部内外面：回転ナデ、内外面：回転ナデのち施軸	
1096	青磁	皿	2	第2面	10.6	1.8	-	□ 4/12 底) 12/12	オリーブ灰 10Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1097	青磁	碗	2	第1面	(12.0)	(2.4)	-	□ 1/12	釉) 灰オリーブ 7.5Y5/2 素地) 灰白 7.5Y7/1	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸、差弁文	
1098	青磁	碗	2	第1面	(13.0)	(5.3)	-	□ 1/12 以下	明緑灰色 10GY7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1099	青磁	碗	2	第2面	15.0	(2.8)	-	□ 1/12 以下	灰オリーブ 7.5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1100	青磁	碗	2	第2面	f 26	(3.3)	(3.3)	-	□ 2/12	灰オリーブ 7.5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1101	青磁	碗	2	第2面	f 22	(16.0)	(3.9)	-	□ 2/12	灰オリーブ 5Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸
1102	青磁	碗	2	第2面	(17.0)	(6.3)	-	□ 2/12	オリーブ灰 10Y5/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	
1103	青磁	碗	2	第2面	(16.2)	(7.2)	-	□ 1/12 以下 高台) 3/12	オリーブ灰 10Y5/2	密	堅緻	内外面：回転ナデのち施軸	

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
1104	青磁	碗	2	第1面	-	(4.1)	高台) 5.6	高台) 6/12	釉) 明オリープ 5GY7/1 素地) 灰白 75Y7/1	精良	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸、底部: 削り出し高台
1105	青磁	碗 (底部)	3	第2面 g 16・17	-	(20)	高台) 5.3	高台) 6/12	灰白 10Y7/2	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸、龍泉面
1106	青磁	碗 (底部)	2	第2面	-	(1.7)	高台) (5.6)	高台) 3/12	オリープ灰 10Y5/2	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1107	青磁	碗 (底部)	3	第2面 f・g- 10・11	-	(2.4)	高台) (7.3)	高台) 2/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1108	青白磁	盒子(蓋)	2	第3面 f 12	5.2	1.6	-	□) 7/12	釉) 明緑灰 7.5GY8/1 素地) 灰白・黄橙 10YR8/1	精良	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸、印花草花文、筋文
1109	青白磁	盒子(蓋)	3	第2面 g 11	5.1	1.6	-	□) 6/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1110	青白磁	盒子(身)	2	第2面 f 27・28	(8.0)	(2.0)	-	□) 2/12 高台) 2/12	灰白 5GY8/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1111	青白磁	梅瓶	2	第2面	体) (17.2)	(7.1)	-	体) 2/12	明緑灰 10GY8/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸、梅瓶
1112	白磁	碗/皿	2	第2面 f・g- 47	8.8	2.2	-	□) 6/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1113	白磁	碗/皿	2	第2面	11.1	3.2	-	□) 4/12 底) 7/12	灰白 75Y7/2	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1114	白磁	碗/皿	3	第1面 h 16	-	(1.3)	5.4	底) 12/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1115	白磁	碗/皿	2	第1面 d 13	-	(1.3)	底) 5.9	底) 9/12	明オリープ灰 2.5GY7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデ
1116	白磁	碗/皿	2	第1面 h・i- 34・35	-	(1.3)	5.8	底) 6/12	灰白 75Y7/2	密	堅緻	内外面: 回転ナデ
1117	白磁	碗	2	第2面	(11.2)	(2.2)	-	□) 2/12	灰白 2.5GY8/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1118	白磁	碗	2	第2面	(15.0)	(3.4)	-	2/12	灰白 5Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1119	白磁	碗	2	第2面 h 27・28	-	(4.0)	高台) (5.6)	高台) 3/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸、底部: 削り出し高台
1120	白磁	碗 (底部)	2	第2面 g 22・23	-	(2.8)	高台) (7.8)	高台) 3/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内面: 回転ナデのち地軸
1121	白磁	碗 (底部)	2	第2面 f 23	-	(1.7)	高台) (7.1)	高台) 2/12	灰白 10YR8/2	密	良好	内外面: 回転ナデ、底部: 削り出し高台
1122	白磁	碗	2	第2面 e 21	(17.0)	(2.7)	-	□) 1/12	灰白 5Y8/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1123	白磁	碗	1	第1面	(17.0)	(5.1)	-	2/12	灰白 5Y7/2	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1124	白磁	碗	2	第3面	-	(6.0)	高台) 9.2	高台) 3/12	灰白 10Y7/1	精良	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸、底部: 削り出し高台、陰影削り
1125	白磁	壺 (口縁部)	2	第1面 f・g- 33・34	(11.0)	(2.8)	-	□) 2/12	明オリープ灰 2.5GY7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1126	白磁	壺 (底部)	2	第2面	-	(7.0)	8.0	底) 6/12	(外) 灰白 75Y7/1 (内) 浅黄 5 Y 7.3	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1127	白磁	壺 (底部)	2	第2面	-	(5.0)	(9.0)	底) 3/12	灰白 75Y7/1	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1128	陶器	碗	2	第1面機	(17.1)	(4.9)	-	□) 2/12	浅黄 5Y7/3	密	良好	内外面: 回転ナデのち地軸、古瀬戸
1129	陶器	碗	2	第1面	(17.3)	(5.4)	-	□) 3/12	灰ナリープ 2.5Y6/2	密	良好	内外面: 回転ナデのち地軸、外面: ケズリ、古瀬戸
1130	灰軸陶器	碗 (底部)	3	第2面 f・g- 10・11	-	(1.4)	高台) (5.4)	高台) 3/12	灰白 N8/0	密	堅緻	内外面: 回転ナデ、底部: 削り出し高台
1131	灰軸陶器	皿/碗 (底部)	3	黄褐色 整地層	-	(2.4)	高台) 6.1	高台) 9/12	灰白 10YR7/1	密	良好	内面: 回転ナデのち地軸、外面: 回転ヘラケズリのちナデ、底面: ヘラ切りか
1132	灰軸陶器	底部	3	黄褐色 整地層	-	(3.1)	高台) 5.7	高台) 5/12	灰白 10YR8/1	密	良好	内外面: 貼り付け高台: 回転ナデ、底面: ヘラ切りか
1133	緑軸陶器	皿	3	黄褐色 整地層中	(14.2)	2.8	高台) 7.0	□) 2/12 高台) 6/12	灰白 10Y7/2	密	堅緻	内外面: 回転ナデのち地軸
1134	緑軸陶器	碗	2	第2面 e 21	(16.0)	(2.7)	-	□) 1/12	浅黄 75Y7/3	密	良好	内外面: 回転ナデ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
1135	緑釉陶器	椀	2	第2面 e 21・22	(133)	(34)	-	□) 2/12	明黄釉 25Y7/6	密	軟	内面：回転ナデ、外面：回転ナデ・ケズリ
1136	緑釉陶器	椀	2	第2面 e 21	(150)	(30)	-	□) 1/12	浅黄 75Y7/3	密	良好	内外面：回転ナデのち施釉
1137	緑釉陶器	椀	3	黄褐色 整地層	(161)	6.1	高台 7.5	□) 1/12 底) 3/12	灰白 10Y7/2	やや粗	軟	内外面：回転ナデのち施釉、底面：ヘラケズリ
1138	緑釉陶器	器形不明	3	黄褐色 整地層	縦) 4.6 横) 4.6	厚) 6.3 底) 0.6	-	不明	灰白 10Y7/2	密	良好	内外面：回転ナデのち施釉
1139	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第2面	-	(18)	高台) (7.0)	高台) 3/12	釉) オリーブ灰 10Y5/2 素地) 浅黄橙 10YR8/3	密	良好	内外面：回転ナデのち施釉、底面：貼り付け高台・ヘラ切り
1140	緑釉陶器	椀 (底部)	1	第2面	-	(20)	高台) (7.5)	高台) 2/12	釉) オリーブ灰 10Y5/2 素地) 浅黄橙 10YR8/3	密	良好	内外面：回転ナデのち施釉、底面：貼り付け高台・ヘラ切り
1141	緑釉陶器	底部	2	第3面	-	(22)	高台) (7.8)	高台) 1/12以下	釉) オリーブ灰 10Y5/2 素地) 灰 10Y5/2	精良	堅緻	内外面：回転ナデのち施釉、底面：削り出し高台か
1142	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第2面 e 21	-	(16)	高台) (4.5)	高台) 3/12	釉) オリーブ灰 25GY6/1 素地) 灰白 75Y7/2	密	良好	内外面：回転ナデのち施釉
1143	緑釉陶器	底部	3	黄褐色 整地層	-	(07)	高台) 7.0	5/12	淡黄 25Y8/3	密	良好	内面：回転ナデのち施釉、底面：削り出し高台(蛇の目)
1144	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第1面 h・f - 34・35	-	(17)	高台) (9.1)	高台) 3/12	灰白 5Y7/2	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底面：削り出し高台
1145	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第2面	-	(14)	高台) (7.1)	高台) 3/12	灰オリーブ 75Y6/2	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底面：削り出し高台
1146	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第2面 e 21	-	(16)	高台) (6.6)	高台) 2/12	明オリーブ灰 5GY7/1	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底面：削り出し高台
1147	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第1面	-	(24)	高台) (6.8)	高台) 1/12以下	灰オリーブ 75Y5/2	密	堅緻	内外面・高台貼り付け：回転ナデ
1148	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第2面 f・g - 27	-	(23)	高台) (7.2)	高台) 2/12	オリーブ灰 10Y5/2	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底面：削り出し高台
1149	緑釉陶器	椀 (底部)	2	第2面 h 23	-	(18)	高台) (8.0)	高台) 3/12	オリーブ黄 75Y6/3	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底面：削り出し高台
1150	緑釉陶器	椀 (底部)	3	第2面 f・g - 10・11	-	(21)	高台) (4.1)	高台) 3/12	オリーブ灰 10Y5/2	密	堅緻	内外面：回転ナデ、底面：削り出し高台
1151	瓦器	皿	2	第2面 g 25	79	13	-	6/12	灰白 25Y7/1	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ・ナデ
1152	瓦器	椀	2	第1面	11.6	3.6	-	5/12	灰 N5/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ
1153	瓦器	椀 (底部)	2	第2面 e 21	-	(14)	5.6	6/12	灰 N6/0	密	良好	内面：ミガキ、外面・高台貼り付け：回転ナデ
1154	瓦器	椀	1	第2面	12.6	4.1	-	9/12	暗灰 N3/0	密	良好	口縁部内外面・高台貼り付け：ヨコナデ、内面：ナデのちミガキ、外面：ユビオサエ・ナデ
1155	瓦質土器	壺	2	第1面	49	7.0	-	12/12	灰白 N7/0	密	良好	口縁部内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ナデ・ユビオサエ
1438	土製品	銅型	2	S K 840	縦) 6.1 横) 4.9	厚) 1.6	-	4/12	(表面) 橙 25YR6/6 (内面) 赤灰 25YR6/1	やや粗	良好	
1439	土製品	銅型	2	S X 130	縦) (4.5) 横) (3.8)	厚) (0.8~1.2)	-	-	橙 5YR6/6	密	良好	
1440	土製品	取鍋	2	S K 200	10.1	4.2	厚) 0.12~0.17	11/12	黄灰 25Y6/1	粗	やや軟	内面：胴・赤澤付着、外面：ユビオサエ
1441	土製品	取鍋	2	S P 866・868	9.0	3.9	-	6/12	灰白 25Y7/1	粗	やや軟	重さ：115.6 g、内面：胴付着・ナデ、外面：ナデ・ユビオサエ
1442	土製品	取鍋	2	S K 200	(9.2)	3.4	-	□) 3/12	内) 褐灰 5YR6/1 外) 黄灰 25Y6/1 ~灰黄 25YR7/2	やや粗	良好	重さ：97.5 g、内面：胴・赤澤付着・ナデ、外面：ユビオサエ
1443	土製品	取鍋	3	S K 971	9.6	3.5	-	2/12	灰白 N7/0	粗	やや軟	重さ：60.7 g、内面：赤澤付着、外面：ナデ・ユビオサエ

報告番号	器種	器形	調査区	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調	胎土	焼成	調整・備考
1444	土製品	取鍋	3	S K 884	7.5	2.9	-	口) 5/12	内) にぶい黄 25Y6/4 外) 灰白 2.5Y7/1 ~ 灰黄 2.5YR7/2	やや粗	良好	重さ: 498 g、内面: 銅・赤澤付着・ナデ、 外面: ナデ・エビオサエ
1445	土製品	取鍋	3	S X 130	8.8	3.6	-	7/12	灰白 10YR8/1	粗	良好	重さ: 145.5 g、内面: 銅・赤澤付着、外面: ナデ・エビオサエ
1446	土製品	取鍋	2	S K 126	8.2	(3.1)	-	口) 5/12	灰白 2.5Y8/2	粗	やや軟	重さ: 45.4 g、口内外面: ナデ、外面: エビオサエ
1447	土製品	取鍋	3	S K 971	(8.4)	(1.9)	-	3/12	赤紫灰 5P7/1	粗	やや軟	重さ: 15.1 g、内面: 赤澤付着、外面: ナデ・ エビオサエ
1448	土製品	取鍋	2	S K 315	(9.6)	(9.6)	-	2/12	にぶい黄橙 10YR7/3	粗	やや軟	重さ: 10.1 g、内面: 銅・赤澤付着、外面: ナデ
1449	土製品	取鍋	3	S K 884	(8.6)	(3.3)	-	2/12	灰白 2.5Y8/1	粗	軟	重さ: 26.6 g、内面: 銅・赤澤付着、外面: ナデ
1450	土製品	取鍋	3	S K 884	6.0	3.2	-	口) 6/12	灰白 5Y7/1	やや粗	良好	重さ: 58.3 g、内面: 銅・赤澤付着・ナデ、 外面: エビオサエ
1451	土製品	輪の羽口	3	S K 971	長) (3.9)	-	厚) 1.9	不明	素地にぶい橙 7.5YR7/4 ガラス質) 明緑灰 7.5GY5/1	やや粗	良好	外面: ナデ・ケズリ
1452	土製品	輪の羽口	3	S K 884	長) (5.4)	-	厚) 1.6	不明	にぶい黄橙 10YR7/2	やや粗	良好	外面: ナデ
1453	土製品	輪の羽口	2	第1面	長) (5.8)	-	厚) 1.5	不明	内) 淡黄 2.5Y8/3 外) 灰 N6/0	やや粗	良好	外面: ナデ

付表5 瓦一覽

(凡例)

・小数字第2位を四捨五入、第1位で表示
- : 該当部位なし / : 測定不能

報告番号	種類	文様	調査区	出土地点	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ	残存率	色調	胎土	焼成	調査・備考
1156	軒丸	四葉宝相華文	3	第1面 石組井戸	/	(100)	20	5/12	にぶい黄橙 10YR7/4	やや粗	良好	
1157	軒丸	巴文	2	S K 294	/	(7.4)	23 ~ 27	-	灰 7.5Y6/0	密	良好	ナデ
1158	丸	-	2	S K 294	(15.0)	(12.0)	1.8	-	灰 N7/0	密	良好	凹面: 布目 凸面: 縄目、ナデ
1159	軒丸	華弁八葉蓮華文	3	第3面	(6.9)	(6.6)	0.9	-	灰 N6/0	密	良好	ケズリ、ナデ
1160	丸	-	1	S K 835	(14.8)	(10.8)	1.7	-	灰 N4/0	密	良好	
1161	丸	-	2	S K 823	(9.8)	(16.6)	2.2	-	灰 N6/0	密	良好	凹面: ナデ (横骨痕アリ) 凸面: ナデ
1162	丸 (玉縁)	-	2	S K 294	(6.8)	(6.6)	1.4 ~ 2.0	-	淡黄 2.5Y8/3	密	良好	凹面: 縄目タタキか 凸面: ナデ
1163	軒丸	巴文	2	S K 294	/	(5.6)	1.7 ~ 2.8	-	灰 N6/0	密	良好	ナデ
1164	軒丸	巴文	2	S K 126	(4.8)	/	1.8 ~ 2.7	-	青灰 5B5/1	やや粗	良好	ナデ
1165	軒平	唐草文	2	第2面	(5.1)	(14.1)	2.7 ~ 5.2	-	灰 7.5Y5/1	やや粗	やや軟	凹面: ナデ、凸面: 布目
1166	軒平	唐草文	2	S K 294	(6.5)	(12.5)	2.7	-	灰 7.5Y6/1	密	良好	ナデ
1167	軒平	唐草文	2	第1面	(8.2)	(8.7)	2.6	-	灰 7.5Y6/1	密	良好	凹面: 布目、凸面: ナデ
1168	軒平	唐草文	2	S D 855	(6.4)	(6.6)	/	-	灰白 N7/0	密	良好	ヘアケズリ
1169	軒平	唐草文	2	S K 582	(8.3)	(9.0)	/	-	灰 N4/0	やや粗	良好	凹面: 布目、凸面: ナデ
1170	軒平	唐草文	2	S K 230	(3.7)	(5.1)	/	-	灰白 7.5Y7/1	密	良好	凹面: 布目、凸面: ナデ
1171	軒平	刺繍文	2	S D 238	(7.3)	/	1.5	-	灰 N4/0 布目上面 灰 N5/0	密	良好	凹面: 布目、凸面: ナデ
1172	軒平	刺繍文	3	第1面	(4.0)	(7.5)	1.9	-	灰 N5/0	密	良好	タタキ、ナデ
1173	軒平	唐草文	2	第2面	(7.1)	(8.9)	2.1	-	表) 淡黄 2.5Y7/4 灰 5Y6/1	密	良好	
1174	軒平	唐草文	2	S K 888	(11.5)	(10.7)	2.1	-	青灰 5B6/1	密	良好	凹面: 布目、凸面: ナデ
1175	平	-	2	S K 200	(14.0)	(10.4)	1.5 ~ 2.2	-	解) 灰白 5Y7/1 外) 7.5Y5/1	やや粗	良好	縄目タタキ
1176	平	-	2	S K 888	(16.0)	(13.0)	2.0	-	灰 5Y6/1	密	良好	凹面: ナデ、凸面: タタキ
1177	鬼	-	2	S K 888	(13.2)	(13.7)	3.2 ~ 5.4	-	灰 N4/0	やや粗	良好	
1178	鬼	-	2	S K 230	(15.5)	(11.6)	3.1 ~ 4.2	-	灰 N4/0	やや粗	やや軟	裏に朱付着か
1179	鬼	-	2	第1面	(12.0)	(11.4)	2.6 ~ 3.3	-	灰 N6/1	密	やや軟	
1180	塼	-	第1面	(11.0)	(13.0)	(13.2)	-	-	黄灰 2.5Y6/1	やや粗	良好	ナデ
1181	塼	-	2	第2面 g 24	(13.1)	(13.2)	(11.8)	-	にぶい橙 7.5YR6/4	やや粗	良好	ヘアケズリ、ナデ
1182	塼	-	2	第2面	14.0	10.8	3.2 ~ 5.4	-	淡黄 2.5Y8/4	粗	良好	ナデ
1183	塼	-	2	第1面	(23.0)	(13.2)	2.9 ~ 4.4	-	明青灰 5B4/1	粗	良好	縄目タタキ
1184	塼	-	2	S K 336	(31.0)	(13.8)	2.9 ~ 6.0	-	灰黄 2.5Y7/2、暗 灰黄 2.5Y5/2 裏) 橙 5YR7/6、濁灰 5YR4/1、灰 N6/0	やや粗	良好	縄目タタキ
1185	塼	-	1	S K 10	(11.6)	13.5	1.3 ~ 5.5	-	橙 7.5YR7/6	やや粗	良好	縄目タタキ
1186	塼	-	2	第2面	(11.4)	11.7	0.8 ~ 4.9	-	灰 10Y6/1	やや粗	やや軟	縄目タタキ
1187	塼	-	2	第1面	(11.7)	(8.8)	1.7 ~ 5.0	-	灰白 7.5Y7/1 暗灰 N3/0	粗	良好	縄目タタキ
1188	塼	-	2	S X 130	(17.2)	12.6	2.5 ~ 4.5	-	橙 7.5YR6/8	やや粗	やや軟	縄目タタキ
1189	塼	-	2	S K 888	(11.0)	(13.8)	3.4 ~ 5.3	-	灰 N4/0	やや粗	良好	縄目タタキ
1190	塼	-	2	S K 336	(7.1)	10.5	3.0	-	灰 N4/0	やや粗	良好	縄目タタキ
1191	塼	-	2	S K 336	(8.8)	11.4	4.1	-	灰 N4/0 ~ 濁灰 10YR6/1	やや粗	良好	縄目タタキ
1192	塼	-	2	S K 336	(6.6)	10.8	4.8	-	灰 N4/0	やや粗	良好	縄目タタキ
1193	塼	-	2	S X 130	(13.0)	(6.4)	3.1 ~ 4.7	-	灰黄 2.5Y7/2	粗	良好	縄目タタキ

付表6 金属製品一覧

(凡例)

・小数字第2位を四捨五入、第1位で表示

・- : 該当部位なし / : 測定不能

報告番号	器形	調査区	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
1194	刀子	2	S K 480	(25.7)	(4.7)	2.8	
1195	刀子	2	S K 354	11.3	2.3	0.5	
1196	刀子	3	S K 338	(10.2)	(1.0 ~ 2.0)	0.7	
1197	刀子	2	S K 620	(6.1)	(0.9)	0.2	
1198	刀子	2	S K 678	(6.4)	(1.3)	0.2	
1199	刀子	2	S K 336	(17.9)	(1.2 ~ 1.7)	0.7	
1200	刀子	2	S X 130	(13.3)	(1.2 ~ 1.7)	0.7	
1201	刀子	2	S X 130	(17.5)	(1.2 ~ 1.7)	0.6	
1202	刀子	2	S K 825	(12.7)	(2.1)	0.5	
1203	刀子	3	第3面南壁 h 16	(8.8)	(1.5)	0.5	
1204	刀子	2	第2面	(6.3)	(1.2)	3.5	
1205	刀子	2	S K 825	(5.6)	(1.8)	0.4	
1206	刀子	2	S K 825	(2.7)	(1.0)	0.3	
1207	刀子	3	第3面南壁 h 16	(6.7)	(1.5)	0.5	
1208	刀子	2	第2面	(6.2)	(1.6)	0.4	
1209	刀子	2	S P 281	(3.6)	(1.1)	0.3	
1210	携小鉄瓶 (取手)	2	S K 604・605	(14.6)	(20.3)	(2.6)	
1211	鉄瓶	2	S X 130	直径 (7.2)	高さ (4.8)	-	
1212	携小鉄瓶 (底部)	2	S K 678	直径 (12.0)	器高 (3.0)	残存率 (概) 1/12	
1213	飾り金具	2	S K 144	(6.7)	(1.39)	(0.3)	
1214	飾り金具	2	第3面西壁裾張部	(8.3)	(5.3)	6.0	
1215	飾り金具	2	S X 130	(8.6)	(4.3)	0.4	
1216	飾り金具	2	S X 130	(4.9)	(3.8)	0.2 ~ 0.9	
1217	飾り金具	2	S X 130	(3.6)	(1.9)	(0.2)	
1218	鉄線	2	S K 678	(9.4)	(0.9)	0.6	
1219	不明鉄製品	2	第2面	(7.7)	(0.96 ~ 1.5)	0.4	
1220	楔形鉄製品	2	S K 774	(3.6)	(2.0)	(0.9)	
1221	飾り金具	2	S X 130	(6.1)	(3.6)	0.5	
1222	飾り金具	2	S X 190	(8.0)	(4.2)	0.5	
1223	板状鉄製品	2	第1面	(2.6)	(3.0)	0.2	
1224	板状鉄製品	2	S D 238	(4.7)	(3.5)	0.3	
1225	板状鉄製品	3	S K 254	(5.8)	(2.2)	0.2	
1226	板状鉄製品	2	S X 810	(3.3)	(1.4)	0.2	
1227	鋸	2	第1面	(6.1)	(1.5)	(0.3)	
1228	不明鉄製品	2	第2面 h 24・25	24	-	0.5	
1229	釘	2	S K 604・605	(1.5)	(0.3)	0.2	
1230	釘	2	S K 126	(1.7)	(0.3)	0.3	
1231	釘	3	S K 539	(1.4)	(0.3)	0.3	
1232	釘	2	S K 294	(2.3)	(0.4)	0.4	
1233	釘	2	第2面	(3.2)	(0.5)	0.4	
1234	釘	3	S P 360	(2.7)	(0.3)	0.3	
1235	釘	2	S X 130	(2.0)	(0.4)	0.4	
1236	釘	3	S K 588	2.9	0.3	0.3	
1237	釘	2	第2面	2.7	0.3	0.3	
1238	釘	3	S X 126	(1.5)	(0.4)	0.5	
1239	釘	2	S K 336	(1.8)	(0.3)	0.3	
1240	釘	2	S K 279	3.0	0.3	0.3	木目痕少
1241	釘	2	S K 353	(3.7)	(0.3)	0.2	
1242	釘	2	S K 124	(3.3)	(0.2)	0.4	
1243	釘	2	S K 620	(4.2)	(0.4)	0.5	
1244	釘	3	S K 338	(3.5)	(0.3)	0.4	
1245	釘	2	第2面	(3.5)	(0.3)	0.3	
1246	釘	2	S K 336	3.7	0.3	0.3	

報告 番号	器形	調査区	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考
1247	釘	2	S K 126	29	0.3	0.3	
1248	釘	2	S K 678	36	0.3	0.4	
1249	釘	2	S K 371	(26)	(0.4)	0.4	
1250	釘	3	第2面	(3.3)	(0.4)	0.4	
1251	釘	2	S K 604・605	(3.1)	(0.5)	0.5	
1252	釘	3	S K 884	(29)	(0.4)	0.5	
1253	釘	2	第3面	(2.3)	(0.5)	0.5	
1254	釘	2	S X 130	(3.2)	(0.5)	0.5	
1255	釘	2	S X 130	(3.3)	(0.4)	0.4	
1256	釘	2	S K 124	(3.5)	(0.4)	0.4	
1257	釘	2	S K 604・605	(3.7)	(0.4)	0.5	
1258	釘	2	S X 130	39	0.4	0.5	
1259	釘	2	S K 126	4.2	0.4	0.5	
1260	釘	3	S K 884	(3.5)	(2.5)	3.5	
1261	釘	2	S K 604・605	(4.0)	(0.5)	0.5	
1262	釘	2	S X 541	(3.6)	(0.3)	0.4	
1263	釘	2	S K 124	(3.1)	(0.3)	0.4	
1264	釘	3	S K 884	4.6	0.4	0.5	
1265	釘	2	S X 130	(4.7)	(0.3)	0.3	
1266	釘	2	S K 627	(4.9)	(0.6)	0.5	
1267	釘	2	第1面	(4.5)	(0.3)	0.3	
1268	釘	3	S K 695	4.8	0.4	0.3	
1269	釘	2	第2面	5.6	0.2	0.4	
1270	釘	3	S K 330	(3.0)	(0.4)	0.4	
1271	釘	2	S K 124	(2.2)	(0.4)	0.4	
1272	釘	2	S X 130	(3.9)	(0.5)	0.3	
1273	釘	3	S K 254	(3.0)	(0.3)	0.4	
1274	釘	2	第2面	3.3	0.3	0.4	
1275	釘	2	S P 122	(4.2)	(0.3)	0.4	
1276	釘	3	第2面	(4.7)	(0.5)	0.4	
1277	釘	3	S K 588	(5.2)	(0.6)	0.4	
1278	釘	3	第2面	5.1	0.4	0.4	
1279	釘	2	S K 294	(4.9)	(0.6)	0.5	
1280	釘	3	S K 330	(5.4)	(0.5)	0.4	
1281	釘	2	第2面	(4.1)	(0.5)	0.4	
1282	釘	2	S K 126	(3.7)	(0.4)	0.3	
1283	釘	3	S K 120	(4.0)	(0.4)	0.4	
1284	釘	3	S P 331	4.1	0.6	0.5	
1285	釘	2	第2面	(3.9)	(0.3)	0.3	
1286	釘	2	S K 604・605	3.3	0.4	0.3	
1287	釘	2	S K 627	4.5	0.4	0.4	
1288	釘	2	S X 130	3.4	0.4	0.3	
1289	釘	2	第2面	(2.8)	(0.4)	0.4	
1290	釘	2	S K 604・605	(2.6)	(0.6)	0.6	
1291	釘	3	第2面	4.6	0.4	0.4	
1292	釘	3	第3面	3.7	0.3	0.3	
1293	釘	2	S K 354	2.4	0.5	0.4	
1294	釘	2	S K 605	(1.9)	(0.4)	0.3	
1295	釘	2	S K 124	(4.8)	(0.5)	0.6	
1296	釘	2	S K 279	(4.8)	(0.5)	0.4	
1297	釘	2	S K 627	(3.7)	(0.4)	0.4	
1298	釘	2	S K 126	(2.9)	(0.5)	0.7	
1299	釘	2	S K 627	(4.2)	(0.4)	0.5	
1300	釘	2	第2面	(4.5)	(0.7)	0.7	
1301	釘	2	S K 120	4.8	0.5	0.3	
1302	釘	2	S K 773	(2.4)	(0.4)	0.4	
1303	釘	2	S X 130	(2.3)	(0.4)	0.5	
1304	釘	2	S P 184	(3.1)	(0.4)	0.4	
1305	釘	2	S K 605	5.2	0.6	0.7	
1306	釘	3	S K 884	(4.9)	(0.4)	0.5	

報告 番号	器形	調査区	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考
1307	釘	2	S X 130	32	0.4	0.3	
1308	釘	2	S K 604・605	(37)	(0.6)	0.4	
1309	釘	2	S K 604・605	(32)	(0.7)	0.8	
1310	釘	2	S K 371	(3.6)	(0.4)	0.2	
1311	釘	3	第2面	(7.9)	(0.6)	0.5	
1312	釘	3	第1面	(6.7)	(0.4)	0.3	
1313	釘	2	S X 541	(7.6)	(0.6)	0.5	
1314	釘	2	S K 126	(6.9)	(0.6)	0.5	
1315	釘	3	S K 126	6.3	0.5	0.5	
1316	釘	3	S K 126	(5.5)	(0.6)	0.6	
1317	釘	2	S K 250	(7.9)	(0.5)	0.6	
1318	釘	2	第2面	7.0	0.4	0.5	
1319	釘	2	S X 130	(4.6)	(0.6)	0.6	
1320	釘	3	S K 588	(6.5)	(0.4)	0.4	
1321	釘	2	第2面西壁拡張	6.6	0.4	0.3	
1322	釘	2	第2面	6.2	0.6	0.6	
1323	釘	2	S K 294	7.4	0.5	0.7	
1324	釘	3	第2面	3.0	0.7	0.6	
1325	釘	3	第2面	(5.9)	(4.5)	0.2	
1326	釘	2	第1面	(6.2)	(0.5)	0.3	
1327	釘	2	第2面	7.7	0.6	0.4	
1328	釘	3	第2面	7.6	0.4	0.3	
1329	釘	2	第2面西壁	6.6	0.5	0.4	
1330	釘	2	S K 200	6.0	0.3	0.5	
1331	釘	2	S K 166	(5.2)	(0.3)	0.4	
1332	釘	2	S X 130	(5.2)	(0.7)	0.8	
1333	釘	3	S K 254	(6.5)	(0.7)	0.4	
1334	釘	2	第1面	(7.8)	(1.1)	8.5	
1335	釘	2	S P 184	6.9	0.3	0.4	
1336	釘	3	第2面	5.1	0.4	0.3	
1337	釘	2	第2面	8.1	0.5	0.5	
1338	釘	2	第2面	(7.6)	(0.6)	0.5	
1339	釘	3	S K 780	(8.3)	(0.6)	0.4	
1340	釘	2	S K 124	1.9	0.2	0.3	
1341	釘	2	S K 354	(4.0)	(0.4)	0.2	
1342	釘	2	第2面	(3.4)	(0.3)	0.3	
1343	釘	2	第2面	(3.9)	(0.3)	0.3	
1344	釘	2	S X 130	(5.2)	(0.5)	0.2	
1345	釘	2	S X 130	(5.4)	(0.7)	0.6	
1346	釘	2	S K 355	5.6	0.4	0.4	
1347	釘	2	S K 125	(6.0)	(0.2)	0.4	
1348	釘	2	第2面	(7.0)	(0.4)	0.4	
1349	釘	2	S X 130	(7.3)	(0.7)	0.3	
1350	釘	2	S X 130	(2.9)	(0.4)	0.3	
1351	釘	3	第2面	(3.6)	(0.5)	0.3	
1352	釘	3	第2面	(3.8)	(0.4)	0.3	
1353	釘	2	S X 130	(2.9)	(0.2)	0.2	
1354	釘	3	第2面	2.9	0.3	0.2	
1355	釘	2	S X 130	(7.2)	(2.1)	-	
1356	釘	2	S X 130	(7.5)	(1.2)	0.6	
1357	釘	2	S X 130	(2.7)	(0.6)	0.4	
1358	釘	2	S K 545	3.4	0.3	0.2	
1359	釘	2	S X 541	(7.3)	(0.3)	0.5	
1360	釘	2	S K 371	(4.0)	(0.4)	0.4	
1361	釘	3	第2面	(2.5)	0.4	0.4	
1362	釘	3	S K 884	2.1	0.3	0.4	
1363	釘	2	S K 827	(1.6)	(0.3)	0.3	
1364	釘	2	S K 773	(2.2 - 2.5)	高さ (1.25)	(0.35)	
1365	釘	2	第2面	(5.6)	-	0.7	
1366	釘	-	第2面	(5.9)	(0.8)	0.3	

報告番号	器形	調査区	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
1367	釘	2	S K 840	61	0.4	0.3	
1368	釘	2	S K 200	47	0.3	0.3	
1369	釘	3	S K 126	49	0.4	0.3	
1370	釘	2	S K 876	(34)	(0.3)	0.3	
1371	釘	2	S K 72	39	0.3	0.3	
1372	釘	2	第2面	45	0.3	0.2	
1373	釘	3	S K 126	(56)	(0.3)	0.3	
1374	釘	2	S K 124	56	0.2	0.3	
1375	釘	3	S K 588	(77)	(0.3)	0.2	
1376	釘	3	第2面	(92)	(0.4)	0.3	
1377	釘	3	S K 884	(79)	(0.8)	0.3	
1378	釘	2	第2面	(102)	(0.7)	0.4	
1379	釘	3	S K 539	(79)	(0.8)	0.6	
1380	鍔	2	S K 480	(95)	(1.8)	(1.4)	
1381	釘	3	S K 884	80	0.5	0.4	
1382	釘	2	S X 130	(33)	(2.9)	(0.4)	
1383	留め金具	2	第2面	24	2.7	1.5	重さ: 31 g
1384	銅製品	3	S K 971	21	3.0	2.0 ~ 3.5	
1385	銅製品	3	S K 971	25	2.2	2.0 ~ 4.0	重さ: 4.0 g
1386	不明銅製品	3	第2面	縦4.9	横4.95	2.0	
1387	銅金具	2	第1面	(100)	(4.2)	2.0 ~ 7.5	重さ: 4.1 g
1388	銅釘	2	S K 120	34	0.2	2.5	
1389	銅製品	2	S X 130	1.9	1.3	1.3	重さ: 0.1 g
1390	銅釘	3	第3面	1.2	頭部0.2 軸状部0.1	0.7	重さ: 0.1 g以下
1391	銅製品	2	S X 130	(1.3)	(0.8)	-	重さ: 0.2 g
1392	留め金具	2	S K 315	1.8	頭部0.8 下部0.2	1.2	重さ: 0.6 g
1393	留め金具	2	S P 320	0.4	頭部0.9 下部0.4	1.5	重さ: 1.5 g
1394	銅・鉄製品	3	第2面	-	-	-	重さ: 3.6 g
1395	銅製品	1	S K 835	(3.8)	径(5.8)	-	重さ: 5.5 g
1396	銅製品	2	S K 72	(4.6)	径(0.8)	-	重さ: 3.4 g
1397	銅金具	2	第2面	3.7	5.5	1.9	重さ: 1.1 g
1398	不明銅製品	2	第2面	縦(4.0)	(1.4)	2.0	※分析
1399	銅片	3	第1面	1.28	4.9	2.2	重さ: 5.3 g
1400	銅金具	2	第1面	2.6	3.5	2.0	重さ: 4.8 g
1401	銅製品片	2	S D 238	縦0.6	横2.1	1.0	重さ: 0.3 g
1402	銅製品片	2	S X 130	縦(0.5)	横(1.4)	1.0	重さ: 0.2 g
1403	銅製品片	2	S X 130	縦(1.7)	横(0.8)	3.0	重さ: 0.6 g
1404	銅製品	2	第2面	2.3	2.8	6.5	重さ: 14.1 g
1405	銅小玉	2	S X 130	径(0.3 ~ 0.4)	-	-	重さ: 0.1 g以下
1406	銅小玉	2	S X 130	径(0.4)	-	-	重さ: 0.1 g
1407	銅小玉	2	S X 130	径0.3	-	-	重さ: 0.2 g
1408	銅小玉	2	S X 130	径0.5 ~ 0.6	-	-	重さ: 0.2 g
1409	銅小玉	2	S X 130	径0.6	-	4.7	重さ: 0.6 g
1410	銅小玉	2	S X 130	径0.5	-	-	重さ: 0.2 g
1411	銅小玉	2	S X 130	径0.5 ~ 0.6	-	3.5	重さ: 0.2 g
1412	銅小玉	2	S X 130	縦(0.4)	横(0.5)	2.1	重さ: 0.1 g
1413	銅小玉	2	S X 130	径0.4 ~ 0.6	-	4.2	重さ: 0.1 g
1414	銅小玉	2	S X 130	径0.5 ~ 0.6	-	4.0	重さ: 0.1 g
1415	銅小玉	2	S X 130	縦(0.7)	横(1.0)	7.3	重さ: 0.5 g
1416	銅製品	2	S X 130	径0.9 ~ 1.0	-	4.0	重さ: 1.0 g
1417	銅小玉	2	S K 126	縦0.6	横0.7	4.5	重さ: 0.4 g
1418	銅小玉	2	S X 130	径0.6	-	4.1	重さ: 0.6 g
1419	銅小玉	2	S E 438	径0.8	-	-	重さ: 0.7 g
1420	銅小玉	2	S K 582	径0.6	-	5.2	重さ: 0.8 g
1421	銅小玉	2	S K 724	径1.0	-	8.2	重さ: 1.2 g
1422	銅小玉	2	S K 724	縦0.9	横1.0	5.2	重さ: 0.5 g
1423	銅小玉	2	S X 130	径0.4 ~ 0.5	-	-	重さ: 0.4 g

報告番号	器形	調査区	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
1424	銅小玉	3	第2面 g・h 19・20	径0.5～0.6	—	4.5	重さ：0.5 g
1425	銅小玉	2	S X 130	径0.7～0.9	—	4.2	重さ：1.0 g
1426	銅小玉	2	S K 183	径0.6	—	5.0	重さ：0.6 g
1427	銅小玉	2	S K 183	径0.9～1.0	—	1.3	重さ：0.3 g
1428	鉄洋	2	S E 750	5.8	7.1	2.5	重さ：132.0 g
1429	鉄洋	2	第3面 g 21, h 21	7.0	5.9	2.7	重さ：131.6 g
1430	鉄洋	3	第2面	6.9	4.9	2.3	重さ：91.8 g
1431	鉄洋	3	S K 251	3.7	5.4	2.2	重さ：56.1 g
1432	鉄洋	3	S D 738	3.5	2.4	1.7	重さ：11.4 g
1433	鉄洋	3	第3面	3.4	1.7	1.8	重さ：13.7 g
1434	鉄洋	2	S X 810	3.5	4.9	1.7	重さ：32.3 g
1435	鉄洋	2	S K 775	1.6	2.2	0.8	重さ：3.0 g
1436	鉄洋	2	S P 832	4.9	3.5	1.8	重さ：30.1 g
1437	鉄洋	2	S K 582	4.1	2.8	1.8	重さ：21.6 g
1454	銅洋	2	S K 868	縦2.2	横2.3	13.0	重さ：11.9 g
1455	銅洋	2	S K 678	2.6	3.3	17.0	※分析
1456	銅洋	2	第3面	2.2	3.2	9.0	重さ：8.9 g
1457	銅洋	2	第2面	縦(1.9)	横(1.5)	9.0	重さ：2.2 g
1458	銅塊	2	第1面	1.6	4.3	0.7	重さ：3.4 g
1459	銅塊	2	第2面西壁拡張部	縦1.9	横1.6	10.0	重さ：3.1 g
1460	銅塊	2	S X 130	縦0.8	横1.0	6.5	重さ：1.0 g
1461	銅塊	2	S X 130	縦0.5	横0.7	3.5	重さ：0.1 g
1462	銅塊	2	S X 130	縦(0.8)	横(1.3)	4.5	重さ：0.4 g
1463	銅塊	2	S X 130	縦(0.7)	横(0.8)	5.5	重さ：0.2 g
1464	銅塊	2	S X 130	1.4	1.0	9.5	重さ：2.0 g
1465	銅塊	2	S X 130	縦(2.0)	横(1.6)	1.0	重さ：2.5 g
1466	銅塊	2	S K 564	縦(2.3)	0.7	0.4	重さ：3.1 g

付表7 銭貨一覧

報告番号	銭貨名	国	初铸年	調査区	出土地点	径 (cm)	重さ(g)	備考
1467	開元通寶	唐(小南唐)	—	3	S K 126	24	2.2	
1468	開元通寶	唐	621	3	禮乱118	24	2.7	
1469	開元通寶	唐	621	2	S K 823	23	3.3	
1470	開元通寶	唐	621	2	S K 336	23	3.6	
1471	開元通寶小	唐	621	2	第2面	—	1.1	背上月
1472	隆平永寶	日本	796	2	S K 440	24	2.9	3枚付着のうちの1枚
1473	隆平永寶	日本	796	2	S K 440	25	3.8	3枚付着のうちの1枚
1474	隆平永寶	日本	796	2	S K 440	25	3.7	3枚付着のうちの1枚
1475	貞観永寶	日本	870	3	S K 305	19	1.3	
1476	貞観永寶	日本	870	2	S K 853	1.9	1.4	
1477	貞観永寶	日本	870	2	S K 853	1.9	2.2	
1478	貞観永寶	日本	870	2	S K 853	1.9	2.2	
1479	貞観永寶	日本	870	2	S K 853	1.9	1.6	
1480	東國通寶	南唐	959	2	S X 130	24	2.2	篆書
1481	開元通寶	南唐	960	2	S X 130	—	1.0	
1482	咸平元寶	北宋	998	3	S K 126	2.5	2.9	
1483	咸平元寶	北宋	998	2	S X 130	2.4	4.2	
1484	景德元寶	北宋	1004	2	S K 353	2.5	3.6	
1485	祥符元寶	北宋	1008	2	S K 126	2.4	2.6	
1486	祥符通寶	北宋	1008	2	S K 336	2.1～2.2	2.4	
1487	祥符元寶	北宋	1008	2	S K 336	2.2	1.9	
1488	天禧通寶	北宋	1017	2	S X 130	2.4	4.0	
1489	天禧通寶	北宋	1017	2	第1面	2.4	1.2	

報告 番号	銭貨名	国	初铸年	調査区	出土地点	径 (cm)	重さ (g)	備 考
1490	天聖元寶	北宋	1023	2	S X 130	2.3	2.7	
1491	明道元寶	北宋	1032	2	第2面	2.4	2.8	真書
1492	景祐元寶	北宋	1034	2	S X 130	2.5	3.0	
1493	景祐元寶小	北宋	1034	2	S K 306	2.3	3.0	真書
1494	皇宋通寶	北宋	1038	2	第2面	2.5	3.5	篆書
1495	皇宋通寶	北宋	1038	3	S K 126	2.5	3.3	
1496	皇宋通寶	北宋	1038	3	S K 782	2.4	2.7	
1497	皇宋通寶	北宋	1038	3	S P 556	2.4	2.7	真書
1498	皇宋通寶	北宋	1038	3	S K 707	1.8	1.2	鑄銭, 真書
1499	皇宋通寶	北宋	1038	2	S K 306	2.5	1.8	真書
1500	皇宋通寶	北宋	1038	2	S X 130	-	0.8	篆書
1501	至和元寶	北宋	1045	3	第2面	2.5	3.1	
1502	嘉祐通寶	北宋	1056	2	第1面	2.5	2.2	真書
1503	嘉祐通寶	北宋	1056	2	S K 777	2.5	3.5	
1504	嘉祐通寶	北宋	1056	3	第2面	2.5	1.5	
1505	嘉祐通寶	北宋	1056	2	S X 130	-	1.3	真書
1506	治平元寶	北宋	1064	2	S K 609	2.4	2.9	
1507	熙寧元寶	北宋	1068	1	第1面	2.4	2.2	
1508	熙寧元寶	北宋	1068	2	第1面	2.3	2.7	
1509	熙寧元寶	北宋	1068	2	第1面	2.4	3.4	
1510	熙寧元寶	北宋	1068	2	S K 306	2.3	4.6	真書
1511	元豊通寶	北宋	1078	3	S K 286	2.4	3.1	
1512	元豊通寶	北宋	1078	2	S K 609	2.4	3.2	
1513	元豊通寶	北宋	1078	3	S K 701	2.5	3.0	
1514	元豊通寶	北宋	1078	2	第1面	2.4	3.4	
1515	元豊通寶	北宋	1078	2	S P 347	2.2	1.1	鑄銭
1516	元豊通寶	北宋	1078	2	S K 827	2.4	3.0	
1517	元豊通寶	北宋	1078	3	第1面	2.0	1.8	鑄銭, 行書
1518	元豊通寶	北宋	1078	3	第2面	2.5	3.1	行書
1519	元豊通寶	北宋	1078	3	第2面	2.3	2.6	
1520	元豊通寶	北宋	1078	1	第1面	2.3	2.7	
1521	元豊通寶	北宋	1078	2	S K 200	2.4	3.3	
1522	元豊通寶	北宋	1078	2	S K 306	2.3	3.8	行書
1523	元豊通寶	北宋	1078	2	S K 306	2.3	3.5	行書
1524	元祐通寶	北宋	1086	2	S X 130	2.4	3.4	
1525	元祐通寶	北宋	1086	2	西豊近世以降耕作土中	2.4	3.3	
1526	元祐通寶	北宋	1086	2	S K 306	2.4	2.9	
1527	元祐通寶	北宋	1086	3	第1面	2.4	2.4	篆書
1528	元祐通寶	北宋	1086	2	S P 649	-	1.0	篆書
1529	元祐通寶小	北宋	1086	2	S X 130	-	1.2	
1530	紹聖元寶	北宋	1094	2	S X 130	2.4	3.6	
1531	紹聖元寶	北宋	1094	2	第2面	2.3	2.8	行書
1532	元符通寶	北宋	1098	3	第1面	2.3	3.4	
1533	聖宋元寶	北宋	1101	3	第1面	2.4	3.5	
1534	大觀通寶	北宋	1107	2	S K 306	2.4	3.1	
1535	政和通寶	北宋	1111	3	S K 126	2.4	3.1	
1536	政和通寶	北宋	1111	2	S K 306	2.4	3.1	篆書
1537	政和通寶	北宋	1111	2	S P 680	2.4	3.3	
1538	政和通寶	北宋	1111	2	S P 680	2.5	3.3	
1539	宣和通寶	北宋	1119	2	第2面	2.5	3.1	
1540	淳熙元寶	南宋	1174	2	S K 678	2.9	5.6	
1541	嘉定通寶	南宋	1210	3	S K 126	2.4	3.9	
1542	皇宋元寶	南宋	1253	2	S X 130	2.4	1.8	晋六
1543	寛永通寶	日本	新寛永2期以後	3	第2面	2.3	1.7	
1544	寛永通寶	日本	3期	3	第1面	2.4	2.6	
1545	寛永通寶	日本	-	1	第1面	2.3	2.5	
1546	寛永通寶	日本	新寛永2期以後	2	第1面	2.2	3.0	
1547	不明	-	-	2	S P 69	2.2	-	鉄銭

付表8 石製品一覧

報告番号	種類	調査区	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	色調	備考
1548	石帯	-	第1面	3.6	3.5	0.6	187	黒 N15/0	石製造方
1549	石帯	2	S X 130	(5.1)	5.1	0.5	169	灰 75Y5/1	滑石造方
1550	砥石	3	第2面	(5.3)	(3.6)	(1.2)	298	浅黄 25Y7/3	粘板岩(頁岩)
1551	砥石	2	第3面	(7.3)	3.7	1.1	583	浅黄 5Y7/3	粘板岩(頁岩)
1552	砥石	3	第1面	(7.6)	(1.4)	(1.3)	635	灰オリーブ 5Y6/2	粘板岩(頁岩)
1553	砥石	2	S K 827	(7.8)	(3.4)	(1.2)	463	灰白 N8/0	粘板岩(頁岩)
1554	砥石	2	S X 130	(7.5)	3.5	6.5	239	浅黄 5Y7/4	粘板岩(頁岩)
1555	砥石	2	第2面	(15.2)	3.2	1.7	885	灰白 75Y7/2	粘板岩(頁岩)
1556	砥石	2	S K 336	(12.0)	(3.2)	(1.1)	584	灰白 N8/0	粘板岩(頁岩)
1557	砥石	2	第2面	(7.2)	(3.9)	(0.6)	224	灰黄 25Y7/2	粘板岩(頁岩)
1558	砥石	3	第2面	(5.1)	3.9	1.6	285	灰白 5Y7/2	粘板岩(頁岩)
1559	砥石	2	S P 43	(3.4)	3.3	0.5	72	灰黄 25Y7/2	粘板岩(頁岩)
1560	砥石素材	2	第1面	(7.7)	(3.2)	(1.3)	476	灰白 5Y7/1	頁岩
1561	砥石	2	S K 144	(6.4)	4.4	0.9	402	におい・黄橙 10YR7/3	粘板岩(頁岩)
1562	砥石	2	S K 125	(7.2)	2.7	1.3	516	灰白 5Y7/1	粘板岩(頁岩)
1563	硯	2	S K 126	(6.7)	5.6	1.2	460	灰白 5Y7/2	粘板岩
1564	硯	2	S K 624	(4.5)	(4.2)	(1.3)	417	黒黄 5Y3/1	粘板岩
1565	硯	2	S K 230	(2.4)	4.4	0.5	78	灰 N4/0	粘板岩
1566	石罫	2	S K 200	口径 (24.3)	器高 (3.2)	-	1708	灰 N6/0	滑石、残存 口1/12
1567	石罫	1	S K 02	口径 (25.8)	器高 (3.5)	-	710	灰白 N8/1	滑石、残存 口1/12
1568	石罫	1	S K 02	口径 (27.4)	器高 (2.6)	-	860	灰 N4/0	滑石、残存 口1/12
1569	石罫	3	第1面	口径 (29.4)	器高 (4.6)	-	237.3	灰 N6/0 - 暗灰 N3/0	滑石、残存 口2/12
1570	石罫	2	第2面	口径 (20.7)	器高 (3.7)	-	956	灰 N5/0	滑石、残存 1/12
1571	石罫転用温石	2	S X 130	縦 (8.0)	横 (11.2)	2.2	3600	灰黄 75YR6/2	滑石
1572	温石片	1	S K 02	(5.0)	4.0	1.8	711	灰白 N8/0	滑石
1573	温石	2	S P 677	4.6	7.5	1.3	966	明灰 N3/0	滑石
1574	砥石	2	S K 228	(8.4)	2.9	0.65 ~ 1.35	406	浅黄 25Y7/4	粘板岩(頁岩)
1575	砥石	2	S K 279	(8.6)	5.7	1.1	523	灰白 75Y7/2	粘板岩(頁岩)
1576	砥石	2	S K 678	縦 (9.0)	横 (9.3)	3.7	3800	灰白 25Y7/1	粘板岩(頁岩)
1577	未製品	3	S X 130	(8.0)	(6.1)	(1.1)	440	灰黄 25Y6/2	粘板岩
1578	研ぎ礫	2	S K 801	縦 (4.3)	横 (3.1)	5.5	100	灰白 10YR8/2	砂岩
1579	砥石	3	第2面	(9.0)	8.3	2.0	222.3	灰白 10Y9/1	粘板岩(頁岩)
1580	砥石	2	S P 57	(6.7)	4.5	2.0	800	掲 75YR4/4	粘板岩(頁岩)
1581	砥石	2	第2面	(8.5)	7.6	2.6	300	におい・黄 25Y6/3	粘板岩
1582	砥石	2	第2面西壁	(10.4)	(6.1)	(4.0)	2000	浅黄 25Y7/4	砂岩
1583	砥石	3	第1面	(8.0)	3.1	0.8	358	におい・黄橙 10YR6/4	粘板岩(頁岩)
1584	砥石	2	S X 130	(11.4)	(7.6)	5.3	5000	灰オリーブ 5Y6/2	粘板岩(頁岩)
1585	砥石	2	S K 336	(11.6)	(4.9)	(2.1)	198.8	灰白 5Y7/2	粘板岩(頁岩)
1586	砥石	3	S K 949	縦 (11.6)	横 (5.9)	1.3	596	灰白 5Y7/1	粘板岩(頁岩)
1587	砥石	3	S K 279	縦 (12.2)	横 (7.6)	1.2	118.3	淡黄 25Y8/3	粘板岩(頁岩)
1588	浮子	-	第2面	9.3	7.8	4.0	56.9	灰白 5Y7/1	軽石
1589	原石+剥片	3	S K 525	(15.6)	(7.3)	(2.4)	477.3	におい・赤黒 5YR5/4	紅縞石片岩
1590	剥片	2	S K 336	(7.1)	(2.7)	(1.3)	30.9	灰 5Y4/1	紅縞石片岩
1591	剥片	2	S K 336	(2.9)	(1.9)	(0.6)	3.5	灰 5Y4/1	紅縞石片岩
1592	砥石	3	第2面	(5.5)	(4.0)	(1.1)	23.5	灰白 5Y7/1	粘板岩(頁岩)
1593	原石	2	第2面	(21.0)	(8.1)	(3.7)	1000.0	掲灰 5YR4/1	紅縞石片岩
1594	一石五輪	2	第1面	(20.2)	12.3 ~ 12.5	-	-	暗灰 N4/0	

圖 版



(1) 第 1 調査区 第 1・1.5 調査面全景(東から)



(2) 第 1 調査区 第 1・1.5 調査面全景(西から)



(1) 第 1 調査区 第 2 調査面全景(東から)



(2) 第 1 調査区 第 2 調査面全景(西から)



(1)第2調査区 第1調査面全景(東から)



(2)第2調査区 第1調査面全景(西から)



(1) 第2調査区 第15調査面全景(東から)



(2) 第2調査区 第15調査面全景(西から)



(1) 第3調査区 第1・1.5調査面全景(東から)



(2) 第3調査区 第1・1.5調査面全景(西から)



(1) 第2・3調査区 第1・15調査面全景(東から)



(2) 第2・3調査区 第1・15調査面全景(西から)



(1) 第2・3調査区 第2調査面全景(東から)



(2) 第2・3調査区 第2調査面全景(西から)



(1) 第2・3調査区 第2調査面全景(東から)



(2) 第3調査区 第2調査面全景(西から)



(1) 第2・3調査区 第3調査面全景(東から)



(2) 第2・3調査区 第3調査面全景(西から)



(1) 第3調査区 第2調査面全景(東から)



(2) 第3調査区 第2調査面全景(西から)



(1) 第2調査区 西側拡張区全景(北から)



(2) 第2調査区 西側拡張区全景(南から)



(1) 第2調査区 南側拡張区全景(東から)



(2) 第2調査区 南側拡張区全景(西から)



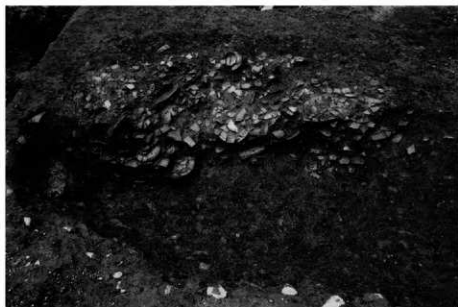
(1) 第3調査区 第4調査面全景(東から)



(2) 第3調査区 第4調査面全景(西から)



(1) S K124遺物検出状況(南から)



(2) S K124堆積状況(南から)



(3) S K124完掘状況(南から)

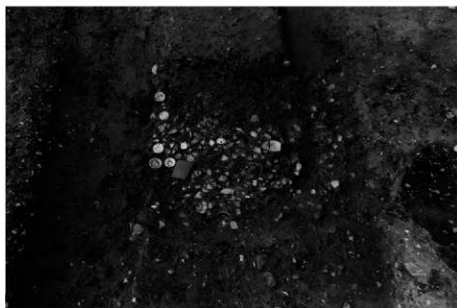
(1) S K 125遺物検出状況(南から)



(2) S K 125完掘状況(南から)



(3) S K 251遺物検出状況(西から)

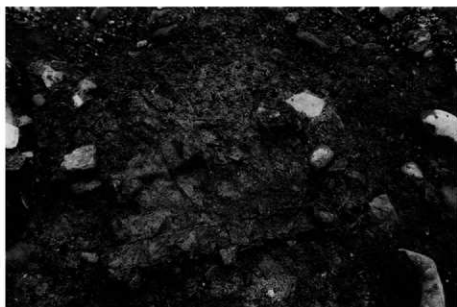




(1) S K251遺物検出状況(西から)



(2) S K251遺物検出状況(西から)



(3) S K251周辺烏帽子検出状況
(西から)

(1) S K 126上層遺物検出状況
(東から)



(2) S K 126堆積状況(北から)



(3) S K 126西端堆積状況(北から)

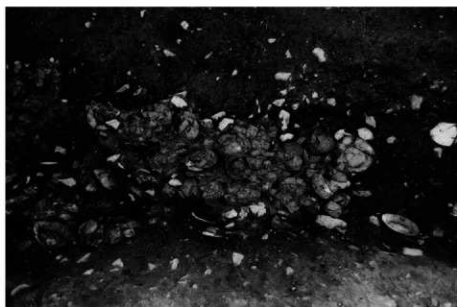




(1) S K126中層東端遺物検出状況
(南から)



(2) S K126中層中央遺物検出状況
(南から)



(3) S K126中層中央遺物検出状況
(北から)

(1) S K 126中層東端遺物検出状況
(北から)



(2) S K 126下層遺物検出状況
(西から)



(3) S K 126下層西端遺物検出状況
(南から)





(1) S K 126下層東半部
遺物検出状況(西から)

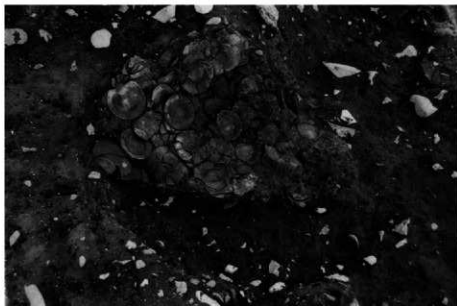


(2) S K 126下層東端遺物検出状況
(南から)



(3) S K 126完掘状況(南から)

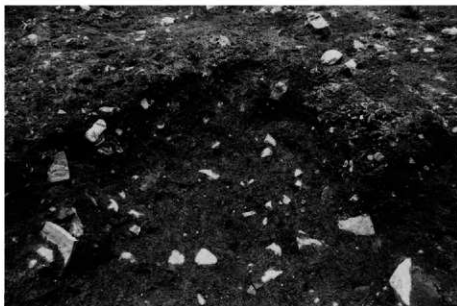
(1) S K 127遺物検出状況(東から)



(2) S K 127堆積状況(東から)



(3) S K 127完掘状況(北から)





(1) S X 130遺物検出状況(西から)



(2) S X 130遺物検出状況(北から)



(3) S X 130堆積状況(北西から)

(1) S X 130完掘状況(西から)



(2) S K 186遺物検出状況(南から)



(3) S K 186完掘状況(南から)

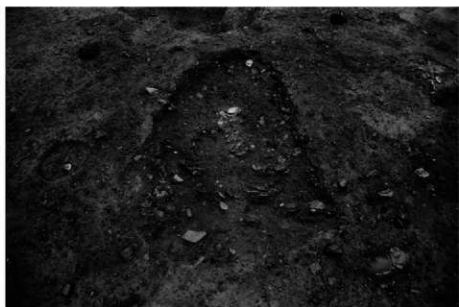




(1) S K200遺物検出状況(南から)



(2) S K200遺物検出状況(西から)



(3) S K200底面遺物検出状況
(東から)

(1) S K 624遺物検出状況(北から)



(2) S K 624堆積状況(北から)



(3) S K 624完掘状況(西から)





(1) S K203遺物検出状況(南から)



(2) S K203遺物検出状況(南から)



(3) S K203完掘状況(南から)

(1) S K 286遺物検出状況(南から)



(2) S K 286堆積状況(南から)



(3) S K 286完掘状況(南から)

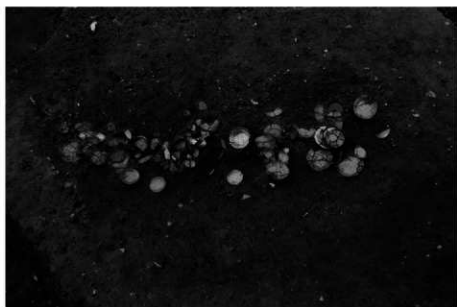




(1) S K 287上層遺物検出状況
(南から)



(2) S K 287上層遺物検出状況
(南から)



(3) S K 287中層遺物検出状況
(南から)



(1) S K 287堆積状況(東から)



(2) S K 287下層遺物検出状況
(東から)



(3) S K 287完掘状況(南から)



(1) S K 336上層遺物検出状況
(東から)



(2) S K 336中層遺物検出状況
(北から)



(3) S K 336下層遺物検出状況
(北から)



(1) S K 336完掘状況(北から)



(2) S K 353完掘状況(東から)



(3) S K 354遺物検出状況(南から)



(1) S K354完掘状況(南から)



(2) S K371検出状況(南から)



(3) S K371完掘状況(東から)

(1) S K 371烏帽子検出状況
(東から)



(2) S K 423堆積状況(北から)



(3) S K 423遺物検出状況(東から)





(1) S K 423完掘状況(南から)



(2) S K 480・626遺物検出状況
(北から)



(3) S K 480・626遺物検出状況
(南から)

(1) S K 480・626遺物検出状況
(南から)



(2) S K 604・605上層遺物検出状況
(南から)

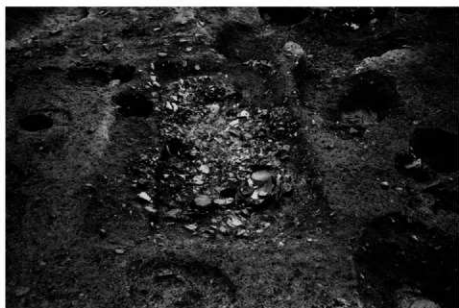


(3) S K 604・605中層遺物検出状況
(南から)





(1) S K604・605断ち割り状況
(南から)



(2) S K678上層遺物検出状況
(西から)



(3) S K678下層遺物検出状況
(西から)

(1) S K 678完掘状況(東から)



(2) S K 740遺物検出状況(西から)



(3) S K 740遺物検出状況(東から)





(1) S K740遺物検出状況(南から)



(2) S K321・740・741
遺物検出状況(東から)



(3) S K740遺物検出状況(南から)

(1) S K 740完掘状況(東から)



(2) S K 774遺物検出状況(南から)



(3) S K 774完掘状況(東から)





(1) S K 440・775遺物検出状況
(南から)

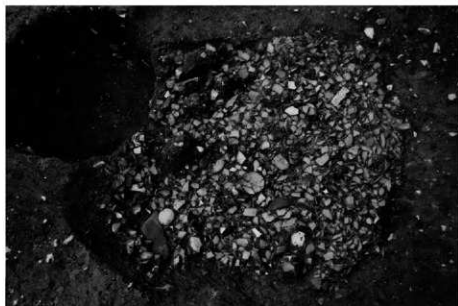


(2) S K 775板材・烏帽子検出状況
(西から)



(3) S K 775完掘状況(西から)

(1) S K 777上層遺物検出状況
(南から)



(2) S K 777堆積状況(南から)



(3) S K 777下層遺物検出状況
(南から)





(1) S K 777完掘状況(南から)



(2) S K 825遺物検出状況(西から)



(3) S K 825堆積状況(西から)

(1) S K 825完掘状況(西から)

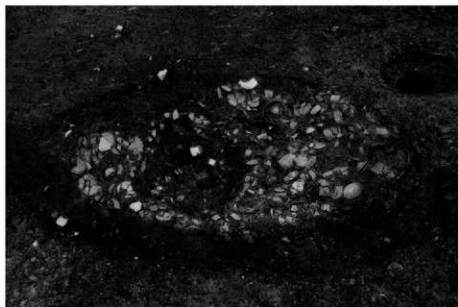


(2) S K 835遺物検出状況(東から)

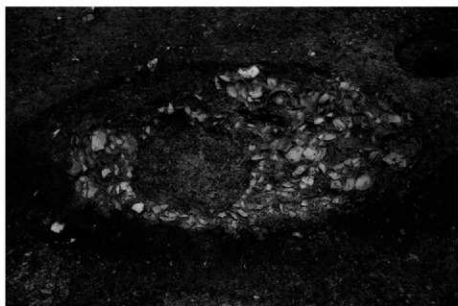


(3) S K 835完掘状況(北から)





(1) S K840遺物検出状況(南から)



(2) S K840遺物検出状況(南から)



(3) S K840トレンチ南壁堆積状況
(北から)

(1) S K 840完掘状況(北から)



(2) S K 734遺物検出状況(西から)



(3) S K 972遺物検出状況(東から)





(1) S K972完掘状況(西から)

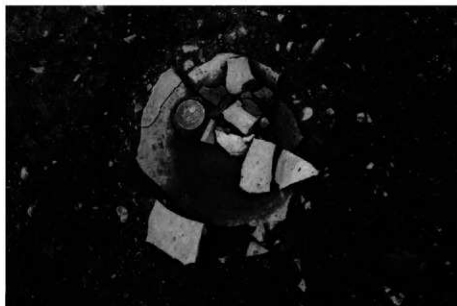


(2) S K71検出状況(東から)



(3) S K71完掘状況(東から)

(1) S K 94検出状況(南から)



(2) S K 94完掘状況(東から)



(3) S K 202検出状況(南から)





(1) S K 202完掘状況(南から)



(2) S K 230検出状況(東から)



(3) S K 230堆積状況(東から)

(1) S K 230完掘状況(南から)



(2) S K 288遺物検出状況(南から)



(3) S K 288完掘状況(南から)





(1) S K841・842遺物検出状況
(南から)



(2) S K841遺物検出状況(南から)



(3) S K841壺検出状況(東から)

(1) S K 888遺物検出状況(南から)



(2) S K 888遺物検出状況(南から)

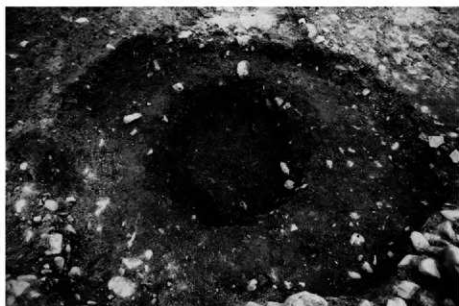


(3) S K 888完掘状況(南から)





(1) S E 11完掘状況(北から)



(2) S E 848検出状況(南から)



(3) S E 848完掘状況(南から)

(1) S E 750検出状況(東から)



(2) S E 750曲物検出状況(東から)



(3) S E 957検出状況(東から)





(1) S E 935曲物内堆積状況
(東から)



(2) S E 748完掘状況(東から)



(3) S E 748・750・935・957
完掘状況(東から)

(1) S E 438検出状況(東から)



(2) S E 438堆積状況(南から)



(3) S E 438完掘状況(南から)





(1) S E 958検出状況(南から)



(2) S E 958完掘状況(南から)



(3) S E 958断ち割り状況(南から)

(1) S D 238 全景 (北から)



(2) S D 238 堆積状況 (南から)



(3) S D 238 堆積状況 (東から)





(1) 第3調査区南壁土層断面(北西から)



(2) 第3調査区南壁土層断面(北から)





489



641



670



520



672



535



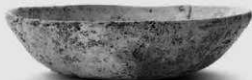
683



525



616



632



700



708



721



716



733



747



716



786



717



770



717



793



864



930



879



922



900



903



929



924



925



940



927



1026



935



1053



939



1053



1108



1439



1108



1154



1087



1211



1155



1594



1156



1165



1166



1157



1167



1159



1172



1174



1177



1176



1178



1183



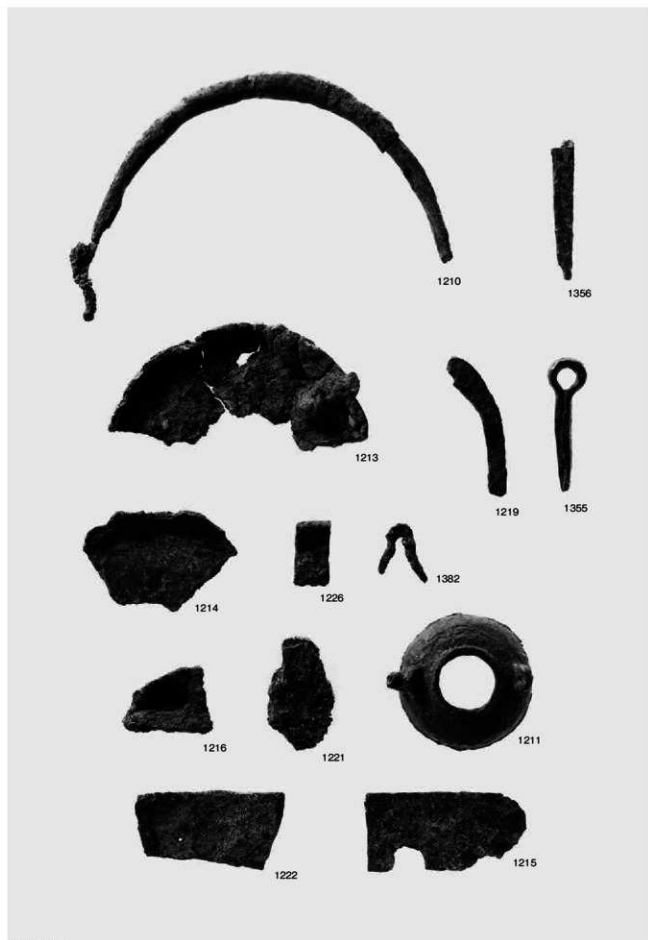
1179

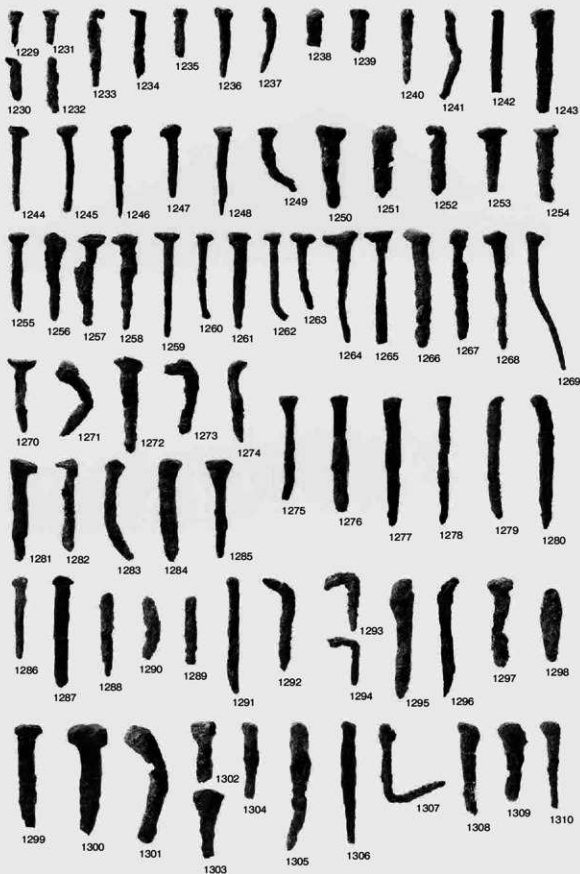


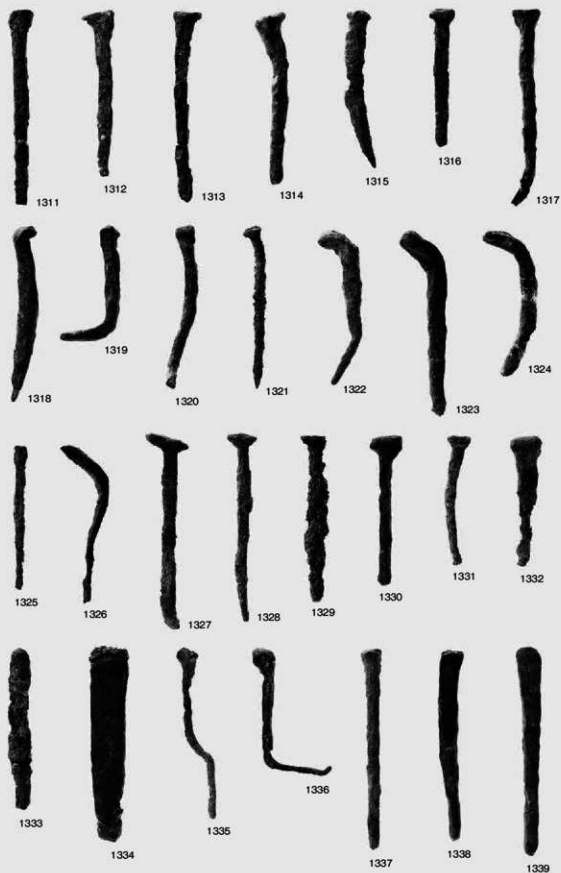
1184

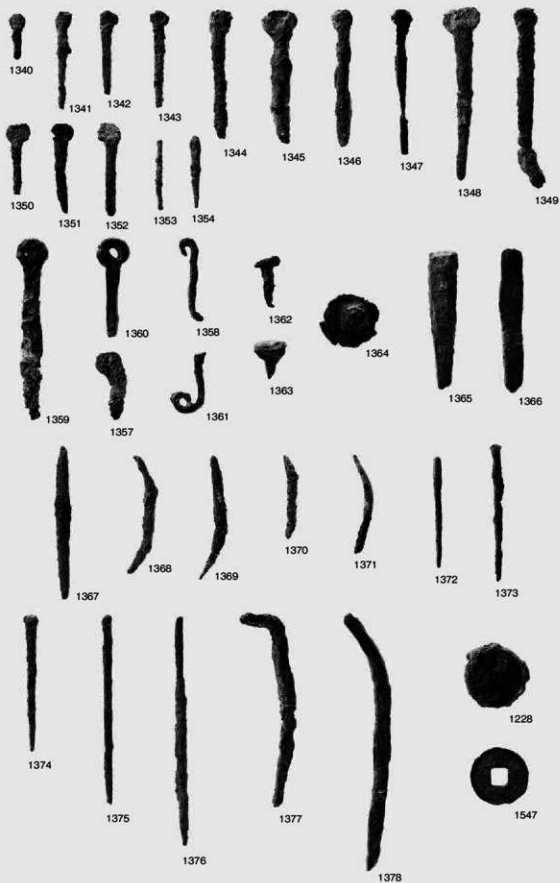


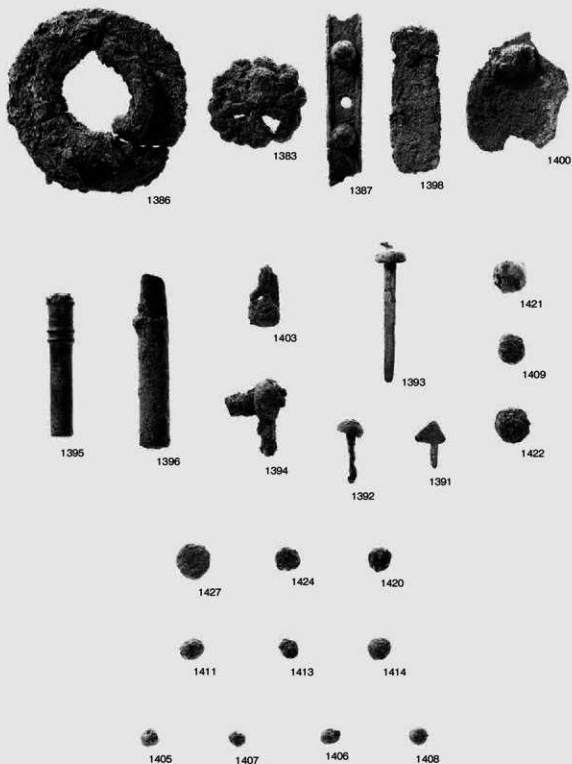
出土遺物 9

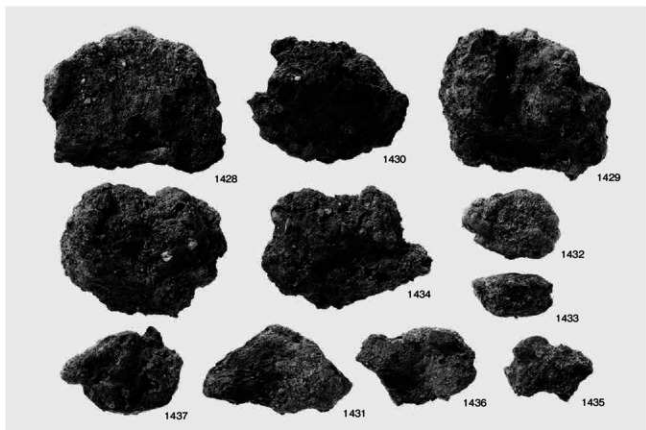




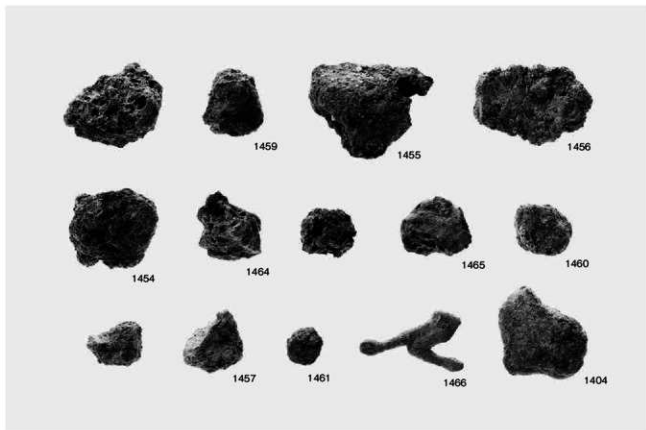




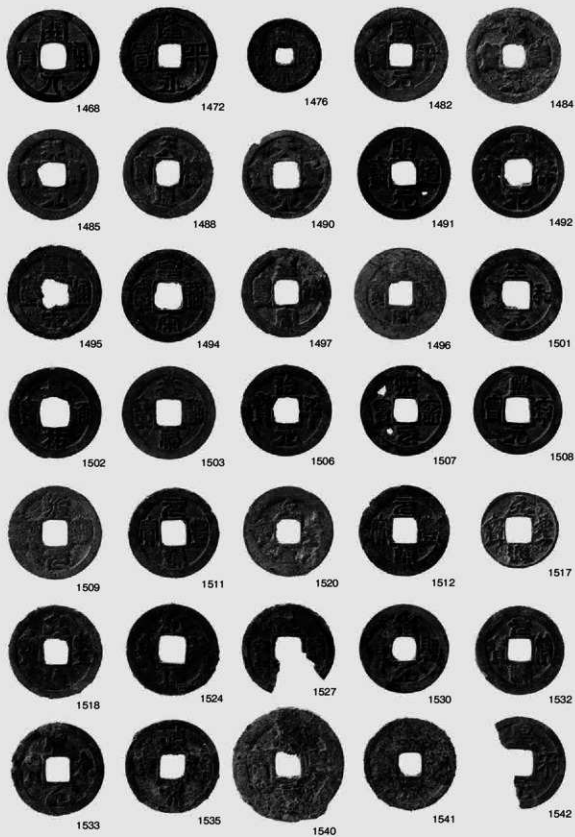




(1) 出土遺物15



(2) 出土遺物16







1548



1549



1550



1551



1552



1553



1554



1555



1556



1557



1558



1559



1561



1560



1562



1563



1566



1564



1567



1568



1565



1569



1572



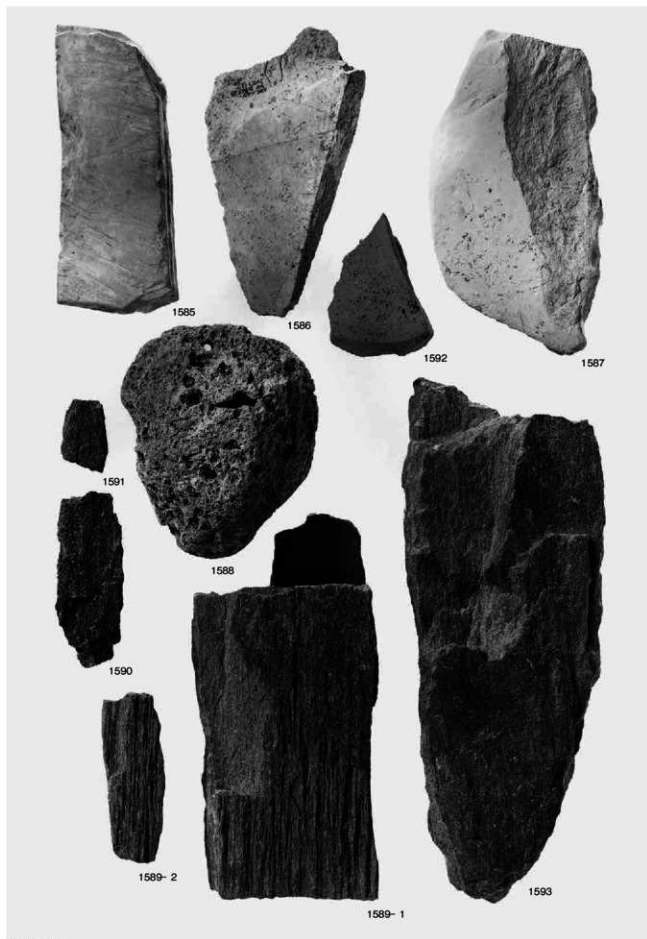
1570



1571



1573



報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第169冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第169冊
編著者名	増田孝彦・福山博章・黒坪一樹・伊賀高弘・松井忍
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番#3 Tel.075(933) 3877
発行年月日	西暦2017年3月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯		東経		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	' ' "	' ' "				m	
へいあんきょうあと・ひがしほんがんじこぼぐん 平安京跡・東本願寺前古墓群	きょうとふきょうとししもぎょうくからすまどおりしちじょうさがるひがしおこうじちょう 京都府京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町702番他	26106	719	34° 59' 19"	135° 45' 32"	20140521 ～ 20150116	1900	建物建設		

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡・東本願寺前古墓群	墓・生産遺跡	鎌倉～	土坑・土壇墓・井戸・溝・柱穴	土師器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器・銭貨・石製品・鉄製品・銅製品	

所収遺跡名	要 約
平安京跡・東本願寺前古墓群	<p>13世紀から15世紀初頭にかけての柱跡、土坑、溝、井戸を多数検出した。土器などの遺物とともに鉄釘の製品・宋製品、鉄滓、炉壁、銅滓などの鍛冶・精錬関連の遺物が多数出土し、職人町である七条町の関連の遺構と判断された。調査地全域で230基以上の多数の土坑を検出したため、掘立柱建物は2棟しか復原できなかったが、鉄釘・鉄滓・炉壁・銅滓の分布から、1棟は工房、1棟は工房以外の建物と判断した。また、100基以上の土坑には土師器皿を大量に埋納していた。従来、こういった土師器集積土坑は東本願寺前古墓群の主体となる墓と考えられてきたが、墓である確証は得られなかった。土坑を分類し、大型で長方形の平面形を呈するものと大型の甕を埋納するものを墓と考え、これらは屋敷の背後に設けられたものと考えた。小型の土師器集積土坑は、全期間を通じて雑多な建物と重複して造られていることから、共同墓地を形成した墓穴とは考えにくく、完形の土師器皿が据え置かれた状況で出土することから、何らかの祭祀に関わる遺構と判断した。</p>

京都府遺跡調査報告集 第169冊

平成29年3月28日

発行 公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141